

京都大学蹴球部

五拾年史

目 次

部の旗・部歌	1
50年祝典	2
京大正門	4
部創立時の状況	前田純一 5
創立50周年を記念して	竹山幹夫 5
創立50周年に寄せて	藤田静夫 6
創立50周年に際して	原随円 7
部創立前後	入江右三郎 8
創立の頃	佐藤 巍 9
創立時代の想出	内海武尾 10
創部に参加して	高松茂雄 18
委員長挨拶	安居 律 14
50年の歩み	唐原友三郎 16
関西学生リーグ年次優勝校	21
大正14年	28
錦の帯	前田純一 24
大正15年	25
昭和2年度	27
昭和3年度	28
私と部とのつながり	昭4 溝口 治 81
初期の事	昭4 今川義六 82
昭和4年度	88
昭和5年度	87
あの頃のこと	昭6 赤川 清 41
思い出の一つ二つを	昭6 宇佐見 嘉伸 48
昭和5年に入学して	昭8 竹内 至 51
名手のつどい	昭6 朝比奈 隆 52
昭和6年度	58
昭和7年度	54
昭和8年度	56
昭和6年から8年にかけて	昭9 中野 重美 57

昭和 9 年度		59
サッカー今昔	昭10 株本 豊平	60
幸運児	昭10 金沢 宏	61
昭和 10 年度		63
昭和 11 年度		65
基本と体力と精神力	昭12 栗原 正	66
筆のままに	昭12 麻野 隆平	66
その頃のたまり場	昭12 青木 圭太郎	68
昭和 12 年度		71
優勝をかちとるまで	昭18 森 正夫	72
昭和 13 年度		75
思い出	昭14 小野 礼年	76
現役のころ	昭14 安居 律	78
昭和 14 年度		81
負けた試合勝った試合	昭15 伊藤 虔次	82
昭和 15 年度		86
昭和 16 年度		88
死線を越えて	昭16 金井 直一郎	88
昭和 17 年度		90
合宿日記		90
百万辺勤務時代	昭18 本田 見吉郎	94
思い出す人々	昭18 鶴田 登代志	94
京大蹴球部のおもいで	昭18 横山 慶一	98
寄せ書		100
昭和 18—20 年度		101
戦中派の思い出	昭19 貫戸 幸男	102
戦後の再出発	昭21 向井 清之	103
戦争中のサッカー部	昭21・9 高砂 輝夫	105
終戦前の事	昭22 多々 信二	106
昭和 21 年度		107
昭和 22 年度		109
戦後の回想	昭23 梶川 玄治	113
誇と懺悔	昭23 藤本 典秀	113

昭和23年度		116
当時のチーム	昭24 小島 洸	117
昭和24年度		119
往時茫茫	昭25 明橋八郎	122
回想のサッカー	昭25 藤田勇雄	122
25年卒の人々	昭25 岡本彰郎	124
座談会		129
昭和25年度		186
戦後の一時代	昭26 松本 昭	187
昭和26年度		189
京大サッカー部の思い出	昭27 西田敏雄	140
新制チームのはしり	昭27 大石道夫	140
思い出すまま	昭27 渋谷亮治	141
昭和27年度		142
旧制から新制へ	昭28 近江 達	142
新制の一号	昭28 長井 茂	145
サッカーと私	昭28 片山栄三	146
	昭28 久保正典	146
雑感	昭28 滝波 徹	147
縁は異なるもの	昭28 榊原 篤	147
昭和28年度		148
苦しかった28年度	昭29 大羽 薬	149
昭和29年度		151
26年より29年迄	昭30 武居誠之	151
昭和30年度		154
部生活の思い出	昭31 木村 博	155
昭和31年度		155
	昭32 長井 博	157
昭和32年度		160
多情多恨	昭33 若井 尚	161
京都から仙台へ	昭33 新田正弘	168
広島の虫達	昭33 東原義治	164
昭和33年度		167

雪 辱	昭 34	今永俊明	168
50年史に寄せて	昭 34	高橋三郎	169
昭和34年度			172
一部リーグに復帰して	昭 35	大木岩根	174
昭和35年度			176
グラウンドの由来	昭 36	塩路正信	178
思いつくまま	昭 36	平尾敏郎	179
昭和36年度			188
走り勝つこと	昭 37	東川 昇	185
昭和37年度			185
蹴球部の思い出	昭 38	浅野 洋	187
ディリーブレッドと最後の試合	昭 38	市山 徹	190
昭和38年度			192
昭和39年度			194
昭和40年度			197
昭和41年度			200
大学サッカー廻り(瀬戸コーチ時代)			202
昭和42年度			208
サッカーと私	昭 43	塚本大三	204
昭和43年度			207
大学の思い出	昭 44	上本憲嗣	209
昭和44年度			209
ある提言	昭 45	久下雅裕	211
昭和45年度			218
昭和46年度			216
頑張る京大三クラブ			217
昭和47年度			220
昭和48年度			222
昭和49年度			225
4年間を終えて	昭 51	永井利明	228
思い出集			229
昭和50年度			238
昭和51年度			239
対関大戦	昭 51	主将 梅田邦夫	242
50周年記念事業写真			245
50周年記念に寄せて	関西サッカー協会常務理事	賀川 浩	255
京都大学運動部蹴球学科卒業生の弁	昭 51	恒藤 武	256
あとがき			264



部 歌

I 知るや友 知るや友

茲洛陽の水清く 正大の気の湧く所
命を秘めし大地の 我が影しるき誇をば
銀の小笛のきらめきて たぎる血汐に胸燃ゆる

II いざや友 いざや友

輝く瞳に仰ぎ見る 紫こむる大比叡
不断の雲の色にだに 久遠の光栄を思うかな
ああ秀麗の気に負いて 雄叫び立ちし我が集い

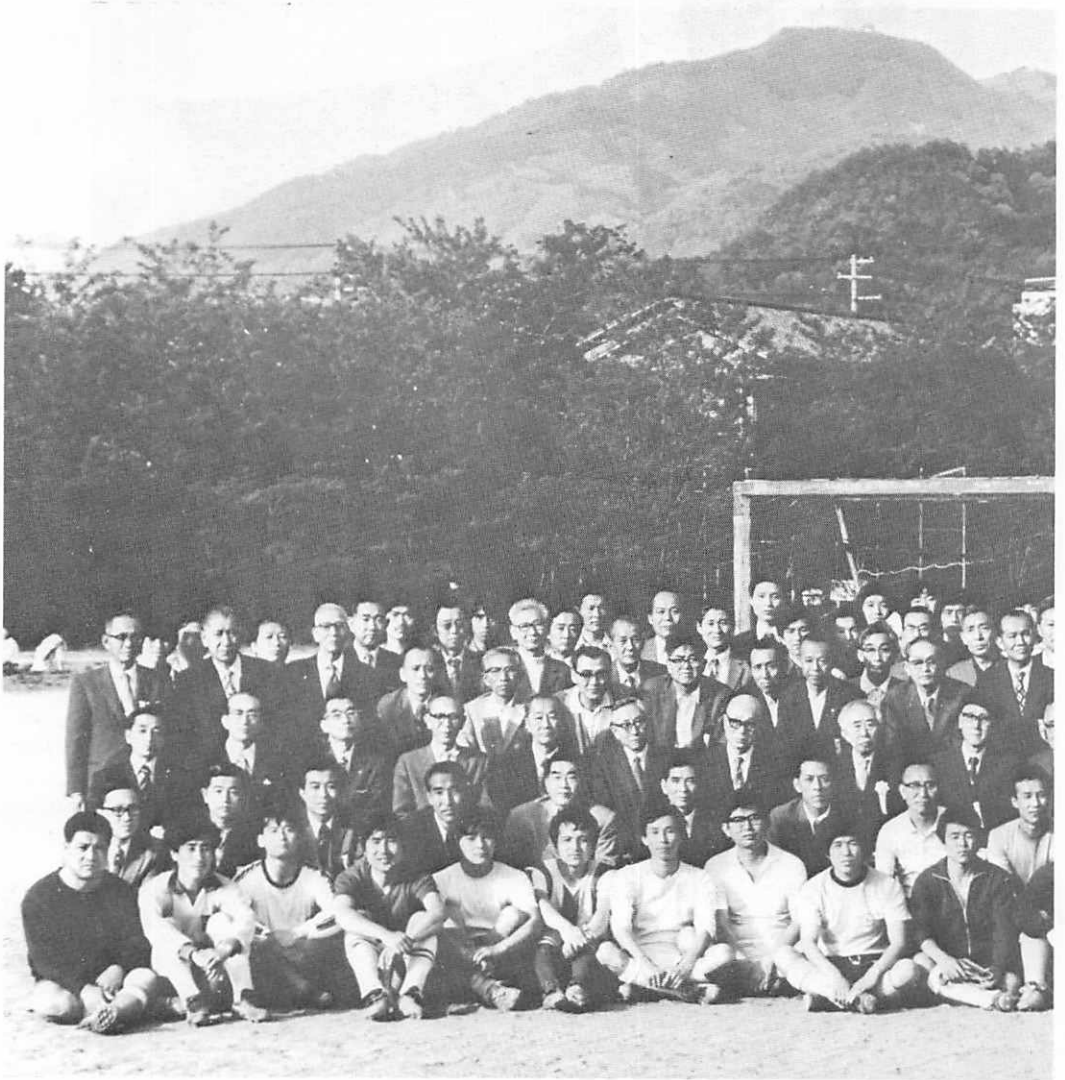
III 遙かなる 遙かなる

帰らぬ夢を顧みて 光栄と涙の歴史の跡
淀むひまなき青春を 今宵かたみに寝して
覇業の鯨波のどよめけば 見よ満天の星ゆらぐ

Go KIU, Go KIU, Go KIU, Go KIU,
Go KIU, Go KIU, Go KIU, KI Go.

京大蹴球部創立50周年記念祭(1974. 5. 3)

於 京大農学部グラウンド



麻野	柴田	石川	川越	吉井	向井	永井	武居	山口	若林	平岡	榊	安居	清水	和田	藤多	荒木	巖本	石光	横山
												市山	大木	今井	日置	久保	小野		
							藤田		梶川			皆木	古川	伊藤	原			内海	
		香川		金沢		宇佐見		近江		赤川	今川		佐藤					唐原	
	足立		市山		樋口	伊藤		川野		貫戸	今井		恒藤	井坪	岡本		梅田		上本
難波			真田	林															



滝波 栗原 伊藤 田口 若井 大羽 西村 小山 藤原 明橋 深山 服部 竹山 湯浅 酒井 田中 松岡 渋谷 塩見 浜本 片山 杉田 奥谷 西田 石川 若宮 佐藤
 入江 倉内 永野 瀬戸 野口 野田 藤本 藤津 竹内 大友 藤田 竹内 西田 小田 西田 原田 若山 田路 日比 塩路 遠藤 宮本 菊間

正 門



部設立当時の状況

初代OB会長 前田純一（大15卒）

当時、名総長と云われた荒木寅三郎総長の時代で、学友会には蹴球部というものが既に在った。しかしこれは現在のラグビー部のことであり、サッカーは全然やっていた。

サッカー部を新に設けることは種々の事情で困難な情勢であったので、学友会の規約を変更することなしにサッカー部を作る為、蹴球部というからには、ラグビー式もアソシエーション式もあっていい筈だと理屈をこねて入江氏と私などが中心となり連日学友会方面に工作をなし遂に10月予備費の中から450円の予算を獲得し（当時サッカーボールが1ヶ5円）事実上蹴球部の発足を見た。

京大と東大との間で運動部の対抗戦が行われていたが先に部の創られて居た東大側では京大に蹴球部がないのでその設立を、同じ出身高校の京大側のそれぞれの人々に働きかけて来たのが動起であった。

わたし達は学友会の事務局に交渉したが官吏特有の「その内に考えましょう」で進展しなかったので荒木総長の所まで説明に行き事務局を動かした。ついで運動場が競合する部ではいい顔をしなかったので直接打ち合わない各部に働きかけて賛成を求める作戦をとった。

サッカーなるものを大学側に理解させるには東大のサッカー部長末広教授の兄弟である京大の末広教授が預って力があつた。

先に荒木総長に説明に行った時の事であるがヘッディングの事を聞いて頭でもボールを蹴るのですかとびっくりしていたわけで、頭でもサッカーをしなさいと云われるのとはその理解度では雲泥の差があつたわけである。

京都大学蹴球部創立50周年を記念して

現(5代)蹴球部長 竹山幹夫（昭19卒）

京都大学蹴球部の創立50周年にあたりまして、記念試合を初めとしてその他の行事が無事に行われ、誠に御同慶の致りでございます。

偏えに、関係各方面の方々の御協力、御支援及び多数のOB諸兄、現役選手の努力の賜でありまして深甚の謝意を表わします次第です。

日本に於けるサッカーの歴史は、大正時代に極東オリンピック等に出場しているくらいで、そう古くはないと承知しております。しかし私が小学校（豊島師範附属）に入ったときには、

既にかなり盛んになって居り、休み時間とか放課後にはサッカーをして遊んだものです。本田氏（昭和18年卒）の母校である油面小学校等との対抗試合も行われておりました。恐らく昭和に入ると共に、後の昭和30年代のブームに先立ち、急にサッカーが普及し、京都大学サッカー部も前後して誕生したものとと思われます。そうして、戦前は学生チームが日本のサッカーの中心をなして居りました関係もあり、京都大学は多くの名選手を出し、日本のサッカー界に大いに貢献して来たのであります。

最近では学制が変わりまして、難関の入試を突破してからの在学年数4年（昔は旧制高校の3年を入れて合計6年）しかなく、折角猛練習をして上手になり、これからと云う時に卒業してしまいます。他にも何か原因があるかも知れませんが、とにかく、現在では一部リーグと二部リーグの間を往復している様な状態です。

しかし、近年の部員を見ておきますと、根生のある選手が多く何とかして良い成績を挙げようとして努力している様がよく判ります。また、京大サッカーは過去の輝かしい歴史をふまえて、OBの組織もしっかりして居りますこと故、これ等を背景として、何とか工夫を凝らして再びの飛躍をしたいものです。

創設50周年に寄せて

日本サッカー協会副会長 藤田 静夫

京都大学サッカー部が創設50年を迎えられて関係者が意義ある記念行事を企画されていることを承わり私は創部当時から今日迄絶えず身近かに注目し何時もその動向に大きい期待をかけて居った1人として感慨深く此の企てを心から祝福いたしたいのであります。

御承知の如く部創設後10数年の前期は素晴らしい活躍をした時代だったと思うその時期を前半とするならば其前半に居られた先輩は荒けずりで闘志溢れるインターハイで鍛えられた智将的荒武者が居ったと思う。練習時間に恵まれず日没直前にやっと5、6人位いの部員が集ってボールを蹴って居った記憶が離れない。その部が調和のあるチームとして力を随所に発揮して居った当時の京大サッカー部は東西対抗に関西を代表して優勝する記録をも打ち樹てて居ったのである。そして中盤のハーフタイムは戦争の為中断したが、戦後つまり後半は脈々と流れて来たあの京大サッカーの強力なエネルギーで見事に復活させて後半の前期に天下の京大を再び造りあげたのであるが、後半の中頃からどうした事か少し中だるみを起している様に思えない。他の大学の様に多くの先輩、コーチや監督に恵まれて指導される余裕のある部でないことは昔も今も変りはないと思う。而も之を承知の上で近くに在在する有力な先輩が強力に

結びあって今日を支えて来た苦心苦労がうかがわれて私の心の中にも、何時もそれ等の人々の活躍が忘れられないものになっている。それ等の人々が健在で強い愛部の執念を失わない限り京大サッカー部の将来は此の50周年を契機として再び光輝あるものを生み出すだろうと確信している。それから私の記憶が非常に粗雑で申しわけないが、正しい記録を引っ張り出して組立てなければならぬ程京大サッカー部の50年の歩みは日本のサッカー界に大きい足跡を残して居るし、今後その先輩諸兄に日本のサッカー発展にも有力な協力者になっていただきたいと考えているだけに、今それ等の諸兄先輩を列記して一々かつてのあの立派な行績を述べ得なかった事を深く御詫び申しあげる次第である。

終りに貫戸先輩から何回も催促を受けながら此の原稿が甚だ遅くなったことをおことわり申しあげると共に私にとっても忘れられない懐かしい人々の氏名を記して御礼を申しあげる事も出来ず極めて荒っぽい思い出の記になった事を重ねて深謝いたしますと共に此の50周年を意義あらしめる様現役諸君の益々健闘を祈って止まない次第であります。

創立50周年に際して

旧(8代)部長 原 随 園

私は昭和9年であったか、松井総長の時山本学生課長に頼まれて部長になりました。

その頃は恐らく吾が部の全盛時代であったでしょう。近畿で8年連続優勝し、遠征して来た明治大学と一対一で引分けました。

何より楽しかったのは、東西両大学で、隔年で引受けていたインター・ハイでした。岡崎と京大の両グラウンドを使用しなければならない程盛況で、雪解けのグラウンドで奮戦する若人の熱気に感激したものでした。部員の方も母校の選手の応援に夢中でした。

ところが戦争となって、グラウンドも軍事教練所となり、最後の試合は渡月橋の南松尾橋の上の河川敷で行いました。

その頃はボールも仲々手に入れ難くなり、しまいには使い古されたボールさえ盗まれるようになりました。使用済のボールはよくなめされていて靴をつくるのに都合がよいとの噂でした。

戦後復旧の頃には、当時、阪大教授で後に京大へ移られた木村さんの力で復旧して来ました。木村さんはOB戦に参加する為に毎日大文字山まで駆けられたという話です。

50周年記念の際は、お孫さんさえある人も、もとの高校のユニフォームをつけて出場されたのも一入の感激でした。

昔は辛じてイレブンが揃うような時代もありましたが、今は部員同志で試合が出来る程盛ん

になり、お目出度い事に思います。

理科系の方も、昔は都合して練習に出て下さった事もあります。忙しいでしょうが勉強の暇をさいて練習され、部の実力も向上させて頂きたいと思います。

サッカーも年々盛んになりつつありますから中学、高校でやられた方も増えて来たことと思います。此所で鍛えることはやがてまた研究の力づけともなり、人生も力強く生きられると思います。代々の部員にこの精神を伝えて下さい。

部 創 立 の 前 後



2代OB会長 入江 右三郎 口述（昭2卒）
立会 今川 義六 氏・恒藤 氏

記憶がまちがっているかもしれぬので詳しくは内海、佐藤、末久にも確認して欲しい。

大正13年秋頃、東大の杉野（松江高出身）、村上（ゴールキーパー）にすすめられ京大にもクラブを創ってはどうかと云うことになった。しかし学友会のこと判らんので前田純一さんにマネージャーをたのみ学友会への工作にあたって貰った。

その当時杉原、末久、山田、西郡、香川、高松、内海、入江らが集った。大正14年3月御影師範グラウンドで合宿をした。大正14年4月東大と試合をすることになり、京大は当時まだクラブ組織であったが東大を農学部グラウンドに迎へ2-1で勝った。東大には竹腰がおられ、当時の強豪東大を倒したことで学友会の中の蹴球部として認められることになった。部長は末広先生である。従って部としては大正14年設立ということになる。

マネージャーは久次米氏だった。秋、東京遠征、内海、水谷、佐藤、入江（RH）、杉原（CF）、黄厚端、西郡（LI）、香川（RI）、金、後に今川（RW）

東大は関東リーグで優勝して居りそれに1対1で引分けたので新聞に「現在の東大と引分けるとは京大恐るべし」との批評が出た。

大正15年は東大戦はなかった。当時香川幸は抜軍の技倆を持ち京大チームの力であった。学友会歳費は120円位で、勝ったら末弘部長が20円の酒肴料をはずんでくれた。

野球、ラグビーが既にあって、グラウンドではサッカーは冷飯をくっていた。だから鞍馬の京師へよくグラウンドを借りに行き試合もしたがいつも勝っていた。

第1回東大戦の時、荒木総長が観戦されサッカーは手を使わないのだと云った。ということは初めて見て驚いたわけです。

当時は、社会科学研究会などが派手にやっていたので東大へ遠征するときなど京大時計台下で大変な壮行会をやって貰い特別列車で上京した。

前述の香川幸は前田純一氏の提言で1年の時から主将であった。

創 立 の 頃



現(3代)OB会長 佐藤

^{タカシ}
巍 (昭3卒)

京大蹴球部の発足は大正14年で、当時大正12年から始っていた東大主催の旧制高校インターハイが漸く隆昌になり各高校の有名選手が入学して来たのが切掛けで、山口高校出身の前田純一兄が情熱を込めて選手を集め、当時京大ラグビー部が日本一を誇る全盛時代の中にア式蹴球部の創設を計り、ラグビー部の部長の末広重雄教授に我蹴球部長兼務をお願いし、ラグビー部との協調を保ちつつ農学部グラウンドを2分しながら練習に励んだ次第である。

即ち、当時から2、3年間のラグビー部は日本一を誇って居り之れに伍しての我部も創立早々乍ら弱体は許されないことは当然である。而も東大は関東に覇を唱えて居り之れと対抗戦が実現されねば意義がないことになって居た。

前田兄は発足早々の乏しい部費の遺練りに苦心しつつ、一方では高校出身のお天狗選手間の融和協調を計って夫々の持味を活かすことに努力された。

当時の関西蹴球界は神戸高商(現神戸大)、関学、関大位が競って居たもののその実力は旧制高校に伯仲した程度で我々京大蹴球部としては発足早々乍ら全く恐いもの知らずの次第であった。

このことは部発足早々に行われた関東の覇者東大戦の戦跡が1勝1分であったことで証される。

この対東大8回戦は京都で行われることで東大選手は京都入りし乍らも試合新規定を関東は己に採用し関西は来年度からと云うことになって居り両校の名誉を掛けての対抗試合に之では両校選手夫々責任が持てぬので遂に取止めとなった。

当時の東大の部長は京大末広教授の弟の末広巖太郎教授であり両部長は兄弟枕を並べて一夜を激論に過ぎられたと云う。そして両校は夫々関東、関西のリーグ線に優勝の上日本一を競う場で対面しようとして別れたことであった。

以上の様なエピソードは種々あり、西郡、内海、入江(旧姓森田)、水谷等々の諸兄のことになると懐しさ一杯で内輪話は尽きない。

運動に打込む以上は強くあらねばならぬ。強いことこそ生涯の良き思い出として永く貴く胸に残るものであることを之からの現役諸君は銘記して頑張りを通して頂きたい。

京大サッカー部創立時代（大正年代）の想出

内海武尾（昭2卒）

京大サッカー部創立以来、既に半世紀の星霜を経た。創立当時その生誕に関わりを持った者には、今更ながら深い感慨に打たれる。

現在当時を追想してみても、徒らに茫漠として、忘却の彼方に臆ろに霞んでしまっている。

従って以下の記述にも誤った記憶や、想像の所産が混っているかも知れないが、その点はお赦しを願って、筆を執ることにした。

京大でサッカーが始まったのは大正18年。僕が京大に入学した年だが、既にラグビー部は全国的な強豪として盛大に活躍していたのに、サッカー部は未だ存在していなかった。

僕は松江高校で8年間サッカーをやり、何とかしてサッカーを続けたい熱望を懐いていた。松江高校で同じく選手をやっていた杉野薫君（広島一中出身）は同年東大に進み、レギュラーのH.Cとして選手生活に入っていた。その彼から僕と矢張り松江高校で共にボールを蹴っていた森田君（現在の入江君）に手紙が来て、京大でもサッカーのチームを作り、東西両大学の対抗試合をやらぬかと勧誘して来た。

そこで新入生の入江君と僕とではどうにもならず、当時2回生で入江君と中学（伊丹中学）同窓で山口高校出身の前田純一君に相談した所、学友会方面に運動して部として認められるよう努力してみるとの快諾を得た。

高校で選手をしていた連中が、確かに在学しているに違いないとは思ったが、どうして呼び集めたらよいかわからない。然し色々奔走している中に、そのような機運が言わず語らずのうちに同好の人々に通じたのか、ポツポツ集まってきて、農学部グラウンドでささやかな練習を始めるようになった。

その中には医学部の西郡君（水戸高）、経済の河野君（三高）、経済の高松君（松本高）、法科の杉原君（七高）等がいた。

然し11名揃って練習するようなことは珍らしかった。

第1回の東大戦は記録によると2対1で京大が勝っている。そのメンバーをみると、松江高校出身が4名も入っている。多分入江君と僕が同窓の仲間を引き入れたものと思われる。

この第1回戦で勝ったことで、前田君の面目も立ち、牽いては学友会の部として認められる

よすがになったと云う次第だ。

記録（唐原友三郎氏提供）に依ると、対東大戦のメンバーは左のようになっている。

第1回（大正14年4月12日

京大運動場）

G. K. 山田（松江）

F. B. { 水谷（松江）
内海（松江）

H. B. { 入江（松江）
杉原（七高）
末久（松江）

F. W. { 高松（松本）
西郡（水戸）
河野（三高）
香川（六高）
石黒（水戸）

1 対 1 引分

第2回（大正14年10月18日、

東京小石川高師グラウンド）

G. K. 佐藤（松山）

F. B. { 水谷（松江）
内海（松江）

H. B. { 入江（松江）
杉原（七高）
末久（松江）

F. W. { 金
西郡（水戸）
河野（三高）
香川（六高）
黄

2 対 1 勝

此の年には、中国人の金と黄の2君が加わり、戦力を加え、特に名手香川幸君が入って頼もしいチームになった。同君は広島一中、六高出身で、後に極東オリンピックの日本代表に選ばれた人で、短軀だが敏捷、特に鋭いシュートを放つゴールゲッターだった。

東大には之亦名手の竹腰氏が I. F. W. として僕と真正面からぶつかる事となった。

当時のサッカーと現在のサッカーとを較べると、或る意味では隔世の感があるが、戦術の点で、即ち前、後衛のコンビネーションと全員が攻守一体となって動くと言う点で異ってきているが、シュート、タックル等の強さではあまり進歩していないようにも思われる。当時は攻撃は大体 F. W. F. B. は防禦専門、唯 H. B. だけは攻守両面に当たり、全員の走行量は現在より少なかったようである。僕等 F. B. は自己のゾーンだけは固く守り、敵を絶対に味方ゴールに近づけない確信を持ち、良いパスや、フリーシュートを敵にやらせないように心がけたもので、ゴール近くで敵をフリーにさせる事は F. B. の最大の恥辱と心得ていた。僕の記憶では8年間の選手生活の中で、1回の試合を除いた外は大体気楽に悠々と守れたような気がしている。勿論現在のようなシステムでは通用しないことは言うまでもない。どのチームの戦法も皆同じようだったから、特に優秀な個人技の持主だけ執拗にマークして働かせないようにすればよか

った。

部に昇格して本格的に関西学生リーグに加わり、試合も多くなって来たし、2年目からは部員も増えたので、僕は新進の人に譲って引退しようと考えたこともあるが、どうしても引き留められて、遂に8年間引っ張り出され通しになってしまった。だから部員の方々とは、グラウンドだけのお附合で、日常生活の愉快的なエピソード、例へば前田氏等の夜の高等戦略などは全く不案内で、此の点は入江君等の領分で、彼に委す外はない。

部に昇格した時の部費は確か120円也を与えられたように思う。ボールを除いた外の費用は一切自弁で前田氏には人知れぬ苦勞があったと思う。

練習も学部によっては(理・工・医等)講義を欠かせないので、グラウンドに出て来る時間はまちまち、夕方になってから駆けつける者も毎日居た。概ね早くから出て来るのは、経・法の連中が主で、部分的な練習しかやれなかった。それでも当時は今から考えても、割合強かったと思う。現在は学制の改革その他の原因で他の私大等に較べて弱いのは無理もないが、頭脳は優れている筈だから、根生が昔のように強ければ相当やれるのじゃないかと思う。

当初京大の教授達はサッカーとはどんなスポーツか知らない人が多く、当時の荒木寅三郎総長が、「驚いたものだね、頭で球を運ぶとは!!」と申されたと云う逸話が伝わっている。

又関西学生リーグの創立総会に前田君と入江君が出席し、入江君曰く、「学生とは文部省令で大学しか認められていない。神戸高商や関学等、専門学校は生徒じゃないか」等と発言したり、彼等はその頃から所謂関西流の「言いたい事言い」で、その癖は今でも治っていないのは、実に愉快だ。前田君はサッカーの実技は全然やれないが、京大サッカー部に取っては忘れられない功勞者である。幽明境を異にして哀惜の情に堪えないが、此に慎んで冥福を祈りたい。

伝統のもと一筋に同じボールを蹴って来た、京都大学蹴球部O.B会の会員も50年を経て其数、数百名に及ぶ今、創立に会した我々も齡既に古稀を過ぎ、老来益々懐旧の念新らたなるを覚える。部の発展を祈願してやまない次第である。

〔 この稿は畏友入江右三郎氏の示唆に負う所が多いことを記して
感謝の意を表したい。 〕

創部に参加して

高松 茂雄（昭2卒）

小生大正13年に京大に入学、当時ア式蹴球部がなかったのでラグビー部に入りD.Bに属し東大L.Bとの対抗戦に出場した。

D.Bには後、ア式蹴球部に転じた西郡君や河野君がいた。

当時のラグビー部は三高出身者を中心として選手団を形造り関西では同志社と天下を二分し常に連勝し、東としては東大、慶応等と定期戦を行い連勝、猛威を振っていた。明大、早大等もまだ若く京大勢には及ぶべくもなかった。自然、ラグビー部の京大運動部に於ける勢力は強大で9月から翌年2月までは京大運動場及び合宿所を独占しサッカー部設立を喜ばない状態にあった。

大正14年4月早々、前田純一君、入江右三郎君、小生相計り、ア式蹴球部創立を計画した。取り敢えず有志をつのり、御影師範に合宿しその校庭で練習を開始した。

参加者 前田純一、入江右三郎、内海武尾、西郡彦嗣、斎藤次郎（医学部）、小生、平松（医学部）、外 計8名。

新学年が始り、大学評議員選挙始まるや同志の中から評議員を送り蹴球部創立及び予算獲得を有利に進めんとし前田純一君を候補者に立て猛運動を開始し当選せしめた。

前田君を押し立て大学当局と折渉しその年5月、正式にア式蹴球部を創設することが出来た。前田君をマネージャーに選び、前田君と小生がラグビー部長である法学部末広重雄教授と面談、部長就任を懇請しその承諾を得た一方で部員募集京大運動場にて練習を開始。

当時京阪神の大学（実質は専門学校）には蹴球部を置くものが少く試合相手が仲々得られず当時優勢であった京都師範、滋賀師範、岐阜師範、神戸一中等を練習相手としていた。その年マニラでアジア諸国蹴球戦が行われ日本から野津謙氏を監督とするチーム、ブラックキャットを送ったがF.Wの香川幸君がその一員に選ばれ参加した。

秋、東大蹴球部と親善試合、R.W高松がヘッディングで東大ゴール前に球を落しL.I香川幸が蹴り込んで先取得点したがL.F水谷が自殺点を自陣に蹴り込んで1対1、そのまま引分けとなった。

その時のメンバー 佐藤、内海、水谷、河野、杉原、入江、森本、高松、香川、長谷川、西郡、今川

大正15年

① 1月 京大運動場に関西大学蹴球部を迎え親善試合。

② 4月 高松茂男 推されてマネージャー就任。

- ③ ？月 舞鶴機関学校その他と練習試合。
- ④ 10月 京大スポーツ運動週間に際し、東大蹴球部を迎へ対抗戦を行う予定の処公式試合時間の解釈の相違から両大学互いに譲らず紛糾、部長、先輩、その斡旋に努められたが双方の選手団激昂し妥結に至らず試合中止となったのは今に遺憾に堪えない。

当時の選手団

香川竜雄、滝本輝一郎、久次米定吉、宮崎武夫、清水？（静岡） 他

- ⑤ 運動場の使用、合宿所の使用等についてはラグビー部との調整上、マネージャーは仲々の苦勞であった。

昭和2年

両親を相次いで失い弟妹の養育、家業の補佐等に追われ自然蹴球と疎遠となった。

安居委員長挨拶

安居 律（昭14卒）

京大蹴球部創立50周年記念事業をやろうという話が正式に決まったのは昭和47年の三春会の席上でした。来年がそれに当るということで実行委員を選び事業を推進することになりました。其後の調べで50年目は正確には49年だということが判ったので行事は49年5月と決定。在阪唐原君を中心に恒藤、岡本、日比、塩路、京都の日置、竹山、湯浅の諸君と幾度か会合したり連絡をとったりし乍ら準備をすすめ、記念行事実行に当っては地元の日置、貫戸、竹山、湯浅君等の大活躍又現役の協力も得て万事遺漏の無いよう努めました。当日は珍しい程の快晴に恵まれ来賓及び会員の参加者は150名を超え盛大に予定行事を滞りなく終了することが出来ました。いろいろ非常に御苦勞願った上記の諸君及び会員の皆様方の御協力御後援に深く感謝致します。

尚行事の一つ50年史の発行はいろいろ準備に手間取り予定より大分遅れましたが、唐原、恒藤君等の努力によって漸く上梓の運びとなりました。実行委員会は茲に一応の責を果たしたもとのとして解散することに致します。御協力有難うございました。

創立50周年記念行事実施要領

1. 実施事項

- (イ) 親善試合、49年5月3日(祭) 於京大農学部グラウンド
- (ロ) 懇親会 (49年度総合を兼ねる) 於楽友会館
- (ハ) 植 樹 親善試合に先立ち農学部グラウンド構内(西北角)にて実施
- (ニ) 親善ゴルフ大会 5月4日(土) 瀬田ゴルフ(後日城陽C.Cとなった)
- (ホ) 会員名簿発行
- (ヘ) 50周年記念部史の発行 50年3月発行を目標とする
- (ト) 記念品の作成 卓上ガスライター

実行委員及業務担当

委員長	安 居 律	(昭 14)	
副委員長	唐 原 友三郎	(〃 15)	事務局長、50年史
〃	伊 藤 虎 次	(〃 15)	関東方面
委 員	日 置 象一郎	(〃 17)	植 樹
〃	竹 山 幹 夫	(〃 19)	会 場(蹴球部長)
〃	向 井 清 之	(〃 21)	中部方面
〃	湯 浅 隆 義	(〃 22)	宿舍、ゴルフ関係
〃	恒 藤 武	(〃 25)	運 営(蹴球部監督)
〃	岡 本 彰 郎	(〃 25)	事務局、運営
〃	小 山 啓 二	(〃 26)	関東方面
〃	松 本 昭	(〃 26)	九州方面
〃	河 村 篤 彦	(〃 27)	記 念 品
〃	日 比 敏 継	(〃 32)	会 計(旧姓 官本)
〃	若 井 尚	(〃 33)	中国方面
〃	大 木 岩 根	(〃 35)	名 簿
〃	塩 路 正 信	(〃 36)	名 簿、会 計

京大蹴球部50年の歩み

唐 原 友三郎

創立は大正14年の春5月である。それに先立って有志集って8月に当時フットボールで名を挙げて居た御影師範で合宿している。(当時はフットボールと称して居た。正式にはアソシエーション・フットボールというのだが一般にはまだ普及していなかった。フットボールしようとか、フットボールを見に行こうと云ったものである。ラグビーもフットボールであるが、ラグビーはラグビーという言葉で独立したスポーツで皆にしられて居りサッカーと混同されることはなかった。

フットボールを漢字で表示したのが蹴球である。当時今のサッカーは蹴球の字で活字になっている。蹴球の試合、蹴球大会となっている。従って古いサッカーチームの部名は蹴球部であり京大もその例に洩れない。何時の時代からか判らないが蹴球でもサッカーはラグビーではないということをはっきりさせる為にア式蹴球と新聞その他に出るようになっていく。ちなみにラグビーはラ式蹴球と表わされた。)

京大の蹴球部が出来た動起は、既に部の出来ていた東大の部員が、高等学校で共にボールを蹴った人の内京大に在学する旧友に呼びかけたのが初りであることは前田、内海、入江先輩の記事にある通りである。それを勧めた人達が、大正14年の春、部の創立以前に来て練習試合をやっている。この時は2対1で勝っている。これが第1回東大戦となるが正式の第1回戦はその年の秋の両大学の各部対抗戦の時からである。この時は1対1の引分けである。

春の時は部の創立をすすめている京大に、東大側から応援に来て、ついでに親善試合をやり青春の気を発散すると共に京大に花をもたせ、進めやすくしてくれたものと思われる。

内海先輩の記事にある通り東大に勝ったということで創立に尽力している前田先輩の面目も立ち、学友会の部として認められるよすがとなった次第である。

この試合には当時の荒木総長が観戦に来ていたのである。その目の前で当時関東の最強チームである東大に勝って見せたのである。なみなみならぬ東大の協力振りであり、東大の方が一枚役者が上ということになる。

然し京大にも、チーム作りの初めから人材が居たのである。それもやはり東大のお蔭である。というのは東大では、東大をいかに強くするか考えた結果、全国高等学校蹴球大会をやれば優秀選手が集ると判断し、大正12年の正月に第1回インターハイを行った。このインターハイで鍛えられた選手が京大にも集っていたわけで東大と対抗する力を最初から持つことが出来た。

関西学生リーグには大正14年に加盟しているが出場したのは大正15年からである。

この年は7校中4位に終わっている。力のある人が集っているチームとしては成績が悪かった。

新チームの初参加、試合の都度人が変って居りポジションが動いている所を見ると、チームとしてまとまるのに苦労して実力を出し切っていない。

翌昭和2年には不動のメンバーを組み、早くも関学と同率ながら優勝を果している。

昭和8年は第7回全日本蹴球選手権大会に京阪代表となって出場、決勝進出したが後半くづれて、早稲田WMWに逆転大敗を喫した。前日に続いてその日に準決勝、決勝と試合が行われる過密スケジュールでは練習量の少い京大では無理である。決勝戦は10月28日神宮で行われたが東京から帰って中断していた関西リーグ戦では神戸高商に不觉にも前半2-0とリードしながら後半3点を入れられ2-3で敗れ、関学にも0-1で敗れ、この年は8位に落ちてしまった。

昭和4年は関西リーグをやりながら英国支那艦隊ケント号(10月15日)、ヘルメス号(10月23日)と戦い、且つ第8回全日本ア式蹴球選手権大会に参加するという目まぐるしいスケジュールであった。この大会では前年優勝の早稲田を破って進出した慶応と対戦、優勝候補同志とさわがれたが0-2で負けた。この年は兵庫代表の関学が優勝。

神宮から帰って関西リーグでは関学を破って優勝を狙ったが1-3で敗れた。関学は関東リーグ1位の東大に大接戦の末3-2で勝ち完全優勝を達成した。

昭和5年関西リーグでは関学と再試合の後3-0で勝ち初めての優勝を果した。然し関東リーグ1位の東大には1-2で敗れた。この年は舞鶴の海軍機関学校チームと再三試合を行ったのが特徴でこの年限りで終わっている。

昭和6年関西リーグでは3-4の大試合の末関学に優勝を奪還された。

然し翌7年から9年まで3年間関西リーグ連続優勝をし京大の黄金時代を築いた。所が関東リーグ1位と対戦する東西優勝校対抗戦では遂に勝てなかった。昭和7年は1-2で慶応、同8年は2-5で早大、同9年は0-6で早大に敗れている。

昭和10年、11年は3位に終り、それぞれ関学、神商大が優勝した。

昭和12年、春の劣勢をはねかえして優勝したが東西優勝校対抗では慶応に0-3で敗れた。

昭和13年 2位、昭和14年 3位と順に下り、昭和16年も3位を続け、そして昭和16年に優勝した。戦時下で様式がかわり京阪神の3地区で予選を行い、地区代表による決勝リーグが行われた。

昭和17年、再び関西リーグの元に戻り、関学、関大は勿論昭和と高商に負けて4位のはずが、関大のとりこぼしの為同率となり順位決定戦に勝ってかろうじて3位を保った。

昭和17年の後期からリーグ戦は、昭和21年まで中止となった。そのかわりに秋期関西学生トーナメントが行われ、準決勝で関学に敗れている。この時のメンバーで一部欠けたままで次の正月3日西宮球技場で慶応と対戦4-0のスコアで勝っている。

戦争がなく学徒動員がなければ昭和19年、20年は豪華メンバーの揃った京大は、又優秀選手が戦死しなければ、どんな成績を球史に残した事かと思うと誠に惜しみて余りあることであつた。

戦後復員、復学した者は第1回の卒業は21年9月でその人達は春季学生トーナメントに参加したのみであつた。この時は関学と決勝を争い1-3で敗れた。

秋に関西学生リーグが再開された。21年は5位、22年 4位、23年 4位、24年 5位、25年 5位、そして26年 最下位となり挑戦に敗れて二部に転落した。

かくして、落ちては一部昇格の戦後の歴史が始るのであつた。

二部転落の年はまだ旧制高校出身者が大部分であつたが、インターハイが戦前は昭和17年第20回大会で終つており、戦後は第23回大会が昭和23年に京都で行われたのを最後にして終つてしまつて、いわゆる既成選手の供給源が枯れたことと腹ペコが二部へつながつたことと思う。

戦後サッカーを興隆さす為にOBを混えての東西大学対抗が毎正月行われ、京大も21年には全慶応と、朝日招待として23年 全東大、24年 全文理大と全京大として参加したがいづれも敗れてしまつた。

昭和22年には全京大として国体(金沢)に参加、準決勝で全北海道に敗れた。

戦前は大学の現役チームが強いとしたものでよい試合は大学対抗戦であつた。戦争で出来た空白を戦前の選手OBで埋めて良い試合を一般に見せる一時期を過ぎて、一部会社が大学その他から優秀選手を集めて編成するチームの試合の方がサッカーとして見応えがあるようになっていき、大学チームはこれらに歯が立たなくなつてしまつた。

戦後は大学より強いチームが出来たが大学のレベルが戦前より落ちたかという点必ずしもそうとはいへない。一時期確かに落ちたと云えたがその後だんだんとレベルが上り今の方がむしろレベルアップして来ている。然し良い選手を集める努力をし、又集るものと、努力しても思うにまかせぬ差が開いて来たように思う。その集らない方の部に京大は属することになった。それで居て一部で斗い又落ちては這い上るには、体力づけとファイトそして効果ある練習をせねばならなくなつた。

京大が二部に落ち、昭和33年二部優勝、入替戦に勝つて一部復帰までに7年かかっている。落ちた初年度は一部時代の余力があり復帰のチャンスだが京学大に優勝をお先に御免された。京学大台頭の初年度といえる。

二年目に当る昭和28年は8位に、この年は落ちて来た大経大がさっさと復帰して行つてゐる。そして29年度は6位と下降しこの時がどん底であつた。二部も落ちて底なしの泥沼に沈むのではないかと心配された年であつた。

この年は落ちて来た神大が優勝、一部に復帰している。30年には4位に浮上、31年には或いは優勝するかもと期待が持てたが昭和29年以来三部から二部に来た甲南大が前にはばかり、同率となり決定戦で敗れた。

32年も可能性の強い年であったが30年以来二部に来た新興勢力の立命大が優勝、一部へ上って行った。この時は立命に勝っているのに大学大戦を落し、大商大と分けて逸期した。この頃安居と小生がグラウンドで顔がそろとう敗けた試合にぶつかったものである。それで現役の間に監督がそろとう負けるというジンクスが生れた。翌33年は優勝して一部に復帰したが、2人で相談してここ一番の試合には行かぬことにした。そしたら優勝カップを持って家まで選手達がやって来てくれた。

京大は伝統的に選手が自主的にやって居りいわゆる監督制度は戦前にはなく、戦後現役を強くせねばというので一時期監督をつけたことはあった。28年に小野がなり、彼が病氣したので、24年は安居が継いだ。京大の監督は勿論技術指導をしたが、リーグ戦にOBを代表して顔を出す役目をして居た。

二部に落ちた時は、初めての事ではあり誰にたのむわけにも行かず、OBと現役をつなぐ役目を安居と小生の2人でやろうということで2人監督という非常時の異例の措置であった。OBの現役放れが一番心配であったわけである。そして何としても一部に復帰させようと願ったからである。先輩の人達は激励をしてくれ、二部だから金は出さぬと云う人がなかったのは有難かった。京大では運動部の資金源である同好会が解散して居り、学生が自分の金でやって居たから少しでも金が集ればそれだけたすかるので年会費制をしいて後援会費を集めて居た。とても充分ということにならなかったがこれが先輩と現役をつなぐのに役立った。

昭和34年から一部に出場したものの、2年間最下位を続けたが入替戦に勝ってふみ留って居た。33年二部優勝した時は前年にお先御免と一部に行った立命大と入替戦で入れ替った。

最下位の時の入替戦の相手は同大であった。同大は32年に立命大に、26年以来続いていた一部の座を引きおろされ、一部復帰の望を34年、35年と京大にさえぎられている。ちなみに同大は36年に3度目の正直と一部に昇格した。

昭和36年 4位、37年から40年までの4年間3位を続け、41年に8年間続けた一部から陥落した。入替戦の相手は神戸大であった。

京大が一部リーグの3位にくい込んだのは36年以来7年間コーチをしてくれた文理大出身の瀬戸コーチにおう所が大きい。38年には優勝の関学に勝ち、39年には優勝の関大と引分け2位の関学に勝ち旋風を巻き起したのであった。反面下位チームに負けたので3位より上に行くことは出来なかった。

神戸大は28年に1年間落ち、36年再び落ちて5年目に京大と入れ替ったのである。

二部に再度落ちた初年度の42年は2位、43年 4位、44年 2位、この年から2位も入替戦に出れることになったが阪大に敗れて駄目であった。翌45年に優勝入替戦で阪大に勝ち一部に復活した。

阪大は25年に落ち、30年には更に三部まで行ったが44年、45年の2年間一部に居たのであった。

一部復帰して46年より3年間6位を続け、4年目の昭和49年、京大蹴球部50周年記念式典を行った年に又もや二部に転落した。然し翌年二部に優勝し関学と入替戦に敗れ(この年から2試合制となった)翌年再び優勝、一部に復帰した。(この年度から優勝すれば自動的に復帰制となった。)

50周年史の発刊がおくれたのでこの記事が間に合ったが、この年の試合は2対0でリードされながら後半中頃から逆点、又は引分けに持ち込む執念の試合が二つもあった。

京大はこれで行かねば駄目だ。名選手の入ってくることのない京大では執念を燃やし、それに堪える持続力をつけ、動き勝つことにより技の不足を補う選手が揃うこと以外に生きる道はない。

そのよい見本を見せてくれたのが51年度の一部復帰であった。今後の京大のよい伝統となってくれることを祈ってやまない。

それに預って力あったのが恒藤監督の存在であった。

昭和48年、瀬戸コーチのなき後、監督を引受けてくれた。この時は2回目の二部リーグの2年目に当って居た。勤人の事であるから従来程度の監督をつとめて貰えば結構という期待であった。

所が大変な熱の入れ方で、休日は返上、大丈夫かと気をもむ程、そして今日まで9年間決して音を揚げることなく努力してくれ、新しい京大の現役を育ててくれたのであった。

その上、京大蹴球部出身の竹山教授が部長になって常に顔を出して恒藤監督の側面援助をしてくれたのが何よりであった。

最後に部長の歴史を書いて終りとする。

京大の運動部の部長は教授が就任することになって居り、初代は末広重雄教授であった。2代目は竹崎喜穂教授、3代目は昭和11年より文学部の原随園教授、4代目は昭和31年より薬学の木村康一教授、5代目が昭和40年より理学部の竹山幹夫教授で現在に至っている。4代の木村教授は東大の、5代竹山教授は京大の、それぞれ蹴球部出身で部長がユニホームを着てボールを蹴っている。

関西学生リーグ年度優勝校

回数	年 度	優 勝	回数	年 度	優 勝
1	大正12年	関西大学	27	昭和24年	関西大学
2	13	〃	28	25	関 学
3	14	〃	29	26	〃
4	15	関 学	30	27	〃
5	昭和 2年	京大・関学	31	28	関西大学
6	3	関 学	32	29	関 学
7	4	〃	33	30	関西大学
8	5	京都帝大	34	31	大阪経済大学
9	6	関 学	35	32	関 学
10	7	京都帝大	36	33	〃
11	8	〃	37	34	〃
12	9	〃	38	35	〃
13	10	関 学	39	36	〃
14	11	神戸商大	40	37	〃
15	12	京都帝大	41	38	〃
16	13	関 学	42	39	関西大学
17	14	〃	43	40	関 学
18	15	〃	44	41	関西大学
19	16	京都帝大	45	42	関 学
20	17	関 学	46	43	関西大学
21	18	中 止	47	44	関 学
22	19	〃	48	45	大阪商業大学
23	20	〃	49	46	同志社大学
24	21	神戸経大	50	47	大阪商業大学
25	22	関 学	51	48	〃
26	23	〃	52	49	大阪経済大学

50年・51年 大阪商業大学

京大・東大 定期戦

回数	年度	京大	東大	月日	G
第1回	昭和24年	1	1		東大
2	26	1	4	7/10	京大
3	27	3	1	7/10	京大
4	28	2	8	6/7	東大
5	29	0	13	7/11	京大
6	30	0	6	7/10	東大
7	31	3	3	7/8	京大
8	32	0	0	6/28	御殿下
9	33	4	3	7/6	京大
10	34	1	4	7/5	御殿下
11	35	2	2	7/3	京大
12	36	1	2	7/2	御殿下
13	37	1	0	7/1	京大
14	38	0	0	7/7	御殿下
15	39	0	0	7/5	京大
16	40	0	1	7/4	検見川
17	41	1	1	7/3	京大
18	42	0	3	7/2	東大
19	43	0	3	7/7	京大
20	44	1	1	7/6	検見川
21	45	2	3	7/12	京大
22	46	1	1	7/11	東大
23	47	0	1	7/2	京大
24	48	2	2	7/1	御殿下
25	49	0	1	7/6	京大
26	50	1	2	6/29	御殿下
27	51	3	1	7/4	京大

昭和25年度は中止

4勝 18敗 10分

京大・同志社 定期戦

回数	年度	京大	同大	月日	G
第1回	昭和24年	1	2	5/22	京大
2	24	10	0	10/30	京大
3	25	3	1	6/4	京大
4	25	1	0	秋	
5	26	1	4	7/1	京大
6	27	2	0	9/14	京大
7	28	1	5	5/31	京大
8	29	1	8		京大
9	30	2	3	6/5	京大
10	31	1	1	6/10	京大
11	32	3	3	6/9	京大
12	33	2	1	6/8	京大
13	34	3	0	6/14	京大
14	35	1	2	5/29	京大
15	36	2	1	5/28	京大
16	37	1	2	6/10	吉祥院
17	38	0	3	5/26	京大
18	39	1	5	6/7	香里
19	40	0	0	6/27	京大
20	41	2	2	6/26	香里
21	42	1	6	6/18	
22	43	0	3	6/16	
23	44	0	4	6/15	京大
24	45	1	1	6/7	
25	46	1	1	6/20	
26	47	0	4	6/25	
27	48	0	3	6/10	
28	49	1	3	6/9	香里
29	50	2	2	6/8	
30	51	1	1	6/18	京大

7勝 15敗 8分

大正 14 年 度

C 香川 幸 M 前田 純一（監督兼務）

この年の春、部として纏った練習をしていた訳ではないが、東京大学と試合している。

京大 2 - 1 東大 4・12

京大	山田	水谷、内海	入江、杉原、末久	高松、西郡、河野、香川、石黒
		G.K	F. B	H. B
			H. B	F. W
東大		朝生、山本	鈴木、杉野、木村	中島、中村、岸本、潮、塩原

この年の秋に、京大と東大の全部の運動部の対抗形式の試合に、創部したばかりの我が蹴球部も参加した。

関西ア式蹴球学生連盟に（関学、関大、神戸高商）に大阪外語、和歌山高商と共に加盟したが、リーグ戦（第3回）には出場しなかった。

第2回 東大戦 10月18日 小石川・高師グランド 主審 鈴木 線審 斎藤、宮岸

京大メンバー

G.K	F. B	H. B	F. W
	水谷、内海	入江、杉原、末久	金、西郡、河野、香川、黄
佐藤			



大正 14 年 4 月

於 農学部グランド

前田 (山口)	平松 (七高)	斎藤 (七高)	水谷 (松山)	末久 (松江)	杉原 (七高)	入江 (松江)	北村 (高師)	竹内 (審判)
山田 (松江)	内海 (松江)	香川 (六高)	高松 (松本)	河野 (四高)	西郡 (水戸)	石黒 (水戸)		

戦評（大阪朝日、10月19日）

前半戦両軍共、各一点を挙げ、後半戦、一進一退の戦いを繰り返し、遂に両軍とも得点を
得ず、一對一の引分けに終わった。

京大メンバー

G.K	F. B	H. B	F. W
佐藤	水谷、内海	河野、杉原、入江 (未久)	森本、高松、香川、長谷川、西郡 (金) (西郡) (河野) (香川) (黄)

部創立以前、大正13年度のCは西郡彦嗣、M兼監督 前田純一であった。

錦 の 帯

前 田 純 一（大15卒）

ちょうど第2回の東大戦の時だから我々一行は東京本郷の下宿に合宿して居った。

処がある日、妙な電報が舞い込んだ。「キミサリテアキハフケニケリ」初めは何の事か判ら
なかったが宛名を見るとUとある。そこで一同了承した。当時Uは恋愛中で京都を去るのをい
やがって居たのを無理やり連れて来たのだった。

皆は其の事情が判っているのでうやましいやら、妬けるやらで京都からの電報を囲んでわ
いわいと云って居ると末座に声あり、下の句を朗唱した。「紅葉葉の錦の帯を解くよしもがな」
即ち「君去りて秋は深みぬ もみじ葉の錦の帯を解くよしもがな」と電報の心を詠みかえたわ
けである。電報の主の心が痛い程判ったことに気づいて、そしてうまく歌になったことに感心
すると共に各自らの心に火をともしてヤンヤと夜のふけるのも忘れたのでした。

以上は前田氏が不自由な手を使って書いた絶筆である。

50周年記念行事の時は病床にあって出席出来ぬまま、京大蹴球部後援会長としてその成功
を祈念されていたのでした。

次いで50周年誌発刊については、部の創設の中心人物として、これの成功に意をそそいで
いられたのでした。

創設当時の記事の取材に行くについて、前以って打合せていたので、前田氏としてもあれも
これもと考えて居られ、取材者が帰ってから口述の忘れたのに気づき、いたれりつくせりのあ
のやさしい仲の良い奥さんにも書かせず、原稿用紙にペン字で自筆して送って下さったのでし
た。

病床にあって何時出来るか、どんなものが出来るか、気をもんでいられたことと思われる。早くよくなって、ハッパをかけに出掛けたい気持で一杯であったことと思われる。

かなり恢復して来て三宮へ出掛けようといひ出し、出掛けたが行くだけが勢一杯、そのままタクシーで折り帰したと奥さんがお通夜の時に話して居られたが、その熱意の程がうかがわれる。外出の練習を始める所まで恢復していたのに病状が再び悪化、49年10月急逝されたのは誠に惜みても惜しみ切れないものがあります。

大正 15 年 度

C 香川 幸 M 高松茂雄(兼監督)

関西学生リーグ

	勝	敗	分				
				京大	2	($\begin{matrix} 0 & - & 0 \\ 2 & - & 0 \end{matrix}$)	0 大外語 10・31
1) 関学	6	0	0	京大		榎権勝	神高工 10・31
2) 神戸高商	5	1	0	京大	4	——	1 和高商
3) 関大	3	3	0	京大	3	($\begin{matrix} 1 & - & 1 \\ 2 & - & 3 \end{matrix}$)	4 神高商 11・17
4) 京大	3	3	0	京大	1	($\begin{matrix} 1 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \end{matrix}$)	8 関学 11・19
5) 大阪外語	2	3	1	京大	2	($\begin{matrix} 1 & - & 2 \\ 1 & - & 2 \end{matrix}$)	4 関大 11・21
6) 和歌山高商	1	4	1				
7) 神戸高工	0	6	0				

第8回東大戦は10月18日京大グラウンドに於いて行われる予定で、東大は入浴中であったが、90分ゲームを主張する東大(関東ルール)と70分ゲームの京大(関西ルール)とで意見が衝突し又使用ボールの問題、及びオフ・サイドに対する解釈の相異などあって遂にケンカ別れとなり、サッカーのみは中止となった。

対 大外語				対 和歌山高商			
G.K	F.B	H.B	F.W	G.K	F.B	H.B	F.W
	┌───┐	┌───┐	┌───┐		┌───┐	┌───┐	┌───┐
佐藤	穂森	森香小	金平香黄今	佐藤	杉内	森森小	今長平黄斎
		川	川				谷
藤坂	本田	田(竜)能	塚(幸)川	藤原	海田	本熊	川川塚藤

入江(旧姓 森田)

京	山	杉	内	香	森	小	今	平	長	齋	对	神	高	商	及	对	関	学		
大	田	原	海	川	本	熊	川	黄	谷	塚	川	G.K	F. B	H. B	F. W					
	G.K	F. B	H. B	F. W								山	杉	内	森	森	香	今	長	平
関	吉	北	坂	松	山	三	永	寺	播	日	吉	田	原	海	田	本	川	川	川	塚
大	結	川	田	本	県	谷	井	田	磨	野	森									

対大外語戦の F.B 穂坂と公表されているが実人物は滝本らしい。

	関	神	関	京	大	和	神
	学	高	大	大	外	高	高
		商			語	商	工
関	学	5-1	キ	3-1	4-1	7-1	9-0
	○	○	○	○	○	○	○
神	高	○	○	4-8	○	○	○
	商	○	○	○	○	○	○
関	大	○	○	4-2	○	○	○
	大	○	○	○	○	○	○
京	大	○	○	○	2-0	4-1	キ
	大	○	○	○	○	○	○
大	外	○	○	○	○	△	○
	語	○	○	○	○	○	○
和	高	○	○	○	○	△	○
	商	○	○	○	○	○	○
神	高	○	○	○	○	○	○
	工	○	○	○	○	○	○

関学のメンバー

齋	大	米	松	山	後	平	壇	青	高	花
藤	山	沢	藤	口	藤	山	野	木	田	田

昭和 2 年 度

C 香川 幸一 九月→森本幸造 M 久次米定治

関西学生リーグ

	勝 敗 分	京 大 0	—	0	関 学
1) 京 大	8 0 1	京 大 2	—	0	大外語
2) 関 学	3 0 1	京 大 7	($\frac{8}{4} - \frac{3}{1}$)	4	神高商 11・6 東遊園地
3) 神高商	2 2 0	京 大 4	—	1	関 大 11・4 千里山(関大)
4) 大外語	1 3 0				
5) 関 大	0 4 0				

この年より関西学生リーグは一部・二部に
分け、京大は一部で関学と一位を分けあった。

神宮大会 京阪予選決勝
京大 棄権敗 関大 10・17

対九州大定期戦

京大 2 { $\frac{1}{1} - \frac{1}{0}$ } 1 九大 11・13
九大医学部グランド

九大にはG.Kに児玉来三(山口高)が居て
得点が難しく、スコアは接近した。又佐久間
(松山高)が居てよく活躍した。

マニラで行われた第8回極東大会に香川氏出
場、学生からは東大の竹腰氏と2人であった。

対 関 学

	G.K	F.B	H.B	F.W
京 大	信 森五 正 領 本 田	内 加 香 藤 下(竜)	木 平 香 佐 長 川 谷 村 塚(幸) 藤 川	

関学の推定メンバー

	齋 門 米	坪 後 山	平 塚 青 高 沢
	藤 脇 沢	田 藤 口	山 野 木 田 田

対 神高商

京 大	信 森五 正 領 本 田	内 加 香 藤 下(竜)	佐 香 平 木 長 川 谷 藤(幸) 塚 村 川
	G.K	F.B	H.B
神高商	田 戸 重	中 田 塚	々 上 藤
			F.W
			直 平 平 小 太 山 弟 山 橋 田

	京 大	関 学	神 高 商	大 外 語	関 大
京 大	△	0-0	7-4	2-0	4-1
関 学	△	△	8-2	4-3	7-2
神高商	×	×	△	○	○
大外語	×	×	×	△	○
関 大	×	×	×	×	△

昭和 3 年 度

C 香川 幸 M 今 川

関西学生リーグ

	勝	負	分				
1) 関 学	4	0	0	京 大	15	—	0 大外語 9・30
2) 神 高 商	3	1	0	京 大	2	($\frac{2}{0} - \frac{0}{3}$)	3 神高商 11・19 神戸東遊園地
3) 京 大	1	2	1	京 大	0	—	1 関 学 11・25 神戸東遊園地
4) 関 大	1	2	1	京 大	1	—	1 関 大
5) 大 外 語	0	4	0				

第8回 全日本蹴球選手権大会

京阪予選決勝戦

京大 9 — 0 湯浅電池 10・7 京大

全国大会 於 神宮

1回戦

京大 5 ($\frac{5}{3} - \frac{0}{0}$) 0 神通中 10・27

準決勝

京大 5 ($\frac{2}{3} - \frac{0}{0}$) 0 東北大 10・28

決 勝

京大 1 ($\frac{1}{0} - \frac{0}{6}$) 6 早稲田 W・M・W 10・28

対 湯浅電池

G.K	F.B	H.B	F.W
木 村	松 正 村 木	内 加 有 茂 藤 下 賀	藤 西 水 香 藤 川 野 (幸) 村

対 神通中

G.K	F.B	H.B	F.W
木 (石) 村	藤 正 村 木	内 加 藤 茂 藤 下 島	奥 木 西 香 長 川 野 村 村 (幸) 川

L.W 江川、恵川は恵美(広高)のことである。

L.F 藤島(山口高)

対 東北大戦

G.K	F.B	H.B	F.W
石 綿	藤 正 島 木	内 加 有 茂 藤 下 賀	江 木 西 香 永 川 村 村 (幸) 野

対 早稲田 W・M・W 戦メンバー

京 大	石 綿	藤 正 島 木	内 加 有 茂 藤 下 賀	江 木 西 永 長 川 村 村 野 川
-----	-----	------------	------------------	------------------------

対 早稲田

G.K	F.B	H.B	F.W
早 稲 田	伊 井 藤 出	高 杉 本 師 村 田	浅 横 松 高 滝 井 村 葉 橋

対 九大 定期戦

京大 4 — 0 九大 11・14 京大
京大 1 — 0 九大 11・15 京大

対 大阪サッカー 湯浅グラウンド

京大 4 ($\frac{1}{3} - \frac{0}{1}$) 1 大阪サッカー

京	石	藤正	内西山	恵香水加有
大	綿	田木	藤村中	川茂 美(幸)野下賀
	G.K	F.B	H.B	F.W
大	渡	兼日	木宮大	高安丸長浦
サ	辺	田高	田内山	橋住谷井井
カ				
阪				

対	関学			
京	石	藤加	藤西有	恵木香水長
大	綿	田下	村村賀	川谷 川(幸)野川
	G.K	F.B	H.B	F.W
関	斎	内米	坪後山	平壇青堺岩
学	藤	脇沢	田藤口	山野木井田

対関学戦 経過

〔前半〕関学は両Wより、当方は中央及左Wより攻める型であったが、双方ともバックが優秀でフリーシュート迄に至らず一進一退、全く技倆伯仲であった。35分に有賀一長谷川一水野とパスが渡り、水野巧みに相手をかかわしてドツデしてカーブシュートを打ちゴール左隅に決めたが香川オフサイドとなり、あきらめられぬ最初の機会は去った。

〔後半〕20分、加茂下のロングキックが長谷川への絶好のパスとなり、長谷川ゴール直前に持ち込みシュートしたがバーすれすれで外れて惜しいことをしている。後半も一進一退の内、30分、味方のボール返球不十分を捕えた相手右WのセンターリングをCFシュート決勝点を取られた。一瞬の出来事であった。夕闇迫る中、総攻撃に移ったが全員バックして死守されタイムアップとなってしまった。

神宮大会 戦況

大会前に於ける京大イレブンの紹介

広島、松山の両高校で妙技を揮った木村、西村、水野、江川あって鋭鋒を更にみがきCHとして、六高時代に名声を馳せたが加茂下が主将で、両翼の内藤、有賀とでHBラインを堅め、山口で鍛え上げた藤島、正木がピッチリ呼吸の合った所でFBとして立ち、石綿ゴールを守って堅陣を布いている。

神宮大会決勝戦は二時半開始、峰岸、竹内、守屋三氏の審判 W・M・W 先蔵で行われた。試合開始、一気にW方は攻め込んだが京都は巧みに外して、3分逆襲RW長谷川強蹴ゴールを衝き、GKの伊藤幸じて外してCKとなる。江川のキックで再び危地に陥入れたが果せなかった。W方はRF白のキックで盛り返し5分RH本田、LH高師立て続けにキック京都陣を脅かしたが無為、11分、京都加茂下猛直球を放ったが左のポストをかすめて惜しくもアウト、W方この後RHの長蹴LI横村ヘディングでゴールを襲ったがGK石綿の好捕に阻む。17分W方は初めて右にKCを得杉村キック、ゴール前に落ちた時京都反則をおかしペナルティキックと

なった。高師の直球は石綿に捕られ絶好の様を失す。19分守勢の京都は中央を抜きCF西村のパスをW方LF井出カットに出たが間に合わずRW長谷川にわたりゴール斜前6、7m辺りの猛球で先取得点。勢に乗じて攻めたが長くは続かずW方の攻勢激しくなり京都バック折重って辛くも逃げ28分から連続的の強襲でゴールを衝くがGK石綿の活躍に名を成さしむのみ。〔後半〕京都後半にいるやガタ崩れとなって前半のチームワークはなく押しまわれ4分RHとなった杉村のロングパスLW浅井凡失した がLI横村拾って強襲ゴールを挙げ1対1の同点、W方続いて圧迫をつづけ、14分中央付近でFKを与えたがすぐに攻め込みCKを得、それに続くCH本田の強襲を以って1点を加う。更らに17分の好機をのがしたが20分右を抜いてRW高橋深く進んで得点しここに3点のリード、京都回復に努めたが疲労加わると共に全くコンビネーションを失って依然苦戦しつづけ、W方は31分LI横村の得点に差を開く、39分京都はLW江川左から抜いて好機を得たがCF西村にパスして失敗、W方43分LI横村の好襲で更に点を加えた。京都は最後の強襲に出てゴール成ったが惜しくもオフサイドとなってタイムアップとなった。

資料 赤川氏 提供

対 九州帝大

第1回戦 キックオフ 1時30分

〔前半〕両軍一進一退する中、21分、九大野のハンドに西村、フリーキックすれば見事ゴール隅を破り1点、25分、京大圧迫する内、西村強襲、計2点。〔後半〕京大漸く連絡整い木村、香川へ、ロングパスすれば香川すばやくドリブル・シュートして1点、続いて、20分、長谷川、水野、木村にパスすれば木村悠々シュートして計4点、九大センタースリー、見事に攻むるも我がバックの快速に得点に至らず京大に凱歌あがる。

第2回戦

〔前半〕両軍、雨中に泥まみれとなり戦う。京大、昨日の試合に2人傷つき陣容稍淋し、両軍の技倆全く伯仲、九大、三宅、八代しばしば我軍を危地に陥るも藤田の頑張りによって得点に至らず前半を終る。〔後半〕相変わらず接戦を続ける内、京大の連絡次第によくなり西村、長谷川、水野とパスすれば水野すかさずシュートして貴重な1点を得、九大必死の攻撃も遂に得点に至らず九大佐久間主将(松高出)を始め憾みを呑む。

	G.K	F.B	H.B	H.W		G.K	F.B	H.B	F.W
第一回	木村	藤加茂 田下	藤西有 村村賀	恵木香水長 谷川	第二回	木村	藤正 田木	内加藤 茂 藤下村	恵木香水長 谷川 美村川野川

私と部とのつながり

	学	神	京	関	外
関学	\	6-0 ○	1-0 ○	16-1 ○	8-0 ○
神高商	×	\	3-2 ○	○	○
京大	×	×	\	1-1 △	15-0 ○
関大	×	×	△	\	○
大外語	×	×	×	×	\

溝口 治 (昭和4卒)

私、京大在学中は直接蹴球部とは無縁でありましたが、当時山口高校出身では級友今川義六、長谷川勝之、1年上で久次米定吉、1年下の山根東明の諸君が現役で活躍しており又先輩では前田純一氏が部員であった関係で他校との対抗マッチはよく観戦しました。又当時はラグビー部の黄金時代で2、8年連続

日本制覇をなし遂げラグビー界の脚光を浴びておりましたのでラグビーもよく見ました。

思い起しますと確か昭和8年の秋頃ではなかったかと思いますが、当時マネージャーであった今川君から「蹴球部に未だに部歌というものがない、是非欲しいと思うのだが君一つ作って見てくれないか」との事で拙いながら作ったような次第でした。それというのが私が山高在学中に私の作った記念祭歌や野球応援歌が8つ程残されているので今川君の頭にそれがあった為かと思われます。

京大卒業後相当年月が経ってから多分終戦後の事でしたか、久々に今川君に会い談偶々蹴球部の事に及んだ節「君の作ってくれた歌は部歌として今もよく歌っているよ」と聞かされうれしく思った事を覚えています、そんな事から今川君あたりの肝入でこれまで部とは無縁であった私が部歌の作詞者としてOBの末席を汚すことになったのだと思います。

昭和48年頃戴いた名簿の巻頭にこの拙い歌が部歌として堂々と載っているのを見て大変感激した次第でしたが、しかも名簿を見て居りますうちに愚妻の身内になる妻鹿哲郎君の名を見付けましたので家内が妻鹿君に会った節その事を話しますと「あれ、小父さんが作られたんですからとも知らなかった。今も歌っていますよ」と奇縁に驚いていたとの事です。

尚これについて今一つ忘れられない思い出はこれを作詞した御礼の意味で記念に蹴球部から純銀製の盃を贈られました。それには「贈大塚君 京大A式蹴球部 昭和8年」の文字が刻まれていたと記憶します。この盃は大東亜戦争のさ中に宝石類や他の貴金属と共に国に献納してしまいました。しかし必勝を期した戦争が敗戦という悲惨な結果に終わると残された盃の空き箱を見る度に折角の貴い青春時代のかたみを喪った事が悔まれてならず昭和41年姫路のデパートでよく似た純銀の盃を見付けこれに「京大A式蹴球部」の文字を彫り込み由来を箱に書き、身替りとして今に愛蔵しております。

又余事に亘り恐縮ですが貴殿が松山高校の御出身であることを知り大変なつかしく存じます。と申しますのが御承知の通り松山高と山口高とは新設高校として確か年次を同じうする筈で、スポーツ面でも浅からぬ因縁があり特に野球は毎年夏定期対抗戦が行われ、敗者はその翌年勝者の方へ遠征するのが習わしであったように記憶します。私が山高在学中はこちらの旗色が悪く松山へ遠征することが多かったようです。大正18年にも雪辱戦で松山へ遠征することになり全校大いに発奮、新しい応援歌を……という事で私の作った8節からなる応援歌が採用されました。これは拙いながらも、はるばる海を渡って復讐戦に赴く悲愴な気持が或程度にしみ出ていると思いますので、さして興味もなく失礼かと思いますが御目を汚しますと

1. あゝ凄惨の陽は暗く 乾坤むせぶ波の声
男の子の恨みつきずして 澎湃空に迫る時
若き血潮の高鳴りて 戈とる腕風は吼ゆ
2. 意気に戦く友五百 赤き誓いの血をすすり
征途はるかに南の 敵の牙城を襲うとき
四州の大地草伏して 気魄相搏つ響きあり
3. 聞け涛々の攻め鼓 見よ翻翻の柏旗
あゝ報復の時至る あゝ時至る今ぞ今
長棍撫してわが立てば
五彩の雲は空に満つ

初期のこと

今川義六（昭4卒）

京都帝大の蹴球部の校友会の内に生れたのは故前田純一先輩（山口高）の大変な御尽力と独特の球捌きからだと聞き及んで居た。

京大が関西の学生蹴球連盟に加入し、初めてリーグ戦に出場したのは僕が経済学部に入る前年の大正15年の秋ではなかったか、当時攻撃力の中心は香川幸（六高）その巧技特にその強烈なシュートはゴールの上隅に決る事が多かった、尤も当時のリーグ最強チームは関西学院で神戸高商、関大、京大が之れに次ぐ所だった。

従って大正末期は常にダークホースではあったが優勝はせぬまま年々強く成て行った。然し何と云っても時々指導的な球運びが出る様になったのは昭和3年からで神戸や広島で前々から日本のサッカー界に知られていた、例えば西村清（今の赤川氏）や永野武氏等中学時代からの名選手が陸続と入学参加しチームの骨格が出来てきてからであった、それからの試合は観るのが実に楽しかった。

部の運営に就ては前田氏以後入江前会長が中心となり高松、久次米両氏が之れに協力、次で今川が引継いだ。

天の橋立にて（海機戦のとき）

当時の関西学生サッカー界は田辺治太郎氏が大阪商大のメンバーであり乍ら同時に熱意の据た強力な柱であった。

京大蹴球部の現在の部歌の歌詞は昭和3年法学部学生詩人溝口治氏（山口高）にお願いして出来たもの。作曲は多分京大マンドリン・オーケストラの桑原馨氏（法）の連中だったと想う。



水野 朝比奈 小幡 永野 加茂下 朝比奈氏提供

昭和4年度

C 野沢 浩 → 西村 清（赤川） M 宇佐見 嘉伸

関西学生リーグ

	勝	負	分	京大	対	スコア	相手
1) 関学	5	0	0	京大	4 - 1	関大	10・2 関大
2) 京大	4	1	0	京大	6 - 1	大外語	10・22 京大
3) 関大	2	3	0	京大	10 - 1	神高商	11・16 甲子園
4) 神高商	2	3	0	京大	9 - 0	大工大	
5) 大工大	2	3	0	京大	1 - 3	関学	11・24
6) 大外語	0	5	0				神戸東遊園地

京大 4 - 1 京師	9・25	京師	京大 3 - 3	サフオーク号	10・25	甲子園球場
第9回全日本ア式蹴球選手権大会	兼明治	京大 0 - 2	ヘルメス号	10・23	神戸東遊園地	
神宮体育大会 京阪予選						

京大 8 - 0 昭和サッカー	9・29	都島工	京大 4 - 0	広島高	11・10	京大
-----------------	------	-----	----------	-----	-------	----

京大 5 - 1 関大	9・29	〃				
-------------	------	---	--	--	--	--

京大 6 - 0 都島工業クラブ		都島工業				
神宮大会						

京大 0 - 2 慶応	10・28	神宮				
-------------	-------	----	--	--	--	--

京大 1 - 0 神一中	10・13	京大				
--------------	-------	----	--	--	--	--

京大 2 - 7 ケント号	10・15	神戸東遊園地				
---------------	-------	--------	--	--	--	--

対 慶応戦メンバー

京大	0	奥野	武有	永西	加木	水沢
大	(野	沢村	賀野	下村	藤野
00)				野	野
		G.K	F.B	H.B	F.W	
02)	島	山岩	大大角	結松	
慶	2	田	上波	前崎	谷	
応	2				城丸	
					岡橋	
					田	

戦 評

本日の試合中の白眉は続いて10時20分から開かれた京都帝大対慶応の一戦で、前者は関西で連勝を誇るナンバーワンに対する慶応軍は、関東の常勝軍早大を破って勢い当るべからざるものがあり、市橋、松丸、島田各選手の底力は蹴球界に響いている。ことにこの試合は優勝候補同志の顔合せで事実上の決勝戦であり、来る11月1日の天覧試合に出場出来るか否かの分れ目で容易に勝敗の予想を許さなかったが接戦の末、遂いに2対0で関西の雄を破り、スタンドから起る拍手に送られながら微笑しつつ慶応軍は引揚げた。

試 合 経 過

〔前半〕両軍タッチに沿い戦機を窺い7分、慶応は京大サイドにFKを得たが無為、8分CF藤岡右隅深く寄って二度の送球は好機をつくったが京大よく守る。その直後LW加茂下中央線から敢進HB線を抜いて出てシュートしたがGK島田好補、17分右にCKを取り沢野の好蹴はゴール前密集となって辛くも外す。28分京大ペナルティエリアに沿ってもつれた球を松丸取って躍進し直球を放ったが惜しくもゴールアウト。〔後半〕開始直後京大LW加茂下の好送した球は慶応ゴール右側に出RIの進出一步の差で及ばず絶好の機を逸す。慶応は6分、LW結城の長蹴をGK奥野前進して取らんとしたがポロリと落しこの時猛進したRI市橋すかさず蹴込んで1点を先取、京大その直後押して加茂下の見事な直球があったがゴールの左をはじいてアウト。19分市橋のショットGKはじき返したが市橋取って衝けばバーに当たってゴールイン。京大しきりに攻勢に出て猛襲を浴せたが慶応よく守り24分、RW沢野強蹴球を放ったがゴールの左を掠めて惜しくもアウトとなり遂いに2-0で慶応勝つ。 (赤川氏提供)

対 関学メンバー	京	大	奥	武野	永西小	沢野一水加
	1	(野	村 沢	野 村 橋	野 口 藤 野 下
	0 1		G.K	F. B	H. B	F. W
	2 1)	斎	安 門	石 後 高	岩 堺 檀 東
	3		藤	部 脇	井 藤 橋	田 井 野 浦
						島

〔前半〕京大先蹴、盛んに関学ゴールをおびやかしたがファウルプレー多く機をのがしている内、15分、京大西村のロングシュートをGK斎藤巧みなパンチで返しその球は反対に関学の逆襲となって岩田、檀野とパスされ檀野シュートする如くみせて東浦にボールを流せば東浦すばやくシュート、ゴール左を割って得点した。その後、見事なFWラインで互いにゴールを狙

いファインプレー続出したが容易にゴールを破ることが出来ず、87分、関学はバックからのロングパスを櫛野にとって右に流し堺井得意のドリブルでゴール前に進み身体を横にして蹴った球は京大キーパー如何ともならずゴールインとなり2対0関学リードしてハーフタイム。

〔後半〕京大は風を背にして、しきりに関学の陣に攻め寄せたがバックの好防に阻まれてゴールを破ることが出来なかったが、88分西村のシュートを関学、斎藤返したが球は京大、水野の直前に落ちた為水野構えて猛蹴すれば斎藤よく転んで防いだが安部の足に当ってゴールインとなり京大、1点を返した。然し京大の攻撃もこれまで、87分、すぐに返され結局3対1で関学の勝となった。

対	ケント号	京	奥	武野	西永有	沢野	一木加
	メンバー	大	野	村沢	村野賀	野口藤	村下
		11					
			G.K	F.B	H.B	F.W	
		25					
	ケント号	7	ヘス	Tジ	ブヘ	ケカ	マリ
			スイ	ワッ	グノ	スリ	ラザ
			ング	ツン	スレ	ビイ	トゴ
							レ
							レ
							イ
							イ

〔前半〕両軍とも技術は甲乙の差なく、よく攻め守り合ったが、ただ京大は身体の大きなケント号に対してはヘディングに於いてボールの奪取にハンディキャップがあるだけ不利があり、開始後4分、そして13分にそれぞれ、ゴールを奪われたがハーフタイム前木村の見事なシュートで1点を返し2対1となった。〔後半〕京大は前半の苦戦からよく脱して1点を返して同点となり興味を深くしその後続々機会があったが、ケント号の見事な逆襲にゴールを重ねられてから疲労加って遂に5点をものされた。

対	ヘルメス号	京	奥	武野	西永有	沢野	一水加
	メンバー	大	野	村沢	村野賀	野口藤	野下
		00					
			G.K	F.B	H.B	F.W	
		11					
	ヘルメス号	2	ジャ	キス	ラド	コガ	メフ
			ビス	キャ	ンレ	ゼウ	ロア
			ス	リラン	ハム	ンル	ロム
				ンス	ム	スト	スグ
					パ		
					ル		
					デン		
					ス		

〔前半〕京大FWラインのショートパス見事でよくヘルメスのゴールをおびやかしたが、再三シュートは惜しくも今少しのところでゴールとならず、21分逆境にあったヘルメス逆襲、よ

対 関大 (京大メンバー不明)

関大	長井	奈長島	戸三川	山田	森小津	吉田	森山田	森
	└───┘		└───┘		└───┘			
	G.K	F.B	H.B	F.W				

対 神高商

京大	奥野	小竹山	山西玉	松一永	沢野	野口
	└───┘		└───┘		└───┘	
	G.K	F.B	H.B	F.W		

対 関学 (引分戦)

京大	奥野	小竹山	山西小	松一永	沢野	野口
	└───┘		└───┘		└───┘	
	G.K	F.B	H.B	F.W		
関学	丹羽	門脇	伊藤	守高	石井	赤島
	└───┘		└───┘		└───┘	
	G.K	F.B	H.B	F.W		

対 関学試合経過 (引分戦)

午後8時、京大先蹴で開始、この日は曇天、グラウンドは湿潤、後半に入ってから北風稍加わり、時折雨さえ見るなどコンディションは良好でなかった。試合は関学の攻勢で始まり、京大陣を攪乱したが、FWあせってものにすることが出来なかった。京大は16分頃から調子づき永野、沢野、一藤のセンタースリーによるスピーディーな攻撃を開始、盛んに攻め立てるが得点出来ず。〔後半〕京大軍の如く関学陣に攻め寄せ得意のバックパスを折り込み攻撃を続け、開始後4分、RW野口のゴール前への深いパスを関学GK受けて右に大きく投げ返したが野口拾い思い切ってシュートするとGK再度キャッチ、然し不用意に投げた球が京大永野の前に落ち永野すかさず蹴ってゴール、先取点を挙げた。22分、関学赤田のドリブルからCKとなり、京大小幡蹴り返したが関学FB門脇ゴール前に大きく蹴り揚げ京大GK防がんとして打った球、関学島の顔に当たってそのままゴール。

対関学再試合前の新聞評と両軍主将の決意

王座の決定は最初の5分間

関西学生リーグの第1位を決定すべき京大対関学の試合は30日甲子園南運動場で行われたが技術伯仲大接戦を演じて遂に1対1の引分けとなったので、その雌雄を決する再試合は14日午後2時半より同運動場で行われることになった。

30日の試合で示した如く関学はロングパスシステムで猪突的に京大陣を脅すべく、これに対して京大はショートパスで合法的に関学陣に肉薄するであろうから両チームの異にせるパスワークの活用如何が勝敗の鍵となるであろう。

関学にして京大攻撃の中枢をなすHB線を最初に攪乱したならば関学に勝味があるが、京大CH西村の連絡が好調なれば京大は綱樞掌握の夢を実現するであろう、試合は最後の5分間で

判る。これを破ったのは臥薪嘗胆、今度こそと意気熾んな気迫、それに基く出足の速さと前半、後半それぞれ初めに得点した運の良さである。今一つ関学の敗因は極東大会以来、俄にシステムを建直した新戦法が巢立ったばかりでそのシステムの陥り易い弱点に嵌り込み指導者の期待を裏切ったことにある。

関学は全くの不運、敗けるはずのない試合に敗れたと云える。

	対	東大			
京	竹	小武	山西有	松一永	沢加
大	1				茂
	(内	幡村	本村賀	江藤野
	10				野下
		G.K	F.B	H.B	F.W
	20				
東	2	阿	竹船	斎野	鈴内手篠三
大		部	内岡	藤沢	木藤島島宅

〔前半〕東大優勢に試合は始ったが6分、京大センタースリーのパスで東大ゴールに迫りCH西村の長蹴あったが惜しくもバーを超えた。9分東大は東大ゴールの右の混戦に持ち込んだがG K竹内の活躍で脱した。20分、京大小幡の東大篠島に対するフッキングでペナルティーとなり、野沢蹴って先取得点、31分東大竹内の上げたゴール

前ボールを小幡蹴り返したが短く篠島飛び込みシュートなる。35分LW松江のパスは東大バックの逆となり沢野クリーンシュートして1点を返す。その後京大よく攻めたがハーフタイム。〔後半〕京大キックオフで開始、京大攻勢裡に試合を進め、22分、一藤強引なドリブルで松江に渡し松江強襲したがG Kの捨身の好防に阻れた。その後東大に潮時が変り、27分、29分、30分、立て続けにシュートしたが駄目であった。38分松江の絶妙なCKの球は、永野のヘッドにわずかに合わず最後のチャンスを逸したのであった。

一 藤 主 将 談 (京大、大学新聞より)

本学は試合前の練習で2、8人足を痛め、寸前に漸くレギュラーを揃え得る様になったがG K奥野は関学戦からの傷癒えず遂に不出場と決し我々は精神的に不安を感じた。それに東大をあまりに強く見すぎた点がないでもなかった。いざ戦となって見ればあまり恐るべき点もなくもっと大胆に戦えばよかったとの感がある。特にFWにその感が深い、此の日は両インナーの動き悪くFWの攻撃に鋭さがかけていた様に思われる。その上RWに起用した加茂下が捻挫して十分に動けなかったのも敗因の一つである。

東大についてはそのH BよりF Bへの思い切ったバックパスを用いて試合を優利に導いたのはF Bのコントロールあるキックと共に効力あるものであった。

然し両軍とも合理的な戦法で無駄なく球を動かして終始オープンプレーを展開していたのは東西代表の名に恥じず見事な試合振りであった。

京大としては試合前の事故による精神的不安がなければ敢えて東大の楽観を許さなかったであろう。

対 比島 (極東大会出場チーム)

京大 1 ($\begin{matrix} 0 & - & 2 \\ 1 & - & 4 \end{matrix}$) 6 比島

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	奥	加野	永西小	松一武野沢
大	野	茂	野村幡	江藤村口野
		下沢		

午後4時10分 主審 高田、線審 岩野・青木

〔前半〕京大先蹴、2分、比島京大陣に好蹴して好機あったが入らず、京大も屢々攻勢に出たが比島よく防ぐ、5分、比島再び好機を作ったがオフサイドに機を逸し、京大よく比島ゴール前に攻めたがゴール成らず、続いて京大RW沢野の好蹴あったが比島GKバグザルよくセーブして依然得点なし、25分、比島LW、Eウガルテ単身ドリブルで京大FBを抜きゴール右隅にシュートし1点を先取比島なおもよく攻め続けCF、バチェコのシュートに1点を追加、ハーフタイム。

〔後半〕京大最初よくよく攻め、15分ゴール右よりの球をLW松江ヘディングしてゴール成り1点を酬いたが比島は17分、RW、モンヘルツのパスをLW、Eウガルテ見事にヘディングしてゴール成る。京大は20分、フリーキックを得たがゴール成らず、これに反し比島は22分LWの好返球をRWモンフェルト取って京大GKの逆を突いて得点を重ね、タイムアップ前、5分、RW、LI、Sウガルテとつなぎ最後の1点を加え6対1で比島が快勝、終了5時25分。

東京で開かれた極東大会の帰りの比島代表チームと5月31日甲子園球場で親善試合を行った。

2バックの弱点を突かれてどんどん加点されて6対1と惨敗した。

今でこそ4・2・4システムとか4・3・3システムとかスキーパー等種々研究されていますが当時は2バックの門構であった。前のバックの寄りが遅かったり後のバックの帰陣が遅れたりすると忽ち正面を突破された。今もって忘れられない苦い経験でした。

あ の 頃 の 事



赤川 清 (昭6卒)
(旧姓 西村)

私等が京大蹴球部に入った時はまだ強引なサッカーが残っていたが次々と新しいサッカーを身につけた神戸一中卒の連中が入部して来ると京大サッカーも一新してきた。

当時は新旧サッカーの入替時であり新しいサッカーを身につけた中学が当時のレベルの最高を行き、そうした連中が高校に進んだ時は又高校サッカーレベルの最高であり又その連中が大学に進んだ時は大学が一番強かった。

そうした境目に昭和3年のサッカー部は居たと云える。

ビルマのコーチ・ジョーデン氏の指導で日本のサッカー界も新しい時代を迎えた時その技術をいち早く身につけた神戸一中の連中が日本のサッカー界に尽した功績は大きい。

昭和5年といえば京大蹴球部に取っては部史始って以来の関西制覇の記念すべき時期です。当時の関西での目標はなんと云っても打倒関西学院の一本でした。

いづれにしても官学は私学に一步譲らざるを得なかった。それは選手の練習時間にある程度の束縛を受けたからでした。全員が揃って練習出来ることが全く期待出来なかったからです。特に医科の学生は学習上に相当の犠牲を払わなければ練習に参加出来なかった。

こうしたハンディを克服して悲願を達成するには並々ならぬ団結心とファイトが要求されました。その上、中学時代にサッカーの経験がなく高校で初めて蹴り始めて大学で蹴る者も多い。

こうした悪条件の中で昭和4年度は1対3で関学に惜敗、昭和5年度は1対1の引分で再試合となり3対0で雪辱して多年の年願を成就、遂に関西代表となったのです。

当時の関学は島、東浦、西邑、堺井、赤田君等技巧派のFWで相当なものでしたがGK斎藤、FB後藤、安部君を送った後のBKは大型ではありましたが手に負えぬ相手ではありませんでした。1対1で引分けた後の再試合には必らず勝てる自信がありました。

再 試 合

〔前半〕関学は風上を利して直ちに京大ゴール前に肉薄し、バックの長蹴で京大を容易に自陣に入らしめなかったが7分、京大の一藤のキックから逆襲し関学のゴール前で永野、松江とヘディングで渡り一藤更にヘッドして得点、京大1点をリードする。関学奮起して京大陣に攻め入り12分、13分と左隅にCKを得たが惜しくも逸す。23分、関学の圧迫から位置を変えた京大はCKから松江のノーマークのフリーシュートあったがゴール左にそれて得点を逸するや、関学再び京大陣に進撃したがFWが焦り気味で得点の機会を逸し1対0京大リードのうちにハーフタイムとなる。

〔後半〕2分京大FW、センタースリーのショートパスで関学陣に攻め入り関学バックのキックを受けた京大CH西村（現赤川）40碼辺りからのロングシュートはノータッチで見事にゴール左を破って得点、その後関学は間断なく京大ゴールを脅すが京大の分厚のバックに阻まれ、22分に京大沢野のミスキックを関学LW島、次いで岩田、東浦とパスが渡り東浦すかさずシュートし、西邑よくGKをチャージしたがすかさず惜しくもゴールを陥れることが出来なかった。31分京大は小幡のロングキックから圧迫しFWパスでゴール前に攻め入り相手FB門脇が去就に迷いGKセーブしたがその球をCF永野蹴ってゴール成る。関学必死となって挽回に努めたが反ばず3対0で京大勝つ。

〔概評〕連続覇権を唱へんとした関学は遂に関西蹴球界の王座を京大に譲らなければならな

かった。京大は完全に大物関学を喰った。前後半を通じて圧倒し通した関学が無得点に終わったことは勝運に見放されていたからだとも云えるがゴール前の球捌きの拙劣が悲運を招いたものである。関学主将門脇はさすが名に背かず味方の危機をよく救ったがバック全体は何時ものような活躍を見せず京大FWの巧緻なフットワークに捌かれて京大に得点を献上した。これに引きかえ京大の攻防は毅然たる好連絡を示していた。

当時のアサヒスポーツ紙に掲載された先輩今川義六氏の戦評を記録します。

関学はRW赤田氏を失ったが昨年の岩田を起用し、1回戦の好調に自信を以って戦いに臨んだ。一方京大はRW野口とLF加茂下の参加不能で止むなく今シーズン多くの試合に参加出来なかったRH有賀、RF武村を加え小幡をLFに下げ新進山口をRWに抜擢し背水の陣を布いて相対した。

天気は快晴、但し南風強し、観衆約6千人蓋し関西蹴球界の記録で心強く又嬉しかった。主審は前回の玉井氏。

風下に陣した京大は予想を裏切り正確な強蹴によくFWをフィードして試合は最初より一進一退、ボールはグラウンドの隅々迄飛び壮快此上なし、然し均衡は案外早く破られた。即ち7分、京大右側より攻めRWのセンター球をCF-LW-CF-LIと連続4度の頭弾見事に関学ゴールを割って1点を先取した。関学も屈せず25分京大を圧倒するやLI東浦の低いシュートにアワヤ得点と思われたがGK奥野滑ったままよくセーブし、続いて関学2度の隅球に風下の京大危機に瀕したがバックメンの必死の活躍に1対0京大リードのまま前半を終る。

後半、風上に陣した京大は陣形を改め、CFと両翼を思い切り前に出し両インサイドはやや遅れ、HB、FBと三重の陣を布き共にロングパスで最前列の3人をフィードする戦法に出た。これは相当効果を現わし度々関学陣を攪乱し、4分には関学陣からのコボレ玉に京大CH西村矢の様なロングシュートを放ってゴールの右隅に破り、後半ますます奮起した関学の出鼻を挫きさらでだに逆風のため思う様にバックのフィードを期待出来なくなった関学を一層の苦戦に陥れた。それでも関学のショートパスにはさすがに狂いは見出されず、スローイン等には一日の長さえ示してよく京大陣を圧倒し戦況は依然として予断を許さぬものがあったが、32分勝運は遂に関学を見放した。即ちそれまで度々破綻を見せていた関学左後陣はまたしても京大RWの快走に攻め込まれセーブした関学LF門脇のGKへのバックボールが少し弱かったのを京大CF永野すかさずチャージしGK丹羽狼狽ハンブルするを突込み遂に3点のひらきをつけ勝敗の趨は明らかとなってしまった。

第1回戦に自信を得た関学とバックの整備は「今度こそ」の意気盛んな京大とは心理的にその出発点を異にしていた。これは京大の得点が前半、後半の始めであったことにより更に非常な禍いとなって関学を苦しめ、動きは少く出足も鈍り自縄自縛、思わぬ苦戦に陥ってしまっ

た。今一つ関学の敗因には新戦法の建直しというハンディキャップがある。即ち極東大会以来俄かにシステムを建直したいわば巢立したばかりの関学が、思わぬ苦戦に遭遇して知らず識らずそのシステムの最も陥り易い弱点に篋り込みそのプレーに適当なスピードと変化を喪失し攻撃に少しの凄味をも示さず指導者の期待を裏切った事は同情して余りある事であろう。

反之、京大は大切な時に得点をリードし伸々と張り切って思う存分オープンしていた。殊に後半風上に陣し攻撃陣容に変化を加えた事はフォローを差し控えた関学中後衛の陣形に幸いされそのインサイドは悠々球を処理して関学陣を突破する主因をなしていたことは京大の勝因であると同時に関学の一考を煩したい点である。

東西学生蹴球決勝戦

関東学生代表の東京帝大と関西学生代表の京都帝大とが第1を決定する決勝が12月28日、南甲子園サッカー場で行われました。

極東大会代表選手であった手島、篠島、斎藤、野沢、竹内、船岡、阿部を擁する東大軍に対してFWはともかく京大バックスの弱体が案じられました。こうした気持が陰に陽に働いたのでしょうか、後に先輩諸兄からバック陣の萎縮が敗因であったと御指摘を受けました。

別に関西代表になったからもうこれで充分といった気持はありません、むしろ個人的な事ですが極東大会で吞まされた煮え湯で腹の中はたぎり立っていた小生です、何としても勝ちたい、一泡ふかせたかった。

然し練習中に負傷者が出た事と選手層の薄い事が十分な布陣が出来なかった。特にFWの加茂下君が動けなくなった事は致命的でした。前にも述べましたようにこんな要素が何となく積極性を欠かせたのでしょう。

前半2対1とリードされ後半漸く固さがほぐれて来たのでしょうか対等に渡り会えるようになりましたが矢張りRWが一枚欠けていた事が敵陣を攪乱することが出来ず関西学生サッカーの期待に添えずに惜敗したことは誠に申し訳ない事と思っています。

今でもまざまざと思い出されるのは南甲子園の雰囲気です。選手と観客とが身近に感じられ、観客も熱心な方も何時も変わらず見に来られていた記憶が残っています。

朝日新聞評を再録します。

京大を破って東大再び優勝

東西学生蹴球決勝試合

極度の慎重から却って破綻、京大の敗因

誠に気品あり鮮麗なる模範的の試合ではあったが遺憾ながらそこには熱度の乏しい単調さが流れていた。しかし殆んど同型の戦法を持つ対立は球場全面を使って随所に妙技を点綴してその実力の裁断を持つ両軍選手の健斗は賞するにあまりあるものがあるが、その中にも京大西村

の満幅の意気に中枢機能として完全な活動、東大竹内の好守はひと際目立つものがあつた。

京大は開始後4分、松江—藤—永野とつがれた球を更らにRWが加茂下に捌いて攻撃線の速度を急転せしめたのは好機を目前にしての自潰とより見られない。かくパスを乱用して攻撃線に鋭さを殺ぎスピードを落しては如何に東大の守備線に不調を看破し牽制を目論んでも効果的のものとはなり得ない。かかる失敗を幾度か繰り返して得点機を逸している。も少し不律的の一変化あるパスワークを以てシューテングレンジに入って躊躇浚巡しなかつたならば後半のチャンスは京大に多かつたから勝負を覆すポイントを取めていたかも知らない。また京大バックスのフィードは東大のHB線とFB線の中間に置かれる場合が多かつたがインナーの去就進退が適時適所と行かずにその攻撃層も稀薄なものとしていたのは消極的というより外ない。FW線の進出に際してのHB線の一斉のフォローを欠くのもまた同様で京大のため惜しむものである。

要言すれば京大の極度の慎重が破綻の因をなしたというか。

東大の第1点は京大ペナルティエリアに近く得たフリーキックを野沢の地を匍う強直球が密集の足垣を縫うて余りにも無雑作にゴールインとなつて快戦は頓座し試合は一方的となつて更らに竹内の絶好のフィードを手島につづく篠島、俊敏の好判断にきめて2—0と離れたあたりその蔽する東大攻撃の全容をうかがわしめたが京大バックスのあまりにも鮮やかなタックリングが効き出してからはその誇りとする巧緻も累次破壊されて攻撃線の連鎖を失し威容を損じていた。殊に後半に於いてその感が深い。

京大は傷ついで練習を欠いていたRW加茂下を起用したが早くも前半10分にしてその瘡痍に災されるに至つたことは大きなハンディキャップであつて右側にチャンスを作るを得なかつたのもこの敗因の大きなものとして大試合のため悲しむものである。

昭和5年 舞鶴海軍機関学校招聘のとき 於 天の橋立

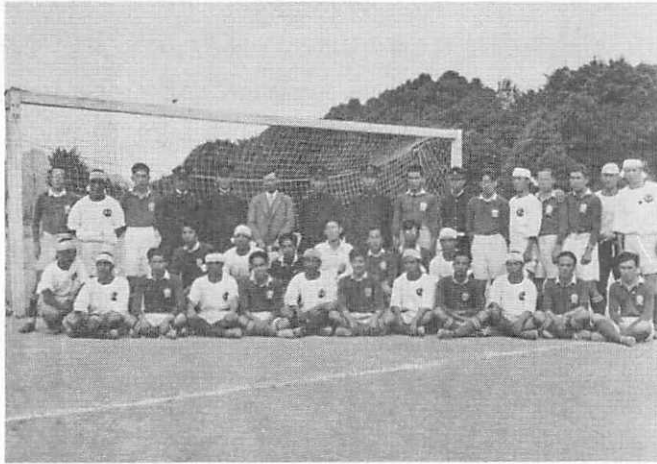
野口氏提供



永野 — 小幡 — — 山口 奥野幸 竹内 武村光 松江 向井
寺町 — 高木 山本 野口 玉木 小山田

昭和5年 舞鶴機関学校戦

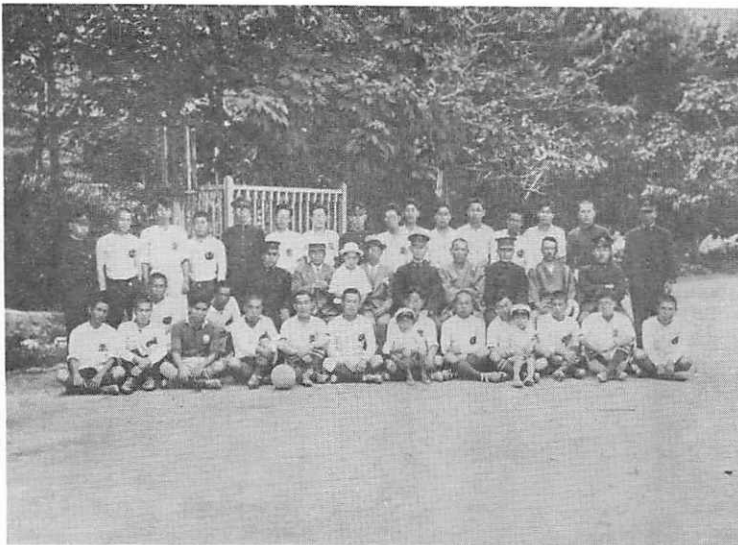
野口氏提供



山口	永野					竹内	向井	野沢浩	松江	高木(村井)	
		小幡	赤川	玉木	沢野	中野					
		山本	武村	加茂下			野口			寺町	小山田

昭和5年初夏 舞鶴海軍機関学校招聘遠征のとき

竹内氏提供



奥村	小幡	奥野	山口	永野	玉木	肥後崎	伊藤	一藤	西村	高木(村井)	
					奥野						
福安	竹内		沢野			中野		?		松江	

昭和5年 夏の合宿

於八高

野口氏提供



(赤川) 山口 一藤 沢野 向井 松江
 西村) 永野 加茂下 野口 高木(井) 小幡

昭和6年春 京都師範対抗試合当日

竹内氏提供



西村喜 中野 伊藤 肥後崎 山口 竹内 一藤 永野 向井
 小幡 武村 山本 玉木 沢野 松江 村井

思い出の一つ二つを

宇佐見 嘉 伸（昭6卒）

天皇杯全日本選手権大会は私達、昭和4年度の京大チームが出場しました時、全日本という、その名に応しく、日本全地区代表によって、その征覇が争われるようになっていました。京大は、京阪地区予選で、勝利に続く勝利を重ねて優勝。天皇杯を目標に、晴れの舞台、神宮運動場目指して上京することになりました。さて往時の超特急「さくら号」にわれら15人は勇躍乗車します。この列車は夜に京都駅発、翌午前のうちに東京到着という蒸気機関車で発車の音はポーポーと暗夜にとどろく、今から云えば正に時代ものです。生憎く雨です。雨は致し方ないとして、この鉄道省自慢の目玉列車の屋根から雨が漏れます。シトシトとあちらこちらの客席に雨滴くが天井から漏れてくるのです。車中京大軍のうちにも勿論、この雨滴くの為頬を濡らす者もあり頭への直撃をうける者、膝を濡らす者ありで、ハンカチであちらこちら被い乍らも無事東京駅プラットフォームに降り立ったのです。早速他の乗客一同と共に雨濡れ超特急について一文句をつけたわけですが、乗車賃の可成の程度割戻しをうけました。この一件予期せざることでした。

さて、全日本選手権大会に於けるわがチームは、その実力、試合運行と、スコアから見て全国で第8位の貫録を示しました。準々決勝で慶応と対戦して惜敗しましたが、その慶応が天皇杯に次ぐ第2位の座を占めたからです。この時の入場料は2銭だったと思います。わがチームは、手に汗を握るというに相しい接戦振り、技術に、意気に、チームワークに、何れにおいても、全く慶応と互角の試合経過に了ったのですが、球運、敵のFW市橋氏に幸するところ多く、遂いに、切迫したまま我が軍の逆点成りませんでした。当日は晴天、敵は地元とあってか、補欠選手も数多くズラリと並べたてて用意周到、それに対しわが京大は補欠2、3人程度、残るは試合交渉、記録、対外交渉などなど兼務を担う私と他に友納君のみという小人数、それでも精気は地に溢れ、天に届くばかりに挙っておりました。スコアブックにボールの跡を追って、線をば、稲妻のように、飛鳥の如く、素速く、記してゆくのですが、このボールの跡は如何に実力伯仲の激突振りであったかをよくよく示して居りました。

さて此の昭和4年に英本国東洋艦隊が我が国を訪れたのです。「七つの海を支配する」当時の大英帝国の大艦隊です。英皇室グロスター公殿下の御搭乗、御召艦であり、その旗艦サックホーク号が神戸寄港を機会に、我が京大サッカーチームを選んで国際試合を申込んで参りました。この年には現在の全世界選手権大会は未だその制度もありません。（全世界選手権大会は翌昭和5年第1回開催）

欧州の本場サッカー界は、主として、艦載チームによって遠洋寄港各国と遠征国際戦でその

力を試していました。

サフウォーク号チームは、オックスフォード、ケンブリッジその他の英本国最優秀の選手によって編成され本場英国サッカーのレベルを遺憾なく示した。

後援の朝日新聞は試合数日前より大きくこの大試合を予告しました。その予告記事の一端に、次のようなものがあります。

「蹴球の母国英本国のチームに接することは我が蹴球界にとって長年の懸案であったが……わがサッカー界の国際的進出の好試金石であらねばならぬ……」 昭和4年5月20日挙行。

私は此の英軍との試合打合せ、グラウンドの整備やいろいろ交渉の一端を受持つことになり随分と、試合前から気を使ったものです。試合進行に手落と、プレイ上にトラブルが起きないかということが外国チームとの対戦、殊にこのような国際試合になると心配の種でした。甲子園球場で行われたので幸いにも前田純一先輩が懇切に御協力下され当日には誰よりも早くグラウンドに馳せつけ、ゴールラインやタッチラインの設定にまで御親切な配慮を受けたことをよく覚えて居ります。

関西地区最強の一つである京大对本場英国最精鋭チームの一大対戦とあって、当日観衆も予想外に多くその数幾千を数えました。8対8の引分け。試合終了幾分か前まで8対2で京大は勝戦間違いなしと誰しも思わざるを得ない程の攻勢で進行していたのですが無念、最後に1点を取戻され引分となりました。京大より激斗、技術においても少しも劣る所がありませんでした。

この御召艦チームは、幾年か経て再度来朝関東地区で対戦したことが記録に残っているようですが昭和4年京大との一戦がその最初の対日国際試合であったと記憶して居ります。

来日軍艦搭乗チームにセント号やヘルメス号などがあり、何れも京大チームは応戦しました。

これ等のチームの内神戸市内の北欧シーメンズクラブに宿泊したものなどがあり、グラウンドの取り決め、挙行日時、試合進行上の打合せなど何れも気を抜けぬことが多くありました。スウェーデンから来朝したチームとの試合などを含めて一切万事英語を唯一の頼みとする以外、お互い表情で補足し合ったものです。予定の試合時間前に先方チームの姿が現れたときに、ヤレヤレでした。

これら来日外国チームとの戦績、双方メンバー、その他日時など報告した当時の新聞記事は主将赤川公一氏が現在も尚御保存になっており、殊にサフウォーク号との試合経過や、英艦隊の容姿、英チームメンバーのサインなど貴重な記念品まで所蔵されております。

これらの資料を眺めるとき、40数年前の此の大試合の様相が充分、あたかも昨日在ったことのように鮮に浮んで参ります。

その他、KRACとの神戸外人遊園地グラウンドにての定期試合など対外人チームとの対戦の

多かったのが極端に印象に残っております。

関西学生リーグ戦では優勝決定戦に関学と対戦、試合後半は1対1の同点でしたが前半の2失点を取返し得ず宿願の優勝旗を目前に見つつ惜敗。その他舞鶴に遠征。舞鶴軍港全海軍選抜チームと対戦。舞鶴は何分当時の三大軍港の一つでありましたのでサッカー選手で軍役に在籍中の精鋭で軍港チームが組まれて居り高い技術を身につけていました。われわれが舞鶴で宿泊しました夜の思い出などぼんやりと頭のどこかに残って居ります。

全日本選手権での京阪地区予選の最終試合即ち決勝戦が都島グランドで行われたときは朝から雨に交って雪が降り続いていました。

降雪で運動場の土は泥沼ようになり、曇りで薄暗い90分だったのです。選手の靴のうちには雨水としみ込んだ土の為ベタベタでした。ストッキングやパンツ、上衣まで泥だらけ。顔や眼鏡も飛沫を受けて居り、ボールが足もとに廻って来た時泥から球をすくい上げるということがキックの第一条件でした。勿論タッチラインもゴールラインも姿を消しレフェリーの笛と指示のみ決行されました。気力とねばりの悲痛な決戦でした。この一戦で優勝京阪地区代表の栄冠を獲ち取ったのです。口の内や背中にさえ雪と泥が入り込んでくるという全く珍しい雪中の大激斗でした。私は試合進行の記録線をスコアブックに毎試合稲妻式線引きで記入していたのですが此のときだけは吹きまくる風雪のため記録などとても出来ません。頬から首へ頭から足もとへと間断なく雪つぶてがつきまとして来たものです。

私が京大蹴球部員として農大グランドでボールをふくましたり、球拾いに明け暮れていたのは赤川公一兄が主将をされていた期間でした。誠に昭和4年4月1日を起点とする想出多い一時代でした。「我が青春に悔い無し」の365日でした。

この思い出を当時の部員で今は昇天されし藤田久、沢野定長、寺町康平、一藤敏男、小幡邦雄、野沢浩諸兄の霊前に捧ぐ。懐しい人のおん前に！

追記

卒業後40年余を経てある日の夕刻、農大グランドにひとり私は行んで居た。何処を見廻しても人の気配はない。ゴールポストが立っていた。うしろの山を眺めたり、グランドの土を踏みしめたりして、過ぎにしこのグランドでの日々を想起していた。突然声が出た。「私は貴方をよく覚えてますよ」と女の人の声だった。振り返ると老婦人だった。グランドを清掃されていた。40幾星霜も経ってしまっているのによくも記憶にあるものだと私は人間の記憶力の深く強いのに驚きを新にした。グランドの雑草を採り、土を耕すことの何と尊いことよと思う。何人の学徒が授業後このグランドに立ったことだろう。何回かの土面整備がなされたことであろう。サッカー部を通じての「邂逅」は時を超えている。

筆者 昭和4年度総務

昭和5年に入学して

竹 内 至 (昭8卒)

昭和5年と云うと、半世紀近い以前の事で確かな記憶とは云えない。私自身が初めて京都でサッカーをやったのは、京大のグラウンドで、昭和8年正月の全国高校(旧制)大会に出場した事であった。正月2日の午後、叡山下しの吹雪の中で試合をやった事を未だに思い浮べる。

東京出身の私が、京大を志望したのは、京大法学部に佐々木、滝川、末川の諸先生が居られた事、京大サッカー部で活躍したい事、自分の家から学校へ通わないでよい事の3つを挙げるであろう。当時の京大サッカー部は関西でのビッグスリーに挙げられていた。神戸出身の松山六高の連中が主流を固めて居られた。

奥野兄弟、西村、一藤、小幡、武村、野口、永野、沢野、寺町の諸兄が8回生、2回生であり、新入生の我々を指導して下さった。昭和5年に入学したのはホワードには、山口、松江、バックでは高木、玉木、大石、西村、小山田と私が居たと思う。練習には多いときには20人ぐらい、少いときでも14、5人はいたと思う。農学部のグラウンド周辺はすべて畑で、疎水の岸には桜並木があり遠く叡山を望む、のびのびした風景であった。野球部、ラグビー部、サッカー部、陸上競技部でグラウンドを使って居た。当時のラグビー部は京大の馬場、進藤等の全盛の次年度であったが、全国で早大、慶応、同志社と覇を競っていた。陸上では100米の高木、走巾跳では田島などが居られたと思う。部室の世話をしてくれた、ひげの小父さんには各部とも随分苦労をかけた事であろう。

サッカー部の連中は、先輩のお勧めであったと思うが、農学部門前、田中門前町、田中町などの3、4ヶ所に多々集まっていた。8時頃の練習から、あとは寝るまで一緒に過ごす事が多かった。

学生生活では昭和年代の一番恵まれたときであろう。10円から15円の部屋代で、朝食15銭、昼夕食25銭の食券さえ月始めに買っておけば、欠食する事はない。

春の試合は京都でのリーグ戦で、余り強い処もないので、新人の練習には最適であった。5月の末頃に舞鶴の海軍機関学校へのコーチかたがたの遠征は楽しいものであった。機関学校側のすべて御招待であり、機関学校チームとの試合には全校生の応援の中で行われ、夕食は教官食堂で御馳走を頂いた。翌日は軍港舞鶴港から内火艇に乗り、若狭湾を横断し百人一首に出てくる由良の戸の風光明媚を眺め乍ら約1時間余の海上を楽しみ天の橋立まで送って頂いた清遊は深い思い出である。

8月の末から9月の始めにかけての名古屋、八高グラウンドの夏期合宿は暑さそのものであった。

10月始めから関西リーグが始まり、関大、神戸商大、大阪商大、関学と大工大であったと思うが、土着かずの関学と京大が最後に残り、11月の末に決勝戦となり、たしか3-0で京大の勝となった。それで東西対抗となり、関東は東大、関西は京大と云う事で、当時の全国高校大会の成果であると思う。昭和5年12月28日甲子園の浜グラウンドで決勝戦が行われた。

京大のメンバーは、野口
 沢野 有賀 武村
 永野 西村 小幡 竹内
 一藤 山本
 加茂下

であり、東大には当時名ホワード春山、篠島や名ハーフの竹内(悌二)が居た事を覚えている。勝負は我が京大に利あらず、2-1で負けた。本来なら正ゴールキーパーの奥野俊三君が出場される筈であったが、練習中に脚を負傷され、私が代役を努めた為、残念な結果になってしまった。

願みれば京大サッカーの歴史の中で、一つの輝かしい時代であったろう。試合のあと、練習のないとき、シーズンオフには先輩諸兄に課外の指導も随分頂いた。前田さん、今川さん、奥野幸やん、一藤さん、特に思い出深い、厚くお礼を申し上げたい。京都の3年間は私にとって一生の良い思い出で尽きない。最後に当時一緒にグラウンドを走り廻った先輩友人の半数以上の方々が、既に故人になられて居る事を思うと感慨無量であり、御冥福を祈って筆をおく。

(文中敬語を省かせて頂きました。)

名手のつどい

	京大	関学	関大	大商大	神高商	大工大
京大	△	○	○	○	○	○
関学	△	△	○	○	○	○
関大	×	×	△	△	○	○
大商大	×	×	×	△	○	○
神高商	×	×	△	×	△	○
大工大	×	×	×	×	×	△

朝比奈 隆 (昭6卒)

小生 昭和3年春、東京高校より入学、入部、上級生に香川幸さん、加茂下さん(主将)、同級には名選手西村清君(赤川)あり、水野、藤田君等多士才々、2回生に進むと永野、山口両選手に加えて大先輩の一藤ヒゲ君、後輩として入学、大いに強化されましたが、小生は高校卒業前に左膝を傷めた後遺症のため、戦力おとろえ、2回生秋に残念乍らチームから退きました。右のフルバックでした。写真は2回生(昭和4年)秋、舞鶴の海軍機関学校へ親善試合に訪問の節天の橋立でとったスナップです。(88頁掲載)

昭和 6 年 度

C 永 野 武

関西学生リーグ

	勝 負 分				
		京大	10 - 2	大工大	9・24 京大
1) 関学	5 0 0	京大	15 - 1	関大	10・18 南甲子園
2) 京大	4 1 0	京大	11 - 1	大商大	10・24 大商大
8) 関大	3 2 0	京大	12 - 1	神高商	11・7 南甲子園
4) 大商大	2 3 0	京大	3 - 4	関学	11・29 //
5) 神高商	1 3 0				
6) 大工大	0 5 0				

京都学生リーグ

京大	8 - 1	同高商	5・20	京大
京大	30 - 0	大谷大	6・1	大谷大
京大	7 - 0	京医大	5・23	京大
京大	6 - 1	大外語	10・1	京師
京大	6 - 1	湯浅電	10・11	京大
京大	8 - 0	KRAC	11・3	南甲子園
京大	7 - 1	〃	11・15	京大
京大	1 - 0	湯浅電	11・12	〃
京大	4 - 0	京師範	11・12	〃

対 関大

京	竹	小武	山一永	松伊西沢山
大	内	幡村	本藤野	江藤村野口
15				
	G.K	F.B	H.B	F.W
1				
関	榎	長奈	石山戸	森津和 松
大	本	島良	川野川	井田泉 本

対 神高商

京	奥	小武	山永	松伊西沢山
大	野	幡村	本野	江藤村野口
12				
	G.K	F.B	H.B	F.W
1				
神	田	松増	奥水有	高山遠小長
高				谷
商	中	野田	野野村	田県藤林部

対 関学

京	奥	小武	高永一	松伊中沢山
大	野	幡村	木野藤	江藤野野口
3				
	G.K	F.B	H.B	F.W
4				
関	丹	安伊	万三石	西東武堺
学	羽	部藤	代崎井	島 邑浦井井

対 京医大

京	奥	西武	福山玉	松伊寺永山
大	野	村村	安本木	江藤町野口

	学	京	関	大	神	工
関学	\	4-3 ○	2-0 ○	17-0 ○	キ ○	キ ○
京大	×	\	15-1 ○	11-1 ○	12-1 ○	10-2 ○
関大	×	×	\	12-0 ○	12-0 ○	キ ○
大商大	×	×	×	\	キ ○	キ ○
神高商	キ	×	×	キ	\	キ ○
大工大	キ	×	キ	キ	キ	\

昭和 7 年度

C 山本達治 M 向井 悠

関西学生リーグ

	勝 負 分	京大 13 - 0	神商大 10・23	南甲子園
1) 京大	4 0 1	京大 5 - 4	神高商 11・3	//
2) 関学	4 1 0	京大 2 - 2	関大 11・19	//
3) 関大	3 1 1	京大 4 - 3	関学 11・27	//
4) 神高商	2 3 0	京大	—	大商大
5) 大商大	1 4 0			
6) 神商大	0 5 0			

第3回O.B東西対抗

関西 4 ($\frac{1-0}{3-1}$) 1 関東 3・6
南甲子園
西村(赤川)出場

東西優勝対抗

京大 1-2 慶応大 12・12 南甲子園

大学高専対抗

京大 14-1 京医大 5・7
京大 13-0 同志社高商 5・18
京大 2-1 広島高 10・30

対 大阪商大

京大	金 玉 小山	田山高	西松中真吉
大	沢 木田	辺本木	村江野田井
		(現村井)	
	G.K	F.B	H.B
			F.W

第1回東西対抗

全関西 6 ($\frac{4-1}{2-2}$) 3 全関東 2・7
南甲子園

大商大	田 日 神	松田松	横奈安田冬
上 下 田	居 辺 原	田 良 場 坂 木	

西村(O.B)小幡、永野 出場

対 神戸商大

京大	金 玉植	田山高	西松中真吉
13	沢 木木	辺本木	村江野田井
58	}		}
	G.K	F.B	H.B
00	}		}
神商大	小 有長	奥寺栗	田高遠永山
0	林 村場	村井井	畑田藤野形

対 関大

京大	金 玉植	田山野	西松中真吉
2	沢 木木	辺本沢	村江野田井
11	}		}
	G.K	F.B	H.B
02	}		}
関大	榎 奈土	長山戸	津松和武
2	本 良井	島野川	田木泉田

対 関学

京大	金 野植	田山高	西一松中山
4	沢 沢木	辺本木	村藤江野口
40	}		}
	G.K	F.B	H.B
12	}		}
関学	丹 万伊	川三福	西東山武
3	羽 代藤	西崎井	島 邑浦藤井

対 慶応

	G.K	F.B	H.B	F.W
	}		}	
京大	金 野植	田山高	西一松中山	
	沢 沢木	辺本木	村藤江野口	

	京	学	関	神高	大	神大
京大	\	4-3 ○	2-2 △	5-4 ○	○	13-0 ○
関学	×	\	6-0 ○	5-1 ○	2-0 ○	8-1 ○
関大	△	×	\	4-1 ○	5-0 ○	6-1 ○
神高商	×	×	×	\	2-1 ○	1-0 ○
大商大	×	×	×	×	\	5-2 ○
神商大	×	×	×	×	×	\

昭10年夏 天の橋立合宿



山中 奥田 長岡
青木

昭和 8 年 度

夏 六高合宿
C 山本達治

関西学生リーグ (9・24~12・8)

	勝	負	分							
1) 京大	5	0	0	京大	7	-	0	大外語	10・22	南甲子園
2) 関学	3	1	1	京大	6	-	0	大商大	10・25	//
3) 神高商	3	2	0	京大	8	-	3	神高商	11・18	//
4) 関大	2	2	1	京大	7	-	2	関大	11・18	//
5) 大外語	1	4	0	京大	3	-	2	関学	11・26	//
6) 大商大	0	5	0							

東西優勝校対抗

京大 2 - 5 早大

第2回東西対抗

関西 2 ($\frac{0-8}{2-0}$) 3 関東

金沢、山本、中野、永野(O.B) 出場

第4回東西QB対抗

関西 1 ($\frac{1-1}{0-2}$) 3 関東

武村、西村、沢野 出場

対 大阪外語

京大	金	持植	田山福	長伊真中高
7	沢	地木	辺本安	岡藤田野田
25	}		}	
	G.K	F.B	H.B	F.W
00	}		}	
大外語	奥	武小	小吉	岩織市北藤
0	平	田谷	田田	崎田川川田

対 大阪商大

京大	金	持植	田三福	吉山長中高
6	沢	地木	辺輪安	井中岡野田
24	}		}	
	G.K	F.B	H.B	F.W
00	}		}	
大商大	田	安神	松日松	戸奈有柏冬
0	上	場田	居下原	川良木木木

対 神戸高商

京大	金	持植	田山福	長伊真中高
8	沢	地木	辺本安	岡藤田野田
35	}		}	
	G.K	F.B	H.B	F.W
21	}		}	
神高商	木	川中	井岡渡	松上小前神
3	原	野浜	原田辺	本山橋川明

対 関大

京大	金	持植	田山福	長伊真中高
7	沢	地木	辺本安	岡藤田野田
25	}		}	
	G.K	F.B	H.B	F.W
02	}		}	
関大	榎	渡土	長奈戸	津松西武
2	本	辺井	島良川	田本山田

くてはと思いました。

試合終了後、前田先輩その他の方から慰労会をして戴き私の大学の選手生活は終わったわけです。その翌年の1月、極東大会予選の東西対抗戦では、悪コンディションの神宮グラウンドで、RWとして出場し大勝して気分をすかっとする事が出来ました。

以上が大学時代の断片的な思い出ですが、この間、前田先輩には公私にわたりお世話になりました。しかし先輩は残念にも今はこの世にありません。当時を思い、ここに深くお礼を申しあげ、ご冥福をお祈りします。

— 追記 —

昨年の初夏、あの懐しい農大グラウンドに出むいて、後輩のサッカー部の連中の練習を拝見しました。サッカーの基本のない選手が大勢、ただ漫然と球と遊んでいる感じがしました。サッカーの基本、これが出来なければ昔の様なチームにはなれないと思います。

昭和 9 年 度

岡山医大合宿

C 株本盛平 (旧姓 福安) M 植木、福田、松尾

関西学生リーグ

	勝 負 分	京大 9 - 0	大外語 10・21	南甲子園
1) 京大	5 0 0	京大 5 - 1	阪大 10・27	〃
2) 関学	4 1 0	京大 2 - 1	関大 11・17	〃
3) 関大	3 2 0	京大 3 - 0	神高商 11・11	〃
4) 神高商	2 3 0	京大 2 - 1	関学 11・25	〃
5) 大外語	1 4 0			
6) 阪大	0 5 0			

東西優勝校対抗

京大 0 - 6 早大 12・16 南甲子園

第3回東西対抗 (極東大会選考予選)

関西 3 ($\frac{8-1}{0-4}$) 5 関東 1・21
南甲子園
金沢、福安、持地、中野 出場

関西 6 - 1 関東 1・23 神宮
中野、株本 出場

第5回東西O.B対抗

関西 5 - 2 関東 2・17 南甲子園
赤川(CH) 山本(RH) 永野(CF) 出場

全国地方対抗選手権大会

京大クラブ 3 - 1 神戸サッカークラブ
3・19 南甲子園

京大クラブ 1 ($\frac{0-2}{1-0}$) 2 堺中クラブ
3・21 南甲子園

国際試合

京大 3 ($\frac{2-0}{1-0}$) 0 満州 9・2
南甲子園

第10回極東大会 於マニラ

京大の金沢氏がゴールキーパーで参加。今に
語り草になっている好プレーを続出させた。

対 大阪外語

京大	金 栗持	奥福瀬	長山真植高
9	沢 原地	田安野	岡中田木田
54	└───┘		└───┘
	G.K	F.B	H.B
00	└───┘		└───┘
大外語	細 鶴野	勅市石	宇北山小安
0	川 谷田	河原川津	喜 田川口谷藤

対 阪大

京大	金 栗持	古今瀬	長真小山高
5	沢 原地	川村野	岡田出中田
32	└───┘		└───┘
	G.K	F.B	H.B
01	└───┘		└───┘
阪大	脇 葉竜	神岩山	磯小永棚森
1	野 山野	田下崎	野田津橋脇

対 関大

京大	金 栗持	奥福今	長真小山高
2	沢 原地	田安村	岡田出中田
11	└───┘		└───┘
	G.K	F.B	H.B
10	└───┘		└───┘
関大	上 渡土	戸長塚	津西大武大
1	吉 辺井	川島井	田山橋田谷
大	川		

対 神高商

京大	金 栗持	奥福瀬	長田小山
8	沢 原地	田安野	岡中出中見
21	}		}
	G.K	F.B	H.B
10	}		}
神高商	木 岸宇	増岡小	松高磯前長
0	原 井野	田田橋	本崎野川田

対 関学

京大	金 持栗	奥福瀬	長真小山
2	沢 地原	田安野	岡田出中田
11	}		}
	G.K	F.B	H.B
01	}		}
関学	西 川官	笠三前	梅田野山田
1	川 西部	井崎田	園辺沢藤中

対 早大

京大 0 (0-4) 6 早大 12・16
南甲子園

東京では早稲田と慶応で優勝が決らず決定戦を2回やった。従って東西優勝校対抗は延期延期となり何日になるか判らなかつた。京大

は初め合宿して第1回の予定に備えたのだが待ちくたびれて合宿は開散状態になり四散、3週間後に決った時は選手集めに一苦労した。

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	金 持栗	奥福今	長真麻山	高
	沢 地原	田安村	岡田野中	田

	京	学	関	神高	外	阪
京大	\	2-1	2-1	2-0	9-0	5-1
	○	○	○	○	○	○
関学	×	\	1-0	6-1	12-0	14-0
	○	○	○	○	○	○
関大	×	×	\	3-1	13-0	3-1
	○	○	○	○	○	○
神高商	×	×	×	\	10-1	9-0
	○	○	○	○	○	○
大外語	×	×	×	×	\	4-1
	○	○	○	○	○	○
阪大	×	×	×	×	×	\

夏 六高出身の加藤氏の世話で岡山医大で合宿、山本達さんはコーチで参加。

サッカー今昔

株 本 量 平 (昭 10 卒)
(旧 姓 福 安)

東亜戦争さえなければ私のサッカー生活ももう少しながく続いたことでしょうが、戦後はなにやかやで、すっかりサッカーに御無沙駄してしまって、今でも心残りに思っております。

私達の時代は東西リーグの優勝校の対戦と、東西選抜軍対抗戦に多少の観客、応援者がある程度で、日本で数千万のファンをあつめる程にサッカーが普及するとは到底想像も及びませんでした。

昭和10年京大卒業の年に東西対抗で甲子園で早稲田にキリキリ舞いさせられ6対0で1敗、

地にまみれたのが現役時代の公式戦の最後となりました。

又関西選抜チームの一員として当時関学、関大、神大の優秀選手の驥尾に付して甲子園、神宮で関東勢と戦ったこともありましたが手許に記録もなく、記憶もうすれて話すタネもありませんが、選抜チーム乍らも気分的によくまとまっていたのを覚えております。

関学の後藤さんの開放的な人柄がチームの融和に非常に貢献していた様に思います。

最近私は私も勤務先の会社でサッカー部長にまつりあげられて時々若い人達の激励や応援に出かけるようになりました。

戦法も昔に比べ融通無碍になり、全員攻撃全員防禦で、個人技の向上はもとより、チームとしても大変な向上をしたものをつくづく感心させられます。

ともあれ、若かりし時代にサッカーに情熱を注いだ私達としては、今日のサッカーの隆盛をまのあたりに見て、ひそかな誇りと、心のゆたかさを覚えまことにうれしく思います。

申しわけ程度で相すみません。しばらく入院中だったため
前回には失礼しました。不悪お許し下さい。

幸 運 児

金 沢 宏（昭10卒）



現役時代関西の王座にいた恵まれた3年間だったが一度も全国制覇できなかったのが未だに残念

関西学生リーグ優勝争いは毎年、対関学戦 その都度新聞予想は四分六で関学の利と謳っていたのをひっくり返したため、翌朝の記事では面映ゆいことに大見出しで神技金沢と書いてくれた。

3年間、数多くの試合に出たが京大のゴールキーパーの正式のユニフォームを着た記憶がない。故人松江義純先輩から戴いたハイネックの鶯色のセーターを愛用し最後まで縁起をかついでいた。お蔭で関学の応援団からは何時も「鶯餅を蹴り殺せ！」の怒声が挙っていた。

2回生の時、先輩中野重美氏と共に極東大会（於マニラ）の日本代表に選ばれた。東京で合宿中監督との間のいざこざで選手を辞退され京大からは唯一人になって淋しい思いをした。

農学部グラウンドでの練習に毎日のように市川春代（映画女優、当時18、9才）が母親と共に犬を連れて見に来ていた。イレブンの誰がお目当かと良く取沙汰したがどうやらフィフティーンの方だった。その後成城高の先輩加々良謙一氏（京大工学部卒）の嫁さんになっていたのには驚いた。

昭和8年の夏、六高での合宿を終って京都に帰着した。その夜瀬野、真田、持地以上故人長

岡らと痛飲、翌朝の新聞を見て驚いた。「泥酔大学生疏水に墜落す」の見出しで同僚真田孝君の名が明記されている。前夜解散後に起った事件で通りがかりの大工さんに助けられた事が書いてある。早速菓子折を買ってお礼に行くと同時に真田の下宿を訪れた。別れて一人一人になって下宿に辿りつく曲り角を一つ早く間違えて曲ったところが疏水というわけ、京大蹴球部選手と書いてなかったと思う。

編集委員の方で金沢氏の原稿の下書を手に入れて居り、社会に出てからの活躍の一端をうかがうことが出来るので紹介することにした。

昭和22年の春、初の天覧東西対抗蹴球戦が国立競技場で行われ、東軍で出場している。その頃頭髪頓に薄く清水昆描く河童河太郎よろしくであったそう。これをかくす為、一計を案じて毛糸でキャップを編んで貰ってこれをかぶって出場、グラウンドに降りて来られた陛下へのおじぎも、帽子をぬぐ必要なしに堂々と頭を下げた。せっかくの頭かくしの名案、ぬぐわけに行かなかったのだがこれがキーパーの免罪符となったかどうか知らぬがその後関東大学リーグのゴールキーパーに流行したそう。思わぬ事で流行が生れたわけである。この帽子は天井は十字に編んであるのが特徴である。スキーの時の耳覆ひの天井に十字を入れたものに似ている。

この試合をNHK飯田次男スポーツアナウンサーが中継放送したが両軍22名中顔と名前が合うのは金沢氏一人だけ、ボールが東軍ゴールに来るたび矢鱈と金沢を連発することにより放送がスラスラといったそう。その後が面白い、記者曰く「お前の名を宣伝したのだから、少くも一時間半の内20回、1回5円として百円よこせ」、答えて曰く「スラスラとやれたのは俺のお蔭だ。貰うのはこちらだ」まことにうらやましい和気藹々の笑い話。

サッカーの放送などなかった時代で誰も慣れていないから背番と番号入りの一覧表と照合しながらアナウンスしていたわけであるから、その初期はたどたどしいものであった。

尚金沢氏はNHK東京サッカー部を創設して拾数年、金沢杯争奪各局対抗サッカー戦も10回を越えたとかで、昔取った杵柄を楽しんで居られるそうである。

編集子より

50周年記念、女学院との試合に出場、写真班的になりその時の写真が京都新聞、サンデ毎日に掲載された。後の写真がそれです。

大学在学8年間連続出場し優勝ばかりしたのは京大部員多しといえどもこの人一人だけです。原稿に題名がなかったので当方で幸運児とつけさせて貰いました。



遠征の途 船上にて

昭和 10 年度

合宿 { 広島高師 G
天の橋立 (8月)

C 持地健六

関西学生リーグ

	勝 負 分				
		京大 13	— 2	大外語	10・17 南甲子園
1) 関学	8 0 1	京大 1	— 1	関大	11・10 //
2) 関大	2 0 2	京大 8	— 2	神高商	11・17 //
3) 京大	2 1 1	京大 0	— 4	関学	11・24 //
4) 神高商	1 3 0				
5) 大外語	0 4 0				

全日本選手権予選

京大 2—2 湯浅電池 5・18

第4回東西対抗 (選抜)

関西 5 ($\frac{4-4}{1-2}$) 6 関東 1・20 神宮
金沢、栗原 持地、長岡 出場

第6回東西O.B対抗

関西 0—0 関東 2・11 南甲子園

中野(LI) 赤川(CH) 福安(RH) 出場

対 大外語

	京	佐	持	古	奥	栗	政	市	山	長	麻	中
	13	々	地	川	田	原	家	山	中	岡	野	森
	49											
	02	G.K		F.B		H.B		F.W				
	2											
大外語		細	勅	中	高	野	大	渡	市	島	山	小
		川	使	河	索	田	野	辺	川	崎	口	林
			原	井								

対 関大

	京	佐	持	栗	奥	安	古	市	山	長	麻	中
	1	々	木	地	原	田	原	山	中	岡	野	森
	01											
	01	G.K		F.B		H.B		F.W				
	1											
関大		上	渡	長	戸	塚	長	西	石	武	大	
		吉	土	島	島	島	島	島	島	島	島	
		川	辺	井	兄	川	井	弟	山	垣	田	橋

対 神戸高商

	京	佐	持	栗	奥	安	古	市	山	長	麻	中
	8	々	木	地	原	田	原	山	中	岡	野	森
	44											
	11	G.K		F.B		H.B		F.W				
	2											
神戸高商		鈴	藤	前	宇	岡	小	松	永	横	小	横
		川	井	川	野	田	弟	本	井	長	兄	田

対 関学

	京	佐	持	栗	奥	安	古	市	山	長	麻	中
	0	々	木	地	原	田	原	山	中	岡	野	森
	00											
	18	G.K		F.B		H.B		F.W				
	4											
関学		西	松	官	笠	三	田	梅	野	山	田	
		川	井	部	井	田	辺	園	沢	藤	中	

	学	関	京	神	外語
関学	\	1-1 △	4-0 ○	2-1 ○	17-0 ○
関大	△	\	1-1 △	5-3 ○	6-0 ○
京大	×	△	\	8-2 ○	13-0 ○
神高商	×	×	×	\	11-2 ○
大外語	×	×	×	×	\

昭和11年1月 送別会

青木氏提供



	奥田	麻野	森	大崎	市山	安田	佐々木	中森	井上	堀切
橋本	塩見	青木		安田	古川	小出	栗原	若林	安原	
		長岡		勝田	勝田	持地	株本	山中	瀬野	北村
近藤			原部長							

昭和 11 年度

合宿 岡山

C 栗原 正 M 青木圭太郎 SM 若林 隆

関西学生リーグ

	勝 敗 分	京大 3 - 1	神高商 9・17	南甲子園
1) 神商大	3 0 1	京大 3 - 5	神商大 11・3	〃
2) 関学	3 0 1	京大 2 - 7	関学 11・15	〃
3) 京大	2 2 0	京大 3 - 1	関大 11・23	〃
4) 関大	1 3 0			
5) 神高商	0 4 0			

春季関西学生リーグ

京大	9-0	同高商	5・11	花園
京大	5-1	関大	5・18	〃
京大	2-3	神商大	5・24	〃

対 神高商

京大	3	岡本	栗森	奥政原	安田家	安原	市山野	小野野	麻森植	中居	拓居
	30										
		G.K	F.B	H.B	F.W						
	01										
神高商	1	橋本	藤井	前川	小野	永正	永井	横井	高垣	加藤	藤

対 神商大

京大	3	岡本	栗森	安政原	奥家田	安原	市山野	小野野	麻森居	中居	安
	03										
		G.K	F.B	H.B	F.W						
	23										
神商大	5	行田	川野	吉江	今村	木下	大谷	前川	磯野	神田	

対 関学

京大	2	岡本	政森	栗家	安田	安原	市山野	中小野	山森野	山中野
	02									
		G.K	F.B	H.B	F.W					
	25									
関学	7	西川	官林	三笠	田井	田井	梅山	野田	田田	中

対 関大

京大	3	岡本	栗森	安政原	奥家田	安原	市山野	小野野	麻森植	中居	拓居
	12										
		G.K	F.B	H.B	F.W						
	10										
関大	1	上川	大谷	西竹	安福	浅野	塚井	大橋	武田	石垣	山田

優勝決定戦	神商大	4 ($\frac{1-1}{3-0}$)	1	関学	神高商	×	×	×	×	○	○
-------	-----	-------------------------	---	----	-----	---	---	---	---	---	---

基本と体力と精神力

栗原正（昭12卒）

世の移り変りと共にサッカー部も変化したと思うが、私達がいたのは昭和9年～11年でうまくはなかったがわりあい強い時代ではなかったかと思う。スパルタ式の旧制高校で育ったサッカーで基本技術と簡単な戦法で走り廻っただけと思うが、サッカーの本質はそんな所にあるのではないかと最近思うことがある。たまたま当時張り合った関学の50年部史の昭和9年頃の記事に、三崎、川西の名手をようした関学が「何が何でも全国制覇をと頑張ったが武運つたなく関西リーグの決勝で京大に負け30年余たった今でも其の時の悔しさが身にしみ忘れられない」と書いてあるのを見て、苦しみながら辛じて勝った当時の事を思い出す。

編集委員からは私に飲み屋の事を書けとの事、よくよく飲み助と思われておるのかも知れぬがシーズン中は飲まず、シーズンアップになると其の分を取り返すように飲んだ時もあるので已むを得ぬと思っておる。当時よく飲んだ店は帝大屋（百万遍）、正宗ホール（新京極）、円山食堂（円山公園内午前0時以降）、北郎（四条通）、柳（寺町）等々、昭和11年～12年にかけては吾々数人は「柳」に定着していた。柳には気のよいおばさんが娘2人と副業のような恰好で店をやっていた、5、6人で行くと戸をしめてくれ家庭で飲むようなフニイ気であった。飲みつ酔いつ談論風発、サッカーを語り人生を語りチームワークも出来上っていった？

2人の娘さん（1人は堀川高女生）美人薄命というか、吾々が京都を去った後数年にして他界、今は店もなく懐しい思い出が残るのみ、嗚呼。

編集子より

その「柳」のお柳さんが南グラウンドに応援に来て「誰々さん頑張って」とさげんでいた黄色い声がズーンと頭によみがえって来る。

筆のままたに



麻野隆平（昭12卒）

近頃とみに物忘れがひどくなって来た様に思う。幹事から、京大が二部に落ちて網野（京都府）で夏季合宿（昭和38年）した当時の京大の力と小生等の時を比較して何か書けとの事でその手紙を会社の机の引出しに入れていて、暇の出来た時に書こうと思っていた。今日、机の引出しを方々空けて見て探したが手紙がない。何処に入れたか「ど忘れ」している。

昭和43年の蹴球部名簿を出して来て網野で合宿したのは何時だったか理論的(?)に割出し

て見ることにしたが、確か小生が資材課長の時代で副所長に許可貰わず工場長宛1週間の休暇を出して、そのまま網野へ行き合宿3日で年寄りの冷水か、肉離れをおこし、女房の里の豊岡に行き城崎の温泉で2、3日養生し会社に帰って「この忙しいのに」とお小言を頂戴したことは覚えている。

確か今永俊明が主将であった。37年卒の武藤直が1年生だったから少し計算が合わないがとにかく武藤誠さん(関学のサッカー部長、松山高サッカー部先輩)の息子さんが入って来て基本を教えた記憶が残っている。

当時は京大に入学が大変だったらしく、高校では入試の為に皆一生懸命。大学に入ってさあークラブ活動だという訳で無経験の人がワンサと入って来た。その為合宿でもなんでもいからO.Bに少しでも多く来て貰って訓練の手助けをしてくれという話なので久し振りだし二部に落ちた連中を何とかして元気づけたいといった処で参加した。

小生のやった事といえばレシーブ、ストップ、パス、ヘディング位のほんの基本を素人連中に教えただけだから昔の比較なんてといったものではない。

小生が入った昭和9年は主将は株本埜平さん(旧姓福安)で関西で関学を破り優勝し、東西対抗で早稲田に破れた年だから、蹴球部に入った1年生も、高校では充分一流で通用した連中ばかり部員総員30名位で二軍でも京都師範等、その当時の京都のチームには10点位は優に水を開ける位の力を持っていた。

但しサッカーのレベルの比較は現在とは出来ないが基本技術には現在の高校よりは相当上ではないかと思っている。

どういふのか網野の時代の方が最近なのに、私にとっては、遠い昔の昭和9年~12年の学生時代の思い出の方が鮮明に残っているのは、青春の深い印象が強く脳裡に刻まれていて、同年輩の友達に逢うと何度も何度も頭の奥から記憶がよみがえる為だろうか。

昭和9年の夏、岡山医大の前の宿屋で京大夏季合宿をし、夜バスで岡山市内に遊びに行くのが楽しみでバスの中で「備前岡山よいところ 渡る大橋中橋小橋 何故に足りない恋の橋」と岡山小唄を合唱したのを思い出す。

合宿を切り上げ9月初め浜甲子園にある阪神の南運動場で結成間のない満州国のサッカーチームを迎え3対0で勝った。その南運動場も戦時中、小生の勤務している川西航空機の飛行場に転用され、小生はその庶務主任であった等の世の移り変わり、現在はその運動場は住宅公団の一大住宅団地となり僅かに残った土地に新明和工業(旧川西)の研修館を建て、現在私は常務取締役として、総務、人事の担当をし若い人の研修の時は講師として足繁く研修館に通っているのも何かの縁とはいえ不思議な事である。

昭和9年の暮も押しつまり、早大との一戦を南運動場で行ったが、隣の阪神パークの拡声器

からラデオの実況放送が聞えて来る。「京大C.F 麻野君シュート、はづれました」なんて自分のプレーをその場で聞くなんで一生に一ぺんの事など、思い出はつきない。

試合に負けて「わんわん」泣きながら京都に引上げ連日飲み歩いた若い日、京大蹴球部、いつの日か優勝が！ オールドボーイ連はその日の来るのをじっと待っている。

その頃のたまり場



青木 圭太郎（昭12卒）

サッカー一途に京都で過ごした3年間に思い出すことが多い。

一、茶漬屋（百万辺、柏軒、そば家、主人 徳谷栄次郎）

秋のシーズンの夕食は大体ここで皆と一同に会して食事をした。何時の時代から始めて、又止めたか判らない。

オヤヂが京大の試合の時は涙甲子園まで来てくれた。シーズン・オフの時は夜の付合も一緒だった。今でも元気で仕事をしている。

私は京都へ行けば必ず寄ることになっている。

一、進々堂

字が違っているかも判らないがフランスパンのうまい、バンガロー風のコーヒー店で農学部グラウンド帰り道にあり、作戦会議と称してよく寄ったものだ。

カウンターに黄色セーターを着て、胸のふくらみが豊かなメッチェンがコーヒーを入れてくれた。

昭和30年頃、京都へ行った時寄って見たら矢張り黄色のセーターの娘がカウンターに居た。驚いたが多分学生時代のメッチェンのきつと娘に違いないと勝手に解釈して帰って来た。

一、ABC（玉屋）

シーズン（秋）中は夜の酒を禁止されて居たのでする事がない。良く玉屋へ行き看板まで居たものだ。

死んだモチケンやヤス（山中泰男氏）やタコ（長岡三郎氏）などが上手で、私はサッカー同様下手だったが、ポケットと称する競技で京都市長杯の左京区予選に玉屋の代表になった事があったがさすがうれしいより恥しかった。当時帝大の学生というプライドがあったのだろう。

一、農学部のグラウンド

せまいグラウンドでラグビーも陸上も一緒だったが皆、強かった。陸上にもオリンピックに行った三段トビの田島直人氏は同級だし、巾跳の原田氏は1級上、ラグビーも強かった。伊知地という名スリークォーターが居た。

サッカーは関学と首位を争い、1年交代の様に関東の優勝校と全日本を争ったが私の在学時代は関東に勝てなかったのが残念。

一. 私 の 事

サッカーの虫だった私は昭和12年卒業と同時に古河電工に入社、東京本社勤務、それまでサッカー部のなかった古河にサッカー部を作ったが経験者は私を入れて3、4名だった。それが今、日本リーグで本年はどう云うわけか今迄にない無敗の好成績、それがこの拙文を書かせる動起になったのかもしれない。

唯古河で30年近くサッカーの面倒を見て来たが、京大からの入部のないのが残念。

但し同僚の御子息が2人京大のサッカー部に居たのは何かの縁というものでしょうか。

影山房太郎氏の御子息、宮本満氏の御子息御両人とももうO.Bになったのでしょう。私も年を取る筈。 註・昭39卒 影山孝夫、昭52年主将 宮本 彰 の両君のことです。 編集者 名簿を見乍らアダ名(又は愛称)を書き並べて見ました。どうか先輩諸兄オコラナイで下さい。

本名	字名	由来	本名	字名	由来
赤川公一(清)	キヨスサン	名前から	松尾 忠政	三好清海入道	ハッチャチャ
永野 武	エイヤブ	読んで字の如し	山中 泰男	ヤス	姓名から
竹内 至	エロタイ	不明、本人に聞いて下さい。	佐々木武也	タイワン	台湾高出身
中野 重美	ポーズ	不明	古川 勝之	ジュンサ	夜になると河原町、京極を巡視して居た由
山本 達治	ヤントウ	姓名から	政家 英作	マサヤン	姓名から
株本量平(福安)	ヤスサン	〃	小野 礼年	オノチョン	〃 小学校以来
三輪不二夫	オニーチャン	風格からか	安居 律	ヤッサン	〃
福田 剛一	ボンチャン	〃	岡本 純一	ガス	父親が東京ガス社長
高田 謹一	シャモ	ジャンプしてのヘッディングから	伊藤 虔次	イトケン	姓名から
真田 孝	ドンチャン	不死身のドンチャン	唐原友三郎	トーゲン	〃 高校以来
長岡 三郎	タコ				
瀬野 信一	マンパチ	千三ツ以上			
持地 健六	モチケン	姓名から			
金沢 宏	カナ	〃			
栗原 正	クリ	〃			
青木圭太郎	ケッタ	〃			

昭和11年秋

青木氏提供



青木 松尾

モチケンがつけた

昭12卒 送別コンペ 12.1.22 於 四海楼

安居氏提供

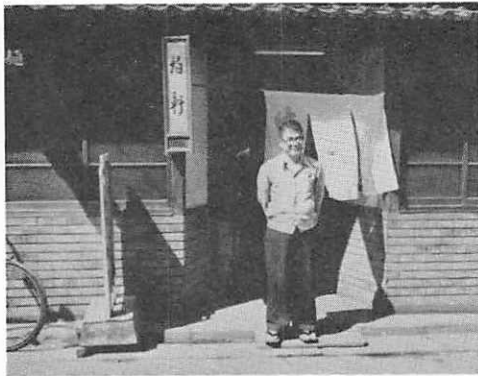


橋本 小野 古川 青木 山中 市山 原 中田
 安居 若林 小出 栗原 奥田 政家 森
 麻野 坂東 拓植 原部長 安原 中森

茶 漬 屋

徳谷栄次郎 氏

青木氏提供



昭和 12 年度

合宿 広島、金沢

C 森 正夫 M 若林 隆 SM 原 士郎

関西学生リーグ

	勝 負 分	京大	4 - 1	神高商	11・28	南甲子園
1)	京大	4	0	0	京大	2 - 0 関大 10・17 //
2)	関学	3	1	0	京大	3 - 0 神商大 11・21 //
3)	神商大	2	2	0	京大	2 - 0 関学 11・3 //
4)	関大	1	2	1		
5)	神高商	0	3	1		

東西優勝校対抗

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \end{smallmatrix}$) 3 慶応大 神宮

東西O.B対抗

関西 1 - 2 関東 3・21 名古屋
長岡、金沢、赤川氏出場

春季関西学生サッカー大会 5・8~5・12

京大 5 ($\begin{smallmatrix} 2 & - & 0 \\ 3 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 和歌山高商 花園

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 3 \\ 0 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 3 神商大 //

第2回大学高専大会 於 広島文理大

京大 12 ($\begin{smallmatrix} 5 & - & 0 \\ 7 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 広島高工 9・2

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 2 \\ 1 & - & 5 \end{smallmatrix}$) 7 関学 9・3

日満交歓試合 於 東遊園地

全関西 6 ($\begin{smallmatrix} 1 & - & 1 \\ 5 & - & 1 \end{smallmatrix}$) 2 満州国 9・26
小野 出場

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \end{smallmatrix}$) 1 関西学生O.B連合軍
12・5 南甲子園

対 神高商

京大	岡本	安井居上	政大安家崎原	市小山伊森
4	(森
22)			藤
		G.K	F.B	H.B
				F.W
01)			
神高商	坂部	橋本	監出	尾藤
1				前
				井
				正
				井
				田
				永
				井
				正
				村
				正

対 関大

京大	岡本	安井居上	政大安家崎原	市小山伊森
2	(森
11)			藤
		G.K	F.B	H.B
				F.W
00)			
関大	上吉	西安田	中浅小	種篠石
0				林
				芹
				川
				福
				野
				川
				原
				垣
				川

対 神商大

京大	岡本	安井居上	政大安家崎原	市小山伊森
3	(森
12)			藤
		G.K	F.B	H.B
				F.W
00)			
神商大	青柳	吉尾	今木竹	松前丸磯神
0				
				田
				野
				田
				野
				田
				野
				田

対 関 学					京 大	神 大	関 大	高 商	
京 大	岡 本	安 井 居上	政 大 家崎	安 原	市 山 伊 森 藤	2-0	3-0	2-0	4-1
11	G.K	F.B	H.B	F.W	関 学	5-2	3-0	10-0	
00	中 村 敏	笠 井	那 三 須田	田 野 岡 田 中	神商大	8-1	4-3		
0					関 大			1-1	
			G.K	C.K	神高商				
			京大	12	3	3			
			関学	10	3	3			

優勝をかちとるまで

森 正 夫 (昭 13 卒)

関西学生リーグで関学を2-0で破り京大が王座についた時のメンバー及戦績は次の通りである。一略一

リーグ開始前の下馬評によると関大と神戸商大が首位争いするものと考えられておったがその予想を裏切って2年雌伏していた京大が突如これを奮った形となった。

田辺治太郎氏がアサヒスポーツに寄せられた「対関学戦評」の内容を要約すると「京大はリーグ戦に入るや一試合、一試合と適当な相手と戦い、次第に自信と戦斗力を蓄積した。何等取り立てるほどの威力を持たぬ京大は対関学戦に於いてもただ各自が忠実に早い潰しに出ることにより、又全試合を通じて全員がファイトを燃やし精神的にリードすることで勝つたに過ぎない。」となる。

戦評の中に試合の様子が次の様に書かれている。学生時代にかえり当日の試合を思い浮べながら読んで下さい。

キック・オフと同時に開始された忠実果敢なる京大の活躍は、事実技において優れた関学に勝るものであった。今まで光らなかつた両翼市山・伊藤は俄然活躍し、両インナー小野・森また忠実かつ激務に耐え、よく敵を制圧したが、CF山中は球歴が比較的長いだけに割に味方を生かしていたが彼自身、より強い挺身のダッシュを敢行したならこの日の両翼、両側の活躍と相呼応して一層成功したであろう。

CH大崎は大体成功した様であるが、もっと積極的な潰しに出て敵CF活動の機を完封する

のが本手であろう。左バックのリターンキックの不確実なることは幸にも破綻を見せずに終わったから良い様なものの、あの程度の威力では東西対抗等思いもよらない。

続いて関学に対しての厳しい批評が書かれているが、このことは近代サッカーに於いても忘れてはならぬファクターであるので敢えて記させて頂くことにする。

動きの不足は恐らくは練習方法の欠陥に因る。どんな足技も、パスワークも、動きを伴わないならば無力に等しい。一つ一つの球に対して敵より早く球を取る事が万事を解決する。球を持たない者の動きが次の展開を導きもし、また駄目にもする。要は「より多い労働である」と結んでいる。

私が前主将の栗原さんとマネジャーの青木さんより次の首将になるようにと言いつ渡された時、私はその器でないとお断りしたのであるが強硬なお言葉であったので同じ2回生の安原、若林、政家、市山君達に計ったところ全面的にバックアップするから引き受けたらどうかと賛成してくれたので出過ぎたことと思いつながら首将の大任に就くことにした。

今にして当時のこと思いつ記憶を辿って見ると新しく首将になって考えた中で新チームの課題と云えば第一チームの編成であった。

卒業される栗原、麻野、奥田の諸先輩と、もう足を洗いたいと云われる山中さんのあとをどうするか、井上、大崎、伊藤、真鍋君達が引続きプレイしてくれるかどうか一番頭の痛いところであった。

山中さんについては他にCFをこなせる者がいないということを経由としてお願いし、他の人達には隠退されるとチームの編成が出来ないと力説した結果、矢張り何と云ってもサッカーに愛着があったのでしょ、心よく同意して頂き共に頑張ろうと誓ったことを憶えている。

かくして無事新しいチーム発足の運びに至ったのである。

山中さんが現役として引続きプレイすることとなり、チームの中では別格的存在の人でありながらチームの一員として全面的に協力して頂いたのが、その年の優勝につながる大きな要因をなしたと私は固く信じている。

次の課題は8・Fシステムの消化であったと思う。確か京大がこのシステムを戦法に試合をやりだしたのは前年のことであるが対関学戦でその研究不足による欠陥が最も大きくあらわれ2-7のスコアで大敗した。この事を反省し本による研究と練習後のミーティングでガクガクの議論を行ったものである。市山、政家、安原、小野、安居と云った連中が常連であったがその時の場景がはうふつと思いつ出される。

どうしてそうなったのかその事情については忘れてしまったが、従来は先輩にコーチして貰っていたが、本年もそうするのか又当時関西蹴球協会の会長をしておられた田辺治太郎氏をコーチとして迎えるか決心を迫られたことがある。

結局はこのシステムの狙いを如何に実戦化するかについて学びとることがチームを強化する所以と考え田辺氏をコーチとして迎えることにした。小野、安居両君はコーチよりその真随を取り込むことと、全員がそれを理解してプレイに展開出来る戦技に組み立てることに専念してくれた。所謂、B・Fシステムの消化のために随分と努力し私を助けてくれたものである。

お蔭でリーグ戦四試合を通じての戦績でも判るように、全得点11、失点1というように先ず先ずの優秀なゲーム運びで優勝することが出来た。

その他優勝の要因としては諸先輩の暖いご理解と厳しいご指導もありますが、何と云っても全員が融和して真剣に練習に励んだこと、全員が一丸となって事に臨み或いは道を開いて行ったことこれらが優勝につながる大きな原因ではなかったかと思っています。

今から思い起せば、1回生の時は補欠で終始したがよく部にとどまって頑張ったものと感心している次第です。2回生の時初めてポジションを貰ったが自分の力が出し切れずに終わったうらみがあり残念でなりません。

私は五高、京大を通じて蹴球生活6年間の最後の年に優勝の栄を勝ち得て社会に旅立ったのでありますが「球を蹴った喜び」「共に蹴った人の友情」は終生忘れることはないでしょう。京大時代の先輩、同輩、後輩と共に汗を流したグラウンドや共に遊んだ京都の街並が今でも目に浮んで来ます。

昭和12年度 優 勝

安居氏提供



大崎	小野	伊藤	山中	真鍋	井上	岡本	朱	唐原	原
安居	安田	佐々木		若林		市山	中田		
政家		森		原部長		山本	安原		

昭和 13 年 度

合宿 金 沢

C 小野礼年 SC 安居 律 SM 久保 夫

関西学生リーグ

	勝	敗	分						
				京大	2 - 1	神商大	11・19	南甲子園	
1) 関学	4	0	0	京大	6 - 0	神高商	10・28	〃	
2) 京大	3	1	0	京大	2 - 0	関大	11・3	〃	
3) 神商大	1	2	1	京大	0 - 2	関学	11・27	〃	
4) 関大	1	3	0						
5) 神高商	0	3	1						

第2回朝日招待サッカー

京大 5 ($\frac{1-0}{4-2}$) 2 東大 1・10
南甲子園

第7回東西対抗

関西 1 ($\frac{1-3}{0-1}$) 4 関東 1・23
南甲子園

赤川(OB)小野、井上 出場

第8回東西O.B対抗

関西 2 ($\frac{1-4}{1-2}$) 6 関東 3・20
南甲子園

春季関西学生サッカー大会

京大 8 ($\frac{1-0}{7-0}$) 0 京医大 5・7 花園
京大 0 ($\frac{0-1}{0-0}$) 1 関学 〃

三地域対抗

全関西 1 ($\frac{0-2}{1-1}$) 3 全朝鮮 12・24
南甲子園

岡本出場 井上(OB)安居、小野、伊藤、
大沢選ばれる。

対 神商大

京	岡	真大	漆安小	小石村岡伊
大	2			
	(本	鍋沢	野居倉
	11			野光上野藤
		G.K	F.B	H.B
	00			F.W
神)	稻	藤尾	島木竹
商	0			松吉丸磯永
大		上	井崎	津下下
				本江谷野井

対 神高商

京	岡	真大	小安漆	石小村伊
大	6			朱
	(本	鍋沢	倉居野
	33			光野上藤
		G.K	F.B	H.B
	00			F.W
神)	坂	多深	尾橋前
高	0			伊室井山
商		部	田田	島本橋
				藤山藤田

対 関大

京	岡	真大	小安唐	石小村伊
大	2			朱
	(部	鍋沢	倉居原
	02			光野上藤
		G.K	F.B	H.B
	00			F.W
関)	小	西中	西安小
大	0	山	田	田
			登	福川
				種 杉石田
				林 谷 野垣坂

対 関 学					学	京	神	関	神		
京	岡	大真	唐安小	石小村 伊							
大	0	本	沢 鍋	原居倉	光野上	朱	関 学	2-0	4-1	6-1	9-2
	00	G.K	F.B	H.B	F.W	藤	京 大	○	○	○	○
	02						神商大	×	2-0	2-0	6-0
関	2	中	岩 笠	那三田	梅 田 田	岡 中	関 大	×	×	1-0	△
学	2	倉	田 井	須 田 辺	園 島 中	野 重	神高商	×	×	×	○
								×	×	×	○

想 い 出

小 野 礼 年 (昭 14 卒)

京大の蹴球部もめでたく創立50周年を迎えることとなった。50年と云えば昔は人の一生に譬えられた長さである。ところで50年前と云えば私はまだ中学に入る前で高学年の小学生であった。しかしその頃既に小型ではあるが革製のサッカーのボールを蹴って当時の広い御影師範のグラウンドを駆け廻っていた。とすると京大のサッカー部の創立と私がサッカーのボールに親しみ始めた時期とが概ね同じと云うことになり、サッカーに関心を持ち始めたという点では、私も何時の間にか50年になるのだなと思ひ些さか感慨を覚えた次第である。

私は昭和11、12、13の3年間京大サッカー部で球を蹴ったのであるが、昭和11年(1936)という年はベルリンオリンピックの開かれた年で、この時の日本チームは、優勝候補グループに入れられていた強剛スウェーデンを3対2で破り、日本サッカーの存在を一躍世界に知らしめると云う手柄を立てたのであった。この日本チームはこの時更にも一つ大きなお土産を持って帰国した。それは当時の欧州チームがとっていたスリーバックシステムであった。当時は日本には実業団チームが未だ左程育っていなかったもので、東西学生リーグの主力校が日本代表チームの最も大切な育成場であった。しかも次のオリンピックが昭和15年(1940)東京で開催と決っていたので、オリンピックのためにという訳でもないが兎に角当時の学生リーグ各チームは競ってスリーバックフォーメーションの研究と吸収に励んだものである。従って当時を思い出す時、当時の我々は我々なりに皆一応フォーメーションの研究をしながら球を蹴っていたように思う。

1回生の時(栗原主将)はまだ引っぱられてついていった程度であったが、2回生の時(昭和12年森主将)には全く熱心であったと思う。秋のシーズンに入ってから、フォワードもバックも練習が終って着換えてから全員北白川の喫茶店「○○」に集って、フォワード間、バック間、或はフォワードとバックとが連繫しているポジション毎にグループを組んで相手

チームを研究し、これを攻め或は守るフォーメーションを考え、話し合い、工夫したものであった。この年はこのような全員の熱意とチームワークが実って、関西リーグで8年振りに1位になっている。

しかしこの年も、東西学生リーグの1位決定戦では、播磨氏(故人)を中心にした慶応チームに中盤を制せられ、フォワードは殆んどなすところないまま3対0で敗れてしまったのは残念であった。ただこの敗戦で今でも記憶に生々しく残っているのはGK岡本氏の活躍であった。岡本は名GKとうたわれた金沢先輩(昭和10年卒)の成城高以来の後輩で、名手金沢先輩に高校時代にみっちり仕込まれただけあって、素晴らしい柔軟さを身につけていた。そしてそれは前記対慶応戦で見事に発揮され、屢々決定的と思われた失点をも救い、時には神技と思われるような華麗なプレーで当時の観衆を魅了したものであった。

翌18年の正月に行われた朝日招待サッカー(南甲子園)では、東西の1位チームが夫々の2位チームと当ることとなり、京大は東2位の東大と対戦した。この時の東大チームはベルリンオリンピックの対スウェーデン戦でCHとして活躍した種田氏がCHの主将で、従って新しいスリーバックシステムを充分研究咀嚼している強力なチームであったが、京大チームもCH大崎氏を中心としたエブリマンマークの布陣でよく東大FWを抑え、一方CF山中氏を中心とするFWラインも、秋のリーグ戦の間に一戦毎に身につけてきた連繫フォーメーションを随時ノンストップパスにより生かしてチャンスを生み、結局5対2のスコアをもって当初慶応に劣らず強力と予想されていた東大に快勝し、昭和12年度チームとして有終の美を飾ったのであった。

昭和18年、3回生の時は、前年のこの貴重な体験をもちながら、しかも3回生の主軸に安居、岡本の両逸材を擁しながら関学に1位を奪回されたことは残念であった。

このように3カ年の在学中、関西リーグで優勝したのは2回生の時の1回に過ぎなかった。この優勝の年のことは当時の森主将始め3回生の方々が詳しく述べられることと思うが、この年の経験で強く感じたことは、秋のリーグ戦が始まる頃から1戦毎に尻上りに調子づき強くなって行ったということである。サッカーに限らず、ラグビーでも野球でも団体競技の場合にはこのようなケースが屢々見られるものであるが、この時は正しくこの典型的なケースであったと思う。近頃の京大や東大のような入学のむつかしい大学のチームの場合は、毎年春の編成当初は大きな期待がもてないと感じることが多いと思う。しかし、もしシーズンに入る秋口の頃から調子が尻上りに出てくるようにチームをもってゆけたら京大のようなチームは理想的な姿になるのではないかと思えてならない。

吾々の学生時代のサッカーと云えば、かれこれ40年も昔になるので、その頃と今日とを比較するのは些さか当を得ないかも知れないが、現在の全日本級のチームをみると、流石にレベ

ルアップされ強力になったものだと感じる点も多い反面、基本的な事柄については昔も今も左程変わっていないのではないかと思う。近頃はワールドサッカーの好試合のビデオを毎週テレビで見ることができる有難い時代になったので、現在の世界最強チームのレベルもおおよそ見当がつくようになったが、これらの試合をみてつくづく感じるのは

先づ、実によく動くということ。つまり90分間激しい動きを続けても決してへばらぬだけの体力を鍛えているということ。

次に、寄りが非常に早いということ。

更に、あたり、つぶしが強いこと。

更に、常に逆を狙いながらプレーをしているということ。等である。

これらは又、フォワード、バックスの間に何等差がなく、各プレーヤーが一様に基本として備えているものだと思う。

京大も一人一人がこれらの基本を身につけるために、各人が夫々自己を鍛えに鍛え、更に全員が頭を使って考え、話し合い、工夫して、その年その年に合ったチームを作る努力を積重ねてゆけば、シーズンを尻上りの調子をもってゆけるのではないかと思う。

学生の頃を思い出している内、つい先輩づらをして蹴りに行っているような気持になって勝手な意見をはいてしまったが、何れにしても、学生時代に球を蹴っていたということはまことに幸であったと思う。いくらかんたんになって練習しても思うように上達しないむつかしさや、はがゆさを感じたことも屢々あるが、それだからこそ、サッカーは深みがあり面白かったのかも知れない。今でもサッカーは観る者よりも蹴る者の方がはるかに面白い競技だと確信している。

蹴る者の楽しみを味わうことができなくなってしまった今では、もっぱらテレビでワールドサッカーやビッグゲームの放映を観るのを楽しみにしているが、学生時代に蹴っていたればこそ細かい所も分り、それだけに一層面白く楽しめるのだと自ら慰めている。

終りにK I U現役諸君に一言。

若い時は二度と来ない。御健闘を祈る。

現 役 の こ ろ

安 居 律 (昭14卒)

私が京大蹴球部に在籍したのは昭和11年からの3年間であった。1回生の11年度は名手大谷氏を擁した神戸商大(現神戸大学)がそれ迄の常連関学、京大を破り初優勝を飾ったのである。京大は更に関学の後塵を拝し第3位にとどまるという誠に成績の悪い年であった。翌12

年度は夏の合宿を広島高校でやり在広島中野先輩等の猛訓練をうけた。恰もその期間中に広島文理大主催の大会があり誘われて之に参加したところ関学もこれに出場することが判った。どことやったか覚えてないが結局最後に関学と優勝を争うことになり、奮戦虚しく1-7で大敗した。さあそのあとが大へんで現OB会長佐藤先輩他多くの先輩に物凄く叱られたのをいまだに覚えている。合宿で一番疲れが出る頃だったのも一因と思うが7-1では弁解の余地もなく一同シュンとしていた。さて合宿を終え京都に帰りリーグに備えての練習にはいったが何分7-1のショックは大きく当時の森主将の言葉で“吾々は弱いんだから先の事は考えず第一戦に全力を傾けよう兎にかく一つ勝とう”という事でリーグ戦に臨んだ。リーグが始まると相手は忘れたがその緒戦にまず勝った。“おゝ勝ったぞ”ということで京都へ帰り今もある四条河原町近くの小料理屋“鳴門”へ直行優勝もかくやと許り大いに祝杯をあげた。そして帰る時には次も何とかして勝とうということ。森主将の統率よろしきを得て皆の気持は見事に結集されていたと思う。次も勝った又祝杯そして又次もということの積重ねで気がついたら全勝優勝。そして次は東西リーグの決戦で関東一位の慶応と神宮で雌雄を決する事になった。今度は調子も揚っていることだし序でだから全国も戴けということで張り切って神宮へ行った。当時慶応は播磨や二宮などという連中がおり又私自身が彼等に振り廻されて3-0で完敗。神宮は関西リーグの本拠南甲子園に較べ長さが短くその上メンバーには神宮の経験者が殆んどなく大へん勝手が悪かった。

力を出し切れなかった思で後味の悪い敗戦だった。当時朝日新聞の招待試合というのがありその年は2回目だったと思うが、これは東西両リーグの1位と2位4校が出場し夫々の1位が相手の2位と対戦する仕組、場所は勝手知ったる南甲子園。その年は東大が関東の2位であった。当時東大は種田、高橋両オリンピック選手を擁し強かった。緒戦にどこかに怪俄負けしそれが祟って最終戦には慶応と引分けながら2位になったチーム。実力は慶応と同じという。

“よし南甲子園なら負けないぞ”と東大戦に大いに意欲を燃やした。東大に勝って慶応戦の鬱憤を晴らそうというわけ。試合の経過は京大CF山中氏の絶妙のプレーで終始東大を押し5-2で快勝若干溜飲をさげることが出来た。この試合で山中氏と東大CH種田氏との見事な攻防は実に面白かった、今も二、三の場面が眼底に焼きついている。

山中さん快心の試合で良い卒業土産になったことと思う。翌18年は森主将等6名の卒業生を出し8回生は3人丈けのチームとなり若干戦力の低下は免れなかったが前年度優勝校の貫録で他チームを寄せつけず最後に関学と覇を争うことになった。朱永寿君先制のシュートが決まっておれば流れは変っていたかも知れぬが惜しくも外れ又相手方のシュートを見事なスライディングタックルで防いだ小倉君の防禦が次の不運を呼び1点先取された。結局2-0で連続優勝ならず。此の年の朝日招待では関東優勝校慶応を南甲子園に迎え撃ったが今年も慶応は強く、

0-2で惜敗、前年度の復讐はならなかった。慶応に借りを残した儘卒業。齡還歴を過ぎ今静かに40年前を振り返ってみると若き日の想出が或は鮮明に或は薄いベールにつつまれて次々と懐しく思い浮かんでくる。あのとき、あの顔。

京	岡	井真	政安安	市小山	伊
大	本	上鍋	家居原	山野中	森藤
15		└──┘	└──┘	└──┘	
	G.K	F.B	H.B	F.W	
02		└──┘	└──┘	└──┘	
東	岩	菊藤	種	阿渡高大	松
大	動	地岡	属森	部辺橋	槻村
			田		

昭和13年 コンパ

安居氏提供



久保 石光 朱 森 伊藤 村上 西本 岡野
大沢 安居 小野 原部長 岡本 唐原 真鍋

昭和 14 年 度

合宿 南甲子園

C 伊藤 慶次 M 久保 迂夫

関西学生リーグ

	勝	敗	分	京大	9	—	0	神商大	10	・	1	南甲子園
1) 関学	4	0	0	京大	6	—	0	関大	11	・	3	//
2) 神高商	3	1	0	京大	1	—	3	神高商	11	・	12	//
3) 京大	2	2	0	京大	1	—	6	関学	11	・	26	//
4) 関大	1	3	0									
5) 神商大	0	4	0									

第8回朝日招待サッカー

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$) 2 慶応 1・8
南甲子園

対 神商大

京大	田口	真漆	唐大小	石光	伊岡中
9	鍋野	原沢倉	朱藤野村		
(
36					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
00					
)	青柳	大鈴	稲島尾	飯藤監戸永	
神商大					
0	柳	森木	垣津崎	豊井崎沢井	

第8回東西対抗

関西 2 ($\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 1-2 \end{smallmatrix}$) 3 関東 2・5 神宮
小野・岡本 出場

対 関大

京大	土井	真漆	唐大小	岡野	村石伊
6	鍋野	原沢倉	朱上光藤		
(
24					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
00					
)	早田	種山	西田	小安	杉
関大			南田	隅川	林
0	田	谷田	行進	川福	野

第9回東西O.B対抗

関西 1 ($\begin{smallmatrix} 0-1 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 1 関東 2・12
南甲子園
赤川・長岡 出場

対 慶応

京大	岡本	漆野	唐安小	小西伊岡村
0	野沢	原居倉	野本藤野上	
(
00				
	G.K	F.B	H.B	F.W
02				
)	津田	加宮	笠石高	篠播二小猪
慶応				
2	田	藤川	原川島	崎啓宮幡保

対 神高商

京大	土井	真漆	唐大小	石光	村岡伊
1	鍋野	原沢倉	朱上野藤		
(
01					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
30					
)	坂部	伊深	水多前	尾室小小加	
神高商					
3	部	藤田	沢田橋	島山幡川藤	

っていたが、徹底的なエブリマン・マークにチェックされ前記同様全く身動きができず今考えてもイライラして来る。私がもう少し動けたら或いは……なんてつまらぬことを考えることさえある。

兎に角この2試合程自分の鈍足、体の堅さ、策の無さ等ありとあらゆる悪い面が出揃ってしまった試合も少ない。私の50年に近いボール歴の二大悪夢である。技倆に格段の差があったのか、又はカリカリにアガってしまったのか今だに良く解らない。多分両方だろうと諦めざるを得ない。

3. 昭和18年 第2回朝日招待サッカー

京大 5-2 東大 於甲子園

大体サッカーの試合では苦がい思い出が多い私にとってお正月のこの試合だけは最も晴れがましく、楽しい試合であった。

前半最初の得点を挙げた時の気持ちこそグラウンドにおける我が生涯最大の喜びであり今思い出してもそくそくする程嬉しい気分になる。

少し詳細に再現してみよう。斜め右40ヤード?附近からゴールポスト前へロビングボールを蹴ったのであるが、狙いが若干くらいゴール寄りに流れたボールがキーパーの死角をついてスルスルとあっけなく入ってしまった幸運な1点であった。グラウンドの歓声、一瞬茫然と動きを停止したゴール前の敵、味方等次のキックオフ迄の幾コマが鮮やかに甦えて来る。

又後半ゴロでセンターリングした球を中央で山中さんがシュートしてくれた一コマも忘れ得ぬ思い出である。

さて肝心の14年の試合であるが、リーグ戦の記録を見ても神商大、関学に負けてガッカリした記憶のみで総べてはボヤーとしたボールの向う側の出来事のような気がするので何んとも申し訳ない次第である。

振り返って見てチームが強かった時の試合は印象も強いが、弱かった時の試合は印象も薄らぎがちである。矢張りスポーツは強くならなければ面白味も少ない。強くなるためには色々な方法もあろうが一口で云えば全員揃って効果的な練習を重ねることであろう。

現役の諸君、大いに練習を積み強く、逞しいチームをつくってくれることを祈っている。

昭和14年度 部屋前

久保氏提供



田口 西本 久保 河内 中村 石光 今井 河村 漆野 村上 土井(香川)
朱 大沢 原部長 伊藤 岡野 小倉

昭和14年度 コンパ

久保氏提供



今井 土井 石光 金井 河村 西本 田口
真鍋 漆野 村上
小倉 原 伊藤 原部長 大沢 朱 岡野 久保



土井 西本 真鍋 今井 河村 中村 村上 朱 久保 伊藤
(香川)

昭和 15 年度

C 石光 顯 吾 M 久保 迂 夫

関西学生リーグ

		勝	敗	分
1) 関学	3	0	1	
2) 関大	3	0	1	
3) 京大	1	2	1	
4) 神商大	0	2	2	
5) 神高商	0	3	1	

京大	1 - 1	神高商	11・3	南甲子園
京大	1 - 4	関学	11・17	〃
京大	3 - 2	神商大	11・10	〃
京大	0 - 2	関大	11・23	〃

春季関西学生サッカー大会

京大	3 ($\frac{2-0}{1-1}$)	1	阪大	4・21	花園
京大	0 ($\frac{0-1}{0-3}$)	4	関大	4・25	〃
京大	2 - 2	大阪クラブ	10・27		

対 神商大

京大	3	土井	小高橋	岡野	百崎	西川	河本	金石	石井	高橋
大	(12)	井倉	倉彦	野崎	崎川	川	本村	井光	光彦	彦
		G.K	F.B	H.B			F.W			
	20									
神商大	2	稻上	上鈴	藤島	西	尾賀	塩戸	永		
		上原	木	井津	田	島川	崎	沢	井	

対 神高商

京大	1	土井	真田	岡野	百崎	金石	西川	河村
大	(01)	井	鍋口	野崎	橋	井光	川村	上
		G.K	F.B	H.B		F.W		
	01							
神高商	1	岩佐	片山	米津	水沢	伊藤	菱田	関井

対 関大

京大	2	土井	今井	小倉	河内	真鍋	岡野	西本	石川	西崎	百丁
大	(00)	井	井	倉	内	鍋	野	本光	川崎	丁	
		G.K	F.B	H.B				F.W			
	11										
関大	2	官田	近藤	山	西安	小	杉三	折恒	李		

対 関学

京大	1	鶴田	今井	小倉	岡野	西本	石川	西崎	河村
大	(01)	田	井	倉	崎	野	本光	川村	上
		G.K	F.B	H.B			F.W		
	22								
関学	4	中井	岩田	安井	庫那	横室	中小	高	

学	関	京	神高	神大
関学	\	3-3	4-1	3-2
関大	△	\	2-0	5-2
京大	×	×	\	1-1
神高商	×	×	△	\
神商大	×	×	×	△

優勝決定戦 関学 6 ($\frac{1-0}{5-0}$) 0 関大



河村 高橋彦 熊谷 財津 高橋吉 鶴田 西川 安井 百崎
 土井 小倉 村上 高田(浦上) 金井
 今井 真鍋 久保 原部長 岡野 西本 長崎



最近の今井氏

かたらい



久保
 小倉 河村 百崎 村上 西本 石光 真鍋 岡野

昭和16年度

C 香川利生 M 浦上次郎

この年度から卒業が繰り上げになり、三回生の卒業は12月となった。

春季学生サッカー大会				対 関学					
京大	8-0	京都薬専	5・4	花園	京大	土高小	西田熊	高河金百横	
京大	6-1	神戸高工		〃	8	井 橋	川口谷	橋村井崎山	
京大	3-5	関学 準決勝	6・1	〃	21	彦 倉			
						G.K	F.B	H.B	F.W
					28				
東西O.B対抗					関学	中大酒	野庫那	木小松室内	
関西	3 ($\frac{2-1}{1-0}$) 1	関東	3・7	甲子園	5	井 家井	口元須	村泉本山本	
		赤川・長岡	出場						

死線を越えて

金 井 直一郎 (昭16・12卒)

練習の毎日。あの農大グラウンドで一部優勝を目指して頑張った日々を思い出します。

試合中ヘディングをせり合い頭から落ち腕を骨折し乍ら試合をつづけたこともありましたが、練習中ハンマーが当たり気を失った時以来、戦時中、その後も仕事に熱中して居る時に倒れること「死」を恐れない気持が常に私のさきえとなっています。之れもサッカー時代のお蔭となつかしく思っています。

戦況急迫のため対外試合禁止の動きが見られ始めた。

そのため今迄の一・二・三部リーグ制を変えて地区制(京都、大阪、神戸)リーグとなった。

関西学生決勝リーグ				京大	3 ($\frac{0-0}{8-2}$) 2	関学	10・26
勝 敗 分							南甲子園
1)	京 大	1 0 1	京都代表	京大	4 ($\frac{2-1}{2-3}$) 4	昭和	11・3
2)	昭和高商	0 0 2	大阪 〃				南甲子園
3)	関 学	0 1 1	神戸 〃				

京都予選

京大 2 - 1 同志社高商
 京大 12 - 0 京都薬専
 京大 2 - 0 京医大

	京大	昭和	関学
京大	\	4 - 4 △	3 - 2 ○
昭和	△	\	3 - 3 △
関学	×	△	\

G.K	F.B	H.B	F.W
土	高本 橋彦	西田横 川口山	高河金百長 橋村井崎崎
井	彦田		

昭和 15 年度 ハイキング

久保氏提供



金井 今井 百崎 久保 岡野 西本 長崎 河村

昭和 17 年度

本年より卒業時期が更に繰上って
9月となった。

C 高橋彦也 M 田中五郎

春季関西学生リーグ

	勝	負	分
1) 関学	4	0	0
2) 昭高商	3	1	0
3) 京大	1	3	0
4) 関大	1	3	0
5) 神高商	1	3	0

京大	1 - 2	関大	5・10
京大	1 - 3	昭高商	
京大	2 - 4	関学	
京大	7 - 0	神高商	
京大	2 - 1	関大	

(同率順位決定戦)

春のメンバー (推定)

G.K	F.B		H.B			F.W				
鶴田	高橋(彦)	小川	西川	横山	山中	高橋(吉)	皆木	長崎	野沢	貫戸
	(本田)		(日置)	(安井)	(久場)	(八丁)	(盛島)	(山田)	(百崎)	(長崎)

	学	昭	京	関	神
関学	\	3-1 ○	4-2 ○	○	○
昭高商	×	\	3-1 ○	○	○
京大	×	×	\	×	7-0 ○
関大	×	×	2-1 ○	\	×
神高商	×	×	×	○	\

8月29日 曇後雨

昨日合宿に集合せるもの5名、百崎、安井、山本、田中及び高橋彦のみ。他の者夫々緊急用件有りて参加するを得ず。新入部員も未だ1名も来たらず。

起床6時半、曇る。体操後理学部植物園散歩。9時半より練習開始。

体操、グラウンド1周、スローイング、ドリブル、サークルキック、グラウンド1周、体操。

練習開始と同時に降雨開始。最初の事として体操に時間を掛けドリブルを終る頃より降雨激しくなる。練習時間約40分。

午後降雨依然として激しく特に練習を中止す。河村氏ス・フまじりの協和服に身を固めて現わる。一見金城鉄壁の好紳士なり。(彦)

8月30日 晴後曇り

午前 約60分

合宿日記

昭和17年度春季合宿

期間 8月29日より1週間

集合 8月28日 午後9時迄

宿舎 左京区田中飛鳥井町16 ことぶき旅館

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 起床 6時半 | 6. 練習 |
| 2. 体操 | 7. 夕食 |
| 3. 食事 | 8. 外出時間 9時迄 |
| 4. 練習 | 9. 就寝 9時半 |
| 5. 昼食 | |

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 体操 | 4. ストップ |
| 2. グランド1周 | 5. サイドキック |
| 3. ドリブル | 6. グランド1周 |

午後

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 体操 | 5. ストップ |
| 2. グランド1周 | 6. サイドキック |
| 3. スローイング | 7. ヘッディング |
| 4. ドリブル | 8. サークルキック |

新人 野沢、宮崎両君午後より来る。山本原因不明の無届欠席。(百崎)

3月31日 晴朗ナレドモ風強シ

昨夜西川君到着 合宿者ハ都合5名ヨリ6名へ増加スルモ甚ダ淋シキ限り

午前

起床ハ定刻。彦氏の起キロノ号令ト共ニ行ハル。昨夜ヨリ田中君睡眠不足ヲカコツ。

午前7時体操、散歩、午前8時過ぎ朝食終了。尚食慾旺盛ナル向キハ進々堂ニ足ヲ運ブ。西川君ハソノママ学校へ。

午前9時半運動場に至リ、練習開時10時 グランド1周、スローイング、ストップピング、キッキング。

然ル後、ラグビーノポストヲ利用シテ足式テニスニ興ズル。体操後解散 練習時間約1時間、11時10分終了

午後 正午過ぎ昼食ヲ終リ2時30分出発

午後 3時10分 練習開始

グラウンド1周、体操、サークルサイドキック、サイドキック、ストップピング、ヘッディング、グラウンド1周、体操。

練習終了午後4時35分 中林君合宿ニ加ハル。 午後5時半夕食

田中君ヲ除イテ全員9時就寝、田中兄午後10時5分帰宿、彼ノ遅刻ノ原因ハ敵打?ノ為ナリトカ。恐ルベキソノ精力ヨ。(珍念記)

4月1日 曇リ日ニテ少シ寒シ

朝、加茂川散歩、消々シキ限りナリ

午前 新入生宣誓式場ニオモムキ新入部員勧誘ヲ試ム、見逃シ多ク効果アガラズ、貫戸君(四高)ソノ他2名確約ス(1名ハグラウンドニテ) ソノ他山形高ノ栗山君ノ他1名ヲツカマエル。 午前ハ大シタ効果ナク終ル。

午後 3時半ヨリ練習、6名ノ他、野沢及府立高ノ吉野君参加。

- | | |
|------------|------------|
| 1. グランド1周 | 5. ストップピング |
| 2. 体操 | 6. シューティング |
| 3. ドリブル | 7. グランド1周 |
| 4. サークルキック | 8. 体操 終了5時 |

夜、八丁君顔ヲ見セル、田中、山本両君町へ練習参加者モットモット多クナレ。(西川)

4月2日 快晴春暖

朝、体操ノ後急イデ散歩

朝食後講義ニ出ル者多数、午前中練習ナシ

午後3時半練習開始

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. グランド1周 | 4. サークルキック |
| 2. 体操 | 5. ストップ(足腹) |
| 3. ドリブル | 6. グランド1周 |
| | 4時40分 |

練習終り頃、原部長グラウンドニ来ラル、少時練習ヲ見ラレ、後全員ト共ニ農大前ミルクホールニ赴ク、新入部員紹介。四高出身貫戸君今日ヨリ練習参加

夜ハ今夜ニ限り門限10時、西川、安井両氏ト街へ、他ハ全部合宿近クデ行動ヲ共ニス。

尚西川氏午後サントリーウキスキー見学ノ為
練習ヲ休ム。

講義開始ノ故ニ部員大部分集ル。(山本記)

4月8日 快晴

朝体操 下鴨神社参拜、百崎氏「エンムス
ビノカミ」に意味深の祈をささぐ。

午前9時50分より練習開始 高橋彦、百
崎、西川、安井、山本、横山、田中、中林、
高橋吉、吉野の10名参加。

グラウンド半周、体操、サークルキック、ス
ロウイング、サークル中のストップピング、ダ
ッシュ、ハーフラインまで、体操。

10時40分終了

午後2時50分練習開始

高橋(彦)、百崎、高橋(吉)、西川、安井、山
本、横山、中林、吉野、野沢、貫戸

グラウンド1周、サークルキック、二つに分
れて、ストップピング、バックのストップとキ
ック、ダイレクトキック、フォワードのダイ
レクトシュート、同ストップ及びシュート、
パッシングとシュート、全員スタートとター
ン、ランニング、体操。 3時40分終了

練習開始より6日目なる故、体の痛みも去
り全員快調なり。(田中記)

4月4日 晴天ニシテ練習ニハ暖カスギル
朝 北白川、田中附近1周 各自夫々

各自夫々学校ニ出ル

午後8時40分練習開始

医学部ノ高橋(吉)、貫戸、鶴田授業ノ為来ラレ
ズ、又中林モ所用アリ結局、高橋(彦)、百崎、
西川、安井、横山、田中、吉野、山本ニ減ズ。

グラウンド1周、体操、サークルキック、ス
トップ、而ル後プレスキックヲ行ウ。

「プレスキック」ハ難シク、意ノ儘ニナラズ
各自共其無力ヲ痛感ス、プレスキックヲ行ッ
テ見レバ、今迄ノ「キック」ガ正シキキック
ナラザル事ヲ感ズ。練習途中ヨリ八丁、長崎
グラウンドニ現レボールヲ拾ッテ呉レル。

プレスキックガ済ンダ頃貫戸着換エテ、グ
ラウンドニ現ル、氣ノ毒ナルモ、練習終リ。

4時30分

練習終了後、部室ノ清掃ヲ行フ、1月4日
泥中試合ノストックモ、百崎熱心ニ洗フ、
掃除中入部ノ申込者2名有リ。

6時入浴、夕食ノ後全員集合、
事務的の用件ヲ済マシテ後高橋(彦)主将ノ話ア
リ、「合宿ノ人数ハ少ナカッタガ氣持ヨクヤ
レタ、技術的の進歩ハ疑問ナルモ、各自ノ融和
ハ出来タト思ヒ喜ンデ居ル。今後モ此調子デ
合宿ニ参加出来ナカッタ部員ト共ニ益々調和
シテヤッテ欲シ」

大要上ノ如キ挨拶アリ、元氣に解散ス

(山本)

昭和18年度

C 田中五郎 - M 遠藤幾久弥

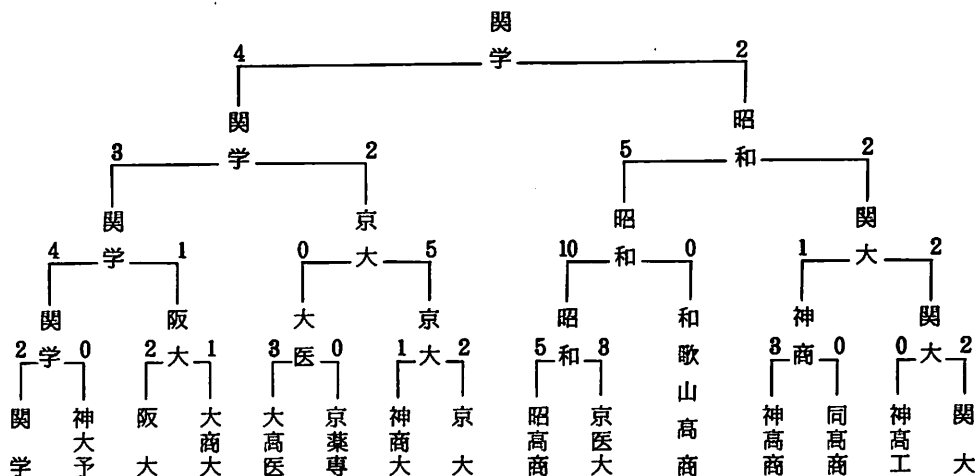
昨年ノ3地区代表リーグ制を廃止、甲子園、神戸市民グラウンド、大商大、西宮でトーナメン
トが行われた。

1 回 戦
京大 2 ($\frac{0-0}{2-1}$) 1 神商大

2 回 戦
京大 5 ($\frac{4-0}{1-0}$) 0 大高医

3 回 戦 (準決勝)
京大 2 ($\frac{2-2}{0-1}$) 3 関学

決勝戦 (関学優勝)
関学 4 ($\frac{3-0}{1-2}$) 2 昭和高商



昭和18年1月8日 西宮球技場、開場記念招待試合、関東、関西から2校ずつ出場、京大は慶応と合い4-0で勝っている。慶応には合う毎に敗けて居り勝ったのはこれが初めてであり、そして終りである。

この時の様子を当時の向井キーパーが次の如く語ってくれた。

暮もおしつまった或日先輩の赤川さんが京都にやって来て、正月休みを返上して練習をし是非参加せよと飲屋につれて行かれくどかれた。既に郷里に帰って居た宮崎君等は参加出来ないことになった。それでも慶応に勝つ程の力を持って居たのだから、優勝せねばおかしい位顔振れが揃って居たのだった。

昭和18年にリーグ戦がなくて優勝を飾れなかったが、嵐山(今の桂附近)で行われた京阪神学徒壮行蹴球大会の3地区代表リーグ戦では不敗の成績を残して居る。

東西四大学対抗戦 (朝日招待に代るもの)

京大 4 ($\frac{1-0}{3-0}$) 0 慶応 1・3 西宮

G.K	F.B	H.B	F.W
	藤小	竹横山	貫野友皆富
向井	野川	山山中	戸沢貞木成

百万辺勤務時代



本 田 見吉郎（昭18卒）

昭和42年から2年間という短い京都在勤中の、またごく一部分の生活でしかありませんでしたが、OBとして責任重大な監督生活を送らせて貰いました事は大変光栄とと思って居ります。

何しろ銀行業務の合間にグラウンドに出掛けて行った程度でまことに好しからざる監督であったのではないかと反省して居ります。

我々の時代にはなかったナイター設備も出来て時間的には充分な練習が出来ると感じました。練習も終始熱心に、かつ自主的に行われ結構だと思います。然しながら楷書を知らずして草書を満足に書き得ない如く、今少し基本練習に時間をかけるべきではないでしょうか。左右同じように蹴れない人、インステップかサイドキックか判然としない蹴り方をしている人、浮き球の処理の下手な人、ヘディングにしても前だけしか球を落せない人、スライディングにしても球に足のさわらない人等々が試合中に見られました。基本が出来てなければ、フォーメーションは中断されて得点につながらないと思います。

試合中に感じられた事は、時々中途半端なプレイがみられることです。何の意図を持って蹴ったのか判らないような場面があります。

各人の動作には夫々意図が判然としなければチームワークも崩れると思います。

最後は「私はメソッド（流派）を信じない基本だけがあるんだ」と云ったジャック・ニクラウスの言葉を現役諸君へお伝え下さい。

豊橋に来ましてまだ1年足らず、信用金庫の仕事にもポツポツ慣れて来た所で、少し余裕が出来ましたならば京都へもお伺いしたいと思って居ります。

想い出す人々

鶴 田 登代志（昭18卒）

私が京大を卒業して33年の月日が流れました。蹴球部生活の記念品として残っているのは、昭和16年3月の送別会写真と、昭和18年に私どもに記念品として頂いた寄書帖、そして帽子につけていた蹴球部バッチ1枚だけです。この写真と寄書帖にサインして下さった方々のうち、10人の方が故人とされました。この方々の思い出を簡単に書いてみましょう。

昭和16年3月送別会写真より

○真鍋恭四郎氏（昭16、農）

長身の方で大きなストライドで球を追って居られました。やさしい上級生で、エラーしてくさっているとよく慰さめ、元気づけて頂いたものです。愛称は「マナチン」と呼ばれていたように思います。写真の送別会以後再会の機会がありませんでした。

○土井利生氏（昭16後期、法）

通称「ドイシュウ」。名ゴールキーパーでした。

私も同じポジションでしたからいろいろ御指導をうけました。昭和16年の関西リーグ一部優勝のときの主将です。戦後少しおくれて復員され、当時京大病院に勤めていた私を訪れて頂き、「広島で材木屋をやろうと思っている。チャンスがあったら一緒に蹴ろう」と話されましたが、そのチャンスがありませんでした。

○高橋彦也氏（昭17、法）

通称「ヒコ」。私とは松山高校時代からのなじみで数々の思い出があります。昭和17年度の主将をつとめられました。名フルバックで、彼が前に居てくれると全く安心でした。あの左胸からのうなりを生ずるような物すごいキックは今なお眼前に彷彿します。非常に明るい、真面目な性格の持主でした。亡くなられたイキサツを聞いて「いかにもヒコさんらしい」と嘆息される人が多いのも尤もだと思います。

○長崎千代吉氏（昭17、工）

通称「チヨ」。広島高校の主将で活躍され、大学には私と同期で入学され、同じ下宿で学生生活を送りました。駿足のウィングで一部優勝に貢献されました。名前の由来について、「親父が千代吉という芸者に惚れていたんだ」と冗談を云ってよく人を笑わせていたのを思い出します。

○西川 稔氏（昭17、農）

通称「オヤ」。オヤジに由来すると聞きました。高校は広島でチヨと一緒にフォワードをしていましたが、大学ではバックを守っていました。府立医大との練習試合で下腿骨折をうけて整形外科に入院され、よく見舞に行ったのが私の整形外科を専攻するキッカケの一つになりました。その頃ギブスを巻いたままでハイラーテンされたのも有名な話でした。

○百崎晴弘氏（昭17、経）

通称「モモキン」。成城高校出身の名センターハーフで、優勝当時の有力な選手でした。非常に安定感のある堅実なプレーをする方で、朗かな人でした。少し腕を横にふりながら球を追う姿を思い出します。ゴールを守っていて彼が球を追ってくれると安心したものでした。

昭和18年9月卒業記念寄書帖より

表紙に部長の原随園先生が「想い出す人々」、巻頭に「養心厚生」と揮毫して下さっています。以下小川平五、高橋吉郎、野沢信韶、田中五郎、横山慶一、山本文彦、遠藤幾久弥、栗山

明、吉野省三、藤野弘、富成伸吾、貫戸幸男の諸君が書いて下さっています。このうちで故人となられたのは次の4人です。

○野沢信^お昭氏（昭19、文）

「松高カラノ深イナジミダッタノニ之デシバラクノ別レカト思フト誠ニ寂シイデス。デモ生者必滅、会者定離。又ノ会フ日ヲ楽シミニシテマス。元気デヤッテ下サイ。ノブ。胸血ニ燃ユル若人ノ赤キ血汐ノ氷リテハ……ガンバレ!!」と書かれています。私とは松山からのなじみ、ノブは彼の愛称、「胸血に燃ゆる」は高校の選手送援歌の一節です。長身のフォワードで、オリンピック候補でもあった名選手でした。又の会う日が得られなかったのが残念でなりません。

○田中五郎氏（昭18、経）

ヒコさんの次の主将をつとめられました。ポジションはゴールキーパーでした。寄書帖には「鶴サンノ衛生御講話非常ニ味アリ、云々。ハヤク奥様ヲ貰ヒタマヘ。五郎」とあります。戦後労働基準局に勤められ、小生の居住している津市にも赴任して来られたことがあり、子供同志が同級生になったこともありました。その後御栄転になって間もなく急逝された話を聞き、残念に思っています。

○遠藤幾久弥氏（昭19、経）

山形高校出身。身体は大きい方ではありませんでしたが、頑張り屋でした。寄書には、「人間ノ“キブクロ”ニツイテ研究ヲ積マレンコトヲ望ミマス。殊ニソノ容積ニツイテ。遠藤」と書かれています。小生の大食をひやかしたものです。

○富成伸吾氏（昭19、農）

山口高校出身、小柄ながらファイトマンでしたので、「チビタンク」と愛称をつけてやりました。寄書には、「医者ノ不養生トイフ事アリ、暴飲暴食ヲ慎メ。ノッポデモ梯子酒、梯子飯ハ身体ニ毒デスヨ。ハシゴメシヲ附合ッタチビタンク」と書いてあります。御高説のとおり小生暴飲暴食がたたって“イブクロ”を切除されました。もう一度梯子酒をのんでみたい友人です。

以上思い出すままに悪文を書いてみました。かつてのチームメートであった「生き残り」の皆様と共に物故会員のご冥福をお祈りしたいと思います。

昭和18年 部室前

向井氏提供



向井 但馬 大塚 友貞 遠藤 竹山
貫戸 若林 富成 吉野 野沢 藤野 栗山 宮崎

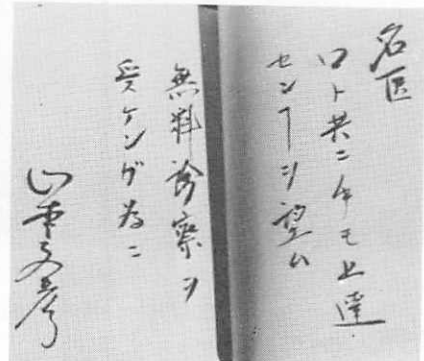
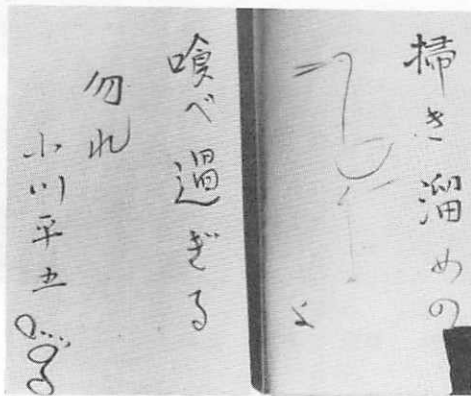
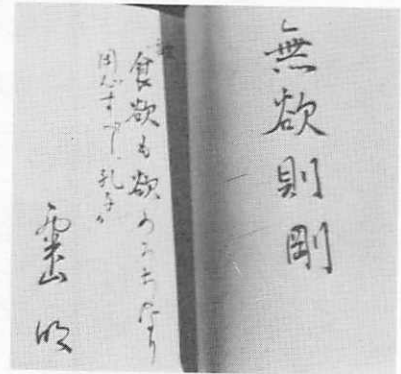
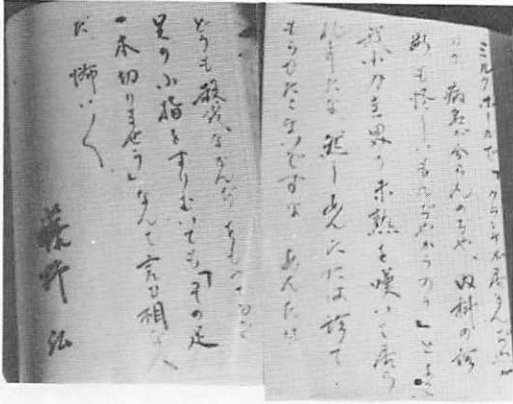
昭18年

向井氏提供



若林 向井 貫戸 宮崎
藤野 栗山 富成 友貞

鶴さんへの寄書



京大蹴球部のおもいで

横 山 慶 一 (昭18卒)

私が入学したのは16年4月であるが卒業は18年9月、戦争のため半年短縮された。1回生が1年、2回生が半年、3回生が1年だった。忍びよる戦争の息吹きに楽しい青春という一面とまた半面暗い陰うつな学生時代を送ることになったがその暗くなり勝な生活にうるおいを与えてくれたのがサッカー部生活だったといえるかもしれない。

入学当時はサッカーをやる心積つりはなかったが入学式直後高等学校の先輩で1年上の安井精一氏はじめ数人の諸先輩にグラウンドに連れていかれたのが入部のキッカケでもともと好きなおともありズルズルとボールを蹴るようになっていった。

1回生のときはL日として出場の機会に恵まれ秋のリーグ戦(3回生が12月卒業と急に決ったため五校リーグは行わず京都、大阪、兵庫でそれぞれリーグ戦を行いその勝者による三校のリーグ戦となった)では関学に勝ち、昭和商(大阪経大の前身)と激しい試合の末引分け優勝ということになった。

2回生3回生のときは従来のような5校リーグが行われることになり、私の1年下2年下の学年に優秀な選手多数の入学を見たにも拘わらずいずれも関学に惜敗して優勝を逃している。ただ18年の正月にそれまで行われていた朝日招待サッカーに準ずる試合が東西の選抜4校によって行われ、慶応と対り4-0で快勝したのがせめてもの快挙?であった。

以上が私の大学での簡単なサッカー歴(まだ書きたいことは沢山あるが)であるがここでいまでも思い出すアクシデントについて語ってみたい。

それは1年上の西川稔氏(農・広島高出)と試合中に起した味方同志の衝突とそれによる骨折事故である。アクシデントは17年6月頃梅雨季の激しい雨とヌカミの中で行われた京都学生リーグ戦で起った。私の2回生の時で私と西川氏は1年前もLH、RHとして活躍したがその試合では私がCH西川氏がRHだったように思う。降りやまぬ雨とヌカミで全員泥人形のようにになっていたが、その時西川氏は相手を執拗にマークして得意のスライディングタックルをしてきた。丁度私もその相手を西川氏より少し下った位置でマークして接近し略同時にスライディングタックルをして相手を挟むように3人が倒れ込んだ。私はすぐ立上って次のプレーに移ったが西川氏は立上らなかった。大腿骨骨折だった。泥田のようなグラウンドに雨に打たれて坐りこむようにしていたが、平常顔色のよかった西川氏の頬から血の気が引いていくのが分った。やがて試合が中断され、痛そうだが痛いともいわずに部員に抱えられて退場しすぐ病院に運ばれていった。

何日か経って病院へ見舞いにいった時西川氏はギブスをはめ真白な繃帯をした足をベッドの上に投げだしていたが、その頃私は西川氏が2、3週間後に故郷広島での結婚式を控えていることを知らされ何ともいえない気持だった。ハズミとはいえ自分が衝突しなければこんなことにはならなかったのにと申しわけない気持で一杯だった。しかし結婚式は予定通り?済んでやがて京都へ帰り新居を構えられたことを聞き、ある日2、3の友人と新居を訪問したがその時西川氏はまだギブスをはめ松葉杖を使っていた。西川氏は例の人なつっこい笑みを浮べて我々と話していたが、傍の可憐な若い奥さんの姿をみるとまたやるせない思いがして何ともやりきれない一時であった。その西川氏も卒業後なくなれたことを終戦後知った。アクシデントの起ったのは京大グラウンドの北側タッチライン寄りハーフラインのあたりだったと思う。今でもあのグラウンドに行くとふとその時のことを思い出し感傷的になってしまうことがある。

西川稔氏のご冥福を心からお祈りする次第である。

鶴さんへの寄せ書

胸血に燃ゆる石
人ノ赤き血の
氷りてハ、
離サシノ衛生御諒語
非常ニ味アリ
フ、ルエス、シヤダ、ル、ウギニスムス、
トキハ、宣フ、
ハクヤ、奥村、ヲ、世ヒタマ、
五郎 田

新 戒
① Überessen 食べ過ぎ
② Überananie 過労
③ Übertrinken 過飲
④ Überarbeiten 過労
⑤ Überproduktion d. Kind 許す
首 格 (吉)

松高ヲ、深イ、ミ、ジ、
ノ、ニ、デ、シ、ミ、ク、別、ト、カ、ト、思
フ、ト、流、ミ、散、シ、ン、ジ、ス、テ、モ
生、者、ノ、滅、亡、者、定、離
又、今、日、ヲ、保、シ、ミ、ニ、シ、テ、マ、
ス、又、テ、ヤ、ン、シ、マ、サ、イ、
ノ、ブ、

「医者、不養生トイフ
言アリ、暴飲暴食
ヲ、睡、ム、ハ、ン、ボ、ロ、マ、掃、子
酒、掃、子、紙、ハ、身、体、ニ
毒、デ、ス、ヨ、
ハ、シ、コ、シ、ラ、附、合、ラ、フ
チ、ビ、ク、ク、

人間ノ、キ、ブ
ク、心、ツ、イ、テ
研究ヲ積マレン
コトヲ望シマス
殊ニシテ、空積ミイテ
遠藤

然、深底の力は
飯、不、ず、ね、散、さ、れ、る
所、リ、傳、統、を、守、り
醫、學、も、あ、あ、と
暮、ひ、ま、す
貧、乏、亭、男

健啖家のツルさん
學、向、は、何、論、防、空
別、味、下、な、い、が、掃、子
飯、の、か、け、方、等、色、々
御、後、援、下、さ、り、お、蔭
下、最、近、配、給、の、同、係
で、瘦、せ、ま、さ、ら、ん、

昭和 19 年度

本年度は 18 年 10 月に始まり、
以下の試合で活動停止

C 野沢信昭 M 遠藤幾久弥 SM 向井清之

関西学生リーグは中止となる。

大日本学徒体育会関西支部主催 京阪神学徒壮行蹴球大会

京阪神で代表チームを互選しリーグ戦を行った。 18・11・14 嵐山

京大(京都代表) 3 ($\begin{matrix} 1-0 \\ 2-0 \end{matrix}$) 0 阪大(大阪代表)

京大(") 3 ($\begin{matrix} 1-2 \\ 2-1 \end{matrix}$) 3 神戸商大(神戸代表)

阪大(大阪代表) 0 ($\begin{matrix} 0-0 \\ 0-0 \end{matrix}$) 0 神戸商大(")

11月16日 蹴球部壮行会を5時より鞍馬口、木船料理店で行った。

当時のメンバー

向井	竹山 栗山	宮崎 前田 山中	貫戸 野沢 大塚 皆木 友貞	(ベストメンバー)
G.K	F.B	H.B	F.W	
向井	若林 栗山	林 前田 松山	富成 野本 山本 吉野 多々	(阪大戦メンバー)

昭和 18 年 12 月学徒出陣、以降公式戦なし。

C兼M 貫戸 幸男

関西学生リーグ中止。

C 多々 信二

戦況急迫のため、文科系学生を真先に、続々と部員は動員されサッカーどころではなくなりましたが、学校に残留することの許されていた医学部の多々、工学部の湯浅、宗田、高砂などが中心となって細々と練習は続けられた。ときたま、府立医大と練習マッチを行い、常に 3 対 0 位のスコアで勝っていた。

昭和 20 年度

C 多々 信二

関西学生リーグ中止。

終戦を迎え友貞、向井などが復員して来て、10月頃、四散した道具を集め、部室を整理し、元部員を中心として 15、6 人を集め、困難な食糧事情と混乱した世相を克服して練習を始める。

戦中派の思い出

貫 戸 幸 男（昭19卒）

私達は大東亜戦争緒戦の昭和17年8月及び9月に入部した者達（写真各々）で旧制高校で一応部生活を送りインターハイで夫々顔を合せた連中であって高校時代学問よりサッカーを優先させた猛者ばかりの集まりと見られます。私達が入部する数年前より先輩の活躍によって京大の黄金時代が築かれ東大と共に強さを誇っていた頃です。当時の旧制高校のサッカーの水準は可成り高く、両大学の強さもここに温床があったと思われれます。

当時部員のいわゆる「溜り」は農学部電停前の近藤ミルクホール（現在も営業中）とその裏側にあった乙女食堂（おやじさんが亡くなって家族は播磨の加古川へ帰った由）、このどちらかに行けば必ず部員の行方が解る仕組になっていて、また食糧の集積場所でもありました。

グラウンドの主と云われた我々の敬愛する故高橋彦也主将などいつ行っても乙女の奥座敷に笑顔で鎮座していたのも印象的です。入部1年間位は高校時代の延長として楽しくボールを蹴っていたようですが戦争も次第に激しくなり授業時間の短縮、休暇返上等の為練習時間も自ら制限され、その上食糧事情も苦しくなりましたがそれでも関西学生リーグ、京都学生リーグは現在と大差なく行われていましたし、戦前の最大のビッグゲームである朝日招待サッカーの出場権を得て慶応と対戦することが決った時など、なけなしの食糧を持ち寄って京大の馬場近くの旅館、「ことぶき」（現在は廃業）で合宿し見事快勝したことは忘れ得ぬ最後の思い出となりました。然し戦況日々に悪化、戦時体制は更に強化されついに昭和18年6月学徒動員令に全員徴兵検査を受けました。当時農学部のグラウンドを使っていたのは所謂本ちゃんのサッカー、ラグビー、陸上、ホッケーとそれに教練課のみでそれ以外は猫の子一匹入れなかった時代で、グラウンドが整備されていたことは現在以上でこれは常に我々に味方し協力してくれた人、あの氏江のおやじに負うところ大でありました。その運動部も次第に教練課に冷視されつつグラウンドを使うという状況の時でありました。

ところで当時の配属将校であった佐藤大佐（間もなく南方へ転属戦死）が我々運動部員数名を銃器庫（今のスポーツ会館）の前に集め先に受けた徴兵検査について色々質問し、我々甲種合格の者が京大全体の平均値より非常に高かった事に驚愕、ラグビー部員の1人をとらえ、「ラグビーか、あくびか知らんが君達こそ国家存亡の時本当に役に立つ若人である。」と、真面目な態度で我々スポーツ選手を絶讃されたことは、当時の軍人としては異例であり、一方我々は一矢を報い溜飲を下げた次第でした。

その後間もなく12月1日を期して学徒出陣令が下り我々サッカー部も一部理科系の学生を残し殆ど全員出征が決りました。最後のコンパは円山公園内にあった中華料理店「仙樂園」で

行い数日後夫々の任地へ出発して行きました。その後残された理科系の部員も漸次応召されて行くのですが、なんとか伝統ある蹴球部の命脈を保つべく少しでもボールの蹴れる者を集め、阪大、府立医大等の残留組に呼びかけ試合をした事もありました。然し17年組の最後の一人として、主将、マネージャー、連絡係等々努めて参りました私も予定の陸軍々医学校入校の日も近づきましたので総てを後輩に託し、京都を去りました。

以上、戦中派として甚だ断片的で杜撰な事を書きましたが、この度創立50周年記念史発刊に当り、献身的に編集に当っておられる唐原先輩より最も大切な戦中から戦後にかけての記録の行方を尋ねられました。実は当時名キーパー兼マネージャーの向井君から、彼が海軍予備学生として出征する数日前、百万辺の本屋の前で、試合記録その他を確かに受取り、又私が出発の前に、後輩に確実に託したのですが、終に今日に至るも見当りません。お互に生きて帰らぬ冷厳な気持で授受したつもりでしたが、明日の生命も知れぬあの当時、まさか50年史が編纂されるとは誰が考え及んだのでしょうか。伝記なくて歴史は語れませんが、当時は国の行方も定まらぬ混沌の時期であり、敗戦後の日本民族大移動の光景を想起していただいて、この頃のブランクに対しては何とぞ御寛容下さい。

最後に、戦死その他、故人となられた同期の桜の御冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

戦後サッカー部の再出発

向井清之(昭21・9卒)

第2次大戦のさなかに、私共が学徒出陣の名のもとに学窓を去ったのは昭和18年12月のことであった。当時私は経済学部の2回生であったが、文科系の2、3回生が同時に兵役に服したことから、戦争の様相が一段と熾烈となったため、大学の各運動部の活動は事実上停止せざるを得なくなった。従って戦前の蹴球部の歴史もこの時をもって閉じられることになる。

20年8月終戦と共に学徒出陣組が続々と学舎に復帰して来たが、私共の1期上、即ち出陣時の3回生は既に仮卒業の措置がとられていたため、私共は自動的に最上級生となっていた。

私が10月末に復員した時には既に大学の講義が始まっていた。終戦事務にかり出されていたので帰郷が遅れたが、横須賀を出て超満員の東海道線のデッキの上で丸1日立ち続けて神戸に着いたことが昨日の事のように思い起される。

戸氏提供



若貫富野
林戸成沢

2年間別れていた学友達とお互いにその無事を祝福し合っている、終戦後の混乱した世相の中で再びボールを蹴ることが出来るとは夢にも考えていなかった。

しかし乍ら、数日後に秋色濃い北白川のグラウンドに立ち寄り、そこに2年前そのままのグラウンド、ゴールポスト、部庫、氏家管理人宅等を見出した時、やっと古巣に戻って来たという感慨と共に、もう一度ボールを蹴るチャンスが必ずあると強い自信を抱いたのを覚えている。

かくして昭和20年も暮れようとする12月になって、当時既に復員していた友貞兄等と語り、部の再出発を図ることとし、戦時中の部の運営と、残留部員の調査から始めた。

幸いにして、当時吾々と同期の医学部の多々信二君が、貫戸、竹山、皆木等の諸先輩と共に学徒出陣後の蹴球部を守ってくれたことを聞き、早速友貞兄と共に同君の下宿を訪れて部の再建につき協力をお願いした。

ユニフォーム、ボール等多少の資材も残っているし、無疵のグラウンドが残っていることは何にもまして吾々にとって有難いことであった。年明けと共に部員の勧誘に専心すると共に、永らくと絶えていた諸先輩との連絡にとりかかった。

文科系では、野本、前田、菅、平佐、坂本、本田、松山。理科系では鶴見、大池、高砂、宗田、湯浅等、かつてのインターハイで活躍した諸兄が続々と参加され、これを機に主将として友貞兄、副将兼庶務委員として私、会計委員に多々兄を21年度の役員として同学会に登録した。又マネージャーとして新たに入部した恒藤君に部のお世話を願うこととした。

21年2月11日には当時の西宮球技場において東西對抗戦が一般の部と学生選抜の部に分れて開催され、私も関西学生選抜の一員として出場する機会を得た。これが蹴球界では戦後初の公式試合であり、勿論私にとっても最初の試合出場であった。この試合の入場料税共1円98銭という記録が残っているのもなつかしい。

この前後から京大蹴球部としての活躍が徐々に始動し、北白川のグラウンドでの練習も随時行われるようになった。しかし唯生きるのに精一杯という食糧、諸資材の極端な不足の中にあって、十二分な練習を行う余裕などはなく、本当にボールを愛した者のみが、グラウンドに集って練習をするというのが実情であった。

ニューボールの配給もなく、僅かに残っていた古ボールの破れに“つぎ”を当てながら使用し、“ぼろ”に近いシャツ、パンツ、ストッキングを着し、破れ靴をはきながらの練習も吾々にとっては暗い世相を忘れる最も楽しい一時であった。私は食糧事情のため、京都での下宿を断念し、神戸から国鉄で毎日通学し乍ら、午後はグラウンド通いに精を出した。そして練習後は戦前と同じように、農学部前の近藤ミルクホール店に立ち寄るのが日課となっていた。

8月に入って全日本選手権の関西予選に出場した。これが京大として戦後初の公式試合出場であったが残念乍ら敗退したので私共の中、数名が改めて赤川先輩を主将とする学士クラブに

臨時加入した処、何とこのチームが優勝してしまった。メンバーの大半が京大OBであったと記憶している。

正しく二重出場ということになるが、当時の状況からして大目に見てもらったのであろう。但し東京行を第2位の神戸商大に譲った処、商大は東大LBに敗れてしまった。

5月～6月には関西学生選手権試合に出場、京大、関学、関大三者による決勝リーグ戦で惜しくも関学に敗れ優勝を逸した。

この優勝戦の直前に私の大事なバッグが盗難に遭い、慌てて靴を今川先輩に、ユニフォームを故本田栄一兄にお世話願って、やっと試合に間に合せたのもなつかしい思い出である。

私共はこの年の9月に学窓を去った訳であるが、戦後の混迷した社会情勢の中で、しかも食糧、資材の欠乏甚しい悪条件下においてボールを愛する数多くの諸君が、部の再出発に率先して参加されたことに対し、今日もお心から感謝している。

同時に又、苦しい日常生活の下において、大変な犠牲を払い乍ら、物心両面より部の再建に温かい支援を送って頂いた諸先輩に対しても心からお礼を申し上げる次第である。

とりわけ、前田、今川、奥野、赤川、麻野、安居の諸先輩を始め、関西在住の諸先輩には当時公私に亘って多大の御迷惑をおかけしたことに對し、本紙面をかりて改めてお詫びを申し上げたい。

21年7月に発行した戦後最初の名簿が手許に残っているが、これは名簿というには余りにもお粗末なガリ版刷りの手書きのものである。

部の再出発に際して、早く先輩との連絡をとり、名簿を作成するようにとの奥野先輩の指示に従って、各先輩に葉書を出し、その消息をお知らせ願って作成したものである。

予算が無いので、用紙は麻野先輩より寄附して頂き、下手な字で原紙をきり、同学会事務所の謄写版を借用して印刷した。戦後の蹴球部史を語るものとして、その原稿を私は今も大事に保存している。

戦争中のサッカー部



高 砂 輝 夫 (昭21・9卒)

我々が京都で学生生活を送ったのは昭和18年の10月から21年の9月迄の3年間、まずまず落着いて大学へ通えたのは初めの1年足らずと、戦後の約1年、真中の1年以上は何をしていたのか、とにかく恵まれた環境ではなかった。もともと大阪の中学で蹴球をやっていたので農大グラウンドのインターハイや南甲子園の関西大学リーグはよく見に行った。京大のダークブルーのユニホームで長髪の選手がよく動いて素晴らしく見え

たのだろう。ああ云う風になりたいなあと強い印象を受けたことを今でも覚えている。その頃のインターハイは松山と六高が強かったようだ。4年生の年には松山のセンターに巨漢がいて、よく活躍して六高に勝って優勝した。それにあこがれて春には松山を受けたが見事に落ちた。

翌年見に行くと今度は六高が勝った。それじゃあというわけで今度は六高を受けた。

さて戦時中京大のサッカー部というものは休止状態だったように思う。時たま六高の残留組が集まって中国やインドネシアの留学生と交歓試合をした程度だ。中国チームは足わざも旨かったが、仲々社交的で試合のあとでいろいろな食物を出して我々をまじえ農大グラウンドで丸くなってささやかなコンパをしてくれた。インドネシアはあまり強くなくて一方的なゲームだったように記憶する。当時の高校式の荒い当りに面喰っていたようだ。戦争が終ってしばらくの頃、たしか広島出身の多田さん(?)が、一遍ボールを蹴りましようやと言ってこられて本田さん、湯浅さんらとラウンドキックからやり初めた。そうこうしている中に友貞、向井氏ら、松山の上手な連中が復員参加されて漸く戦後第1回のリーグへと繋がるのである。この辺から後のことは他の方の詳報にゆずるが、子供の頃からあこがれていたダークブルーのシャツを着ることはかなえられたが、食糧難の暗黒時代で腹一杯青春を謳歌出来なかったのが今から想えば残念である。

戦前戦後の事

多々信二（昭22卒）

先日貫戸氏より電話あり、戦時中の京大サッカー部の様子を尋ねられ報告を求められましたが、何しろ昔のことで思い出すのに一苦勞でしたが以下記憶のまま書いて見ました。

私が京大医学部に入学したのは昭和18年9月であり、丁度この秋、文科系学徒の出陣という事態に陥っていた時でした。

この頃サッカー部に入部したものの、未だ学内の事情、京都市街のこと等全く不案内で本当の1年坊主でした。たしか故野沢氏にさそわれ入部したように思います。私の第一戦は、間もなく催された出陣送別親善試合で嵐山付近のグラウンドであったように思います。対戦相手は何校であったか覚えて居りません。私はRWを命ぜられ右よりシュートレンジに入ってシュートを試み失敗。その時貫戸さんがLWとして左側より入り込んで居たのは知っていました案の定「こちらに廻せば1点」と注意されたのを覚えています。

その後学徒も出陣し、工学部関係の人々も勤労動員とかで欠けることも多くなり、遂に貫戸氏も出征するに及んでは私が一人の時もあったように思います。ですから当時（昭和19年～20年）今の記憶では五高の宗田、（昭和17年五高キャプテン）六高の高砂他3～4名位が高校でサッカーをしていた人達であったろうと思っています。然も一堂に会する機会も殆んどなかった

が府立医大と2、3回試合をしたこともあり、又春秋にチーム編成の出来る高校を集めて親睦的なインターハイをしたこともありました。年に、5、6ヶでもボールの配給があり、予算もあったのですから、サッカー部が在ることを同窓会に示す必要も兼ねていたわけです。此の様な行事は勿論当時部長であった原随園先生には御報告はしていた様に思うのですが、全て正規の部活動ではありませんので出場メンバーその他試合記録等は残してありません。

終戦後、文科系の学徒が復員して来られ友貞、向井、前田等々次第に部員が増えて来るのが楽しみでした。向井氏が友貞氏であったか？戦時中の記録を見たいと云って記録簿を誰かにお見せした様に思うのですが、何しろ判然とした記憶ではありません。かくして次第に部員も増えて戦後初めて関西リーグー之が又私の大学サッカー部の緒戦ーが始まり第一戦は関学では無かったのでしょうか。こうして漸く活況を呈して来たサッカー部も彼等が次々に卒業した後は旧制高校で鍛えた選手は殆んど補充出来なくなり、新しい方針で新入部員を迎えることになった次第です。どうしても戦力の低下するのは止むを得ぬ次第でしたが、でも皆仲々よく頑張ってくれた様に思います。恒藤、湯浅君達も大変だったことと思います。皆よく力一杯頑張ってくれて二部に落ちることは何とか回避していた様でした。

尚旧部史その他の記録は私が貫戸氏より預り、ロッカーに鍵をかけて入れて置いた様に思います。前述の如く誰かにお見せしたかも知れず、或いはそうでないかも知れず、誠に残念乍ら覚えて居りません。

長々と不確かな記憶を述べて参りましたが皆で話合ったら又新たな記憶を探り出すかも知れず、京都も近くなりましたので出頭命令があれば何時でも喜んで出席させていただきます。

昭和 21 年度 春

C 友貞健太郎 V C 向井清之 M 恒藤 武

春季学生トーナメント

京大 10 - 0 京府医大
 京大 8 - 1 三高
 京大 8 - 1 京師
 京大 4 - 1 関大
 京大 1 - 3 関学 (決勝戦)

当時のメンバー

G.K	F.B	H.B	F.W
向井	松菅 山	本前湯 田田浅	平宗高多友 佐田砂々貞

対〇〇大戦 (相手不明)

G.K	F.B	H.B	F.W
向井	三谷 菅	湯浅 前田 本田	多々 宗田 友貞 高砂 野本

昭和 21 年度 秋

9・10より C 宗田邦男 BC兼M 本田栄一

関西学生リーグ

	勝	敗	分				
				京大	2	($\frac{2}{0}-\frac{2}{2}$)	4 関大 10・13 西宮球技場
1) 神経大	5	0	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{1}{2}$)	3 神経大 10・27 //
2) 関学	4	1	0	京大	0	- 9	関学 11・17 //
3) 関大	3	2	0	京大	2	($\frac{1}{1}-\frac{3}{2}$)	5 神経専 11・23 //
4) 神経専	2	3	0	京大	5	($\frac{2}{3}-\frac{1}{1}$)	2 阪大 11・24 //
5) 京大	1	4	0				
6) 阪大	0	5	0				

京大	7	($\frac{2}{5}-\frac{1}{0}$)	1	京二中OB	9・8
京大	2	($\frac{1}{1}-\frac{0}{2}$)	2	京大OB	9・8
京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{1}{1}$)	2	京大OB	10・6

終了後 播州館コンパ

京都選手権大会

京大	3-0	三高	準決勝	9・21	京大
京大	4-0	府医大	決勝	9・22	京大

国民大会関西予選

京大	3-4	富山	10・17	京大
----	-----	----	-------	----

対 関西学院大

京大	0	古	深三	前今本	坂湯鶴多宗
大	(藤	山谷	田村田	本浅見々田
	00				
		G.K	F.B	H.B	F.W
	63				
関大)	松	大中	瀬杉松	鶴岡木工瀬
学	9	田	家垣	戸本本	田村村藤戸

対 京大OB (10・6)

現	谷	高三	湯本前	平鶴高宗多
役	田	本谷	浅田田	佐見砂田々
	G.K	F.B	H.B	F.W
O	向	安田	熊赤竹	石皆麻友村
B	井	居口	谷川山	光木野貞上

対 関大

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	谷	大三	湯本前	阪平鶴宗多
大	田	池谷	浅田田	本佐見田々

対 神経大

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	谷	深三	今本前	湯阪鶴多宗
大	田	山谷	村田田	浅本見々田

戦後復活インターハイを京都にて主催

	神大	関学	関大	経専	京大	阪大
神経大	\	3-2 ○	4-0 ○	4-0 ○	3-0 ○	4-0 ○
関学	×	\	1-0 ○	4-0 ○	9-0 ○	11-0 ○
関大	×	×	\	6-4 ○	4-2 ○	5-1 ○
神経専	×	×	×	\	5-2 ○	3-0 ○
京大	×	×	×	×	\	5-2 ○
阪大	×	×	×	×	×	\

昭和 22 年度

C 宗田邦男^{1月} → 多々信二^{8月} → 深山荘二郎
M 恒藤 武

関西学生リーグ

	勝	敗	分					
1) 関学	5	0	0	京大	3 ($\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 0-1 \end{smallmatrix} $)	1	神経専	日没 再試合
2) 神経大	4	1	0	京大	3 ($\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 0-1 \end{smallmatrix} $)	1	〃	11・15 西宮
3) 関大	3	2	0	京大	1 - 8		関学	11・18 〃
4) 京大	2	3	0	京大	0 - 8		神経大	11・20 〃
5) 神経専	1	4	0	京大	6 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 5-2 \end{smallmatrix} $)	2	阪大	11・23 〃
6) 阪大	0	5	0	京大	0 - 4		関大	11・27 〃
								11・29 〃

東西大学対抗

全京大 0-4 全慶応 1・3 西宮

春季関西学生サッカー大会

京大 9 ($\begin{smallmatrix} 4-0 \\ 5-0 \end{smallmatrix}$) 0 大阪医大 4・25
 京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-1 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 1 神高商 4・27
 京大 4 ($\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 0 三高 5月下旬
 京大 4 ($\begin{smallmatrix} \text{二} \\ \text{二} \end{smallmatrix}$) 2 全二中

京都選手権大会兼国民体育大会予選

全京大 9 ($\begin{smallmatrix} 5-0 \\ 4-0 \end{smallmatrix}$) 0 京師 9・21 京師
 全京大 3 ($\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 0-0 \\ 0-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix}$) 2 京都サッカー
 9・21 〃

国民体育大会近畿地区代表決定戦

京大 5 ($\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 4-1 \end{smallmatrix}$) 2 南海 和歌山代表
 10・5 西宮

京都学生リーグ

京大 7 ($\frac{5-0}{2-1}$) 1 同志社高商 9・24

京大 4 ($\frac{3-0}{1-1}$) 1 三高 9・27

京大 0 ($\frac{0-2}{0-1}$) 3 京師 9・28

以上 京大

京大 0-4 六甲クラブ 9月末 西宮

京大OB 1-1 六甲クラブ // //

全京大 2 ($\frac{0-1}{2-0}$) 1 関学クラブ
10・19

全京大 3-0 四高 11・2 金沢

対 全慶応

京	向	持赤	横安山	皆友麻長村
大	井	地川	山居中	木貞野岡上
	G.K F.B		H.B	F.W

慶	津	角小	永松宇	市播二渡篠
応	田	谷林	木丸野	橋磨宮辺崎

対 全北海道

京	向	安岡	恒横山	藤麻小皆友
大	井	居本	藤山中	本野崑木貞
	($\frac{0}{B}$)	($\frac{0}{B}$)	($\frac{0}{B}$)($\frac{0}{B}$)	($\frac{0}{B}$)($\frac{0}{B}$)($\frac{0}{B}$)

対 関西学院

京	藤	難大	恒岡越	藤酒小深宇	
大	1	田	波池	本井崑山川	
	(10		17	
		G.K F.B	H.B	F.W	
関	8	松	諸中	山杉瀬	工工柴木鶴
学		田	田垣	田本川	藤元田村田

国民体育大会 (金沢)

全京大 1-0 茨木日立 10・31 四高

全京大 3 ($\frac{2-2}{1-2}$) 4 全北海道

11・1 //

その他

京大 1 ($\frac{0-1}{1-0}$) 1 京師 2・6

京大 2 ($\frac{1-1}{1-0}$) 1 京都サッカー 2・13

京大 6 ($\frac{0-0}{6-0}$) 0 京二中クラブ 4・13

現役 3 ($\frac{0-1}{3-0}$) 1 OB 4・20 京大

終了後播州館でコンパ

対 大阪大

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	藤	遠難	恒岡大	藤深小酒越
大	田	藤波	藤本池	本山崑井智

対 関大

京	藤	遠難	恒岡大	藤深小酒越
大	0	田	藤波	藤本池
	00	G.K F.B		H.B F.W
	04	岡西	南山高	和矢西小広
関	4	納	田本	木形田
大				田島村崎瀬

東西対抗戦に 安居、向井出場 22年4月

対 神経大

京	藤	難大	恒岡越	藤酒小深宇	
大	0	田	波池	本井崑山川	
	(00		53	
		G.K F.B	H.B	F.W	
神	8	平	山萩	道芦鈴	皆賀則藤多
経		大	間	中原	行田木
					木川武村木

学	神大	関	京	専	阪
関学	4-1 ○	5-1 ○	8-1 ○	8-0 ○	21-1 ○
神経大	×	2 2-1 ○	8-0 ○	14-1 ○	14-1 ○
関大	×	×	4-0 ○	13-0 ○	9-1 ○
京大	×	×	×	3-1 ○	6-2 ○
神経専	×	×	×	×	5-1 ○
阪大	×	×	×	×	×

昭和21年春 O B 戦

向井氏提供



平佐 湯浅 野本 菅 友貞 前田 本田 向井 竹山
 貫戸 皆木 安居 赤川 奥野幸 中田 安井 田中 横山
 梶川 谷田 今村 多々 恒藤 坂本

昭和二十二年
度



恒藤氏提供

遠藤 難波 岡本
藤本 大池(梶川) 藤田 越智
小畠 酒井 恒藤 深山

昭和22年11月 国体(金沢)

向井氏提供



藤田 難波 梶川 藤本
酒井 向井 山中 恒藤 安居 岡本
小畠 友貞 皆木 麻野 横山 清水定一(協会)

戦後の京大蹴球部の回想



梶川 玄治（昭23・9卒）

私が松山高から京大医学部に入ったのが昭和19年10月です。終戦後の混乱も少し落ち着いた頃、吉田中大路町の下宿の近くに居た医学部同級の今村伸二君（六高）に連れられて農学部グラウンドに行きました。ボールを蹴ることの懐しさに、そのまま何となく京大蹴球部に入ることになりました。昭和21年であったかと思います。多々、湯浅、難波、島谷、三谷、谷田、藤本の諸氏が居られた様に思います。当時、医学部には中田盛良、鶴田登代志、貫戸幸男の先輩が居られ、多々さんが1年上で、同級生では今村伸二、阪本彩児君もボールを蹴っていました。

その後、復員で松山高の先輩である友貞、向井、菅、松山の他、平佐、前田、宗田、酒井、本田、皆木の諸先輩が帰って来られ、人数も充足し、チームとしても強くなりました。

小畠、深山、恒藤、藤田、岡本の諸兄とも一緒にプレーしました。

再開された関西六大学リーグに西宮球技場まで、ボロ靴を提げて行きました。当時のタイプロイド判の新聞に、対戦のスコア、メンバーが初めてのったのは、かなり後のことの様に思います。何しろ食糧難の時代でしたから、空腹でボールを蹴っていた訳で、皆それぞれに蹴球狂会所属だったのでしょう。

私のサッカー「誇と懺悔」

藤本 典秀（昭23卒）

旧制中学から京大まで、と云うよりその後も永く（途中戦争で中断せざるを得ない時代はあったが）、サッカーを続けて来たことのみが人生のサイドボーンとして記憶に残っているわけです。生来記憶力極めて悪く、良く入試の関門をくぐる事が出来たものだと、コンプレックスを持っているため、サッカーについてもほとんど記憶らしいものは残っておらないのが残念でならない（勿論その他の生涯の出来事についても）。その中で唯一つか二つの、だからこそ忘れられない印象を、しかも一瞬の出来事について述べさせていただきます。

1. 誇

たしか昭和22年の秋だったと思う。当時は関学、関大、神経大（現神戸大）が全日本クラス級の物ぞろい、互に鎗を削っていた時代であった。特に関学はそのユニホームのファッションブルなこと、プレーもスピードあり、スマートでもあった。

秋(?)のリーグ第1戦だったと思う、その関学との対戦である。

前半既に1点を先取され、ハーフタイムも間近かに迫った頃であろう。ボックスの方から球を得た小畠(CF)がドリブルをして、関学陣内約3/4まで突破して来た、その時LWの私はサイドライン一杯から鋭く小畠の左前へ、大声をあげて切り込む。同時に彼は絶好のパスを出した。私はその球を左足で右前へ押し出し素早く右足で力一杯シュートをした。敵も待っていてくれたわけではない、FBあるいはCHが物凄いスライディングタックルをして来た。蹴った瞬間蛙を大地にぶっつけられたような姿でグラウンドにたたきつけられた(小生当時体重47キロ)。蹴った瞬間ボールがやや浮いたな?多分ボールすれすれにオーバーしたな!と頭をかすめた。と同時に無意識に頭を上げたら、何んと!キーパーが左上方に飛び上った両手の先をかすめて上部一杯にゴールしているではないか!!

この時の嬉しかったこと、………… サイドラインの外から奥野先輩の大声が聞えた。

この試合は前半戦終了の5分前位まで0-0であった。

2. 懺悔

これは最近起った二つの時効が相次いで世間をにぎわせたことに、やや悪乗り気配あり。

(二つの事件とは、御存知3億円事件と、ロートレック描「マルセル」盗難事件である)

時は昭和22年(?)秋の国体、金沢での第2回戦、相手は北海道代表の大男達である。前半だったか、後半だったかは忘れた。右ウイングからのセンターリングをゴール前でヘッドリングをセリ合って大男の相手2人の下に倒れ込んだ。起き上がれない!左足首をヒドク捻挫した。当時は交替不能だった。

その後はグラウンドのセンターライン近辺をウロウロし、たまに片足で駆けるのがやつの状態であった。

しかし、絶好のチャンスが来た。相手陣内3/4ゴール前に近く、混戦が続いていた。私はただゴール前にこぼれ球が出るのを期待して“体で押し込めれば”と狙っていた。

大部分が右サイドへ、キーパーも右の方へ移って行った矢先に、こぼれ球が丁度腰の高さにバウンドして来た! “スワ!”と思うが体がボールの来る方向に直角になるようにふんばれない。しかし腰の位置で体ごとボールを押し込んで、貴重な1点を得た。観衆は大喝采。

ここで懺悔の告白である。

ボールを腹で受け止めたが、体位がボールに直角になっていないので、ボールは左へ流れようとした。ここで私の左手薬指先が無意識にボールをプッシュしたのである。

大方30年にもなろうとする昔の話である。

その日は足のいたみに耐えかねて(心のうずきを覚えながら)、岡本(彰郎)の背におんぶされて宿舎に帰った。



小畠 難波 日置 今川 安居 向井 田部 藤田
 越智 赤川 竹山 山中 明橋 深山 小山
 岡本 友貞 原随園 恒藤 深浦 遠藤



宗田邦男氏



島谷島雄氏

鶴さんへの寄書 続き

吉野省三

夜千玉之夜 渡月乎將留
 願西山也 函塞毛有 糠毛

昭和 23 年度

合宿 西宮球場

監督 小野礼年 C 恒藤 武 M 西村 昭 (旧姓 松本)

関西学生リーグ

	勝	敗	分					
				京大	0 - 1	神経大	11・7	西宮
1) 関学	5	0	0	京大	3 - 3	神商大	11・14	〃
2) 神経大	3	1	1	京大	1 - 6	関学	11・21	〃
3) 関大	3	1	1	京大	5 ($\frac{3-0}{2-0}$)	阪大	11・23	京大
4) 京大	1	3	1	京大	2 ($\frac{0-2}{2-3}$)	5	関大	11・28
5) 阪大	1	4	0					西宮
6) 神商大	0	4	1					

第6回朝日招待

全京大 0 ($\frac{0-3}{0-1}$) 4 全東大 1・10
西宮

京大 3 ($\frac{1-0}{2-1}$) 1 上野高 5・16
京大ク 10 ($\frac{4-3}{6-2}$) 5 伊賀上野クラブ
5・16 上野

その他

京大 2 ($\frac{1-0}{1-2}$) 2 全府医大 3・7 京大
延長戦の後引分け

京大 1 ($\frac{1-0}{1-2}$) 2 京医大 5・29
京大

京大 0 ($\frac{0-2}{0-2}$) 4 京都クラブ 4・18
京大

京大 1 ($\frac{0-1}{1-0}$) 1 京都クラブ 6・8
京大

京大 0 ($\frac{0-3}{0-3}$) 6 インドネシア留学生
A軍 4・24

O B 戦

京大 4 ($\frac{2-3}{2-0}$) 3 O B 6・6 京大

京大 9 ($\frac{2-0}{7-0}$) 0 洛北高 6・8 〃

O B 戦

京大 0 ($\frac{0-2}{0-1}$) 3 O B 4・25 京大

京大 3 ($\frac{2-0}{1-1}$) 1 同志社高商
6・10 京大

春季関西学生サッカー大会

京大 8 ($\frac{3-0}{5-0}$) 0 姫路高 5・15
西宮

京大 5-0 京一中OB 9・18

京大 0-0 学士クラブ 10月

京大 2-2 神商大 抽選勝 5・21 〃

京大 3-2 関大 5・29 〃

10月、最後のインターハイを主催す。広島
島高校2連勝。(通算4度目の優勝)

橋本記念館にて12月2日シーズン・オフ
のコンパあり。

決勝戦 (延長決せず再延長)

京大 3 ($\frac{3-2}{0-1}$) 5 関学 5・30 〃
 $\begin{pmatrix} 3-2 \\ 0-1 \\ 0-2 \\ 0-0 \end{pmatrix}$

対 神経大

京大	藤田	遠藤	深浦	明橋	深智	越山	井上	小嶋	小恒	岡本
00	F.B		H.B		F.W					
10	内上		阿三		皆鈴山多					
神経大	1	数	田原	江木	田	木	木	内	木	村

対 神商大

京大	藤田	遠藤	深浦	明橋	深智	越山	井上	小嶋	小恒	岡本
08	F.B		H.B		F.W					
12	野岡		角藤		木殿三大片					
神商大	3	村	本	田川	冠	山	村	龜	本	山

対 関学

京大	松本	遠藤	深浦	明橋	深智	越山	井上	小嶋	小恒	岡本
01	F.B		H.B		F.W					
42	松		諸中		山神		井柴			鶴工
関学	6	田	田垣	田田	山	上	田	田	藤	原

対 関西大学 (対 阪大)

京大	藤田	深遠	越深	明智	岡恒	小小	井
大	田	浦藤	智山	橋	本藤	嶋山	上

合宿 西宮球場 8月27日~9月5日

戦後初合宿 参加14人

全日本代表三島で合宿。7月8日より10日間恒藤、全日本学生選抜の一員となり参加。

対 全東大 23・1・10

全京大	向井	赤岡	藤本	野	恒安	山前	田	小皆	長野	麻小	友(貫)	貞
	F.B		H.B		F.W							
全東大	馬(近)	後大	松	海(須)	横(老)	黒(山)	加(津)	二(三)	高(上)	大(橋)	早(谷)	山(種)
	波	藤	貫	元				官	橋	川	崎	

	学	神大	関	京	阪	神商
関学	\	5-1	2-1	6-1	17-0	8-1
神経大	×	\	3-3	1-0	9-0	4-0
関大	△	×	\	5-2	18-0	16-0
京大	×	×	×	\	5-0	3-3
阪大	×	×	×	×	\	○
神商大	×	×	×	△	×	\

当時のチーム

小嶋 洸 (昭24卒)

終戦直後の混乱した世情をよそに農学部グラウンドでサッカー一筋に汗を流した当時がなつかしくてなりません。一緒に走り、語った数多くの皆さんの面影を思い浮かべております。

当時は常時メンバーが丁度11人で試合当日全員の顔が揃うまで安心出来ませんでした。昭和23年のリーグ戦だったと思いますが西宮球場でバックの遠藤さんが試合中胃けいれんで倒れ退場しましたが、サブ選手が居ら

ず再び無理をしてやってくれた事がありました。

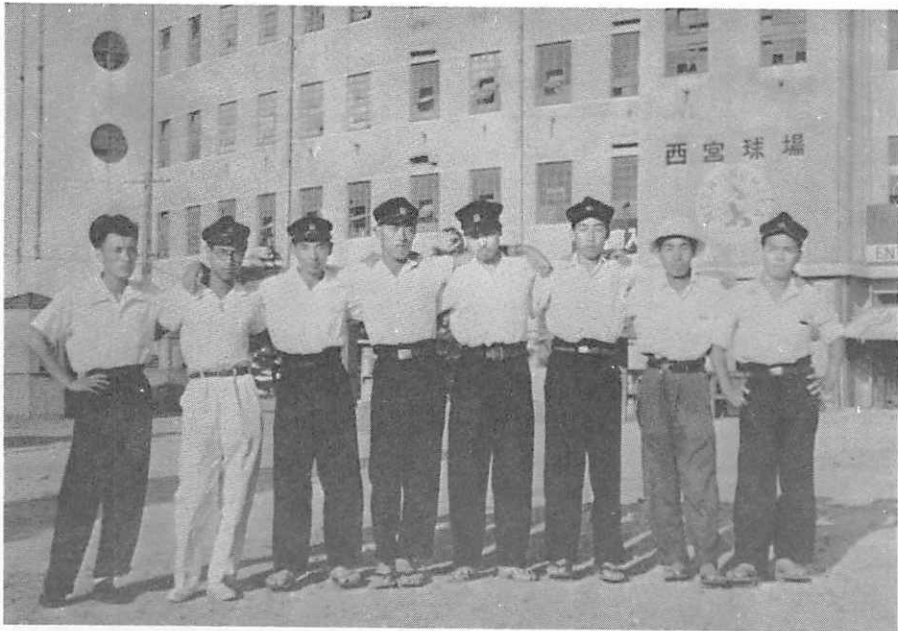
あのファイトの彼が名簿によりますと亡くなられた様で遅ればせながら冥福を祈りたいと存じます。

その他数々の思い出がありますが省略させて載きます。

卒業以来の御無沙汰お許し下さい。宮仕えの身で諸々を転々とし昨年10月から松江に来て居ります。

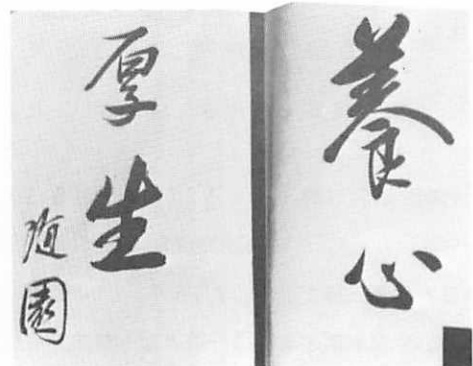
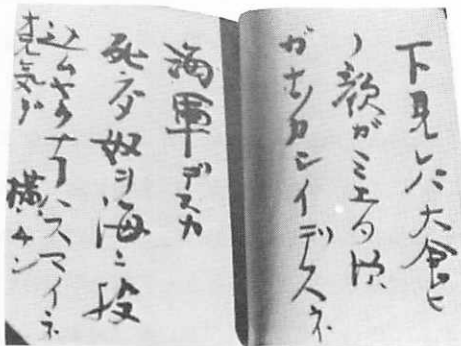
昭和28年 戦後第1回合宿 於西宮球場

恒藤氏提供



藤 深 恒 岡 田 小 明 小
田 山 藤 本 部 山 橋 昌

鶴さんへの寄せ書 続き



昭和24年度

合宿名 張

監督 安居 律 C 深山莊二郎 M 河村篤彦

関西学生リーグ

	勝	敗	分		得点	失点	
1) 関大	4	0	1	京大	0	0-4	6 関大 11・6 西宮
2) 関学	4	0	1	京大	0	0-1	2 関学 11・12 //
3) 神大	3	2	0	京大	0	0-0	3 神商大 11・24 //
4) 神商大	2	3	0	京大	2	0-2	2 阪大 11・20 //
5) 京大	0	4	1	京大	0	0-1	1 神大 11・27 //
6) 阪大	0	4	1	京大	5	1-1	4-0 1 阪大 順位決定戦 //

第7回朝日招待

全京大 2 (1-2 / 1-3) 5 全文理大 1・9
西宮

対 全文理大

	G.K	F.B	H.B	F.W
全京大	向	安遠	唐深赤	井小 小恒友
京大	井	居藤	原山川	上野山藤貞
	O	O O	O O	O O
	B	B B	B B	B B

第1回同志社大定期戦

京大 1 (0-2 / 1-0) 2 同志社大 5・22
京大

復活第1回東大定期戦

京大 1 (0-0 / 1-1) 1 東大 東大
京大 1 (0-0 / 1-0) 0 教育大 東京体育大

対 関西大

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	遠岡	長深波	大伊小恒西	
大	橋	藤本	井山谷	石藤山藤田
関大	南山	西山中	恒和伊高乙	
大	納	木村	村形岡	藤田藤田洋

第2回同志社大定期戦

京大 10 (3-0 / 7-0) 0 同志社大 10・30
京大

対 関西学院大

夏季合宿 名張遊園地 8月27日～9月
4日 参加者 O.B 6人 現役 12人

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	遠岡	長深波	大近小恒西	
大	橋	藤本	井山谷	石江山藤田
関学	松	岡諸	三神山	木長鶴柴工
	田	村田	田田田	村沼田田藤

昭和24年 復活第1回東大定期戦

於 東大御殿下グラウンド

恒藤氏提供



波谷 長井 河村 — 近江 — — 越智 —
 — 遠藤 — 恒藤 — 西田 — 大橋
 — 岡本 — 深山 — 大石 — 小山 —

昭和24年 夏季合宿

於 名張

恒藤氏提供



藤田 恒藤 大橋 西田 小山 深山 遠藤 波谷 長井 大石 河村

往時茫々

明橋 八郎（昭25卒）

昭和50年が創部50周年ということであれば、小生ら昭和25年卒業組は丁度真中で卒業したことになる。

大学入学後、午前は講義、午後は実習と追いまくられ、朝は5時半に家を出、夜は8時、9時に帰宅といった単調な生活に飽きはじめていた小生は、ようやく大学生活に馴れはじめたこともあり友人の後を追って22年の秋入部した。名門京大サッカー部とは云え、当時は食糧事情もきびしく——学生食堂のひる飯は茶碗一杯の米飯と底の見える味噌汁一杯、ときに飯の代りにコッペパン1個という有様——、その影響かどうか定かでないが、構成メンバーはイレブンをようやく超える程度で、新人の小生も早速秋の定期戦に狩り出される仕末であった。しかし、晴れた日は大文字が、叡山が手にとるように青空にくっきりと峻線を見せ、練習に疲れ、芝生にねそべって空を仰いだときには、京都に来たという感慨が強く胸をついたように思われる。

2回生の春からは期待されたメンバーも揃い、先輩も大変な肩の入れようで、この時はじめて京大サッカー部歌を教えられ、寮歌とは縁が切れたと思っていた所、何とも複雑な気持がしたことと、一方高校時代、部の先輩をもたなかったために分らなかったその有難さ、また同時に荷の重さを感じたようである。

その年の夏、西宮球場での合宿最後のOB戦で左足を蹴られ、下手糞とどなられて「スミマセン」と謝まり、内出血で1カ月自宅療養。引続いての旧制高校最後のインターハイの手伝、さらに秋のシーズン入りと講義に出るひまがなかった。翌年卒論の実験に入った講座が丁度この時の実験をさぼった講座でその助教授にお前の顔は余り見たことがないと云われたことなど。

4分の1世紀を隔てた今日でも鮮かによみがえって来る。残念といえば小生のクラスメートの一人のように——彼は農学部農林化学科卒といわず、ラグビー部卒という——は徹底せず、何事も中途半端であったことであろうか。

回想のサッカー

藤田 勇雄（昭25卒）

私がサッカーを始めたのは、京都二中に入学した年からであった。

当時の京都二中サッカー部は同好会から部に昇格した時であり、その実力は極めて低いものであった。この様な境遇下にあったことから新入部員であった同級生達は「必ず自分達の時代に全国大会に出場する」ことを心に期していた。そうしてこの悲願は8年にして実現した。当時5

年制の中学に於いて3年生を主体とするチームでは全国大会では如何ともし難く結果は1回戦で惨敗を喫したが、私にとってそんなことはどうでもよく、中原に駒を進め得た満足感の方が大きかった事をはっきり記憶している。

京都二中から秋田鉱山専門学校に進学したが在学途中で敗戦を迎えた。当時秋田県にはサッカーチームは一つもなかったが、私は数人の友人と共にサッカー部をつくり、秋田蹴球協会を作る準備委員の仕事や、中学校にサッカーを普及する事に没頭した。新設の秋田鉱山サッカー部は4名の経験者がいるに過ぎない素人集団であったがやはり全国大会に出場する事を目標と定めた。戦後復活の第1回のインターカレッジの東北・北海道地区予選では決勝戦で東北学院に2対0で敗退して全国大会出場の夢は消えたが東北学院が全国大会でも優勝したことで満足であったし、秋田鉱山サッカー部も養成期間が2年に満たなかったことで挫折感もなかった。

秋田鉱山卒業後京都大学に入学した私はやはり当然のようにサッカー部に籍を置いた。京大サッカー部に籍を置いた。京大サッカー部は私にとって初めて所属する伝統あるチームであった。しかし伝統あるチームの一員となった私は初めて目標と云うものを考えることなく8年間を過ごした。

京大卒業後岩手県の八幡平に近い山深い松尾鉱山に就職したがここでもサッカー部を新設すると共に岩手蹴球協会の仕事とオール岩手チームの結成、高校に対するサッカーの普及活動を、その後早稲田大学監督となった工藤氏と共に実施した。当然の事ながら松尾鉱山サッカー部もオール岩手も経験者の少い粗末な戦力であったが共に全国大会に駒を進めることを目標とした。

一足先にオール岩手は国体に出場し8位決定戦にまで進出した。松尾鉱山サッカー部も8年目に実業団全日本選手権大会に出場することを得、その後8年連続出場を果すのであるが私は、私にとって、もう一つの目標である学位論文を完成させる為昭和32年長いプレイングマネージャー生活に終止符を打った。その後松尾鉱山の斜陽化により私も神戸製鋼所に移ったがここには既設のサッカー部が存在した。しかしそのサッカー部が勝とうが負けようが私には何等の感慨もいまま現在に至っている。

私のサッカーの選手生活は20年に達するのであるが思い返せばその間私は私自身が選手としてより高い技術水準に到達する為の努力は全くしていないことに気付くのであり、また全国制覇と云う様な高い目標を一度も持たなかった事にも気付くのである。そうして京大サッカー部の様な伝統あるチームや神戸製鋼サッカー部という既成チームは当然のことながら他人がつくり他人によってのみ培われたやり方があるが、私はこのようなチームに必ずしも愛着を持っていなかった様に感じられるのである。やはり私はサッカーそのものにも愛着を持っていたのでもなく、素人集団を組織化し、個人戦力の向上よりも総合戦力を高める過程に興味がありそのことをサッカーと云う場を借りて実施することに無上の情熱を注いで来たことに気付くと共に、私は私の組織

したチームに対してのみそれが如何に粗末なチームであったとしても、色々のものに愛着を感じていたに過ぎない事に気付くのである。

昭和25年卒業の人々



岡本 彰 郎 (昭25卒)

〈 恒 藤 武 君 〉

昭和21年、第2次世界大戦後、第1回のインターハイが東西に分けて東は東大、西は京大の主催で開かれた。私は旧制松江高のFBとして京大主催のトーナメントに参加した。それが京大農学部グラウンドとの出会いであり、更に云うなら恒藤武氏との一方的な初対面でもある。彼は既に京大蹴球部のマネージャーとしてインターハイを主催する側にあった。黒い詰襟の学生服を着、背筋を延して大股に歩く彼の風貌は、よく印象に残った。翌年、私も京大サッカー部に籍を置くことになり爾後3年間昭和25年春仲よく卒業するまで引続き大変な世話になった。ちなみに云うと彼は昭和18年10月に京大に入り途中兵役に従事したとはいえ6年余に亘って学生生活を満喫している。

先輩であり、同輩であるという複雑な関係は同輩であるが故の気安さと、先輩だから甘えてもよいという頼り甲斐もある。彼は「岡本」と私を呼び、私は多少敬意を込めて「恒さん」と呼ぶ。「恒藤」でもないところがミソであり微妙なのである。

事実恒さんを抜にして、昭和20年代の部史は語れない。私などはグラウンドを駆けずり廻るだけの単なる役者に過ぎなかったが、彼は役者であると同時に、サッカー部そのものを演出した人であるといえる。

事実、関西学生蹴球協会をはじめ、東大その他もろもろの渉外関係は、すべて彼をぬきにしては考えられなかったし、部費かせぎの為甲子園球場のアイスクャンデー売りや、新劇「破戒」の切符売り、四国は松山への米の買出etc. 今から思えば、マネージャーたる彼の裁量にまつところが多い。そう云えば、道頓堀で街ゆくメッセンに盛んに切符を売りつけさせられたのは、役者である私達であったが、結構、楽しんでいただようだ。

恒さんについては、特筆すべきことがもう一つある。即ち彼は独眼流サッカーマンなのである。私なら恐らくいじけてしまいそうな大きなハンディと思うだが、彼は無類に明るく、屈託がない。だから私達は彼の独眼を殆んど意識しないでやって来た。然し本当いうとこれは大変な努力に違いない。古今東西サッカーマンで「恒さん」以外に独眼流がいたら教えて欲しいものだ。更に云うならば当時彼はオールジャパン候補選手の合宿メンバーに選ばれるまでに心身を鍛えている。努力の男である。

当時のサッカー部周辺のことは「恒さん」という生字引が居るので、あえて古い記憶をたどる気はない。ただ私には学生生活の終りを記念する共通の思い出がある。それは当時としては全く風変わりな無銭旅行、囊中3,000円、2人で6,000円の気ままな旅である。昭和24年ある夏の夜、天王寺から南紀行の列車に乗り、潮の岬、那智、木之本、新宮を経廻って紀伊半島中央部の十津川村をさ迷い最後に竜神温泉で重なる不眠と疲労のために私がダウンするまで、小学校の宿直室、農家、中学生の勉強部屋、那智社の神殿、果てはプロペラ船のキャビンなど泊り歩いた8泊8日の旅であった。彼は竜神から更に高野山まで踏破しようと元気であった。恒さんは何かの時、最後まで生残れる男のようだ。

ところで彼のサッカーだが、所謂、華麗さはない。地味である。ストライドが大きい。大きいからゆっくりに見え重い感じがする。そして相手にぶつかりながら抜いていく。垢抜けした感じはないが、不思議とボールが逃げてしまわない。50周年を迎えて京大サッカー部の監督である。生真面目過ぎる程真剣で、理論派で話し好きだから適任ではあるが何せ私より若干年上である。プレーすると相変らず私などより元気だが彼もそろそろ後進に適当な人物を物色しているようだ。監督生活も昭和43年からだから随分と長い。その意味でも戦後の京大サッカーは彼抜には考えられないと思う。

<明橋 八郎>

いま、独眼流のことを書いたが、恒さんの場合幼い頃、鉄で誤って突いたとかでくわしい事情は知らない。だがここに宇和川孜とって私の身代りみたいに片眼を失った男がいる。彼のサッカー部在籍は極く僅かだったが明橋と同じ大阪高校出身であり3時の練習開始まで法文系の私達は毎日のように何所かで出会い暇つぶしに藤本典秀氏や明橋の研究室をデスターブしたものである。

明橋は無類に人がよい。うるさくてもうるさいと云わぬ男である。彼の怒った顔はみたことがなく、むしろ蛍光灯的にオットリとした風貌があり大人^{ガイジン}の相をそなえている。

この日例によって明橋をデスターブしようと誘われた私は珍しいことに午後の講義を聴く気になり宇和川は止むなく1人で出向いていった。この辺りの運命の神の演出は皮肉である。明橋の実験室で駄弁る中、彼はそこで爆発事故に遭遇する。大音響と共に実験のフラスコが爆発し窓ガラスが吹飛んで大騒動になった。フラスコの破片が2人の顔に無数に突きささり、肉に喰い込んだ。明橋はご承知のようにサッカーマンらしく色浅黒く、のちにガラスの破片を摘出してもそれ程の変りようは見られなかったが、宇和川は白皙、しかも眼の奥にささったガラス片が彼の右眼の視力を奪ってしまった。失明である。

事故の数十分あと、グラウンドへの途次農学部を横を通り事故のあったことを耳にしたがまさか明橋の部屋で起ったとは考えもしなかった。あとでその事実を知り愕然とした。運命の細い糸さ

ばきの恐ろしさをこの時程痛切に感じたことはない。

これは昭和24年10月、3回生のときの話である。

事故のあと、明橋にミスのなかったことが判明したとは云え、彼は友を傷つけたことを非常に悔み、自分の傷を忘れて宇和川の容態を気づかっていた。うらやましい友情というべきである。

ところでサッカーにおける明橋はHBとしてシャープさこそなかったが常に牛の如きネバリでグラウンドを走り廻っていた。そういえば我が年代の京大には一人として華麗なるプレーヤーはいなかったようだ。

<遠藤隆一と越智修二>

遠藤と越智は共に旧制松山高よりやって来たが面白いことに2人のサッカーは全く異質であった。

遠藤はFBで駿足を誇っていたが宙を飛ぶ如くよく、ボールをキープした敵と豪快なスレ違いを演じた。そんな遅疑速巡のないスレ違いは京大を窺地に陥入れながらも、あまりの徹底さにスカットして小気味よいものがあった。私は逆サイドのFBだったが彼のスレ違いはよく予測出来たのでそれ程苦にはならなかった。

彼は卒業後、杵島炭鉱に入社したが昭和42年9月同社に炭鉱爆発事故があり、当時担当課長であった彼は事故収拾のため坑内に入りそこで不幸にも二次爆発に遭遇し、可惜、若い命を殉職という形で閉じてしまった。竹を割ったような好男子であった。

一方の越智は頑丈な遠藤とは異り瘦身、体のどこにファイトを潜めていたのだろう。左脚ではボールを蹴らない(蹴れない?)そしてピョンピョン飛び上るようなトラップには特徴があった。ハーフを守り駿足ではないが縦横によく走り廻った。しかし大学時代から病をえていたのであろうか、卒業間もなく彼はルンゲに斃れやがてその生を閉じた。時に昭和26年、彼25才のことである。今にして思うに彼のサッカーは気力以外の何物でもなかったように思う。

<深浦秀夫>

FBにはもう一人深浦が居た。彼に遠藤の駿足があれば恐らく名フルバックになったであろう。遺憾ながら天は二物を与えなすぎた。性格通り大人しいサッカーで従ってプレーは忠実であった。文科系の多い中で工学部学生として、よくやり繰りして頑張っていた。彼については昨今のゴルフの方が見るべきものがあるようだ。

<藤田勇雄>

GKにはダンディボーイ藤田がいた。大学教授の息子といえ、いいかげん地味な男を想像するが彼は身綺麗でいつも粋なハンチングを頭にのせていた。素晴らしいファインプレーをするかと思えば、大ボカもやる。そんな時でも彼はポーカフェイスで常にニコニコ笑っていた。それが粋なハンチングとよく似合って私達には大人ばく見えたものだ。だれかが彼を「兄^{てい}やん」とあ

だ名したが彼の風貌のなにかがしかを伝えて妙だったと思う。

＜深山 荘二郎＞

あとになってしまったが私達のキャプテンは深山。恒さんと同じく京大入学は先輩である。冒頭に書いたが戦後復活第1回インターハイの時、松江高は広島高に1回戦でひどい目にあった。広島の高の荒さ加減はすぐ評判になった。それを京大在学中の先輩として指導したのが深山 荘二郎その人である。

色も黒いし、ヌーボーと口数も少いところは誠にとっつきにくい。しかも旧制広島高出身ときている。私なども当初やや警戒気味であったが人間って判らないもの、彼の象のような眼を見て気が安まった。色がこの上なく黒くそれにニキビも吹いていたので義理にも桃太郎のようなとは云えなかったがよく主将としてのきびしさも兼備していた。胴長く脚短いと云えば理想的なサッカーマンタイプだが、反面足は遅かった。然し不思議にそれを意識させなかったのは彼のサッカーに対する感が抜群に良かったからであろう。駿足の男以上にスピードがあったのは広島時代からの練習の蓄積と彼のひらめくような感性以外にはなさそうだ。いつも大久保彦左みたいな黒メガネを掛け、風采一切おこま^ていなしの風情は藤田兄やんと好対象をなすものであった。

長くもない足に敵のパスを引かけ、或いは駿足の敵と競り合ってボールを奪い取り腰を低くして敵陣に切れ込んで行く彼の姿態には時に芸術的な調和と緊張さえ見られたのである。独得な味のあるサッカーマンであった。

卒業を前にして、私達は橋本記念館（吉田山の西麓の何処か、農学部教授の橋本先生が何かの時に自分の住いを寄贈されたとか）でコンパをやった。当時全くの下戸であった私は大いに看病させられたが、皆ドブクをしこたま飲んで、挙句、彼がスキヤキか何かの大鉢に血の混ったものを吐いた。学生というのは気楽なもので面白半分^に介抱したが、吐いた本人もケロリとしていた。胸を病んで逝った越智なども酒が好きで過した方である。食糧難の栄養不足時代にサッカーをし、しかも有れば有るでこの時とばかり暴飲暴食をする。そういう点、私達の青春は恵まれていなかった。越智にしても今なら決して死んではまいと思う。

＜岡本彰郎とその頃の想い出＞

最後になったが、昭和25年卒業はもう一人居る。私である。自分の事は案外判らないもので、手前味噌になりかねない。現役時代のことなど少し緩って見よう。

昭和22年4月、京都帝国大学に入学したが東の間京都大学と名が変わった。

大学サッカー生活3年を通じ五体満足だったのは1回生の時だけである。2回生の時は6月に、練習試合で右足首にヒビが入り、インステップキックが出来なくなったし、3回生の時は秋季リーグの阪大戦でヘディングを競り合い尾骶骨をしこたま蹴られ以後全速で走れなくなってしまい、不如意なプレーに終始した。我れながらはがゆく残念であった。

講義には余り出かけなかった。朝11時頃起き出して朝昼兼用の飯を食べ、8時には農学部グラウンドに着いて居た。戦後間もなかったから学内食堂も食券制でわびしかった。街の食堂など無いのも同様ですべて外食券食堂であった。若い時に十分に腹がふくれないとわびしくて世の中が面白くない。読みはしなかったが、ケルケゴールの「死に至る病」など机の上に置いて悲想感を味っていた。敗戦で自分の価値観が潰滅してしまったので、人生にはあまり肯定的でなかったが今にして思うとサッカーが不思議と若い私を支え、私の人生を狂わせることをしなかったように思う。

グラウンドへの時間待ちによく農学部や工学部を訪れた。法人系と違い彼等は必ず自分達の持場に居たのでつい足が向き易かった。農学部には昭和17年卒の日置象一郎さん、武居さん（武居誠之君の兄さん）が居られたし前述の明橋もいた。工学部繊維学教室には2年上の藤本典秀氏もいた。私達は彼を綽名して「ジャン」と云ったが、小柄で右のウィングだった彼は頭越しにパスを出され一生懸命に走っていた。今や白髪の文字通りの紳士である。

昭和28年秋10月、姉の結婚式があり、リーグ戦と重なった。メンバーが11名しかないのでどうしても試合に出てくれんと困ると云われ結婚式だけすませ披露宴には出ずに西宮球技場へ駆けつけた。義兄たる人が枝松といって六高時代にサッカーをやっていたので私の気持をよく理解してくれたが結婚披露の記念写真に私だけが抜けているのが未だに気になる。

私が学生の頃にはカロリーが多く脂肪たっぷりなもの鯨のベーコンがあった。一寸油臭いが貴重な蛋白源であったので、おかずといえば毎日の様にこれを買って食った。またこれだけが不思議と店屋にはよく出廻っていた。山口興一さんの世話で昭和28年西宮球場に合宿した時も私が買出し係でそいつを必ず買って帰った。毎日続けたものだから、さすがに皆アブを出して「また鯨か」と溜息ついていた。私だけがウマイウマイと悦に入っていたが今にして思うとあんなヒツコイ奴をよく飽きもせず喰ったものだと思う。おかげで恒さんから「クヂラ」と綽名された。

昭和24年の夏は名張で合宿した。この夏は烈しく京都の比ではない。油照りの中で朝と夕方多少ともましな時刻を見計って練習をしたが8日程で完全に参ってしまった。そんな時皆木忠夫さんが難しい顔をして指導に見えこれは益々大変なことになったと思った。ところが翌日「ソボシス」の電報が私に舞い込んだのである。すぐ帰郷して葬式を済めたが体調がすっかり崩れていてまだ数日間合宿を残していたのにどうしても出かける気になれなかった。その後随分と長い間岡本の「ソボシス」は偽電報だということになっていたらしい。祖母の死なかった他の連中のバテようは推して知るべしだが、その後もこりずに名張で合宿した年代もあるそう。同じやるなら淡路とか、松江とか、少しでも海に近い所が良さそうに思うのだが……

在学中に朝日招待サッカー試合が2度。それに1回生の時国民体育大会の金沢大会に全京大で出場した。私達現役は1日前に到着していたが社会人の先輩の方は殆んど夜行列車で当日朝金沢

に着いた。朝まだき到着した先輩方に叩き起され寝惚けていたのを思い出す。安居さんとFBを守ったが力を出し切れない感じで名選手の多い全京大ならもっと強くないといけないと思っている中に敗けてしまった。解散後藤本ジャン氏とこれもラグビーで大会に来て居たオールジャパン選手の慶大出の北野和男さんを訪ね、途中10cm角位のマグロの切身を買って山代温泉に連れて行って貰い大いに楽しんで帰った。マグロの刺身を鰹腹食うなんて当時としては破天荒なことだった。

3回生の時恒さんの努力が実って戦後復活第1回の東大戦が東大御殿下グラウンドで開催された。折悪しく試合1週間前から風邪で発熱し私自身も大いに気を揉んだが発当日やっと熱も下り、皆と一緒に汽車に乗ることが出来た。車中私だけ横にさせて貰ったのを思い出す。東京では食糧もなく宿舎もないので各先輩の家に分宿した。よく食うのが転がり込んだのだからさぞかし大変だったろうと思う。昭和24年と云えばまだまだ食糧事情は最悪の状況である。私達は2年上の酒井重通さんの家に泊めて戴いたが田園調布の立派な家に臭いユニホームで上り込んだ記憶がある。

暫く風邪の為練習していなかったが試合当日は気分がスカッとして、とてもよく動くことが出来た。東大の姫高出身のウィングが不調だったのかも知れぬがFBとして思い通りのプレーが出来た。タイムアップ寸前まで1-0でリードしていたのに結果1-1の引分けとなってしまったのが心残りである。

それにしても記憶の不確さはどうしたものだろう。大学を出てほぼ25年になるがこんなにも記憶が薄れるものだろうか。もう若くはないと思ったら若い時の記憶までがどこかへ行ってしまった。つい昨日の事のようなのに、スコアその他もすっかり忘却の彼方にある。幸い50年史の発行に寄って細い糸を誰かが手繰ってくれることをあてにして駄文を擱くことにしよう。

座 談 会

昭和51年7月

於ユニチカ興発

出席者 皆木忠夫、竹山幹夫、向井清之、高砂
輝夫、恒藤 武、唐原友三郎

宮崎敏夫、友貞健太郎、多々観志、は仕事の都合上、横山は手違いで欠席。

向井が名古屋から色んな資料を持って来てくれた。その資料を見ながら先ず会計帳簿から。

向井 会計帳簿を見ながら、21年卒業してか

らもOBの後援会を引受けとった。そして暫く引受とった。23年迄。なさない会費だね、面白いのが残っとるなあ、なんでこんなものが残っとるか判らん。この当時麻野さんが200円寄附しとる。

皆木 21年の200円はごっつい。俺の月給85円か100円、こら、ごっつい。

竹山部長出席

ここで年代別成績を記入したノートに移る。 皆木 やってる、やってる。どっちも勝ってない。

皆木 これよく出来とるじゃないか。

恒藤 これか、これは学連の40年史を作る時、向井 昭和13年に出ている。当時はリーグ戦で1、2位にならぬと出られない。昭和14年にも出ている。それから出てない。

唐原さんがまとめられた。

皆木 これ、唐原さんが書いたのか。

恒藤 書いたのは学生、現役のマネジャーの野田雅昭君だ。

唐原 それに追加、補充をした。OBから色々向井 昭和23年に0-4で東大に敗けて。

と資料が送られて来たので、だんだん詳しく皆木 その時まで俺出とった。24年は出てない。

なって行った。

次いで古い名簿の原稿を見て 恒藤 この時は現役が半分位出た。東大との時は現役では私だけで外はOBばかりだった。

向井 これが戦後一番初めに作った名簿の原稿は現役では私だけで外はOBばかりだった。

ですもん。これをガリ版で刷った。全国の先輩に手紙を出してね、帰って来たのを集めて皆木 文理大戦は俺知らんねえ。

やってねえ。それで印刷したわけです。その向井 これは覚えとる。(22年の対慶応戦0-4で敗けた)持健さんが出た時、ガタガタ紙を麻野さんとこへ行って貰って来た。印刷にやられた。

屋に出す金なんかなくてね。戦前のこういう皆木 朝日招待サッカーと違うんだ。東西大学対抗戦だった。オタガにやられた。

名簿残っているでしょう。昭和10年から持っている。余分があったから貰って来たんだ向井 (23年の朝比奈さんの“ロミオとジュリエット”の時の資料を持ち出して) 切符売らされたのを覚えてるやろう。

が、大部大学に残っているはず。

恒藤 いや、残っていない。

竹山 残って居ないですね。

向井 (資料を点検しながら) 色んなのがおね。

ませ。

朝日招待サッカーの資料を持ち出して、 恒藤 これ古いでしょう。

向井 古い。

向井 これ見ると25年には出てない。

皆木 現役がリーグ、負けよったから。

皆木 古いことに間違いはない。22、3年と違うか。

向井 それで僕等レフェリー、ラインズマンを恒藤 とにかくね、前売券を売った記憶がある。

した。それでこれ持っているわけ。これを見それから“破戒”というの。

ると戦前からの朝日招待サッカーの成績が出向井 最後は売れなくて。阪急三の宮駅に立っ

ている。

てね。女の子つかまえて、こうやって(ジュ

恒藤 戦後、東大、文理大とやってます。

スチャー)売りつけた。

恒藤 僕は心齋橋でやった。

皆木 とにかく、こんな切符いうもん売れへん。

結局自腹切らなしようなかった。

恒藤 そう。

皆木 サッカーの切符自体そうだもん。

再び朝日招待のパンフを眺めて、

皆木 そうか当時アサヒ招待は関西でやとっ
たんだな。

向井 そうです。当時バックルを貰った。

皆木 貰ったなあ。

向井 バックル皆取られてあらへん。

高砂 よいバックルでしょう。

皆木 わりとよかったなあ、今持っとるのは天
皇杯の時の奴や。大阪クラブでね。

竹山 その頃は法科経済ばかりだね。この頃は
工学部が多いが。(戦前は法経で全員の70
%を占めていた。工学部はわずかに6%であ
った。医学部の方が7%で寧ろ多かった。昭
和21年~30年の構成は法経は34%に減
少している。文科系対理科系も4対6と戦前
の7.5対2.5を逆転してしまった。昭和31
年以降では更らに進んで8対7を越して居り
最近では27対73までなっている。その主
な原因は工学部の増加で昭20年代には22.
6%となり、その後は55.8%となり、最近
10年は59.7%となっている。一方では法
経は21%に減って居り、医学部は0となっ
てしまった。)

皆木 (横山が遅いので会社へ電話連絡してい
るのを見て)横山さんが見えるって、間違
ないか。

唐原 アカン。会社の方には居ない。家にはま

だ帰っていない。大分前に瓦斯会社を出ては
いるのだが。

皆木 ハハーン、忘れよったかな。

恒藤 (資料を一つ抜いて)これ1枚貰ったとき
ます。何故かというとな今インターハイの資
料集めしている。

竹山 今度秋にあるんだってね。(50年に行
われた旧制高校OBインターハイの事を差し
ている。51年秋に京都植物園グラウンドで行
われるまでは東京であった。)

恒藤 僕の時の資料全部ある。

向井 慶応の時だがね、あるかな。

恒藤 多分あると思うんだがね。まだ整理して
ないが。

皆木 ワシも、ある期間はね、全部スクラップ
しとった記憶がある。あると思うのだがそれ
どこに行ったか判らない。出て来ぬ。東京二
辺移っとるし、九州へ一辺行っとる。引越の
時に荷物どうなっとるか判らん。

向井 各年次毎に年史を書いとるの。

恒藤 皆たのんどるが仲々動いてない。

向井 何枚位、原稿用紙に書いたら良ろしいか。

唐原 何枚でも結構。戦績を集めて行けば50
年史になる。その方は既にかなり揃っている。
あとは思い出話なりなんなりを各年代の人が
書いたものを入れて行きたい。これが集らな
い。全然書いてくれない。

皆木 それがね、唐原さん、神戸一中の50年
史やったかな、死んだ岩谷の外に賀川浩さん
に大谷さんと新聞記者が3人居った。その3
人が必死になっとった。

唐原 それでも、2年ぐらい遅れた。

皆木 づれました。(一中出身)

高校時代やね。 註.宮崎敏夫

唐原 座談会をやるとか打合せ会をやるとかそ

唐原 それでも構わんが。

ういうことを計画したわけです。そうすると

皆木 松山じゃしょうがない、大学だよ。

皆の予定がうまくカミ合わなくて、それが仲

向井 大学の事、京都の事となると僕等ではよ

々開けなかった。座談会の故に内容も充実、

うな。松の家という旅館にたむろしとったん

頁数も稼いでいる。普通は部史だったら、試

やからな。朝日会館の横のノ わし何時も昼

合の成績を列らべ、それに経過なり新聞の批

から、練習に出て来いと云いに行ったものだ。

評を入れればそれで出来上りだ。僕が考えて

皆木 五郎さんの事書かなあかん。五郎さん

いるのは練習状況、合宿、京都の街、皆がよ

の事なら小川平にたのまなあかん。

く出掛けてトグロを巻いた場所、飲屋、飯屋、

向井 五郎さんの事なら、オガ平か藤野だね。

喫茶店、外の移り変りが判るように各年代各

皆木 海外にしょっ中出とる。今独乙。

人が重複しない様に書いて貰いたい。それに

竹山 栗山も親しかったね。

色んな人が集っているのだから十人十色その

恒藤 栗山も海外が多い。

人達のくせ、言行その他面白いのを入れたら

竹山 しょっ中麻雀しとった。関田町の麻雀屋

と思っている。

でね。

向井 信の事なんかいい材料になる。 註.野沢

皆木 栗山帰って来とったかなあ。シンガポー

竹山 五郎さんの次が信やったかな。 註.田中

ルで俺の事を話しとったと聞いた。

皆木 オールジャパンの代表選手(高校の時に

恒藤 一辺帰って来た。それからフィリッピン

六高の和辻と2人が選ばれた)

か何処かへ行っとられたでしょう。

竹山 信の時は殆んど試合してない。慶応の時

向井 地下鉄であった。

だけ。試合らしいのは。それが最後。

恒藤 現役時代OB会費を貰いに行った。略

皆木 書きたって書けん。慶応戦だけだ。

恒藤 二月位して唐原さんから電話がかかって来

向井 僕は兵隊に行く時から、戦後の初めを書

て、本田さんが急に転勤になったからお前や

くよ。友がどうせ書かないだろうから。その

れと。6月(43年)頃監督歓迎会をやるか

時代の事誰か書かないんでしょう。その次に

ら来てくれというんで出掛けた。農学部グラ

エピソードで書けばよい。信の事ならなんぼ

ンド、昔の銃器庫の所にスポーツ会館が出来

でも書ける。 註.友貞健太郎

ている。あそこの食堂でやった。入ったら超

唐原 信たのんでない、誰かたのむ。

満員なんだ。60人位居たかな。我々の時は

向井 信の事たのむなら宮カンが一番よい。僕

メンバーぎりぎり、あの頃交代出来なかつ

親しかったから書いてもよいけれど宮カンか

たから余分がなくともやれたが、全部部員だ

山カンに書かすのがよい。 註.山中 弘

というのでビックリした。聞いて見たらね、

皆木 宮カンは広島に居る。どっちかという

80人位入部して来た。その内半分位は全く

の素人だというんだね、だから夏の合宿で
皆木 竹山どないする。
んどん脱落して行って最後は全員 80 名位
竹山 何か書かなくてはね、書くことないんだ
落着くんだね。素人でもいいのもある。
が、余り試合がなかったからね。タマの試合
竹山 二谷などそれだ。蹴った事なかった。キ
皆木さんよく動いたね、練習もしないで。
ャプテンになり、彼の時に一部に復活させて
向井 練習よくやったのは貫戸、竹山。
いる。(46年卒)
竹山 練習せにゃもたぬ。
皆木 今度また落ちた?
皆木 練習出来へん、家から通うとったから。
唐原 去年落ちて今年から二部だ。
2年から下宿したが、沢村先生、選手になる
恒藤 去年天理に当たったのが不運なんだ、去年
など云うんで。
チャレンジ受けたのは関学とウチなんだ。天
竹山 当時4時から練習だったね、軍事教練の
理に関学が当ればやはり落ちて居たろう。
合間に。
竹山 関学とウチと関大、全くチョボチョボだ。
向井 僕が大学に入った17年、その11月リ
皆木 今、何処が強い?
一グ戦、無敗同志関学と当ることになり(秋
竹山 今、大阪商大だ、これは昔の大阪商大、
はトーナメントで準決勝)、1週間合宿やっ
今の市大とは違うし、昭和高商一大阪経済大
たでしょう。是非勝たねばというのでさせら
学でもない。それとは別で布施にあるんだが、
れた。所が関学では断って来たでしょう。試
戦後だんだん大きくなって来てスポーツでも
験かなにかということに試合を延ばされたこ
名を売っている。野球も強い。その外は大経
とがあった。それで合宿を解散。所が1週間
大、京都産業大学。
後に試合となり敗けてしまうた。
恒藤 二部、最終戦前、天理が神戸に敗けて、
皆木 2-8で敗けた。
1位立命、2位天理となっていた。だが立命
向井 そうだったか。
がビリの近大と当然勝てるはずであったのに
竹山 ワンサイドゲームで。それで敗けた、攻
防ぎに防がれて引分けたので天理が優勝とな
めまくった、問題ならぬ程に。
った。立命とは相性がよいから近大戦に1点
皆木 バックがもろかった。バックは小川平と
でも入れてくれていたらまた違った結果が出
竹山 だったか。小川平足が遅かった。山カン
たかも知れない。全く不運でした。立命と当
は早かった。これが右ハーフ。宮カンが左。
るものとそちらの試合を見に行かした。
関学は瀬戸これが早い。工藤といた、柴田も
皆木 関学、関大はあかんのか。
居たかな。
竹山 関学、関大無試験は取らぬ。この三者で
恒藤 戦後のメンバーじゃないか。
最下位争いをしたのだった。
皆木 予科から入っとる。
恒藤 大体大も強い。そして同大が頑張ってい
恒藤 予科から出とったのか。
る。
皆木 逆襲されたら点になっとる。

この後雑談になり田辺彦太郎さんの話から田 皆木 何んで出来たのだ。
辺五兵衛さんに移り、 恒藤 前田さんに会う会として出発した。前田
恒藤 安居さんの時代、五兵衛さんがコーチし さんの元気の内に会えるだけ会って置こうと
とったんだってね。 したわけだ。
唐原 来たよ、五兵衛さんが。ある時大谷、加 向井 それじゃこの際、発展的解消したら。
茂、福安さんなど錚々たる連中をつれて来て 唐原 それもそうだ。(51年秋に行われた植
試合をさせたことがある。 物園で行われたインターハイに集った人に意
皆木 株本さんどうしてる。元気かな。 見を聞く予定だったがそのチャンスが得られ
恒藤 一時、病気だったが。 なかった)
唐原 会社の名前は書いてないが顧問として連 続いて又雑談に入り旧制高校OBインター
絡を受けている。 ハイの話に移った。
恒藤 三春会の帰りに株本さん達の心やすくして 皆木 インターハイ又あるって。
居た料理家へ安居さん達10人程で出掛けた 竹山 今度、続いて秋に関西でどうかと云って
ことがある。その時菊水から連絡して教えて 来ている。
貰ったことがある。(三春会は48年、四条 向井 名古屋でやれと云ったんだ。中間で便利、
の大丸前のトンカツ屋でやったの最後、49 宿屋もあるし。処が東京と京都しかやってな
年は50周年祭に振替、50年は旧制高校イ いと云われた。その通りだ。
ンターハイが東京で行われたので皆それに出 皆木 どこが優勝したの、松本優勝?
掛けることになればそれとカチ合うので云い 竹山 水戸、早高三すくみになって、抽選で何
出せなくて立消えとなった) 処かになった。
唐原 三春会だがね、最初は古い人だけでやっ 恒藤 ウチ(水戸高)が持っている。
た。初会のあと続けるなら誰々を呼んだらよ 向井 松山は松本に敗けた。
いかが問題になり、僕を基準にして昭和15 竹山 あれは人数で勝つ。
年までということになった。だんだんやって 向井 多々君久し振りに会った。宗田来たって
いる内、戦前卒まで延び、最近はもっとふや かなあ。
せとなって来た。それで考えねばならぬのだ 恒藤 安居さん来たってがドクターストップで
が。25年卒まで延すかどうか。 やれぬとって居た。
恒藤 旧制高校出身までとすれば29年の大羽 皆木 いや、結局 脱いだ。
までとなる。 竹山 佐藤さんやったってね。
向井 OB総会に近づいて来て、2本立となる。 向井 佐藤さんがね、僕に、皆やっているから
恒藤 OB総会一本が好ましい。総会に集って 出なくちゃいかぬ様だ、君どいてくれ、2~
貰った方が良いのだが。 3分で替るからとって来た。

唐原 新聞記者会見ではこんな軽いものだ、ものたらぬと元気一杯に書かれている。

恒藤 この4月の宇治での総会の時に切り抜きを持って見えた。

唐原 それ預って僕が持っている。

向井 栗原さんが、1点入れられてから猛ハッスルしてね、元気や。栗原さんてうまい人だったね。僕は松高時代に初めてあった。戦争中、北支より帰って、ポケットと3日間松山に来られた。戦争の話聞いてゴツツイ人やなと印象を受けた。

恒藤 栗原さんて足一バカでかい人だったのと違いましたかね。

向井 要するにガッチリした身体や。安居さんとタイプがよく似とる。

恒藤 安居さんの方がズンぐりでしょう。

向井 いやいや、そんなことない。安居さんより栗原さんの方がカラダ付良いかなあ。

皆木 栗原さん当りが強い。

恒藤 僕の現役時代にね、戦後西宮グラウンドでねOBの何んか試合に松山から出て来て、そ

の頃東レ愛媛工場に居たから、靴がないから貸せというわけ、現役に合うのがない、僕のが十文七、何んとか入ったので貸したのだが、はいた後ガバガバになってしまった。

向井 栗原さんを昭和11年見てるわけなんだ。

僕はあのうまかった大谷、前川コンビの神商大と京大の対戦を見ている。その時は神戸一中の先輩である2人ばかりを見ていた。

それから神戸一中出身の人達の思い出話が続いて時間終了となった。

皆木 昔話になるのは仕方ないが、せっかくテープレコーダー用意して貰ったのに雑談になってしまった。

向井 もう一辺やることになっとる。そうだね、唐原さん。

唐原 うん、そうだ。

予定した人がうまく集らないので、向井が出て来れるというので、とにかく出れる人でやろう。そして又やらんかと云うことだったが結果はこれ1回で終わってしまった。

昭和25年 夏季合宿

出雲大社・日の出館

恒藤氏提供



浜本 久保 近江 ? 渋谷 岡川 西田 滝波 片山 大石
河村 押坂 若山 長井 小山 金沢 恒藤

昭和 25 年度

合宿 大社・日之出館

C 小山啓二 M 河村篤彦

関西学生リーグ

	勝	敗	分						
1) 関学	5	0	0	京大	2	($\frac{2-1}{0-2}$)	3	神大	11・5 西宮球技場
2) 神大	2	1	2	京大	3	($\frac{2-5}{1-3}$)	8	関学	11・12 //
3) 神商大	2	1	2	京大	0	($\frac{0-1}{0-2}$)	3	関大	11・17 //
4) 関大	2	2	1	京大	3	($\frac{3-2}{0-0}$)	2	阪大	11・23 //
5) 京大	1	4	0	京大	3	($\frac{1-4}{2-5}$)	9	神商大	12・2 //
6) 阪大	0	4	1						

第5回東西学生選抜

西軍 0 ($\frac{0-0}{0-1}$) 1 東軍 2・11
恒藤、深山選抜出場

対 関大

京大	近押	長岡洪	大片小若西	
大橋	江坂	井川谷	石山山山田	
	└───┘ └───┘ └───┘			
	G.K	F.B	H.B	F.W
	└───┘ └───┘ └───┘			
関大	南西	高島三	木乙前伊恒	
納	木村	田山田	村畔川藤藤	

第3回同志社大定期戦

京大 3 ($\frac{1-0}{2-1}$) 1 同大 6・4 京大
東大定期戦中止

第4回同志社大定期戦

京大 1 - 0 同志社大 秋

対 神商大

	G.K	F.B	H.B	F.W
	└───┘ └───┘ └───┘			
京大	榊	近久	長岡洪	大小大若西
大原	江保	井川谷	石山橋山田	

対 関学

京大	近押	長岡洪	大片小若西	
大橋	江坂	井川谷	石山山山田	
	└───┘ └───┘ └───┘			
	G.K	F.B	H.B	F.W
	└───┘ └───┘ └───┘			
関学	松田	三中	工玉山	木長樽柴井
	田村	藤置田	村沼谷田上	

夏季合宿 大社高校 8月下旬より10日間
参加者 小山、大石、片山、西田、渋谷、長井、河村、岡川、久保、滝波、古賀、浜本、若山、近江、押坂
(O.B) 金沢、小野、恒藤

戦後の一時代

松本 昭 (昭26卒)

	学	神	商	関	京	阪
関学	\	2-1 ○	5-1 ○	5-1 ○	8-8 ○	10-0 ○
神大	×	\	1-1 △	8-1 ○	8-2 ○	1-1 ○
神商大	×	△	\	2-2 △	9-8 ○	2-0 ○
関大	×	×	△	\	3-0 ○	6-1 ○
京大	×	×	×	×	\	3-2 ○
阪大	×	△	×	×	×	\

旧生松山高校へ入学したのは、終戦の年で京大へは28年に入学。中学のときは、サッカーをやっていなかったので、私はサッカーでは“終戦直後っ子”である。

私の中学ではサッカー部はなく、ドイツの国技といわれるハンドボールが盛んであった。私はGKとして戦争中も練習ができ、大きな大会にも出て、優勝を二度経験している。戦

争がすんで学園のスポーツが復活したとき、私は名門松山のサッカー部に入部した。中学時代のハンドボールのGKがどれだけ役に立つかという不安はあったが、松山-京大のサッカーの生活を通じて感じたことは、あまり大差はないということだった。

今こそハンドボールは7人制になって室内競技になっているが、当時は11人制で、サッカーと全く同じグラウンド、ゴールポストであり、FW、BKなどの名称も同じであった。

さて、GKは何といっても最後の関門を守り、直接失点にひびく精神的試練に耐えるポジションだということだ。敵の攻めに対して恐れることなく構え、判断力の良さを発揮しなければならない。そして野手のミスキック、ミスキャッチは許されても、GKはミスが許されないという点では共通している。さらに、両横のシュートに対しても、高いコーナーのシュートに対してもセービングの勘は全く同じである。

ただ異なる点は、投げるシュートより、蹴るシュートの方がスピードが早いのでGKとしてはサッカーの方がむずかしい。またサッカーのGKは、ハンドボールのGKのように単に球をとめるだけではすまされず、確実にキャッチしなければならぬということだ。

私は1回生のとき、秋のリーグの対関学戦で当時の小野監督からGKとして出場させていただいたことがある。場所は西宮第一球技場。当時としては珍しいオール・ローン。関学は全盛時代でその年の全日本学生の覇者である。名FW鶴田(ときた)のシュートを何回となく受けたが、私がサッカーをして後にも先にもあんなに速い球に接したことはなかった。このシュートの中で真正面の球をはじいて、こぼれ球がそのまま失点になったことを今でも思い出す。

京大では、1年間半マネージャーも買って出た。戦前や、現在の京大の人たちには物資不足の戦後当時の苦勞がおわかりになるまいと思われるので、1、2の例を話そう。

部の基金集めのことであるが、あるとき、先輩の朝比奈さん(当時関響指揮者)に頼って、大

阪で音楽会を行い、その純益を基金にしたことがある。切符の売りさばきには、阪神の企業回りをして、随分と苦勞をした。又在京の諸先輩を訪ねて直接寄付もらいに出張をした経験もある。じかに足を運ぶと何ととっても“みいり”は良い。それに、現役とOBとの戦中のブランクを取戻すには、口で伝えた近況報告は絶好のPRになったと思っている。

昭和24年の1月に、日本蹴球協会の会長の高橋竜太郎氏（後、通産大臣などをした）が、愛息彦也氏（17年卒、20年にトラック島で戦死）をしのびたいという父親の愛情から、京大の現役やOBらを大阪に招待して下さり、当時珍しかったビールをたくさん飲ませていただいたことがあった。高橋氏は、大日本ビールの社長をしておられたが、愛息が松山—京大を通じてのサッカーマンであったので、供養のために蹴球協会の会長を引受けられたのだと聞いている。

参考のために、大学へ入った23年ごろの私の日記から拾った当時の物価が、今日と比べてどうか次に記してみたい。

シューズ（3,900円）、神戸—松山船賃（104円50銭）、新聞1部（1円50銭）、京都市電1区間（2円）、ピース（50円）、葉書（50銭）、四条大宮—梅田電車賃（15円）、進々堂ミルク（10円）、銭湯（6円）、散髪（40円）、下宿室代（110円）、食事二食付下宿代（8,180円）、授業料1年間（1,800円）などである。この頃私の月間支出の生活は月間1万円ぐらいであった。

このような社会経済下で空腹を感じながらボールを蹴っていた当時の京大生の生活ぶりをご披露するのも、歴史の一駒として貴重な1ページであろう。

おかげで26年から社会人となり、中堅社員になった40年ごろから会社のサッカー部の監督をしたり、いまでも縁が続いている。そして京大のサッカー部の恩恵を大なり小なり受けているのもまことにありがたいことといわねばならない。

昭和 26 年度

合宿 南部町・菊水旅館

C 大石道夫 M 河村篤彦 (二部転落)

関西学生リーグ

	勝	敗	分					
1) 関学	5	0	0	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-4 \\ 0-8 \end{smallmatrix} $)	12	関学	11・3 西宮球技場
2) 関大	3	1	1	京大	0 ()	8	神商大	11・11 //
3) 神商大	2	1	2	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-5 \\ 0-6 \end{smallmatrix} $)	11	関大	11・17 //
4) 同大	2	2	1	京大	1 ()	3	同大	11・23 //
5) 神大	1	4	0	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-2 \\ 0-5 \end{smallmatrix} $)	7	神大	12・2 //
6) 京大	0	5	0					

一・二部 入替戦

京大 0 - 1 大阪経済大

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$) 2 同志社大 1・21

京大

対 関学

京大	河村	久保	近西	武居	平若	大片	大石
大村	保井	江田	居	岡山	羽山	山石	
	G.K		F.B		H.B		F.W
関学	生駒	平志	柴玉	井田	置上	村沼	谷田弘

春季関西学生サッカー大会

京大 7 - 1 阪大 4・29 西宮

京大 0 - 6 関学 5・5 //

第5回同志社大定期戦

京大 1 - 4 同大 7・1 京大

第2回東大定期戦

京大新制 1 - 1 東大教養 7・9 京大

京大 1 - 4 東大 7・10 //

夏季合宿 和歌山県日高郡南部町

8月24日(金)～8月31日(木)まで

恒藤、小山等が参加

この御両人が大いに鍛えたのであるが秋には二部転落した。

	学	関	神商	同	神	京
関学	\	3-2 ○	6-0 ○	4-1 ○	8-0 ○	12-0 ○
関大	×	\	△	○	○	11-0 ○
神商大	×	△	\	△	○	8-0 ○
同大	×	×	△	\	○	3-1 ○
神大	×	×	×	×	\	7-0 ○
京大	×	×	×	×	×	\

京大サッカー部の思い出

西 田 敏 雄（昭27卒）

京大サッカー部時代の思い出は、25年の歳月の彼方で処々焦点がボケたフィルムの様になっているが、断片的には昨日のことの様に鮮かに楽しい青春の一駒となって思い出される。試合での記憶は、対東大復活第1戦で小生の右からのセンターリングを、近江がクリーンシュートしリードしながら、タイムアップ寸前（時計台の針ではタイムオーバー）同点にされ残念ながら引分けに終わったこと。対同志社定期戦でゴールキーパー安達と激突しながら得点し、キーパー負傷退場後は面白い様にゴールを割り大勝したこと位である。肝心の関西大学リーグでは二部転落の戦犯となり語る資格がない。

赤土に悩まされた伊賀上野、金沢先輩の名ゴールキーパー振りを見せていただいた大社、初日から1万米走った南部での夏の合宿はきつかったが、何もかも忘れてサッカー筋に明け暮れた日々がつい先日の様に思い出され、筋肉のコリが残っている気がする。短距離ダッシュには自信があったがロングに弱く、山陰線と皆にからかわれながら一周遅れを皆木先輩に大目に見てもらったことも懐しい。

授業の方はどの講義にも色あせたノートを一冊持って出席、よく眠ったものだが、農大グラウンドの練習は欠かしたことがなかった。練習中の恒藤、深山、岡本、小山各先輩や、大石、片山、河村、長井、若山等々同時代に蹴っていた人々のプレー振りがありありと目に浮んでくる。汗にまみれた練習が終わった後、四季折々に趣きを変える比叡山の薄紫の山容が今も消えることなく、青春の血が再び燃えてくる思いである。

大 石 道 夫（昭27卒）

26年夏の合宿は南部高校でした。われわれはその前年大社で合宿しましたが、その年南部で合宿した神経大の様子が、多分双方の神戸一中出身部員のなかだちで、京大に伝えられわれわれが翌年南部に、神経大が大社でと入れ替った筈です。

その年のメンバーがないから作ってくれとの依頼を受けましたが、手許に資料もなく、その時々々のメンバーの編成をお伝え出来ませんが、GKは河村君の外に浜本君も居て代って出たこともあります。バックにはFB、HBどちらだったか覚えませんが、滝波君が加って居り、また、FWには小田君が加わったこともあります。西田君は当初はFWでしたがチームが弱体になり後方に下って貰ったのだと思います。又平岡君がRWでなくCFだったこともあります。

河村君によれば、26年の東大定期戦の前座として、新制の学生同志で試合をしたそうで、こ

の時には、長井、岩崎、志方、押坂、平岡、若山、広野、山本、武居、大友の新制組に浜本、小田、大羽、久保の旧制組が応援、入れかわりたちかわりして出場したのではなかったかと思いません。

河村君に詳しく聞きなおそうと思ひながら、彼も桜美林高校の優勝などで（桜美林高の町田市の大丸支店総務部長）忙しかろうと遠慮しているうち、とうとう今日になってしまいました。十分な資料でなく、また、返事がおそくなって誠に申し訳ございません。

今日のところはこんなことですのであしからずご了承下さい。

思い出すまま



渋谷 亮治（昭27卒）

終戦、復員（陸幼から旧制金沢一中へ）してあれこれスポーツをやり、四高に入ってサッカー部に誘われ、以来今日までサッカーが本業という事になってしまったのも、ボールが結ぶ先輩、後輩の人間関係の縁であろうか。

何時も空腹感の中での練習、試合といえば米の調達運搬の心配、はだしや地下足袋もまじって豚皮の変形した靴で、変形したボールを追っかけていたあの頃、大学に入って初めて注文のシューズをあつらえた時の嬉しさ、西宮球技場へ通う電車でキセルをして小づかいを浮かした事、最後の3年の時入替戦で敗けて二部転落した時のくやしき情なき等々、もう今になっては本当に断片的な思い出が、走馬燈の様に浮かんで来る丈である。

卒業して数年はバドミントン（京大での創部者であった）に熱を上げていたが、又友に誘われて金沢サッカークラブを創設、全日本都市対抗や、静岡国体にも出たが、間もなく引退、以来石川県協会の理事長、会長として今日まで世話役を勤め仲々抜けられそうにない。石川リーグを創って、我が社のチームの中でたまに試合をしていたが之も引退、昨今は35才以上のOBサッカーで金沢フェニクスクラブを創り年数回のプレーを楽しんでいる次第で、一昨年の金沢市民体育大会の1回戦で、ハット・トリックをなしとげたのが、最近の自慢話（但し相手は素人チーム）である。

又一昨年は金沢市の勤労青年のチームの団長としてシベリヤに行き、イルクーツク、ブラーツクで試合をして来たのも思い出深い。

家では8人の娘達と、小学校まではよくボールを蹴っていたが、今はもう成人になって夫々テニスやバスケットをやっていて、後継ぎを作れなかったのが残念だが、之からは少年サッカーを育成する方に一番注力したいと色々やっている。

原稿にならない近況報告ですが、悪しからず。

昭和 27 年度

合宿 百万辺・念仏道場

総監督 安居 律 監督 唐原友三郎 近江 達 V.C 長井 茂 M 浜本孝夫

関西学生リーグ (二部)

勝 敗 分

1) 京学大	5	0	0
2) 京大	3	2	0
3) 浪速大	2	3	0
4) 阪大	2	3	0
5) 和歌山大	1	3	1
6) 神外大	1	3	1

京大	4	-	0	浪速大
京大	3	-	0	和歌山大
京大	3	-	0	神戸外大
京大	0	-	1	大阪大
京大	0	-	1	京都学芸大

第 3 回東大定期戦

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 2 & - & 1 \\ 1 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 1 東大 7・10 京大

京大OB 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 東大LB

在関西

12・14 西宮

京大OB 2-1 東大OB // 京大

G.K F.B H.B F.W

第 6 回同大定期戦

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 同大 9・14 京大

チ ム	榑 原	滝久 波保	押近長 坂江井	(岩崎)	広志大若平 野方羽山岡	(片山)
--------	--------	----------	------------	------	----------------	------

夏季合宿 8月~9月2週間 京都、謹慎合宿

旧制から新制へ

— 一粒の麦 —

近江

達

(昭 28 卒)

戦後の混乱が漸く静まりつつあった昭和24年春、入部した途端、同じ新人の三高出の連中が上級生と友達のように振舞うのに先ず驚いた。現代の諸君には何でもないとだろうが、戦前の「長幼序あり」で教育された私には、上級生を呼び捨てにするさえ思いもよらぬことだった。年喰った彼らが中学では先輩達と同窓だったと、理由はやがて分ったけれど、兵隊帰りの3回生など「昭和生れがいる」と口に出すくらいだったから、どちらを見ても大人ばかり。そんな中でプレーすることは、最年少で神経質な私にはとてもやりづらく、気おされて萎縮したプレーになるのを、どう仕様もなかった。

それでも、復活第1回の東大との定期戦には、あいていたLWに出された。さいわい右からのセンタリングのボールを、まともに蹴るとみせて逆を狙った浮き玉シュートが巧く決り引分けた

ものの、あとで相手にいやというほど足を踏んづけられて動けなくなってしまった。その後、夢中で戦った同志社との定期戦のハットトリックでやっと膨らみかけた自信は、一部リーグが始まって、きびしいチェックに出会うと、アッという間にあとかたもなく消え失せてしまった。

当時は関西でも当りがきつかった。京大は伝統的にフェアなので、他校は京大との試合を皆喜んだものだが、よそのチームでは今なら反則にとられるプレーがざらだった。それにまだ戦後の食糧難は続いており、外食券で僅かな食事にありつく時代だったから、西宮まで試合に出かけるだけで疲れてしまう。結局、その年は一部リーグ5位。追い出しコンパで深山主将が「今年は有望な新人が入って期待していたのに」と言ったとき、申訳なくて顔をあげられなかった。私からレギュラーの座を奪ってみせる、と宣言した同期生など、あの夜の光景は今でも目に浮ぶ。

翌25年のリーグは、当時全盛で日本一を誇った関学に3得点をあげるなど、小山主将らの活躍で切り抜けたが、26年にはどうしても勝てず、入替戦で大経大に0-1で敗れ、京大蹴球部創立以来初めて二部に転落してしまった。

速因は*学制改革にあり、当時はちょうど旧制(戦前の6・5・8・3制)から新制(現在の6・3・3・4制)への移行期だった。(*勝利国アメリカの命令による。目的は将来の日本を背負って立つ人物を育成する旧制高校、帝大の解体であった)。

旧制では、中学5年から旧制高校3年を経て大学に進んだ。旧制高校への入試は今の大学入試同様に難しかったが、入ってしまえば、新制高校のような大学受験予備校と違って、青春を謳歌し「勝って泣き負けて泣こう」という生き方だったから、スポーツは盛だった。その上、京大蹴球部へ入るほどのものは、旧制高校の主将やスタープレイヤーばかりで一國一城の主といった大人が多かったので、大して練習もせず11人揃う日さえ珍しいくらいだったけれども、結構強く、優秀選手を推せん入学させて鍛える私大を凌駕した時代さえあった。(旧制大学の歴史に関連して是非書残しておきたいのは、神戸一中のことである。一流校への進学率でも中学サッカーでも全国のトップクラスを続けた神戸一中は、全国の旧制高校蹴球部への選手供給源であった。したがって京大蹴球部員にも神戸一中出身が多く、多くの名選手が生れた)。

だから、この選手供給源だった旧制高校の廃止は京大蹴球部にとって大変な痛手であり、これを境に選手のレベルは急激に落ちた。新制になると、旧制中学上級に相当する新制高校からストレートに大学に入るため、他の私立大学と全く同じ条件になっただけでなく、高校でサッカーに打込んだのでは京大に入れぬ、という状態になったからである。

27年、医学部を除いて、旧制最後の卒業生が出たあと、私が主将、新制の長井が副主将、武居が主務に命じられた。しかし、サッカーそのものに対する情熱では誰にも負けなくても、現実のサッカー界のあり方に強い疑心もち続けていた私は、よい主将とは言えなかった。

人は先ず勝敗を問題にし、そこからさか上って技術能力や鍛え方の差をとやかく言う。たしか

に、グラウンドに出た以上、そこでは何もかも忘れてサッカーに熱中しすべてを燃焼しつくさねばならない。しかし、普段の生活を見ると、京大生は勉学を第一、スポーツを第二としているが、大学の中には、勉学はそっちのけで、外国のプロ以上の練習に明け暮れしているものもある。それほど違ったものを同列に扱うこと、そういうスポーツのあり方は正しいと言えるのであろうか……。

だが成績は悪くなかった。旧制時代より小型になったが、長井、大羽、志方、広野らが活躍し、FWラインを浅くして敵のBKを引出す作戦も功を奏して、名手岡野（その後、全日本コーチ）が率いた東大にも、一部の同志社にも快勝した。ただ残念なことには、前年から台頭して宿敵となった二部の京都教育大とは、数回戦いながら引分けか1点差の惜敗を繰返し、とうとう二部で優勝できなかった。優勝した京教大は、たしか7-0くらいの大差で一部に昇格したから、京大も一部の實力は充分あったわけで、京教大について勝てなかったのは、主将の私が懐疑的で生ぬるく、将たる力量に欠けていたため、同期の諸君には心から済まなかったと思っている。

私の在学した頃の京大の先輩や選手は皆紳士で知的だった。あるいは、そういう人々が残り、そうでないものは去ったのであろう。社会に出て、いろんな人や世界に接し、人物の大きさ、広さ、深さについて感じ考える年令になってみると、つくづくそう思う。

現役の頃、よく「京大生なら、もっと頭を使え」と言われたものだ。しかし、ほんやり者の私はその意欲はあったけれども、どこに、どのように頭を使うのか、茫漠として分らぬまま、糸口さえ掴めぬまま卒業してしまった。

少年老い易く、学成り難し。あれから十数年の歳月が流れ、縁あって少年たちにサッカーを教えるようになったとき、私の胸は、少年たちに自分の二の舞をさせてはならぬ、という思いでいっぱいだった。

金沢、栗原、安居、友貞、皆木……名選手といわれたOBのプレーを見て、こういうプレーが何故私には出来なかったのか、私が知らないで彼ら知っていることは何なのか、コツはどこにあるのか、彼らはどうして自分のもてる力をいつでも十分に発揮できるのか……現役時代、何となくわだかまり、月日とともに次第にはっきりしてきた悔恨と疑問を、ひとつひとつ追究し解明して、少年たちの教育に生かすことが、私の仕事となった。

そして、この京大蹴球部から地に落ちこぼれた一粒の種子は、今や従来の日本人の枠を越えた見事な技術戦術を身につけ、自由奔放に、しかも、いかにも楽しげにプレーする少年たちの出現となって、実を結びつつあるのである。 （現枚方フットボール・クラブ・コーチ）

新制の一号

長井 茂（昭28卒）

私が入学した昭和24年は、偶々旧制の最後と新制の最初が競合した年で、しかも新制の入学は、切り換え移行準備のため7月になるといった特殊な年だった。京都市に生れ育った私にとって、京大が頗る身近な存在だったことはいまでもないが、加えて京大サッカー部には、当時、現役に旧制京都二中のア式蹴球部（当時はサッカーという言葉は定着していなかった）の2人の先輩、大石道夫（昭27、農）と藤田勇雄（昭25、理）の両兄が居て活躍されていたという事情があって、一そうの親しみを覚えていた。

こうした事情から、私は入試終了後、合格発表に先立って、サッカー部への参加を決意し、この旨を両先輩に伝えるとともに、入学式以前から練習に加っていた。京大サッカー部の新制第1号選手は、したがって、名実ともに私である。これが私の自慢である。ついでに記しておく、第2号は久保正典君（昭28、法）、第3号は滝波徹君（昭28、工）である。さらに、私の弟もまた京大サッカー部の一員である（長井博、昭32、法）こともついでに述べておきたい。

昭和24年当時のサッカー部は、10数人のメンバーを数えるのみで、練習時には10人を割ることもしばしばだった。しかし、試合当日には不思議と全員が参集し、ゲームをやると案外強かった。食べ物のない時分だったが、河村篤彦マネージャー（昭27、法）の肝入りで、よくコンパをやった。このときにはふだん滅多にお眼にかからない部員までやってきて、我らが部も大世界帯だなあと、妙なところで安心もしたものだ。教室よりもグラウンドに居た時間が長いという点では、人後に落ちないだけに、こうして文章を綴っていると感慨一しおである。とにかく部生活は楽しい思い出の最大のものである。

国鉄に入社した昭和28年には、国鉄本社チームは関東実業団リーグ第二部の有力チームで、私はセンターハーフとして全試合に出場した。このとき相手チームの慶応病院に大橋啓吾兄（昭27、医）が居て、昨日の友は今日の敵という妙な立場に立ったこと。昭和34年には金沢に勤務していて、オール金沢チームに加って、渋谷亮治兄（昭27、経）と組んで左右のサイドハーフをつとめ、天皇杯の北陸地区予選で走り廻ったこと等々。卒業後の思い出も数多い。とくに、昨年11月には国鉄の全国大会を金沢で開催し、渋谷兄のひきいるオール金沢と私のひきいる全国鉄OBチームのゲームで技を競ったことなどは、実にすがすがしい思い出である。

私は現在、全国鉄サッカー連盟副会長として、全国に40を超えるチームを結成し、10,000人をはるかに超える選手諸君の育成に努力している。日々に成長する選手をみているのは実に嬉しいことだが、これも、私を育ててくれたサッカー部に対する御恩返しだと考えて、今後ともいささかなりともサッカーの発展に寄与したいものと念願している次第。最早現役というには年

をとりすぎたものの、女房よりも付き合いのはるかに古いサッカーだから（35年にもなる）、死ぬまでボールを蹴りつづけるぞという気概だけは持ち合わせている心算である。

京大サッカー部の発展と、現役諸君の奮闘を祈るや切。



サッカーと私

— サッカーは私の恋人 —

片山栄三

（昭28卒）

サッカー — 脚と心臓が続いたら、こんなに面白いスポーツはない。ボールがフィールドの何処にあらうと、全神経を集中して敵と味方の瞬間の動きを読みとり、マンツーマンの敵のマークを何10分の1秒の出足の差で振り切って有利なポジションに走り込むスリル。常に機敏に流動する11人の有機的な連繋プレイは将に芸術である。

私達の大学時代は戦後の時代でもあり、サッカーも今程一般に普及していなかった。サッカー部員総員11名、これでは欠席も出来ないと言うこともあった。それでもサッカーは面白くて楽しかった。

私は大学卒業間際に親爺に先立たれ親爺の仕事の跡を継いだ為に、卒業後は残念乍らサッカーをプレイする機会に殆んど恵まれなかった。所がそうなると余計にサッカーに対する恋はつもの。何年かに一度の機会でもよい、その時にサッカーがプレイ出来る様に私は常に肥満体にならぬ様に心掛けた。そしてその一度の機会に恵まれると、何ヶ月も前からそれこそ恋人に会う時の様に待ち遠しい思をしたものだ。

今でもその気持ちに変わりはない。併し残念乍ら50才ともなると流石に脚も心臓も云うことを聞かなくなって来る。おまけに老眼がボールの目測を見誤る。とても若い人と一緒にプレイは出来ない。それでも私はサッカーをやりたい。恐らく此の気持ちを私は一生涯持ち続けるだろう。まこと脚が弱り果てたら、私は杖をついてでもサッカーをやるつもりだ。

久保正典（昭28卒）

大学時代の思い出というと、サッカーに関することが殆んどです。戦後の混乱期でもありましたし、学業の方はサボリ放しで、グラウンド通いのみ熱心にやっていましたが、今となってみると懐しい限りです。

私は、選手としては相当レベルの低い方でしたが、私達が上級生となった当時の京大サッカー部は、部員の数がどん底の状態で、試合当日にメンバーが揃うかと、心配する程の有様でしたから、私のような者でも試合に出して貰うことができました。

3回生の時、不名誉にも二部へ転落し、最後の1年間は一部への復帰を悲願として頑張ったの

ですが果せませんでした。それも私が就職のため欠場した試合で、よもやという相手に敗れたことが一因に思えて、未だに汚名を背負っているような気持です。

最近、旧制高校のOBインターハイが開催されていますが、京大サッカー部時代にお世話になった方々と、お会いする機会が多くなりました。

比叡山を眺めながら、無心にボールを追っていた頃が懐しいと思います。

雑 感

滝 波 徹（昭28卒）

紫こむる比叡山を仰ぎ見ていた頃は唯無心にボールの後を追いかけて、試合の結果に一喜一憂していただけであった。白雲が山頂にたなびき、中腹が突き出始めた今日この頃ではサッカーそのものに人生の流れを感じる様になって来たのも年の勢であろう。例えば試合においては必ず調子に起伏があって攻撃すれば得点する好調な時、即ちやることなすこと全て当る人生の絶好調時と、何んとか1点もやるまいと味方ゴール前で右往左往するばかりの防禦一方の時、即ち全てが裏目に出る人生の絶望時とがある。前者の時間が長くなる様努力し、苦しみながら後者の時間を耐え抜いたもののみ勝利の女神が微笑む。更に地味な練習を幾年もかかって積み重ねたものが初めて試合中のホンの数秒のワンチャンスをもにすることが出来、苦しい練習に耐えてきたものはピンチに強い所も個人個人の人生の一駒一駒に対応している。

この様に考えれば人生というものをサッカーを通して体験してきたことに此の上もなくサッカーをしてきて良かったと喜びを感じると同時に益々サッカーが難しい奥深いものに見えてならない。

縁は異なるもの

榊 原 篤（昭28卒）

卒業後、20余年になりますが、その間、残念ながら、殆んどサッカーをする機会に恵まれませんでした。

しかし、3、4年前から、小学生の息子2人がサッカーをやりはじめ、小生も時々つき合って、一緒にボールを蹴る様になりました。

息子共は、神戸の少年サッカースクールに通って居りますが、ここで同期の滝波徹君が指導員として奉仕して居られ、その関係で『お父さんが、大学の時、滝波先生と一緒にサッカーをして居たことは本当である』ことが証明され、息子共に父親の権威を大いに示すことが出来た(?)と、自賛して居ります。

小生が20余年前、京大サッカー部で、サッカーをされていてよかったと今思う充足感を、将来2人の息子共にも味あわせてやりたいと、念じて居ります。

昭和28年度

合宿 名張・大観荘

総監督 安居 律 監督 唐原友二郎 C 大羽 葵 M 武居誠之

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分					
				京大	9 ($\frac{8}{6}-\frac{0}{0}$)	0	和 大	10・11 西宮第二
1) 大 経 大	6	0	0	京大	6 ($\frac{3}{3}-\frac{0}{1}$)	1	神外大	10・24 //
2) 大 学 大	4	1	1	京大	2 ($\frac{2}{0}-\frac{0}{3}$)	3	大学大	11・2 //
3) 京 大	4	2	0	京大	4 ($\frac{0}{4}-\frac{0}{0}$)	0	阪 太	11・15 //
4) 浪 速 大	3	3	0	京大	4 ($\frac{0}{4}-\frac{1}{1}$)	2	浪速大	11・23 //
5) 阪 大	2	3	1	京大	0 ($\frac{0}{0}-\frac{0}{6}$)	6	大経大	11・31 //
6) 神 外 大	1	5	0					
7) 和歌山大	0	6	0					

第7回同大定期戦

京大 1 ($\frac{0}{1}-\frac{2}{3}$) 5 同大 5・31 京大

第4回東大定期戦

京大 2 ($\frac{1}{1}-\frac{6}{2}$) 8 東大 6・7 東大

第1回京都リーグ

京大 14-0 京工大 5・9

京大 4-1 立命 5・10

京大 1-1 同大 5・16 京学大

京大 - 学大 5・17

京大 5-1 薬大 5・24

	G.K	F.B	H.B	F.W
チ	須	武(松)	押志大	(船)長広大若平
ム	藤	居(木)尾	坂方友	(岡本)川井野羽山岡

対 立命大戦

	G.K	F.B	H.B	F.W
チ	須	武(松)	押志大	船(広)大若平
ム	藤	居(木)尾	坂方友	川(野)羽山岡

夏季合宿 9月3日~9月9日 西田、小山

近江、片山、河村指導参加。

苦しかった昭和28年度



大羽 葵（昭29卒）

昭和28年のリーグ成績を唐原友三郎先輩が教えて下さった。計算してみると、6試合4勝2敗で、得点合計25、失点合計11であった。「入れた点も沢山だが、入れられた点も沢山、近来の新記録」とのことである。このような妙な新記録については今まで意識していなかったが、当時のわれわれのおかれていた苦しい事態をふりかえって感慨なきを得ない。名門校出身の優秀な人が理科系学部にはかなりいたのに、健康上の理由などで実戦に参加してもらえなかったことは本当に残念であった。したがって大抵の試合はマネージャー共で12、3人で出かけた。夏の東大戦の翌日、東伏見での対早大戦で撮った写真によると総勢14人である。ついでながら、その時1年生だった長井君が試合後、精根つき果てて本当にいたましく写っているが、現在、彼は社会人チームのリーダーとして元気に活躍している。5月の記念会の試合でもすばらしい動きをしていて、本当にたのもしく、なつかしく思った。

卒業後20年も経ったが、あのチームのイメージは大変鮮明に残っている。得点が多かった理由は恐らく、駿足強靱の右ウイング平岡君、ベテランインサイド若山君、猛烈なスピードヘッドイングを放つ左ウイングの広野君（岸和田時代、平木隆三氏等ともまれただけあって、とにかくすごかった）、それに技と攻撃力に秀れたセンターハーフ志方君（浦和時代、全国制覇している）、確実な守備のフルバック押坂君（伊賀上野出身のベテラン）、馬力のある大友君、忠実なプレーの松尾君、武居君、須藤君等が頑張ってくれたからだと思う。

ところで、私が在学した3年間の東大戦は1勝2敗であった。京大グラウンドでの雨中戦で勝ったのだが、あの年はたしか中条氏（現朝日新聞）が東大の主将でインナーをやり、岡野俊一郎氏（昭和28年度主将）はセンターフォワードをやっていた。実力の上では東大がまさっていたように思う。同志社定期戦でもなかなかよく戦った記憶がある。ただ同大はエンジ色のユニフォームだったので、そうでなくても発育がよく体の大きい同大の連中が、色彩的にますます大きく見え、われわれダークブルーは縮小して見えるのに閉口した。

現在は部員の数も増し、優秀な選手が沢山いることはまことに喜ばしい。2年前、日本リーグの一戦のテレビ解説に岡山にいられた岡野俊一郎氏に20年ぶり会ったら、「京大も近頃はなかなか強いですよ」と認めておられ、大分、態度が変わったなと感じた次第。京大蹴球部の発展を心から祈ります。



岡本
大橋

広野
若山

松尾
船川
押坂

平岡
大羽

志方

市山須藤
大友

長井

村上
武居
(東大)
岡野

木村
児島

長井
金井

滝波
今井

昭和二八年一二月
農大グラウンド



大羽氏提供

古賀 大友 近江 大羽 武居 須藤 志方
押坂 若山 岩崎 平岡 松尾

昭和 29 年度

合宿 大社・日之出旅館

総監督 安居 監督 唐原 C 若山昌次 M 武居誠之

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分	
1) 神戸大				京大 1 ($\frac{1-1}{0-0}$) 1 浪速大 京大
2) 阪大				京大 1 ($\frac{1-1}{0-1}$) 2 甲南大 11・8 西宮第三
3)				京大 1 ($\frac{1-1}{0-0}$) 1 阪大 11・6 //
4)				京大 0 ($\frac{0-2}{0-4}$) 6 神戸大 11・17 //
5)				京大 8 ($\frac{1-0}{2-0}$) 0 神外大 11・18 //
6) 京大 1 3 2				京大 1 ($\frac{0-1}{1-4}$) 5 大学大 11・20 韮公園
7) 神外大				

第 8 回同志社大定期戦

京大 1 - 8 同大 6月 京大

対 甲南大 (近畿大会)

G.K F.B H.B F.W

チ 須 中宮 松武亀 山長広若足
ム 藤 村本 川居崎 本井野山達

第 5 回東大定期戦

京大 0 ($\frac{0-5}{0-8}$) 13 東大 7・11 京大

対 香川大

G.K F.B H.B F.W

チ 須 中東 木宮武 加長若若辺
ム 藤 村原 村本居 藤井山見

第 1 回近畿総合体育大会

京大 0 ($\frac{0-1}{0-3}$) 4 甲南大 9・2 京大

京大 1 ($\frac{0-0}{1-1}$) 1 香川大 12月 京大

対 東大

G.K F.B H.B F.W

チ 須 中宮 木武亀 長松若広松
ム 藤 村本 村居崎 井尾山野川

本年は 11 人が揃わず、試合の度に大騒ぎや
と集める状態でよくあの程度の成績で済んだ
ことです。亀崎君は無理に出て貰った人です。
合宿は小山さんの時と同じ、外に適地がな
かったからです。 若山談

昭和 26 年 ~ 29 年

武 居 誠 之 (昭 30 卒)

昭和 25 年秋の関西学生リーグで阪大が二部に転落して以来の各校の栄枯盛衰は目まぐるしい
ものとなりこの 4 年の間に阪大は更に二部からも転落し、京大もあわや三部転落の危惧さえも抱

かれた50年史上最大の苦難低調の時代であったと言えよう。

— 昭和26年 —

大石キャプテンのもと旧制、新制ほぼ半分ずつの部員構成であったが、1、2回生の殆んどが理科系学部に所属し、加えて1回生は宇治分校に属していた為全員揃っての練習は合宿を除いては非常に機会が少なかった。

しかしこのような情勢下において復活第1回の東大戦が京大グラウンドで7月炎天下盛大に行われ、OB戦、新制大戦、現役戦夫々が行われたと記憶している。

秋の学生リーグは関学、関大、神大、神商大、同大のメンバーで他校は殆んどが新制大メンバー、中でも関学は木村、長沼、樽谷、平木、生駒等当時の全日本代表級を揃えた強力チームであり、10点以上の大差で敗れ、全敗最下位の末、入替戦でも大経大に1対0で惜敗、むなしく二部転落の結果となった。

— 昭和27年 —

近江キャプテンのもと前年の汚名挽回一部復帰を目ざしたが、新入部員による戦力補強は皆無に近く、日常の練習も3、4回生主体で若いものが遅れて参加、先輩のお世話になると言った変則的状況が恒常化していた。

この年春に京都リーグが結成され同大、京学大、立命大、工繊大、薬大のメンバーでスタートし、優勝は逸したものの同大、京学大に互して可成りの成果は得られた。

秋期リーグでは京学大、甲南大、阪大、立命大、浪大と対戦、京学大、甲南大に苦戦し優勝成らず、京学大が神商大と替って一部昇格を果たした。

— 昭和28年 —

唯一の旧制在籍者大羽キャプテンのもと再起を期してスタートしたが26年当時より次第に勢を増しつつあった学生運動がこの年最大の勢力、気運となり京大学生スポーツは完全に京大学生運動に置き換えられ、第2次滝川事件、同学会解散等、練習よりピラ合戦、警官導入、ストライキ等の毎日であった。

この年から阪大は三部に転落。大商大が頭角を現わし、結局は甲南大が優勝、神大との一部入替戦を行ったと記憶している。

— 昭和29年 —

若山キャプテン(新制5回生)のもと完全な新制チームとして発足したが歴年の学生運動等による学内の荒廃は如実にチーム実力に反映されまとまった練習もおぼつかない状況であった。

二部リーグは神大、神商大、立命大、大商大、浪大の構成ではなかったかと思うが、ずば抜けた実力のチームはなく、且つこの中に於ても、あわや三部転落の危惧さえあり、唐原先輩より厳しく注意、激励されたと記憶しているが何とか神外大を降して最下位を免れ、その後の一部復帰

への手がかりを残し得たことが唯一の救いであったと考えている。

もしこの年に三部に転落しているようなことがあれば50年史に大きな汚点を残すのみならず、果して50年の歴史をつなぎ得たか否かを思うとき、真に背筋の凍る想いがする。

昭和30年 東大定期戦

於 東大

若井氏提供



足立 新田 川越 須藤 松川 木村 今永 中村 東原
加藤 宮本 松尾 長井 山本 高橋 若井

昭和30年 農学部グラウンド

木村氏提供



広野好彦氏
(30年卒)



東原 長井 山本 大友 中村
若井 若山 近江
木村

昭和30年度

合宿 名古屋

総監督 安居 律 監督 唐原友三郎 C 松尾徹郎 M 足立裕司

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分					
1) 甲南大	5	1	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{0}{2}$)	2	甲南大 10・16 韮公園
2) 立命大	4	0	2	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{2}$)	4	浪速大 10・23 //
3) 浪速大	4	1	1	京大	4	($\frac{3}{1}-\frac{0}{1}$)	1	阪大 10・30 西宮第三
4) 京大	2	3	1	京大	2	($\frac{1}{1}-\frac{0}{0}$)	0	神商大 11・7 韮公園
5) 神商大	2	4	0	京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{1}$)	1	立命大 11・18 京大
6) 大学大	2	4	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{0}{1}$)	1	大学大 11・20 西宮第三
7) 阪大	1	5	0					

京都学生リーグ

京大	棄権勝	京薬大	4・29	京学
京大	2	($\frac{0}{0}-\frac{2}{2}$)	4	立命大 5・1 //
京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{2}$)	4	同大 5・3 //
京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{0}$)	0	竜谷大 5・7 //
京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{0}$)	0	西京大 5・8 京大
京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{2}{5}$)	7	京学大 5・14 学大
京大	0	-	0	京工大 5・15 //

第9回同大定期戦

京大	2	($\frac{1}{1}-\frac{1}{2}$)	3	同大 6・5 京大
京大OB	3	($\frac{1}{2}-\frac{1}{0}$)	1	同大OB //
京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{1}{3}$)	4	立命大 6・22 //

O. B 戦

現役	4-4	O.B	6・25	京大
京大	1-2	東洋レーヨン	6・26	京大

第6回東大定期戦

京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{3}{3}$)	6	東大 7・10 東大
京大OB	1	($\frac{0}{1}-\frac{2}{2}$)	4	東大LB //
京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{1}{1}$)	2	一橋大 7・11 一橋
京大	3	-	1	南山高 8・25 南山高

近畿地区体育大会

京大	6-1	和歌山大	9・4	韮公園
京大	0-8	京学大	9・6	//
京大	1-0	洛北高	12・8	京大
京大	1-1	香川大	12・11	//

対 東大

	G.K	F.B	H.B	F.W
チ	須	木中	長宮今	高山松若松
ム	藤	村村	井本永	橋本 尾井川

対 阪 大

部生活の思い出

G.K F.B H.B F.W

木 村 博 (昭31卒)

チ	須	新中	松宮今	松市高若長
ム	藤	田村	川本永	尾山橋井井

私はサッカーの用具を、いつも生物化学研究室の実験台下の戸棚に入れておりました。これ

も、中学3年間、高校3年間、大学4年間と、それぞれの学校のサッカー部に入ってボール蹴りに親しんできましたために、大学院に入ってもやめられず、グラウンドに近い事を良い事にして、紫こめる比叡がたそがれの彼方につつまれてしまう頃まで、現役部員の人々と一緒に、キックに、パスに、汗を流す生活をつづける事しばらく、しかしながら運わるく、昭和33年6月、京大—東大定期戦OB戦に出場、その前半の途中で右アキレス腱を混戦中に切断、丁度すぐ横のポジションにおられた戸戸先輩(昭和19年卒)、近江先輩(昭和28年卒)にかついで載きタッチラインの外へ、という失態を演じてしまいました。救急車で京大病院へ、しかし病院が満員と云う事で副木をつけてもらっただけで家に帰えされましたが、この時は、今永氏(昭和34年卒)、市山氏(昭和35年卒)に大層お世話になりました。手術の1ヶ月後に外地に出ましたが、その後の経過は良く今は元気に過しております。この思い出は鮮明に残っておりまして、部員の方々の温い友情と御親切に感謝を致しております。

昭和31年度

合宿 スポーツ会館・農学部G内

総監督 安居 律 監督 唐原友三郎 C長井 博 M川越信哉

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分							
				京大	1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-1 \end{smallmatrix} $)	1	神商大	10・21	京大	
1)	甲南大	3	0	3	京大	3 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix} $)	1	大学大	11・3	西宮第三
2)	京大	4	1	1	京大	2 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 1-1 \end{smallmatrix} $)	1	立命大	11・7	京大
3)	立命大	3	1	2	京大	1 ($\begin{smallmatrix} 0-2 \\ 1-0 \end{smallmatrix} $)	2	甲南大	11・11	西宮第三
4)	神商大	2	3	1	京大	6 ($\begin{smallmatrix} 4-1 \\ 2-0 \end{smallmatrix} $)	1	大府大	11・18	〃
5)	大学大	2	3	1	京大	1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-0 \end{smallmatrix} $)	0	近畿大	11・23	〃
6)	近畿大	1	3	2	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-2 \\ 0-1 \end{smallmatrix} $)	3	甲南大	11・24	〃
7)	大府大	1	5	0						

1位決定戦

O. B 戦

現役 4 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 2 \\ 4 & - & 1 \end{smallmatrix}$) 3 O B 4・22 京大

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 1 \\ 3 & - & 2 \end{smallmatrix}$) 3 東洋レーヨン
4・29 京大

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 0 \\ 2 & - & 2 \end{smallmatrix}$) 2 O B、田辺製薬
日紡混成チーム
5・12 観

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1 & - & 0 \\ 1 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 東洋レーヨン
6・3 京大

第10回同大定期戦

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 0 \\ 1 & - & 1 \end{smallmatrix}$) 1 同大 6・10 京大

第7回東大定期戦

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 2 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \end{smallmatrix}$) 3 東大 7・8 京大

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \end{smallmatrix}$) 3 東レ 8・26 京大

京大 5 ($\begin{smallmatrix} 2 & - & 1 \\ 3 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 1 東レ 10・28 //

京大 5 ($\begin{smallmatrix} 3 & - & 0 \\ 2 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 0 香川大 12・1 //

京大 4 ($\begin{smallmatrix} 2 & - & 1 \\ 2 & - & 1 \end{smallmatrix}$) 2 京学大 12・8
西京極

対 G.K F.B H.B F.W
東大戦
大 新大 松宮今 山長高市若
片 田木 川本永 本井橋山井

対 G.K F.B H.B F.W
同大戦
大 新中 松宮今 山市高若長
片 田村 川本永 本山橋井井

対 G.K F.B H.B F.W
立命戦
大 新大 松宮今 山長高市若
片 田木 川本永 本井橋山井

夏期合宿 新設京大スポーツ会館 8月24日
より30日迄 参加者 現役18人
O B 20人

対 甲南大 (再試合)

G.K F.B H.B F.W
大 新大 松宮今 長高高市若
チ 片 田木 川本永 井 橋山井
ム

大学スポーツの伝統

京 都 大 学

サ ッ カ ー 部

(昭 31・3・24
サンケイスポーツ掲載)

サッカー部は大正18年北村春吉(大女大教授)、前田純一(阪神電鉄)が対東大戦を目標にクラブ組織で発足、今川義六(田辺製薬)、杉原七郎(死亡)、入江右三郎(東洋模範)、佐藤巍(大同生命)も続々入部して東大との戦績は引分けに持込むほか、マニラの極東大会には香川幸(検事)を送るなど花やかなスタートだった。香川は酒豪の最右翼で祇園のお茶屋から大学に通ったとか。法学士を取るのに6年かかったそうである。同じ法学部には朝比奈隆がいて一緒にボールを蹴っていたが、暇さえあれば楽譜ととっくんで練習に身がいらず、とうとう万年補欠で

卒業してしまった。

昭和4年から東西大学1位同志の対戦が始り昭和5年関西からは赤川清（第一倉庫）、加茂下良重（日本甜菜糖製糖）、永野武（同和火災）、奥野俊三（三井化学）、一藤敏男（飯野海運）の京大が関東の雄東大と南甲子園で王座を争ったのであるが2-1で惜敗した。

この試合からパスがよく回って動きの激しい近代的サッカーが行われるようになり、オフサイド・ルールも厳しくなって日本のサッカー界も著しく進歩した。その点京大は近代サッカーの温床ともいえる。昭和7年第二次黄金時代を迎え関西学生リーグに3連勝、金沢宏（名古屋放送局）中野重美（中国電力）、野沢浩（愛媛大教授）ら名選手が輩出し、同12年にも名GK岡本純一を擁して5度目の覇権を握ったが、後は関学に牛耳られ戦後は恒藤武（田辺製菓）が全関西学生選抜チームの一員に選ばれただけである。

二部時代を支える — 思い出は農学部グラウンドとともに —

長 井 博（昭32卒）

昭和22年の秋だったと思う。陽は西に傾き、美しい夕焼け空を背景に、グラウンド西端の木樹の梢が逆光の中にもはっきりそれとわかる濃緑で、見事なシルエットを浮かびあがらせていた。印象的で実に美しかった。

これは、旧制最後のインターハイのサッカー決勝戦が農学部グラウンドで行なわれ、六高が優勝した日のことである。サッカーを始めて間もない私は、六高OBの中学の先生につれられて、この試合を観戦した。試合内容はあまりよく分からなかったが、このグラウンドと周辺の景観、美しさが、なぜか記憶に残った。

昭和28年入学直後、浪人生活で走力・体力に全く自信がなく、入部をためらっていた私に入部する決心をさせたのはやっぱりサッカーが好きだからという理由のほかに、いつかはあのグラウンドでボールを蹴りたいと思っていた6年ごしの潜在的な願望が決心さえすれば実現するからであった。

入部したとき、歴史と伝統を誇る京大サッカー部はすでに一部から二部に転落していた。入学した年は二部リーグ3位、翌29年同5位、30年同4位と全く苦しい二部時代であった。学制改革の影響でか、サッカー経験者の入学が激減して、部の活動や運営に苦勞した時代だった。特に、29、30年は12ないし14名程度の部員が、京大サッカー部の歴史と伝統を守るために、少しでも良い成績を残そうと、そして一部復帰のために絶対に二部リーグの座は死守しなければと、必死の努力を続けた時代であった。

私が4回生の昭和31年、1・2回生の中にサッカー経験のある優秀な選手が増えつつあった。

また、恵まれたことに、みんなが今でいうサッカー野郎だった。数年ぶりのチャンスである。この年を何とか一部復帰の足がかりをつくる年にするため、基礎体力づくりと基礎練習に励む目的で、春の京都大学サッカーリーグ不参加を決めた。他大学からとかくの批判はあったが、これでただ一途に年間の最終目標に焦点を合わせて、春の大事な時期を基礎練習に徹することができた。この成果は案外早く確認できた。一部リーグ中堅の同大との定期戦は1対1、関東一部の東大とは3対3、いずれも引き分けた。特に、東大には過去屈辱の三連大敗を喫していたが、一拳に得点能力をも身につけて対等に戦えたことはチームにとって大きな自信となった。この年、二部リーグで甲南大と同率1位になったが一部への挑戦権決定戦で敗れた。しかし、近い将来必ず後輩達の一部復帰を果たしてくれるに違いないと肌で感じた年だった。

4年間の部活動のうち、私の思い出に残る試合は先述の東大戦である。前半CF高橋とLIの私あげた2点でリードしながら東大にジリジリと追いあげられ、後半2-3と逆転を許した。基礎練習の成果が実を結んだのはこのあとだった。RW若井が1人外して絶妙のセンタリング、左からとびこんだLW山本がGKの頭越しにコントロールされたヘディングシュートをゴール右隅に決めて追いついた。感激の試合だった。この4年間1度も勝てなかった悔やしきよりも、むしろやるだけやったという充実感と満足感を味わった。東大は敗戦チームの雰囲気だった。

こうして私には大きな思い出が残った。しかし、29、30年のどん底をひたすらに支えることで精一杯だった先輩達の努力は、そのときどきに報われることがなかった。苦しい二部時代を支えた先輩の努力の中に、私は部の伝統の重みを見る思いがする。

春は桜、新緑の東山山景。夏は青い空にそびえる比叡の容姿。秋はさわやかな緑風に群れ飛ぶ赤トンボ、夕陽に照り映える木樹と山々。冬は雪で画いた白い大文字。

現役時代の思い出は、四季おりおりの景観を楽しませてくれ、そしてわれわれの練習を見守りつづけてくれた農学部グラウンドとともにある。

昭和31年 東大戦 部室前

唐原氏提供



浜本 武居 広野 藤本 大友 安居 栗原
 日置 西田
 松本(西村) 小山 大橋 滝波 長井 木村 唐原 奥田

昭和31年8月 夏季合宿 京大スポーツ会館(新設)

若井氏提供



塩崎 市山 東原 新田 松川 大片 若井
 片野 今永 山本 木下 日比
 高 長井 高橋 川越 大木

昭和32年度

合宿 春・スポーツ会館 夏・名古屋

C 若井 尚 VC 松川迪雄

総監 安居 監督 唐原 M 藤井一男 川越信哉 足立裕司 大森志道

新旧部長交替式 4月7日 楽友会館にて 新部長 木村 康教授(医)

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分					
1) 立命大	5	1	0	京大	4	($\frac{1}{3}-\frac{2}{0}$)	2	神商大 10・20 西宮第三
2) 京大	4	1	1	京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{0}$)	0	近畿大 10・26 // 第三
3) 大学大	3	1	2	京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{2}{0}$)	2	大学大 11・3 // 第三
4) 甲南大	2	3	1	京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{0}{0}$)	0	立命大 11・20 西京極
5) 大商大	1	1	4	京大	2	($\frac{0}{2}-\frac{1}{0}$)	1	甲南大 11・24 西宮第二
6) 神商大	1	4	1	京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{1}{0}$)	1	大商大 11・30 // 第三
7) 近畿大	0	5	1					

京大 5	($\frac{3}{2}-\frac{0}{0}$)	0	鴨折高 3・31	京大	京大 4	($\frac{1}{3}-\frac{1}{0}$)	1	京学大 5・21 西京
京大 3	($\frac{0}{3}-\frac{0}{1}$)	1	城南高 4・3 //	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{4}$)	6	立命大 5・25 //

O. B 戦

現役 2	($\frac{1}{1}-\frac{1}{0}$)	1	O B 4・7	京大
京大 5	($\frac{3}{2}-\frac{1}{1}$)	2	学習院 4・18 //	
京大 1	($\frac{0}{1}-\frac{1}{2}$)	3	東レ 4・21 //	
京大 0 - 0			立命大 4・28	京学

第11回同大定期戦

京大 3	($\frac{2}{1}-\frac{0}{3}$)	3	同大 6・9	京大
京大 5	($\frac{1}{4}-\frac{1}{1}$)	2	学習院 6・22	習大

第8回東大定期戦

京大 0 - 0			東大 6・23	東大御殿下
----------	--	--	---------	-------

京都学生リーグ

京大 棄権勝			竜谷大 4・28	京学
京大 3	($\frac{1}{2}-\frac{0}{0}$)	0	府医大 4・29 //	
京大 12	($\frac{7}{5}-\frac{0}{0}$)	0	京織大 5・3 //	
京大 8	($\frac{4}{4}-\frac{0}{0}$)	0	西京大 5・4 //	
京大 10	($\frac{4}{6}-\frac{0}{0}$)	0	京葉大 5・5 //	
京大 4	($\frac{2}{2}-\frac{2}{3}$)	5	同大 5・12 //	

京大 0	($\frac{0}{0}-\frac{3}{2}$)	5	教育大 6・24	教育大幡ヶ谷
------	-------------------------------	---	----------	--------

京大 3	($\frac{2}{1}-\frac{1}{2}$)	3	東レ膳々合同軍	7・14 瀬田川
------	-------------------------------	---	---------	----------

京大 3	($\frac{1}{2}-\frac{0}{1}$)	1	南山高 8・24	南山高
------	-------------------------------	---	----------	-----

京大 3	($\frac{1}{2}-\frac{1}{0}$)	1	山城高 9・8	京大
------	-------------------------------	---	---------	----

京大 2	($\frac{1}{1}-\frac{0}{0}$)	0	東レ 11・17 //	
------	-------------------------------	---	-------------	--

京大 7 ($\begin{smallmatrix} 3-0 \\ 4-0 \end{smallmatrix}$) 0 九州大 12・15
京大

対	G.K	F.B	H.B	F.W
同大戦	大	新大	松今浅	塩市高 若
	片	田木	川永川	山 高 崎 籠 橋 井

卒業生追出会 1月18日(土) 岡崎芝蘭会館

対	G.K	F.B	H.B	F.W
神商大	大	大片	浅今市	塩市高 若
	片	木野	川永 籠	山 高 路 籠 橋 井

対	G.K	F.B	H.B	F.W
立命大	大	新大	松今市	塩浅高 若
	片	田木	川永 籠	路川橋 井

対	G.K	F.B	H.B	F.W
東大	大	新大	松今浅	塩市高 若
	片	田木	川永川	山 高 路 籠 橋 井

合宿

3月31日～4月7日 京大スポーツ会館

8月20日～8月27日 南山大G
名古屋・松風園八事半僧坊新福寺

10月11日～10月18日 スポーツ会館

11月14日～11月17日 //

多情多恨

若井 尚 (昭33卒)

☆ 昭和29年入学。宇治分校での1年間は文字どおり放縱の生活であった。やや感ずるところあり、誘いを受けていた蹴球部への入部を決めたのはその年の終わりだったと思う。

☆ 当時の京大チームはひどいものだった。イレブンが練習に揃うことはまずなかった。普通は4～5人。独りでボールを蹴った日も再三あった。

☆ 昭和30年。当然成績もふるわなかった。

まだ岡野さんを中心に栄光の残影を留めていた東大に6対0で惨敗。秋のリーグも二部4位。栗原先輩あたりが「三部に落ちるようなことがあったら解散だぞ」と歯ざしりされていた。

☆ 屈辱の日々であった。今でもはっきり覚えている。黒鬼のような宮本(昆)さんが、ワンワン泣きながら走っていた試合を。ほこりまみれの顔をひきつらせて選手を慰めていたハーフタイムの松尾さんの姿を。 註・日比(旧姓 宮本)

☆ 不思議なことだった。こんなひどいチームに賭けてみたいと思うようになってきた。一部に復帰させてやろうと考え出していた。

☆ 昭和31年春。前の年全国大会で活躍した刈谷高校選手であった大木が入学していることを知って、宇治の県神社近くの下宿に彼を訪ねた。例の調子で「ボク、勉強をしたいと思っていますので……」とかなんとか渋るのをやっと口説き落した。帰路、同行の川越とビールでさき

やかな祝盃を挙げた記憶がある。

☆ この頃多くのメンバーが集まった。大木、大片、浅川、片野、塩崎などの新入生とテニス部から引き抜いた市山(兄)、朝鮮人高から工学部に入っていた高。さらに「枯木も山の……」の観はあったが、医学部サッカーの愉快的な連中で、選手層はずいぶん厚くなった。

☆ 東大戦キックオフ直後、市山(兄)のシュートがバアをたたいた。松川がスイスイと中盤を泳いでいる。「いけるぞ」と思った。あとは取りつ取られつの大乱戦になったが、タイムアップ寸前、右からの私の大きなセンタリングを山本が実にきれいなヘディングできめて3対3の引き分け。勝てはしなかったが再建の第一歩。極めて強く記憶に残るゲームである。

☆ この年の秋のリーグ。甲南大と同率1位となり、結局、優勝決定戦で敗れた。

☆ 翌82年。さらに塩路、市山(弟)などの戦力も加り、ようやくバランスの取れたチームに成長しつつあった、私自身の気力、体力とも充実していたように思う。二部リーグ程度のバックスならトラップだけで突っ切ってゴールをねらえる自信のようなものがついてきたのもこの頃ではないかと思う。

☆ 小山先輩などからも「一部に帰れるチャンスは今年しかない」と云われ、内心我々もそう思い、燃えていた。大先輩諸氏からの物心両面の援助も厚くいただいた。

☆ 在学最後の東大戦。前日の学習院大とのゲームで田口先輩にハッパをかけられて張り切りすぎたのが不味かった。学習院大には大差で勝ったが、市山(弟)が負傷し、チームの調子も崩れた。そのためあって、本番の東大戦は拙攻を繰り返し0対0の引き分けに終わった。

☆ 終了後のミーティングで、東大の五十嵐主将が「京大戦にだけは勝ちたかった」と言った。東大もとうとう二部に転落していた。彼の気持は良く判ったし、私も同じ気持であった。これを受けて東大の竹腰大先輩が「両校のキャプテンが勝ちたかった、勝ちたかったと云っているが、勝つ方法を知っていない」とピシヤリと云われた。痛いところをつかれたとは思いが……。

五十嵐主将は翌年、赤門前でタクシー事故にあい、卒業を前にしてこの世を去った。

☆ 秋のリーグ。優勝すれば入替戦の相手は京都教育大か同志社大の筈であった。どちらも実力的にはかなり落ちており、二部優勝即ち一部昇格は誰もが認めるところであった。

☆ リーグ戦中、部員に全てを放棄してサッカーだけに集中することを要請した。皆良くやってくれたと思う。ただ私が一度、大阪からの電車に手間取って練習時間に遅刻した。その週末、大阪学芸大に思わぬ星を落すこととなった。

☆ もう土壇場であった。幸い強敵・立命大、甲南大には勝つことができた。最終戦は下位チームの大商大。これを落しさえしなければ……。

☆ 立ち上り、いきなり点を失った。死にもの狂いであった。強引に真中を割って出て1点を返したが、攻めても攻めても後が取れない。結局引き分け、全ては終わった。

☆ 翌昭和38年12月の夕刻。広島県の山奥で勤務していた私に、留年していた川越から電報が入った。「1タイ0 カッタ バンザイ」。我々が卒業したあと、強い統率力で部を樹てなおしてくれた今永主将のチームが、入替戦にも勝って一部復帰の宿願を果たしたことの報らせであった。身体がふるえだして、どうしても止まらなかった。

○

あの冬枯れの西宮グラウンドで、タイムアップの笛を聞いてから既に20年近い日が過ぎる。そして今つくづくと思う、あの時をもって私の青春の重要な部分が確実に終わったことを。試合前の昂ぶりで昼食がどうしても喉を通らなかったあの充実した日々がいとおいしい。そしてこの燃焼と挫折の記憶が、そのごの私の人生のいろいろな局面で複雑に投影している事実も認めざるを得ない。

あの時期を一緒に過ごした仲間たちも、恐らく似たような感慨を抱いて過ごしてきたのではないかと思う。

京都から仙台へ

新 田 正 弘 (昭38卒)

大学卒業後、約20年。全く速いものである。こんなに速いものとは夢にも思わなかった。勢い、大学時代の4年間と社会人としての20年間を比較することになるが、前者の印象は誠に懐かしい。何か、大切にしたいような気持になるから不思議である。格別、好きでもない勉強、それとサッカーだけの4年間、特に素晴らしい体験があったわけでもなく、卒業後社会人となってからの方が貴重なしかも意味のある体験を重ねているにも拘わらず、である。恐らく、学生時代は良かった故に、或いは青春時代であったが故に、良かったと云うことであろう。

私達が入学した時は、1回生は1年間、宇治分校へ通う時代であった。高校時代に、サッカーと入試勉強の両立に苦勞させられたせいか、大学ではあまり身体を使わぬ文化サークルにでも入って、のんびりやろうと当初は考えていた。体育のサッカーの時間に、一般の下手な学生の中では群を抜いていた(?) 松川(阪神電車)と東原(川崎重工)と知り合ったのが運の尽きであろうが、それが下地となっていて、その後の若井(山陽パルプ)に何となく騙されたような形で入部して終った。今から考えると、麻雀や酒の好きな男が誘われると断られないのと同じ心境があったらしい。当時はサッカー部も低迷の時代であつたらしく、私が初参加の練習の時には4~5人しか練習していなかった。以来、勉学の方はすっかりお留守になり、専ら農学部グラウンドと下宿とを往復するだけの破目になった。尤も、後期の試験前後のシーズン・オフには、新京極や木屋町で深夜まで痛飲することもあったが、生活のほとんどはサッカーに費し、卒業する迄、あ

と云う間のことであった。卒業の年には、二部で優勝を争うところまで進んだが惜しくも敗退。キャプテンの若井の情なさそうな顔が今も目に浮かぶ。

2～8年前、所用の機会をとらえ、京都へ10年ぶりに降り立った。農学部のグラウンドそのものはあまり変っていないが、下宿していた北白河別当町から銀閣寺へかけての界限はすっかり変貌していた。道路はすっかり舗装され、昔、私達が下駄で歩いた土の道はなく、車の多い騒々しい町になっていた。名古屋・東京・仙台へと転勤して来て、最近では東北大のキャンパスと学生を見る機会が多いが、その度に京大を想い出す。グラウンドから眺めた比叡の山、あの素晴らしい眺めも、今は目を閉じなければ見えない。最近では中学生である長男のドリブルに勝てなくなって来た。年令も、生活の場所も、ここまで来たかと杜の都仙台で昔を想い出している。

広島 の 虫 達

東 原 義 治 (昭 33 卒)

大学を卒業して17年、しかも卒業後関西勤務の期間が比較的短かったこともあり、50年史に寄せる短文を依頼されて、当時の記憶がいかに薄れているかに今更ながら驚いている次第である。したがって到底まとまったものが書ける筈のないことを最初にお断りして、以下想い出すままに幾つかの印象を記したい。

我々の現役時代は部員数、実力面からみてやはり京大サッカー部史上の谷間の一つであったと思うが、その中で何とか一部復帰への努力に燃えていた状態だった。事実、我々が卒業した翌年に見事一部復帰を成し遂げた後輩達の努力には当時我々も大いに快哉を感じたものである。

さて、小生自身にとって現役時代の想い出のうち、特に強く印象に残っているものに、2回の名古屋合宿のことがある。南山大学のグラウンドを借りて、近くのお寺に宿をとり、1日2回の山中ランニングのきつかったこと、真夏の炎天下で深山先輩の厳しい御指導、今でも青春時代の最も充実したひと時の一つとして時折り想い出す。合宿最後の夜は例の如く盛り場に出て破廉恥な遊興、Aさん、Fさん、K君などは、当時はやりの馬乗り遊びに大いに興じていたものである。たまたま、この原稿を書く前日、久しぶりに所用で名古屋に行く機会があり、一層当時の想い出が懐しかった。それにつけても、あの鋼のかたまりのような深山先輩が、1年程前の在京OBの試合では、ゴルフで腰を痛められたとかでプレーされなかったのを見るにつけ、やはり年には勝てないものだとつくづく思い知らされた。

追い出しコンパのことも楽しかった想い出の一つである。当時のアルバムを見ると、追い出される連中一人一人が得意の芸を披露しているスナップ写真がそれぞれの特徴を見事に残してくれている。若井、川越両君が最も卑猥な芸を披露し、次いで足達、高、松川、新田、小生といった

順であろうか。もっとも川越君はもう一度追い出されている筈であるから、幸せ者である。又、高君は卒業後数年して母国に帰国したが、現在どうしているだろうか。

サッカー部に入って一番驚いたことは、広島出身者のサッカー気狂い振りである。或る程度聞いてはいたが、これ程だとは想像もつかなかった。技術はさておいてその熱心さには少しオーバーな表現だが敬服させられるものがある。その最たる者に若井君、藤井さんなどが居るが、藤井さんなどは年にも負けず、医学部チームでも活躍しておられた。もちろん広島出身以外でも松川、市山、加藤君らはやはり気狂い仲間であるが、人数密度の点で広島出身者はずば抜けていた。

ゲームのことでの思い出も数多くあるが、小生に関連したことを2、3拾ってみると、フルバックをしていた小生がハーフ・ラインより少し自陣に入ったところから放ったロング・キックが直接ゴール・インして1対0で勝ったこと(残念ながら対戦相手を思い出せないが、これが4年間の現役時代に得た唯一の得点である)、東京遠征で雨降り後の関東ローム層の泥土に参ったこと、雨中戦後寺町界隈に出かけて急性黄疽にかかったことなど今では懐しく思い出される。終戦直後、小学生の頃から球蹴りを始めたが、大学に入っても殆んど進歩しなかったことは、やはり不節制と両立しないものだといふ大いに反省させられたものである。

同期の者で東京に居るのは、市山、新田両君が昨年から今年にかけて、それぞれ浜松、仙台に転勤になった今は、若井、川越両君と小生の3人になってしまった。時折、ゴルフをやったり、一杯傾けてはいるが、先輩、後輩を含めるとかなりなOBが居るので、OB戦などをもう少し頻繁にやれたらと思う。小生は、現在も会社のチームで人員不足の時など狩り出されているので年令の割には比較的多くゲームに出ている方ではないかと思っている。今年も天皇杯に参加することになっているので、オリンピック精神で張り切っている次第である。

京大サッカー部も創立50周年を迎えてその輝かしい伝統の下に、今後とも更に発展してゆくことを期待して、雑文のむすびとしたい。

昭和三年
同志社大
農学部
定期戦
グラウンド



若井氏提供

新人塩崎の左C、KをR、I高ヘディングシュート、左隅にゴール成る。

昭和32年6月 学習院大戦 於 学習院G

若井氏提供



市山 平尾

高橋

若井

昭和32年8月 夏季合宿 於 名古屋・南山学園

若井氏提供



市山	大木	平尾	塩路	三野	若井	高	塩崎	古川	片野	足達	日比	武居
		市山			今永	松川		加藤				
大片		山本			浅川	高橋	大倉	東原		川越		

昭和33年度

合宿 網野町・大和屋

総監督 安居 監督 唐原 C 今永俊明 VC 高橋三郎
M 大倉良之 藤井一男 川越信哉

関西学生リーグ (二部)

	勝	敗	分					
1) 京大	5	1	0	京大	3	($\frac{1-1}{2-0}$)	1	大府大 10・25 西宮第三
2) 大商大	4	1	1	京大	0	($\frac{0-0}{0-1}$)	1	甲南大 11・8 韮公園
3) 甲南大	3	1	2	京大	2	($\frac{2-0}{0-0}$)	0	大学大 11・8 西宮第三
4) 同大	3	3	0	京大	1	($\frac{1-0}{0-0}$)	0	大商大 11・16 //
5) 大府大	2	3	1	京大	3	($\frac{1-0}{2-0}$)	0	同大 11・28 //
6) 神商大	1	5	0	京大	3	($\frac{1-1}{2-1}$)	2	神商大 11・29 //
7) 大学大	1	5	0					

一・二部 入替戦 (一部復帰) 京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 立命大 12・7 西宮第三

O. B 戦

現役 6 ($\frac{2-1}{2-0}$) 2 OB 4・13 京大

京都学生リーグ

京大 3 ($\frac{2-0}{1-0}$) 0 府医大 4・27 薬大
京大 4 ($\frac{2-1}{2-0}$) 1 西京大 4・29 学大
京大 9 ($\frac{4-0}{5-0}$) 0 竜谷大 5・8 //
京大 3 ($\frac{3-0}{0-0}$) 0 薬大 5・10 薬大
京大 1 ($\frac{0-1}{1-2}$) 3 同大 5・11 //
京大 9 ($\frac{2-0}{7-0}$) 0 京織大 5・17 //
京大 0 ($\frac{0-3}{0-1}$) 4 立命大 5・18 学大
京大 0 ($\frac{0-0}{0-2}$) 2 京学大 5・25 薬大

第12回 同大定期戦

京大 2 ($\frac{0-1}{2-0}$) 1 同大 6・8 京大
京大 2 ($\frac{0-0}{2-2}$) 2 名古屋大 6・16 //
京大 3 ($\frac{1-0}{2-1}$) 1 大阪ガス 6・22 //
京大 14 ($\frac{6-0}{8-1}$) 1 東レ 6・27 瀬田

第9回 東大定期戦

京大 4 ($\frac{3-3}{1-0}$) 3 東大 7・6 京大
京大 2 ($\frac{2-0}{0-2}$) 2 香川大 12・6 京大

九州遠征 (18名参加)

京大 5 ($\frac{0-0}{5-0}$) 0 岩国実業団 12・14 山パル岩国
京大 6 ($\frac{2-0}{4-0}$) 0 九大 12・15 九大

対	G.K	F. B	H. B	F. W
同	大	東市	市今中	塩浅高大片
大	片	山川	山永	路井橋木野

対	G.K	F. B	H. B	F. W
東	大	東市	清今市	塩浅高大平
大	片	山川	山永	路川橋木尾

入	G.K	F. B	H. B	F. W
替	大	東市	清今市	塩浅高大平
戦	片	山川	山永	路川橋木尾

春季合宿

4月5日(土)～4月10日(木)

京大スポーツ会館 現役26名 O.B 5名

夏季合宿

8月18日(月)～8月25日(月)

京都府下網野町大和屋 33名 O.B 6名

秋季合宿

10月10日(金)～10月15日(水)

京大スポーツ会館 現役30名 O.B 2名

雪 辱

今 永 俊 明 (昭34卒)



関西学生サッカー入替戦 (7日・西宮) 33年12月8日(日) 朝日新聞

京大(二部)は立命(一部)に1対0で勝ち26年度に二部に転落して以来7

年振りに一部復活昇格し、立命は一部に一シーズンで二部へ再び落ちた。

《戦評》市山兄弟が立命フォワードをほぼ完全にマーク。グラウンドの凹凸が激しく、プレーもとまどい勝であったが前半、京大やや有利裡に1点先取(塩路)、続いて高橋のプッシュ成れど、直前キーパー・ホールディング有り得点ならず前半終了。後半 両軍とも疲労気味で乱戦となり、6、7分まで京大ゴール前に圧されるも全員ファイト良く遂に無失点。特に前半ゴールラインぎりぎりへのボールを蹴り出した東川のクリヤーは抜群であった。

タイムアップの瞬間は嬉しさと疲労が重複して奇妙な気分、多数のO.Bの方々の熱援に応え得た事を確認し得ると共に痛快な思いが湧き起った。早速、大阪梅田にて祝杯。今思い出そうとしてもどれ程、頂いたか全く思い出せない。

東大戦は前半3-3、後半1-0、4対3で勝った。(東大の4勝2敗3分) 大接戦といたい所だが、両軍バテ気味で乱戦模様。立ち上り5分で2点を失った。ボックスのコンビネーション悪く苦戦。後半無失点に終わったのは奇跡的。しかし何はともあれ6年振りの勝利、せいぜい喜ぶべし。試合後行われた懇親会は遠路参加の諸先輩も加え総員90名、盛会裡に散会。

練習ノートから

5月14日現在、新人27名の加入あり部員総数約50名、グラウンド狭く練習方法に苦慮。5月18日、対立命戦 0-4 で惨敗。もう敗るべき試合はすべて終了し、今後は夏休みまで敗られぬ試合が続く、心気一転を、5月25日 京学大にも0-2で敗る。

10月25日～11月29日 リーグ戦。内5試合は西宮第3グラウンド。隣りの第1グラウンド(一部リーグ)の喊声を耳にしつつ凹凸激しいグラウンドの苦戦、せめてメッチェンの応援でもと見廻せばキャプテンの魅力を恐れてか相手チーム側のみ散見。(数人かくれた応援もあったとか?)

12月13日～12月15日 九州遠征

京都・博多往復乗車券(学割)	1,080円
準急(岩国一門司)	120円
急行券(博多-神戸)	350円
宿泊費(一泊三食付)	300円
計	1,850円

岩国、九州方面の先輩の物心両面の支援を得て、部員への慰労も安上りで出来、何とか責任を果たせたかと、心楽しい遠征であった。

五十年史に寄せて



高橋三郎(昭34卒)

2月は13日の金曜日に突然今永兄から電話があった。今頃何事だろうと思ったところ、この原稿の話であった。丁度夕食時であったので家族を前に昔話をした。綽名の話になって説明を始めたが、雑菌だの、インノマーラーだの、グラパンだのと子供の前では説明を憚るのが出て来てやめた。

私は80年の春から84年の春までの4年間グラウンド通いをした。戦績ははかばかしくない。従ってその話はなるべく避けて通ることにする。

1回生のときは宇治分校から練習に出掛けた。ハッキリ覚えていないが精励格勤でなかったことは間違いない。2年生からは百万辺に下宿したので地の利は得たが、バイトをやったりして練習を抜けたのでみんなには迷惑をかけた。1回生のとき初めての東大戦で0対6で敗れた。私のサッカー歴の中でもこれ程の大差で敗れたのは珍しい。この試合には私も出場させてもらったのだから、よくよく人数が足らなかったということにもなる。

春の合宿のときだったと思う。2～3人の先輩が来ていて、「最近の者はどうして身体が小さ

いのだろう」といとも不思議な生き物がボールを蹴っているような話をした。これに当時の木村部長（薬学部教授）が「この子達の頃は戦時中で栄養が一番悪いときだった」と答えていた。

「成程小さいのが多いなあ」と我ながら感心したことを妙に覚えている。卒業後何回か現役の試合を見る機会があったが、試合の中身より図体の大きいのに驚いた。私は調子の良いときで58キロ、当れば素っ飛び組であったので羨しかった。大きいことは良いことだと思う（決して皮肉ではない）。

リーグ戦では当時二部にいた。観か西宮での試合が多かった。西宮では一部の連中のやるグラウンドを通り越して隣でやる。毎度のこととは言え情ない思いをしたものである。唯幸か不幸か、当時は観客が全くいなかったのがせめてもの救いであった（内心は淋しかった）。

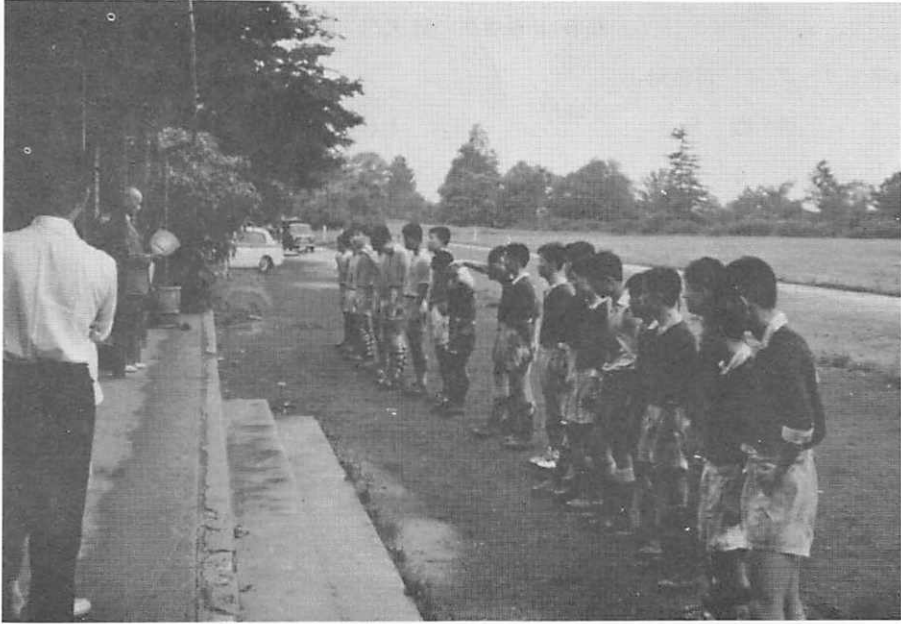
当時のサッカー部には何となく愉快的雰囲気があった。仲間の名誉のために断っておくがたるんでいた訳ではない。1年先輩の連中には秀逸なのが多かった。底が抜けている方だったと思う。名前を挙げると叱られるので遠慮しておくが当時の北白川界限は賑やかであった。下にもひどいのがいた。

西宮での試合のときだった。私が時間を1時間間違えたことがある。姉が住んでいた関係で洛北高校の近くからバスに飛び乗ったが、このバスが遅い。イライラして四条河原町でバスを降りタクシーを拾ったところ、タクシーがどうしてもそのバスの前に出ることができない。とどの詰り四条大宮に着いたのはバスのあとだった。それでもどうにか試合の前に飛び込んだ。あとでみんなに頭を下げたが、「心配しなくてもよい。デン助はいない方がいいんじゃないかと話していたんだ」とやられた。ひどい後輩もいたものである。

そう言えば4年生のときの入替戦でPKがあったと思う。それを私がやって失敗した。試合には勝って無事一部昇格を土産に卒業できたのだが、このときも「デン助のPKは失敗することになっているが、失敗したときは大概勝っている。あのPKのときも、これで勝てたと思った」とやられた。全く物の言い方を知らぬ奴ばかり集っていたものである。

入替戦に勝ったときは嬉しかった。試合に勝ってこれ程嬉しかったことは後には先にもない。この程度のことだと笑われるかも知れぬが私にとっては大事な思い出である。

私は地方生活が多いので現役からの連絡が楽しみである。勝ったと聞けば楽しくなり、負けたと聞くと面白くない。滅多に出席できぬがこういう男もいるので現役は頑張ってもらってほしい。もっとも是が非でも勝てというつもりはない。伝統あるサッカー部を潰してもらっては困るが勝敗は時の運である。楽しくやってほしい（本心は子供に「京大は一部さ」といつでも言えたら有難いと思っている）。



今永 高橋 市山(冠) 東川 塩路 大片 中島 市山(筧) 大木 浅川 片野

昭和34年度

C 大木岩根 VC 浅川皓司 大片誠記

監督 伊藤虎次 M 丸島 護 中村博記 武藤 直 藤井一男

関西学生リーグ (一部復帰)

	勝	敗	分
1) 関学	5	0	0
2) 関大	4	1	0
3) 大経大	2	2	1
4) 神大	2	2	1
5) 京学大	0	4	1
6) 京大	0	4	1

京大	1	($\frac{0-3}{1-3}$)	6	関学	10・25	西宮
京大	0	($\frac{0-2}{0-1}$)	3	大経大	11・8	〃
京大	1	($\frac{0-0}{1-2}$)	2	神大	11・15	〃
京大	0	($\frac{0-4}{0-1}$)	5	関大	11・22	〃
京大	2	($\frac{2-0}{0-2}$)	2	京学大	11・29	〃
京大	1	($\frac{0-1}{1-1}$)	2	京学大	12・4	〃

(最下位決定戦)

一・二部入替戦 (一部残留)

京大	3	($\frac{1-0}{2-2}$)	2	同大	12・6	観公園
----	---	-----------------------	---	----	------	-----

O. B 戦

現役	3	($\frac{1-1}{2-3}$)	4	{ OB 現役	4・12	京大
----	---	-----------------------	---	------------	------	----

第13回同大定期戦

京大	3	($\frac{1-0}{2-0}$)	0	同大	6・14	京大
京大OB	1-1	同大OB				〃

京都学生リーグ

京大	榎権	西京大	4・26	学大藤の森
----	----	-----	------	-------

第10回東大定期戦

京大	15	($\frac{8-0}{7-0}$)	0	府医大	5・3	〃
----	----	-----------------------	---	-----	-----	---

京大	1	($\frac{0-3}{1-1}$)	4	東大	7・5	東大御殿下
----	---	-----------------------	---	----	-----	-------

京大	5	($\frac{2-0}{3-0}$)	0	京薬大	5・10	〃
----	---	-----------------------	---	-----	------	---

京大OB	1	($\frac{1-6}{0-0}$)	6	東大LB	〃
------	---	-----------------------	---	------	---

京大	4	($\frac{1-1}{3-0}$)	1	京織大	5・10	〃
----	---	-----------------------	---	-----	------	---

近畿地区大学総合体育祭

京大	2	($\frac{2-1}{0-1}$)	2	立命大	5・16	京大
----	---	-----------------------	---	-----	------	----

京大	4	($\frac{0-0}{4-0}$)	0	京府大	9・4	藤の森
----	---	-----------------------	---	-----	-----	-----

京大	1	($\frac{0-0}{1-1}$)	1	同大	5・20	藤森
----	---	-----------------------	---	----	------	----

京大	3	($\frac{1-1}{2-1}$)	2	大外大	9・5	〃
----	---	-----------------------	---	-----	-----	---

京大	3	($\frac{2-0}{1-0}$)	0	京学大	5・23	京大
----	---	-----------------------	---	-----	------	----

京大	1	($\frac{1-0}{0-0}$)	0	同大	9・6	〃
----	---	-----------------------	---	----	-----	---

この結果同大と同率首位

京大	4	($\frac{2-2}{1-1}$)	3	神大	〃
----	---	-----------------------	---	----	---

この結果優勝

練習試合

京大二軍 8 ($\frac{2-2}{1-1}$) 3 成城大二軍
5・25 京大

京大 1 ($\frac{0-0}{1-0}$) 0 成城大 // //

京大二軍 3 ($\frac{1-0}{2-2}$) 2 西京大
6・6 府大

京大 4 ($\frac{4-0}{0-1}$) 1 神大
6・7 神大六甲

京大 2 ($\frac{0-1}{2-0}$) 1 大阪ガス
6・21 京大

京大二軍 2 ($\frac{2-0}{0-2}$) 2 ガス二軍
// //

京大 1 ($\frac{1-0}{0-1}$) 1 慶大 7・6 日吉

京大二軍 0 ($\frac{0-1}{0-0}$) 1 慶大二軍
// //

京大 2 ($\frac{1-0}{1-0}$) 0 阪大 9・9 京大

京大 0 ($\frac{0-2}{0-1}$) 3 関学 11・1 観

京大(新) 3-2 京都市役所
12月 吉祥院

対 関学

京大	市大	浅清市	平根浅塩	
大	山	山	東	
片	新木	野水	尾本井路	3 10 17 1
	G.K	F.B	H.B	F.W
				C F G P
				K K K K
関西	指黒	保山丸	佐継	清清
学	垣	吸田	田川尾	野谷
				李水水
				院
				10 9 2 0

総合戦評 (朝日新聞 大谷氏)

ダークブルーの京大が7年振りに一部に返り咲いた。5位に並んだ京学大と京大は大経大とは個人の平均水準で劣り、神大とは試合

運びで差をつけられた。共に個人技にハクがあった。京大には東、根本と判断の良い選手が居たがボックスからの押上げや決定力の不足をかこった。

対 関大

京大	今市東	浅清大	平根中塩	
大	永	山川	野水木	尾本村路
	G.K	F.B	H.B	F.W
				C F G
				K K K
関大	竹戸康	前嶋今	滝柴立松北	10 8 8
大	原	谷本	田谷川	中北花田口

対 神大

京大	市東	浅清大	平根浅塩	
大	片	山川	野水木	尾本川路
	G.K	F.B	H.B	F.W
				C F G
				K K K
神大	寺有	賀神吉	日田新越水	2 14 16
大	田	村	川田田	置中庄智落

対 大経大

京大	大東	浅清市	平根浅塩	
大	片	木川	野水山	尾本川路
	G.K	F.B	H.B	F.W
				C F G
				K K K
大経大	田植	寺西下	山神清福見	8 5 10
	中田	内谷倉	崎戸水田片	

注:メンバーは右と左が反対になっている。

ズルズルと最下位に落ちてしまった。

今、振り返ってみれば矢張り相手を甘くみたところに、我々の力を過大視したところに大きな誤りがあった。試合においてはそれは守りの弱さに端的にあらわれた。当時の下位各校の戦い振りをみると、とにかく守りに懸命で、よくて引分け、僅差で敗ればよくやった、という気持で頭から勝ちを放棄しているかの感を懐かせた。私はこれを非常に不満に思い、よくいわれる「攻撃は最大の防禦なり」との格言に従い攻めるサッカーをやる心算で臨んだために、力が分散し、守りに廻った場合、他の下位校にみられる様な粘りが不足し、防禦が薄く思わぬ形で脆くも得点を重ねられた。これが全てに悪い影響を及ぼし、攻撃的でありながら攻撃の意欲をそぐこととなってしまう。分厚く守り、耐えるサッカーを続けていけば今少しよい成績を収め得たことは確かである。今にして思えば、神戸大、京教大等が守りに徹したかの如きサッカーをやっていたのは永年一部リーグでもまれて来た彼等の生活の知恵であった訳で、悲しいかなその様な生活の知恵を身につけていなかった我々は結果としてまことに無残な姿をさらしたこととなった。確かに、耐えに耐えることにより逆襲の好機を掴むことが出来る筈であり、勝負にはそれが必要なのである。この年の京大はよく攻めた。関大戦を除いては略互角に攻め、神戸大、京教大相手にはむしろ攻め勝っていたにも拘らず、勝ち得なかったのは一にこの守りに徹する、耐える心構えが出来ていなかったことに起因すると思われ、チームリーダーとしての勉強不足を深く反省する次第である。折角に、すぐれたチームメイトを持ち戦力的にも恵まれながらこれを生かし得なかったことは本当に悔の残るシーズンであった。更に云えばそもそも練習の内容にも大いに問題があった訳であるが、この点は本文では触れずにおきたい。

私は今思うに「攻撃は最大の防禦なり」という言葉を裏返して「防禦は最大の攻撃なり」と言い換えても真実であろうと思う。その後テレビ等を通じてサッカーを見るが、守り切ったあとに好機があり守りの重要性をよく教えられる。守りに徹することは全く辛いことである。マイナスを防ぐのみで、プラスに転ずることはないかの感を持つものである。しかし乍ら、守りの中から攻撃の途を見出すのが人間の働きであり、苦境に耐える努力を重ねるうちに自ら攻撃に転ずる力を蓄え得るものであると思う。

幸にして、その後、当時の苦い体験を重ねて来た後輩の諸君がよくこれを克服して一部リーグにおいて恥かしからぬチームを作り上げて来てくれたため、私の行った失策も無駄石ではなかったと慰めている次第である。

考えてみればチーム力というのは仲々一朝一夕に充実するものではなく永年の蓄積により初めて力を発揮するもので、我々のチームはむしろ、当然の成績に終わったのだと言っても間違いではないのだが、あの時あすれば、こうすればと人間誰しも考えるものであり、そういう意味からやはり大いに悔の残るシーズンであった。

昭和 35 年度

合宿 淡路、松本、スポーツ会館

C 塩路正信 VC 平尾敏郎 市山 徹

監督 皆木忠夫 M 武藤 直 VM 児玉利恒 丸島 護 三野四郎

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
				京大	1 ($\frac{1-1}{0-3}$)	4	関学	10・31 西京極
1) 関学	4	0	1	京大	0 ($\frac{0-1}{0-4}$)	5	関大	11・28 うつぼ
2) 関大	4	0	1	京大	3 ($\frac{2-3}{1-3}$)	6	神大	11・20 //
3) 神大	3	2	0	京大	0 ($\frac{0-3}{0-2}$)	5	大経大	11・13 //
4) 大経大	2	3	0	京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$)	2	京学大	12・4 //
5) 京学大	1	4	0					
6) 京大	0	5	0					

1位決定戦 関学が勝つ 1対0

一・二部入替戦 (一部残留)

京大 4 ($\frac{1-0}{3-0}$) 0 同大 12・11
西宮市民G

第11回 東大定期戦

京大 2 ($\frac{2-1}{0-1}$) 2 東大 7・3 京大

京都学生リーグ

京大 4 ($\frac{4-0}{0-0}$) 0 立命大 京大
京大 2 ($\frac{1-1}{1-1}$) 2 同大 京大
京大 1 - 2 京学大 京大

京大は4勝2敗1分で3位

近畿地区大学総合体育祭

京大 8 ($\frac{4-0}{4-0}$) 0 神船大 9・4
奈良航空自衛隊
京大 4 ($\frac{1-1}{3-1}$) 2 甲南大 9・5
自衛隊
京大 1 ($\frac{1-2}{0-0}$) 2 京学大 9・6 //

Aブロック 準優勝

全日本天皇杯選手権関西予選 Aブロック

京大 4-1 同大 4・10 西京高
京大 5 ($\frac{2-0}{3-0}$) 0 南海電鉄
4・16 西宮第三

決勝戦

京大 1 ($\frac{1-1}{0-3}$) 4 紫光クラブ
4・17 西宮第二

第14回 同大定期戦

京大 1 ($\frac{0-1}{1-1}$) 2 同大 5・29 京大

練習試合

京大 4 ($\frac{1-0}{3-0}$) 0 住友商事
6・12 京大
京大 2 ($\frac{1-2}{1-2}$) 4 法政大
6・20 //
京大 3 ($\frac{2-1}{1-2}$) 3 紫光クラブ
6・27 四条中
京大 4 - 1 大阪ガス 京大
京大 10 - 0 大府大 京府大

対 関 学

京 大	榑 口川	榑東 山水村	市清中 山水村	平 尾	浅根 野	浅野 本	榑 本	2	12	30
	G.K	F.W	H.B		F.W			C	F	G
								K	K	K
関 学	古 賀	鳥 越	早 栗	山 中	山 柳	佐 野	前 谷	神 野	志 田	6 4 7

対 関 大

京 大	榑 丸川	中東 山水村	市清中 山水村	平 尾	浅根 野	榑 本	榑 本	4	18	10
	G.K	F.B	H.B		F.W			C	F	G
								K	K	K
関 大	竹 原	戸 谷	嶋 上	村松 田	前 田	津 北	柴 口	北 中	滝 田	8 8 7

対 神 戸 大

京 大	榑 丸川	中東 山水村	市清中 山水村	平 尾	浅根 野	榑 本	榑 本	6	18	10	
	G.K	F.B	H.B		F.W			C	F	G	
								K	K	K	
神 大	山 田	洪 谷	瀬 川	賀 川	神 田	吉 田	日 置	越 智	新 庄	小 本	8 4 14

対 大 経 大

京 大	榑 口川	榑東 山水村	市清中 山水村	平 尾	根 本	浅 野	榑 路	2	18	14 0
	G.K	F.B	H.B		F.W			C	F	G
								K	K	K
大 経 大	戎 中田	田 坂	寺 渡	下 福	松 清	高 藤	6	12	9 1	

対 京 学 大

京 大	榑 丸川	中東 山水村	市清中 山水村	平 尾	浅根 野	榑 本	榑 本	9	16	15	
	G.K	F.B	H.B		F.W			C	F	G	
								K	K	K	
京 学 大	岡 本	山 下	岡 田	三 木	坂 根	田 中	馬 越	野 口	種 村	天 野	9 21 8

総合戦評 朝日新聞（太谷氏）

京大のFWにはセンスのあるプレーを見せる選手が居たが、たくましさに欠け、単純だが強引に走る京学大に敗れ最下位となった。

	学	関	神	大	京学	京
関学	\	1-1 △	11-1 ○	2-1 ○	5-1 ○	4-1 ○
関大	△	\	5-1 ○	6-0 ○	6-1 ○	5-0 ○
神大	×	×	\	3-1 ○	3-1 ○	6-8 ○
大経大	×	×	×	\	6-2 ○	5-0 ○
京学大	×	×	×	×	\	2-1 ○
京大	×	×	×	×	×	\

春季合宿

3・28～4・4 淡路島一宮 20名

夏季合宿

8・20～8・26 松本自衛隊 30名

秋季合宿

10・23～10・26 京大スポーツ会館

30名

農学部グラウンドの由来

G.K	F.B	H.B	F.W
榊	中(樋口)丸 東(丸)川	市清中 山(水)村	平 浅根(尾)本 東野(彦)路 塩(野)路

塩路正信(昭36卒)

最近私は仕事の関係で或る白髪のお老医師にお目にかかる機会を得た。同氏は74才とは思わ

れない程お元気で私の訪問した目的に対し非常に親切に教えて下さった。そのあと話題が京大のことになり、40才未満の私が標題のような昔話を書こうという気になる興味ある話を聞かせて戴いたのでペンを執った次第である。

(注) 老医師とは京大陸上競技部OB会長・木村潔氏のことであり、以下記述に誤りがあれば私の記憶違いなのでお許し願いたい。

農学部グラウンドの設立は大正11年に遡る。時の農学部事務官某氏が何とか運動施設を作りたい。しかし予算が国から認められない。

窮余の一策でグラウンドを「農作物乾燥場」プールを「貯水場」武道館を「農民詰所」と申告し国の予算をとったとの事。「ナニ、国からイカンと云われれば俺が詰腹を切る丈さ」とその太腹事務官のお蔭で今のグラウンドが誕生したのである。

疎水辺りから西へかけて緩い段々畑を大量の土を動かし、水平を採っていったのであるがブルドーザーのない時代、何とも大変な事業であったと偲ばれる。尚、当初400Mトラックで作られたが、フィールドでの競技—ラグビー、サッカー—と後に運動部が出来たために500Mトラックに拡張され、(その為に公認競技場とならなかった) 我が国でも数少ない競技場となった次第である。質の良いグラウンドと比叡山を望む美しい風景は50年以上経過した今も脈々と生き続けて我々青春の1頁を強烈に焼きつけて来たのである。

— 東大戦の由来 —

大正9年、東大助教授・森戸辰男氏が(今では右翼に近いと見られるが)論文「クロボトキン

の社会思想の研究」を発表し学閥を追われた。(禁錮2ヶ月の判決を受けた) 東大、京大両総長ともこの事件にショックを感じ、学生の左傾化を防止するにはスポーツが一番と各種スポーツ大会東大、京大対抗戦が華々しくデビューすることになった。両大学の肝入りで定期戦は全種目同時に行われ、2週間という両期とも休校で、東京よりの遠征組は列車貸切りで大学上洛し、優勝者には時の官様から優勝旗が授与されたというからその規模と豪華さは目を見はるものがあったろう。

— 蒼空会のPR —

京大陸上競技部OB会—蒼空会—は会員500余名(その中には元オリンピック日の丸の田島直人が輝いている)、この会でもOBの寄附が思う様に集らない。将来の部員に財産を残せる方法

は？と例の会長のアイデアで北山の小林家より山の一部を借り受け6年前から植林を始めた。

毎年現役部員が杉の苗木を3千本ずつ植える為に奉仕する。もう6年を経過すると杉の苗木は3M~4Mと成長し、やがては立派な大木となろうという。微笑しい又頼もしい話である。そして同会はその中心にヒュッテを作り、谷川の水を引いて池を掘り養鱒するという。同会の集りが自然の中のユートピアで開催されるとの事である。又同会にはかつての宿敵、早大、慶応のOBの入会が多数あり年々盛況になってゆくというのも同会長の骨身を惜しまぬご努力と噂いお人柄によるのかも…………

私はお話を伺いながら思わず時間の過ぎるのも忘れるひとときであった。

思いつくまま

平尾敏郎（昭36卒）

昭和32年4月入学、35年12月サッカー部を卒業した部員諸兄を代表して、その当時の思い出を、思いつくままに書いてみたい。

まず同窓生について一言

昭和32年入学の部員は諸先輩からも、よくいわれたが、サッカーはもとより学業にすぐれた者が多く京大サッカー史上稀にみる人材が多かった。ちなみに名前を挙げてみると塩路（ゲンさん）、三野（ルイス）、市山（トオルチャン、ジュニア）、秋下（アキチャン）、大倉、平尾（チンコ）。

我々が入部当時のキャプテンは若井先輩、2回生になって今永先輩、3回生の時は大木先輩、そして最終の年は塩路であった。それぞれ個性豊かな方々であった。

寸評を一言

若井先輩 — サッカーは足だけでなく手でもやれること教えてくれた。手のボールコントロール抜群。

今永先輩 — 藤ノ森の学大グラウンドでゲーム後グラウンド10周走らされたことを何故か憶えている。入替戦に勝ち一部復帰が決定した瞬間の今永先輩の顔は忘れられない。

大木先輩 — 自称本格派のプレーヤー、当時よく技術的アドバイスを受けた。

塩路 — 女性と食パンの好きな色男（勿論自称）。サッカーのテクニックは何故か1回生の時が最もすぐれていた。

夏の合宿は名古屋（1回生）、網野（2回生）、東京（3回生）、松本（4回生）の4回経験した。

名古屋 — 合宿に参加された小山先輩があまりの暑さに“ボール3個”を“ビール3本”とい

われたことが印象に残っている。

網野 — 雨が多くて大助りであった。足立先輩（網野出身）が地方では名士であることを知ってびっくりした。個人的には東川君（オナキ）のアキレスケンを後からキックして切ったことを憶えている。※註

東京 — 若山先輩の合宿初日のシゴキにはまいった。暑く長い合宿であった。

松本 — 信州という言葉の心よいひびきにつられて松本を選んだがやはり合宿はどこでやってもつらい事が判った。ラグビーの先輩にお世話になり自衛隊で行った。水のうまかった事！

在部中の成績は二部2位、二部優勝、入替戦に勝ち一部に復帰、一部最下位、入替戦に勝ち残留、一部同率最下位、決定戦に敗れたが入替戦に勝ち残留。

以上の様に毎年他のチームより余分のゲームを戦ってしまった。幸い入替戦にはすべて快勝という輝かしい戦績が残せた。入替戦をいかに戦うべきかという“ノウハウ”をつかんで居たのかもしれない。入替戦の王者とも云われた。

当時は部員の大多数は下宿生活を送っていたが、4回生の頃は、悪名高かった北白川荘から部員のたまり場が北白川小学校前の近藤さん宅に移っていた。45名の部員が近藤さん宅に巣食っていたからだ。その当手を振り返って近藤さんは「あの頃は災難と思ってあきらめていました」と語っておられたことを付托しておきたい。ちなみに下宿者は塩路、市山兄弟、中丸、樋口 etc であった。

とりとめもないことに終始したが、京大サッカー一部が益々発展することを祈るとともに先輩、後輩諸兄のご健康、ご活躍を合わせてお祈りしたい。

※註 麻野先輩が麻雀に勝ったから？と8万円寄附されたことを覚えている。当時の大学卒初任給が1万円位だろうからその価値がわかろうというもの。

昭和 35 年 4 月 淡路合宿

塩路氏提供



片桐 中村 浅野 小林 清水 榊
 東川 武藤 ? 樋口 浅野 塩路 平尾 土橋 根本
 今村 大片 市山 岩城 東

昭和 35 年 同志社定期戦後

塩路氏提供



中村 岩城 市山 東 松本 今村 武藤
 塩路 中丸 根本 榊 樋口
 清水 東川 林
 難波

昭和35年8月 夏季合宿 於 松本自衛隊

塩路氏提供



中丸	今村	浅野	?	市山	片桐	井坪	三野	時森	樋口	榊	東	浅野洋	武藤
				土橋	小林	林	塩路	中村					
大片	難波	?		高松	岩城	根本	平尾		清水	川野	大家		
オマル	ノロ	ホープ		ジュニア	エロボン	グロバ	ルイス		ムリモリ	トン	バーサル		
				ドバン	グラバントウ	ギョウ	ゲンサン	ゾウ		(ズンドコ)			
ドジン	スタロウ			ジャガー	ガン	マメダ	チンコ		ホープさん(ヒビ)		リャンピン		

昭和35年12月 入替戦に勝って 於 西宮グランド

塩路氏提供



留岡	岩城	榊	片桐	高松	浅野	林	広野	時森	?	川野
土橋			浅野	樋口	中村	小林	根本	東	難波	武藤
大友	清水	東川	平尾	市山	大片	塩路	秋下	三野	児玉	

昭和36年度

合宿 スポーツ会館

C 清水太三郎 VC 東川 昇 中丸健二

監督 皆木忠夫 コーチ 瀬戸 進 M 留岡 寛 VC 小林一三

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 関学	5	0	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{2}$)	4	関学 10・29 うつぼ
2) 関大	4	1	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{0}$)	2	京学大 11・3 西京極
3) 京学大	3	2	0	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{0}{0}$)	0	神大 11・18 うつぼ
4) 京大	1	3	1	京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{1}{3}$)	4	関大 11・23 //
5) 大経大	1	4	0	京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{0}{0}$)	0	大経大 11・26 //
6) 神戸大	0	4	1					

京都学生リーグ

京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{0}$)	0	京学大	京学
京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{1}{0}$)	1	立命大	
京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{1}{2}$)	3	同大	
順位	1位	同大	2位	京学大	
	3位	立命館大	4位	京大	

近畿地区大学総合体育祭

京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{0}{0}$)	0	大商大	9・5	阪大
京大	3	($\frac{0}{3}-\frac{1}{0}$)	1	滋賀大	9・6	//
京大	2	($\frac{0}{2}-\frac{1}{0}$)	1	神大	9・7	大学大

この結果 優勝

練習試合

全日本天皇杯選手権関西予選

京大	10	($\frac{5}{5}-\frac{0}{0}$)	0	藤沢薬品	4・8
京大	4	($\frac{0}{4}-\frac{0}{0}$)	0	東洋ゴム	4・9
京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{0}{3}$)	3	ドッドウェル	4・15

第15回同大定期戦

京大	2	($\frac{0}{2}-\frac{1}{0}$)	1	同大	5・28	京大
----	---	-------------------------------	---	----	------	----

第12回東大定期戦

京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{1}{1}$)	2	東大	7・2	御殿下
----	---	-------------------------------	---	----	-----	-----

京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{2}{0}$)	2	関学クラブ	4・20
京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{0}{0}$)	0	法政大	6・26
京大	1	($\frac{1}{0}-\frac{0}{0}$)	0	慶応大	7・3
京大	2	($\frac{1}{1}-\frac{3}{0}$)	3	新三菱重工	
京大	0	($\frac{0}{0}-\frac{0}{4}$)	4	紫光クラブ	8・31
京大	3	($\frac{1}{2}-\frac{0}{0}$)	0	同大	9・1
京大	2	($\frac{2}{0}-\frac{0}{1}$)	1	同大	9・1
京大	4	($\frac{1}{3}-\frac{0}{0}$)	0	同大	9・2
京大	1	($\frac{0}{1}-\frac{2}{1}$)	3	関学	9・10

京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 紫光ク 9・25

京大 3 ($\frac{3-1}{0-1}$) 2 紫光ク 10・2

京大 0 ($\frac{0-1}{0-2}$) 8 同大 10・10

対 関学

京大	榎中	東清浅	根川唐大
	榎		東
	口丸	川水野	本野津家
	}		}
G.K	F.B	H.B	F.W

関学	西小	山早	宇山佐継志
	垣柳	中栗	野崎野谷治
	}		}

対 京学大

京大	榎中	東清浅	根川中唐
	榎		東
	口丸	川水野	本野村津
	}		}
G.K	F.B	H.B	F.W

京学大	岡波井	前岡山	久野板馬松
	本谷上	仲田下	田口倉越村
	}		}

対 神大

京大	榎中	東清浅	根難小唐
	榎		東
	口丸	川水野	本波林津
	}		}
G.K	F.B	H.B	F.W

神大	山波類	赤賀吉	一越前山浜
	田谷川	川川田	北智本本本

対 関大

京大	榎中	東清浅	川岩上唐
	榎		東
	口丸	川水野	野城田津
	}		}
G.K	F.B	H.B	F.W

関大	吉寺松	吉戸鐘	北竹俣柴津
	大谷田田	川谷築	口原田北田

対 大経大

京大	榎中	東清岩	難浅中唐
	榎		東
	口丸	川水城	波野村津
	}		}
G.K	F.B	H.B	F.W

大経大	岩真田	古坂神	釜清山松高
	経根野中	田田野	田水田山島

	学	関	京学	京大	神	
関学	\	4-2 ○	7-0 ○	4-0 ○	3-0 ○	1-0 ○
関大	×	\	5-1 ○	4-0 ○	6-0 ○	3-1 ○
京学大	×	×	\	2-0 ○	3-0 ○	3-0 ○
京大	×	×	×	\	1-0 ○	0-0 △
大経大	×	×	×	×	\	5-0 ○
神大	×	×	×	△	×	\

春季合宿 3・17～3・23 スポーツ会館

夏季合宿 8・7～8・15 スポーツ会館

// 8・27～9・2 //

走り勝つこと

東川 昇 (昭37卒)

入学の喜びに未だ覚めやらぬ4月、桜満開の農学部グラウンドでボールを蹴り出してから4年間というものは大学生生活即ちサッカー部生活という状態で過しました。1年生の秋一部リーグ昇格し2年生3年生一部リーグ最下位、入替戦、残留、4年生4位という成績でありましたが、一部リーグ昇格時の他チームとの実力差には大いに驚かされました。特に関学との対戦はスタミナ不足を痛感しました。敵は90分間同じ力であたかも波が海岸に打寄せる如く我ゴールを襲い、後半終了間際まで1-1だったのが5~10分の間に3点を奪われ、結局4-1で負けた時は泣き出したい気持だったのを覚えています。最近では走るサッカーという事がいわれていますが、要は試合開始後15分間に発揮出来る走力を90分間持続させるだけの体力があれば少々技術的にまづくても相手を倒せるという事だと思います。現役の諸君大いに体力、走力をつけよう。

昭和37年度

C 浅野 洋 VC 東 宜孔 根本紀夫

監督 皆木忠夫 コーチ 瀬戸 進 M 留岡 寛

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分							
1) 関学	5	0	0	京大	2	($\frac{1-3}{1-3}$)	6	関学	10・28	西京極
2) 関大	4	1	0	京大	1	($\frac{1-0}{0-1}$)	1	京学大	11・4	うつほ
3) 京大	1	2	2	京大	1	($\frac{0-0}{1-0}$)	0	同大	11・11	西宮
4) 大経大	1	2	2	京大	0	($\frac{0-1}{0-0}$)	1	関大	11・18	〃
5) 京学大	1	3	1	京大	2	($\frac{0-1}{2-1}$)	2	大経大	11・25	西京極
6) 同大	0	4	1							

京都学生リーグ

京大	2	($\frac{1-0}{1-1}$)	1	同大
京大	0	-	0	京学大
京大	1	($\frac{0-0}{1-0}$)	0	立命大

順位 1) 京大 2) 同大 3) 京学

全日本天皇杯選手権関西予選Cブロック

京大	2	-	0	新三菱神戸	魚崎川鉄G
京大	2	-	0	積水化学	
京大	1	-	0	電々近畿	
京大	0	($\frac{0-1}{0-1}$)	2	関大	

第16回 同大定期戦

京大 1 ($\frac{0-0}{1-2}$) 2 同大
6・10 吉祥院

第13回 東大定期戦

京大 1 ($\frac{0-0}{1-0}$) 0 東大 7・1 京大
京大OB 2-1 東大OB " "

九州遠征

京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 広島商大
7・7 広商大
京大 2 ($\frac{1-1}{1-4}$) 5 東洋工業
7・8 国泰寺高
京大 1 ($\frac{1-0}{0-1}$) 1 九大 7・9 九大
京大 1 ($\frac{0-1}{1-1}$) 2 八幡製鉄
7・10 八幡G

近畿地区総合体育祭 (優勝)

京大 5 ($\frac{3-0}{0-3}$) 3 甲南大 9・3
甲南
京大 5 ($\frac{1-1}{4-1}$) 2 大工大 9・4
京大 2 - 0 神外大 9・5
京大 4 - 0 大府大 9・6

対 関学

京大	榑岩	川水小	井浅唐	根
	榑			東
大	口城	野谷田	坪野津	本
	}		}	
G.K	F.B	H.B	F.W	
	}		}	
関学	西垣	則小	木山前	佐宇継古山
	岡居	村中田	野野谷	林崎

対 京学大

京大	榑岩	川水時	伊浅唐	根
	榑			東
大	口城	野谷森	藤野津	本
	}		}	
G.K	F.B	H.B	F.W	
	}		}	
京学	岡本	岡山	田大久保	米野板馬松
	田下	口西田	沢口倉	越村

対 同志社大

G.K	F.B	H.B	F.W	
	}		}	
京大	榑岩	川水 <small>時</small>	伊浅唐	根
	(難波)	小田		東
大	口城	野谷森	藤野津	本

対 関大

京大	榑岩	川時大	伊浅唐	根
	榑			東
大	口城	野森家	藤野津	本
	}		}	
G.K	F.B	H.B	F.W	
	}		}	
関大	渡辺	西松	真戸打	竹佐釜昂津
	岡田	田谷上	田藤江	山田

対 大経大

G.K	F.B	H.B	F.W	
	}		}	
京大	榑岩	川時大	伊浅唐	根
	榑			東
大	口城	野森家	藤野津	本

戦評 (朝日新聞大谷氏)

戦前3連勝の記録を残しただけでなく、常に関学のライバルであった京大は戦後23年に3位を占めたのが最高だった。以来14シーズン目に得た3位である。4回生が多く大いに頑張った。守備陣の斗志に満ちたプレー、攻めては東がつかないで唐津の軽快なさば

きを根本等が生かした。ここ数年の京大はい
 わば専ら粘り一筋に頑張って来た感があった
 が本年はサッカーらしく球を回した。ゲーム
 の感どころをよく掴んで居た。鍛えられた体
 力や技術は関学や関大に及ばないが効率のよ
 い試合をやっていた。

	学	関	京	大	京学	同
関学	\	2-0 ○	6-2 ○	7-0 ○	8-0 ○	4-0 ○
関大	×	\	1-0 ○	6-1 ○	8-1 ○	8-1 ○
京大	×	×	\	2-2 △	1-1 △	1-0 ○
大経大	×	×	△	\	1-0 ○	2-2 △
京学大	×	×	△	×	\	2-0 ○
同大	×	×	×	△	×	\

対 同志大定期戦

京大	榊	樋口	岩城	小田	時森	川野	唐津	浅野	中村 (伊藤)	東	根本
	G.K	F.B		H.B		F.W					
同大	寺田	安達	藤井	浅見	岩田	岡平	戎	磯部	池上	古川	三木

京都大学 蹴球部の 思い出

昭和 37 年度 主将 浅野 洋

今回、50 年史発刊にあたり、唐原大先輩の御進言により、拙い文章ではありますが、記念に
 と思いペンをとりました。御笑覧下さい。

灘中、灘高と、当時より大学受験予備校の名前をほしいままにしていた学校にいながら、勉学
 ではなくサッカーに明け暮れていた私は、実兄がラグビーをやっていたこともあり、大学ではラ
 グビーをと考えていたのですが、高校の先輩であった市山徹氏と学内で再会、蹴球部に入りました。
 今から思えば本当にサッカーをやっている良かったと心から喜んでます。日本の蹴球史上
 に輝く名選手を先輩に持ち、又、本当に苦楽をともにした同窓諸兄を得て、幸せな青春を謳歌し
 えたこと、私の人生にとっても大きなプラスであったと確信しております。

思い出といえれば次から次に走馬灯の如く色んな記憶が甦ってきて、何から書けばよいのか迷っ
 ているのですが、意を決して、これだけと思う 8 点をここに記したいと思います。

(1) 昭和 36 年 関西学生リーグ 大経大戦

清水主将という良き将を得、又この年から指導を受けることになった瀬戸氏という名コーチ
 を得て、私の経験では最強のチームであったと確信している。このチームが、対関学 0-4 対
 京都学芸大 0-2 対神戸大 0-0 対関大 0-4 と 8 敗 1 分け、しかも得点 0 という惨たん
 たる成績で最終戦である大経大戦を迎えました。

対関大戦が 11 月 28 日で、大経大戦は 26 日でしたので、練習もわずか 2 日しかなかったと

記憶しておりますが、それ迄4試合ハーフバックをしていた私に、突然レフト・インナーをやれとのこと。私は中学、高校、大学と、キーパーも含め凡ゆるポジションをやったのですがインナーだけはという訳か経験がなかったのです。それを2日という短時日で即席チームを作ろうというのですから、びっくりしたものです。

当時、我等がチームはバックスのチームといわれ、東川副将とハーフバックスを組み、練習、試合を問わずフォワードしっかりせよとわめきちらしていたのに、突然インナーをやれとは、

それ迄ボロクソにフォワードをこきおろしていた私にとって、ここで断っては男がすたるとばかり向う見ずにも引受けた次第です。

ところが何と、大経大戦でそのリーグ唯一の得点を獲得、わずか1得点で4位となりました。若しその試合に敗れていると、神大と同率6位となり、決定戦の上、悪くすると3年連続入替戦出場ということになっていたのではないかと思います。当時私をフォワードに起用した首脳陣の読みの深さか、私の強運なのか、兎に角虎の子の1点でした。

その得点経過も、誰であったか忘れましたが、シュートを放ったのがバーにあたりはね返ったところに走り込んでいた私の前にボールが突然あらわれた感じで、決勝のヘディングシュートとなった次第です。バックからあがったばかりの私でしたので猪突猛進か、或は忠実に？フォローアップした結果か、とも角突然眼の前にボールが出てきた時の気持は何と表現してよいか判らないのですが、無我夢中でガラアキのゴールに叩き込んだということでした。

如何なることが起こるか判らないサッカーですから忠実に職務を果たした結果の1点で、而もそれが値千金の1点であっただけに、余計に輝かしい思い出となっています。最近のワールドカップ等のテレビ放送で岡野氏が盛んにIMAGINATIONと云われ、日本の選手のイメージーション不足を嘆かれています、今になって思えばあの走り込みがイメージーションであったのかと、懐しく思い出している次第であります。

而も、その試合直後に行われた87年度の主将投票で、その1点の印象が強烈であった故か、当時の私の生活態度、練習態度からは予想もしなかった得票を得て、輝かしい歴史の京大蹴球部の主将をつとめることになったので、余計強烈な思い出に残っている試合でした。

(2) 33年のリーグ戦で、京大は二部から一部に昇格、34年新入部員中、東(広大附高)、根本(灘高)とともに1回生ながらレギュラーポジションを得ていた私にとって、リーグ戦第一試合の対関学戦も忘れ得ぬ試合の一つです。

高校時代から、宿敵であった継谷(関学高校、関学大、三菱重工)のいる関学大とリーグ戦一回戦であい、雨でビショ濡れの西宮球技場で初めてのリーグ戦を経験しました。

結果は、根本が右ウイングで得意のドリブルで中に持ち込み、1点をゲット、その得点のみで1-6と大敗したのですが、私にとっては忘れ得ぬハプニングがありました。

それはPKを得て、当然主将であった大木氏が蹴るものと思っていたところ、雨中のこととて重い重いボールであった故か、私に蹴れということになりました。当時、キック力にはいささか自信もあったのですが、初のリーグ戦であがってもいたのでしょうか、とてつもない失敗をやらしました。とも角思い切りコースを狙うことなど考えず蹴ったのですが、あの重い重いボールが何とバーに直接あたりました。かっとしてリバウンドボールを続いて蹴ろうとしたところ、主審のホイッスル、何事かと思えばPKは相手方に触れなければキッカーが続いて蹴ることは禁じられているとのこと。

冷静に考えれば当たり前で、それが出来るのならドリブルして近づいてから蹴ってもよい理屈となりますが、かっとしていて大失敗をやらした次第です。

あの重いボールが浮いてバーにあたったのも不思議ですが、数多い失敗談の中でも余り例のない失敗だけに忘れられない事件でした。

(3) 最後にもう一つ、忘れられない試合として、37年度リーグ戦 対関大戦を書いておきたいと思います。

前年の1点の故か、私はこの年ずっとレフトインナーをやっていました。この年の戦法は右サイドから東一本本のコンビで攻め込み、センターリングをあげ、左サイドから伊藤一浅野及びセンターの唐津とで突っ込み得点を狙うという片肺飛行というのか、馬鹿の一つ覚えというのか、こればかりやっていました。従い、左サイドから攻め込んでというような試合展開になった記憶がとんとありません。

ところが如何なる風の吹きまわしか、この関大戦の時には突然変異の如く、左サイドからもどんどん攻め込むという形になりました。不思議なほどボール展開がうまくゆき、ボールもつながりました。

あとにも先にも、私がインナーとして本来の役目であるゲームの組立てが曲りなりにも出来た唯一の試合であったように思います。試合内容は、6分7分押し放しでしたが結果は、0-1と惜敗、負けは負けですが好試合であったと自負しております。

以上どうも自己中心の試合の話ばかりとなりましたが、外にも春・夏の合宿や合宿明けの無銭旅行、自衛隊での合宿の際のまぜい飯、吉田山でのドンチャン騒ぎ等、色々尽きぬ思い出ありますが、紙面の都合もありこれでペンを置きます。それにつけても瀬戸コーチには本当に御世話になり、大変有難うございました。我々が何とか関西リーグの中位以上を維持出来たのも氏の並々ならぬサッカーに対する情熱と、御指導の賜物と感謝している次第であります。

最後にクイズを一つ。

当時、チームメイトはお互いをニックネームで呼びあっていました。傑作も多いので思い出す

儘書いてみました。どうかご推察下さい。

氏名	卒業年度	ニックネーム	氏名	卒業年度	ニックネーム
大木 岩根	35	クリチャン	浅野 洋	38	バーサル
大方 誠記	36	ドジン	東 宣孔	38	(ズンドコ) トン
浅川 皓司	35	マンボ	根本 紀夫	38	マメダ
塩路 正信	35	ゲンサン	榊 靖夫	38	
加藤 康夫	35	オカキ(オケケ)	樋口 修司	38	ムリモリ
平尾 敏郎	36	チンコ	児玉 利恒	38	アク(悪)
清水太三郎	37	ター坊	浅野 肇	38	ホープさん
東川 昇	37	オナキ	土橋 竜彦	38	ドバン
小林 一三	37	斗牛	片桐	38	エロポン
中丸 健二	37	オマル			

“ディリーブレッド”と最後の試合



市山 徹 (昭38卒)
(昭32入学)

私が京大サッカー部でプレーしたのは昭和32年から4年間であるが、あの頃の生活の思い出の多くは、北白川の近藤邸に結びついている。私が4回生のころ、クリちゃん(大木さん)達が下宿から脱けたあと、近藤邸の2階の住人はゲンさん(塩路)とムリモリ(樋口)と私の3人になった。部屋は3つに分れていたが、いわばワン・フロアみたいなもので、3人が自由に行き来するだけではなく、トン(東)や平尾やアキちゃん(秋下)やオナキ(東川)など、いわゆる常連が時間かまわず近藤邸の階段を上り降りした。時にそれらの常連は住人より先に部屋に入っていて、たぶんオナキあたりだったと思うが、住人が入ろうとすると「まあ、汚なあしてるけど」……などということもあった。

その近藤邸の小パーティに色どりをそえたのが、ゲンさんの買ってくる食パン(ディリー・ブレッド)であった。われわれの健康すぎる胃袋にとって、バターを重ねたディリー・ブレッドと紅茶ほどおいしい食べものはなかったのだと思う。このディリー・ブレッドを囲んでさまざまな話題に花が咲き、遂にはそれがエスカレートして、夕方からみんなで愛宕山の夜間登山に出かけたりのりしたこともあったが、小パーティの話題の大半は、なんといってもサッカーに関するものであったのはいうまでもない。

このように、サッカーの戦術などについては実によく話しあっていたが、肝腎の現実の戦績の方はいま一つかんばしくなかった。われわれが4回生のときは一部リーグ復帰の2年目であった

が、夏の東大戦を引分けたあと、秋のリーグ戦では、ドロ沼のような大阪靱グラウンドで苦戦の連続を強いられ、最終戦の京都学芸大に2対1で敗れて、ついに最下位になってしまった。

残るは同志社相手の入替戦のみ。ときは35年の12月11日、場所は芝生の西宮市民グラウンド。快晴のコンディションに恵まれて、みんなきびきびと動き、中でもこの試合でRWからLHに下った平尾などは期待にこたえて走りまわった。マメダ（根本）はいつもながらの根性でチームをひっぱり、ター坊（清水）やムリモリの守りも完璧であった。その結果、終始相手を圧倒して4対0で快勝し、なんとか一部リーグにふみ止まることができた。久しぶりのさわやかな勝利であり、われわれにとっては、これが大学4年間のサッカー生活における最後の試合となった。

いま手もとに、この試合の直後グラウンドでとった写真があるが、イレブンの会心の笑顔と大友さんやドジン（大片さん）など駆けつけてくれた先輩のほかに、ルイス（三野）や斗牛（小林）や土橋やガンちゃん（岩城）やホープさん（浅野肇）など、なつかしい面々が写っている。この人たちはいわゆる花形プレーヤーではなかったけれど、ある期間地道な努力を重ねた人たちであり、例えばホープさんが黙々とシューティン・ボードへ蹴っていた姿など、いまでも思い出すことができる。そして客観的にみれば、その努力はなんらかのかたちで、大体において次の段階のいいプレーとして報いられていたように思う。

京大のサッカー部もいまや50年を経て、多くのレギュラー・プレーヤーや何人かの誇るべき名選手を生んできたが、それらの人たちだけで歴史がつくられてきたのではないことは言うまでもない。さらに多数の誠実な、あるいは個性豊かな人たちが、同じように自分の限界と闘い、自分の青春をかけてサッカー部の歴史を築いてきたことも、忘れられてはならない側面であると思う。

35年度のマネージャー 丸島氏の近況



38年卒

昭和38年度

C時森日出二 VC 難波寿太郎 川野真治

監督 皆木忠夫 コーチ 瀬戸 進 M留岡 寛

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分
1) 関学	4	1	0
2) 関大	4	1	0
3) 京大	2	2	1
4) 京学大	2	3	0
5) 甲南大	1	3	1
6) 大経大	0	3	2

京大	1	($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$)	0	関学	11・27	西京極
京大	0	($\begin{smallmatrix} 0 & -2 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$)	3	関大	11・3	うつぼ
京大	0	($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$)	1	甲南大	11・9	西京極
京大	1	($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$)	0	京学大	10・27	〃
京大	1	($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -1 \end{smallmatrix}$)	1	大経大	11・24	〃

1位決定戦 関学 2-0 関大

京大 0 - 7 関学 4・13

京大 2-1 京学大 6・29

京大 3-0 大阪ガス 6・30

京都学生リーグ

京大 2 - 1 京医大 4・27

第14回 東大定期戦

京大 6 - 0 京薬大 4・29

京大 0 - 0 東大 7・7 御殿下G

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 1 立命大 5・19

京大OB 1-1 東大OB 〃 〃

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -3 \end{smallmatrix}$) 4 京学大 5・12

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -2 \end{smallmatrix}$) 3 新三菱
7・8 〃

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -1 \\ 0 & -0 \end{smallmatrix}$) 1 同大 5・5

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -3 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 4 東教大
7・9 教育大

順位 1.同大 2.京学大 3.立命大 4.京大

近畿国立大学体育大会 (2位)

第17回 同大定期戦

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -3 \end{smallmatrix}$) 3 同大 5・26
農学部G

京大 8 ($\begin{smallmatrix} 3 & -0 \\ 5 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 滋賀大
8・31 京学

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 3 & -0 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 1 阪大 9・1 〃

全日本天皇杯選手権京都予選

京大 5 - 0 黒川電機 6・2

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 2 京学大 9・2 〃

京大 2 - 0 立命大 9・12

京大 0-0 立命大 延長抽選勝 6・9

京大 4 - 3 大商大 9・14

京大 1-1 京学大 〃 敗 6・16

京大 2 - 4 関学 9・22

京大 0-2 紫光ク 6・25

京大 1 - 3 大商大 10・20

対 関大

京	難	植	川時水	伊今唐小井
大	波	西島	野森谷	藤井津田坪
		└──┘	└──┘	└──┘
	G.K	F.B	H.B	F.W
		└──┘	└──┘	└──┘
関	橋	佐真	打大西	松佐釜平吉
大	本	藤剛	上西岡	藤江田川

対 甲南大

京	難	大	川時水	伊植唐今井
大	波	西家	野森谷	藤島津井坪
		└──┘	└──┘	└──┘
	G.K	F.B	H.B	F.W
		└──┘	└──┘	└──┘
甲	北	若新	玉小	横白吉毛山
南	町	田井	楯木西	山川江利口

対 京学大

京	難	大	川時水	伊今唐小井
大	波	西家	野森谷	藤井津田坪
		└──┘	└──┘	└──┘
	G.K	F.B	H.B	F.W
		└──┘	└──┘	└──┘
京	官	山平	田岡大	松板米馬吉
学	階	田鍋	口田西	村倉沢越田

対 大経大

京	難	大	川時水	伊今唐小井
大	波	西家	野森谷	藤井津田坪
		└──┘	└──┘	└──┘
	G.K	F.B	H.B	F.W
		└──┘	└──┘	└──┘
大	岩	山杉	松真古	藤浅井高小
経	根	本本	山野田	原見上島田

戦評 (朝日新聞 大谷氏)

3位を守った京大は7人が卒業して大痛手を受けていたのだが対関学戦では、CF唐津を軸に、LW伊藤が活躍するなどチーム全体が積極的、まとまりがまだ出来ていなかった関学から完全に試合のイニシアティブを奪っていた。

対	G.K	F.B	H.B	F.W
同	難	佐	大時川	伊水唐小井
大	波	西伯	家森野	藤谷津田坪
対	G.K	F.B	H.B	F.W
東	難	大	川時植	伊水唐小井
大	波	西家	野森島	藤谷津田坪

	学	関	京	京学	甲南	大経
関学	○	×	○	○	○	○
関大	×	○	○	○	○	○
京大	○	×	○	×	△	△
京学大	×	×	×	○	○	○
甲南大	×	×	○	×	△	△
大経大	×	×	△	×	△	△

今年の関西リーグでの京大は勝っても引き分けても、1点だけ点を入れた。そして1点もとれない時は敗けている珍しい記録を作った。

対 関 学

京大	難波	西 大家	川野 時森 水谷	林 今井 唐津 小田 井坪
	G.K	F.B	H.B	F.W
関学	関	木村 小居	井原 塩谷 前田	友利 宇野 加茂周 天地 加茂健

昭 和 3 9 年 度

C 唐津徹男 VC 小田晋作 西 政嗣

監督 石光頭吾 コーチ 瀬戸 進 M 足立圭吾

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 関 大	4	0	1	京大	3 ($\frac{1-0}{2-0}$)	0	甲南大	11・1 神戸王子
2) 関 学	3	2	0	京大	1 ($\frac{1-0}{0-1}$)	1	関 大	11・7 西京極
3) 京 大	2	2	1	京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	大経大	11・15 うつぼ
4) 大経大	2	2	1	京大	1 ($\frac{1-0}{0-0}$)	0	関 学	11・22 西京極
5) 京学大	1	3	1	京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	京学大	11・29 王子
6) 甲南大	1	4	0					

京大	0 ($\frac{0-0}{0-0}$)	5	京都一般	3・22	京大	5 ($\frac{1-1}{4-1}$)	2	京葉大	4・25
京大	1 ($\frac{0-1}{1-0}$)	1	立命大	3・26	京大	3 ($\frac{0-0}{3-0}$)	0	府大	4・26
京大	3 ($\frac{1-2}{0-1}$)	4	滋賀教員	3・28	京大	2 ($\frac{2-0}{0-1}$)	1	医大	4・29
京大	1 ($\frac{0-0}{1-4}$)	4	京都一般	3・29	京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	京学大	5・17
京大	3 ($\frac{2-3}{1-1}$)	4	紫光ク	4・11	京大	3 ($\frac{2-0}{1-1}$)	1	立命大	5・24
京大	0 ($\frac{0-1}{0-1}$)	2	京教大	4・18	順位	1.同大 2.京学大 3.京大			

京都学生リーグ

京大	2 ($\frac{1-0}{1-0}$)	0	京工大	4・19	京大	2 ($\frac{1-1}{1-3}$)	4	大商大	5・5
----	-------------------------	---	-----	------	----	-------------------------	---	-----	-----

第18回 同大定期戦

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-4 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 5 同大 6・7
同大香里G

京大 4 - 0 立命大 6・13

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 1 大商大 6・21

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0-1 \\ 1-1 \end{smallmatrix}$) 2 京都一般 6・28

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1-2 \\ 1-2 \end{smallmatrix}$) 4 京都学生 6・30

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 0 京学大 7・1

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-1 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 1 学生選抜 7・2

第15回 東大定期戦

京大 0 - 0 東大 7・5 農学部G

京大OB 1-3 東大OB " "

第1回 関西学生新人大会 (1・2回生)

対商戦大 対同大 不戦勝

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-2 \\ 0-6 \end{smallmatrix}$) 8 関大 6・27

国立7大学体育大会

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 1 阪大 7・6 農学部

京大 4 ($\begin{smallmatrix} 2-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix}$) 1 九大 7・8 "

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-1 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$) 3 東北大 7・9 "

順位 東大、阪大、東北大、京大、名大、九大

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 0-2 \\ 1-0 \\ 1-3 \end{smallmatrix}$) 5 日本鋼管 8・9

近畿国立大体育大会

京大 4 ($\begin{smallmatrix} 2-0 \\ 2-0 \end{smallmatrix}$) 0 京工大 8・28 石橋

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 0 神大 8・29 石橋

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 0-1 \\ 0-1 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 8 京学大 (決勝戦) 8・30 "

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-5 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 5 関学 9・18 "

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-1 \end{smallmatrix}$) 1 同大 9・26

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix}$) 1 大商大 10・3

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-1 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 1 同大 10・18

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-3 \end{smallmatrix}$) 8 京学大 10・28

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-3 \end{smallmatrix}$) 8 オール三菱 11・3

定期戦京大メンバー

対	橋	入	水	織	植	伊	今	唐	小
同	本	西	本	谷	部	藤	井	津	林
大	本	江	本	谷	部	藤	井	津	林
	G.K	F.B	H.B	F.W					

対	橋	塚	官	小	植	伊	今	唐	本
東	本	本	地	谷	西	藤	井	津	多
大	本	本	地	谷	島	藤	井	津	多

対 甲南大

京	橋	官	水	塚	中	伊	今	唐	小
大	本	西	谷	本	野	藤	井	津	林
	G.K	F.B	H.B	F.W					
甲	北	若	渡	小	新	横	橋	四	毛
大	野	田	井	辺	西	井	山	本	戸

対 関 大

京 橋	宮	水塚中	伊今唐本
大 本	西 地	谷本野	林 藤井津多
	G.K	F.B	H.B
			F.W
関 梶	松大	寺鐘佐	釜平吉昌村
大 川	村西	内築藤	江田川山側

対 大経大

京 橋	宮	水塚中	伊今唐野
大 本	西 地	谷本野	林 藤井津田
	G.K	F.B	H.B
			F.W
大経大 岩	山杉	朝真木	岩浅天井小
大 根	本本	倉野村	瀬海津上田

対 関 学

京 橋	宮	水塚中	伊今唐野
大 本	西 地	谷本野	林 藤井津田
	G.K	F.B	H.B
			F.W
関 北	岡木	前塩曾	山宇出天友
学 川	田村	田谷見	崎野原池利

戦評（朝日新聞 大谷氏）

京大は関大に引分け、関学を破って大いに気を吐いたが、関学のレベルダウンに助けられた結果とはいえリーグの番狂わせの筆頭である。唐津のキープときばきはなかなか侮れぬものだった。対大経大にはそのみにたよって0-1で負ける結果を招いたがOL伊

藤の突進が加わった対関学戦は貴重な1点をもにすることが出来た。前年につぐ対関学は連勝だが関学を悩ませたのは塚本を軸とした守備陣の密着マークの成功、守備陣の出足の良さ、それにあの粘り強さにあったといえるだろう。

対 京学大

京 橋	宮	水塚中	伊今唐小
大 本	西 地	谷本野	林 藤井津田
	G.K	F.B	H.B
			F.W
京 官	山山	田大平	吉金米緒松
学 階	口田	口西鍋	田本沢方村

	関	学	京	大	京学	甲
関大	\	1-0 ○	1-1 △	4-2 ○	3-1 ○	3-1 ○
関学	×	\	×	3-1 ○	4-1 ○	4-1 ○
京大	△	1-0 ○	\	×	×	3-0 ○
大経大	×	×	1-0 ○	\	1-1 △	2-1 ○
京学大	×	×	1-0 ○	△	\	×
甲南大	×	×	×	×	1-0 ○	\

今年の3位は昨年に続いてであった。しかも対甲南を除いて1点しか取れず、1点以上を許さなかった。所が上位には負けなくて、下位に敗れるという珍しい記録を作った。

昭和40年度

C 伊藤庸夫 VC 水谷勝喜 橋本 浩

監督 石光顕吾 コーチ 瀬戸 進 M 野田雅昭 平松暎章 所 博之

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 関 学	3	0	2	京大	2 ($\frac{1-0}{1-0}$)	0	京学大	10・31 神戸王子G
2) 大 経 大	3	1	1	京大	0 ($\frac{0-}{0-}$)	6	関学大	11・7 "
3) 京 大	2	2	1	京大	1 ($\frac{1-0}{0-0}$)	0	甲南大	11・14 "
4) 関 大	1	1	3	京大	0 ($\frac{-}{-}$)	0	関 大	11・21 "
5) 京学大	2	3	0	京大	0 ($\frac{0-1}{0-2}$)	3	大経大	11・28 "
6) 甲南大	0	4	1					

京都学生リーグ (本年より一・二部制)

京大	1 ($\frac{1-0}{0-0}$)	0	工織大	5・15	府大G
京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	京学大	5・16	薬大G
京大	0 ($\frac{0-1}{0-2}$)	3	同大	5・23	府大G
京大	1 ($\frac{1-0}{0-0}$)	0	立命大	5・30	"

順位 同大、京学大、京大、立命大

第19回同大定期戦

京大	0 - 0	同大	6・27	京大 農学部
京大OB	6 ($\frac{5-0}{1-2}$)	2	同大OB	" "

第16回東大定期戦

京大	0 ($\frac{0-1}{0-0}$)	1	東大	7・4	東大 検見川
京大OB	1 ($\frac{0-0}{1-0}$)	0	東大OB	" "	

第2回学生新人大会

京大新人	0 - 4	阪大新人	5・29
------	-------	------	------

敗者復活

京大新人	2 ($\frac{0-0}{2-0}$)	0	兵農大新人	5・30
京大 "	3 ($\frac{0-0}{3-0}$)	0	大府大 "	6・5
京大 "	1 ($\frac{0-2}{1-1}$)	3	関学 "	6・6

近畿国立大体育大会

京大	1 - 0	大外大	9・4	神大六甲台
京大	1 ($\frac{0-0}{1-0}$)	0	神船大	9・5 "
京大	0 ($\frac{0-1}{0-2}$)	3	京学大	9・6 "

練習試合

京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$)	2	岡山大	3・16
京大	0 ($\frac{0-1}{0-0}$)	1	京府大	4・3
京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	神大	4・18
京大	2 ($\frac{0-1}{1-1}$)	2	三菱重工京都	4・24

京大	0	($\frac{0-1}{0-0}$)	1	成蹊大	5・3
京大	0	($\frac{0-1}{0-1}$)	2	岐阜大	5・9
京大	0	— 0		岐阜教員	〃
京大	1	($\frac{0-0}{1-1}$)	1	立命大	6・11
京大	0	($\frac{0-1}{0-1}$)	2	京都ク	6・13
京大	0	($\frac{0-1}{0-0}$)	1	関大	6・18
京大	1	$\frac{0-0}{1-1}$	2	住金	6・20
京大	0	($\frac{0-2}{0-2}$)	4	京都ク	6・22
京大	2	($\frac{2-1}{0-2}$)	3	京都ク	6・25
京大	2	($\frac{0-3}{2-1}$)	4	東農大	6・29
京大	1	($\frac{1-0}{0-1}$)	1	京学大	6・30
京大	0	($\frac{0-2}{0-3}$)	5	京都ク	7・1
京大	1	— 3		成城大	7・5
京大	1	($\frac{1-3}{0-1}$)	4	京都選抜B	7・18
京大	1	($\frac{0-0}{1-1}$)	1	東教大	8・10
京大	1	— 1		大商大	8・28
京大	5	— 2		京都市役所	〃
京大	0	— 0		京都ク	8・29
京大	1	— 1		京学大	9・1
京大	2	— 2		京都三菱	10・2
京大	0	— 0		神大	10・17

対	G.K	F.B	H.B	F.W
同大戦	橋本	百々井	水塚谷	藤井岡田
交代	金子	—	尾崎	

対 東大定期戦					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
対東大	橋本	百々地	水塚谷	伊今藤	片保岡田
対 京学大					
京大	橋本	浜井地	今塚井本野	伊片藤	久保岡田
京学大	宮階	山山口田	八田木口西	吉金平	緒米田本

京学大は本年に入って3戦どうしても勝てなかった相手であるが、リーグ戦では少いチャンスを生かして勝った。中盤では京学が優勢だったが今一步のところまで持たえて無得点に任せ、京大は伊藤がいい所で好パスを送りこれがすべて得点に結びついた。

対 関学					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
京大	橋本	浜井地	水塚谷	伊今藤	久保岡田
関学	山地	金原川	井垣原	曾我谷	清出水原

対 甲南大					
	G.K	F.B	H.B	F.W	
京大	橋本	浜井地	今塚井本村	伊片藤	久保岡田
甲南大				水谷	得点片岡

昭和41年度

合宿 小田原・富士フィルム

C 今井哲夫 VC 中野昭一 林 和俊

監督 若井 尚 コーチ 瀬戸 進 M 野田雅昭

関西学生リーグ (一部) (二部転落)

	勝	敗	分					
				京大	0 - 4	大経大	10・80	王子競技場
1) 関大	5	0	0	京大	1 - 1	大商大	11・6	
2) 関学	4	1	0	京大	1 - 7	関学	11・20	王子競技場
3) 大学大	2	2	1	京大	0 - 2	京教大	11・27	
4) 大経大	1	3	1	京大	0 - 2	関大	12・11	西宮球場
5) 京教大	1	3	1					
6) 京大	0	4	1	入替戦 京大	1 - 4	神戸大	12・18	大府大G

京都学生リーグ

京大	8 - 0	京医大	4・24
京大	0 - 5	同大	4・29
京大	2 - 2	京教大	5・5
京大	1 - 0	立命大	5・8

新人戦

京大	2 - 0	大外大	5・21
京大	0 - 2	大商大	5・28
京大	敗	関大	6・12

練習試合

第20回 同大定期戦		京大	0 - 3	大経大	4・16		
京大	2 - 2	同大	6・26	京大	2 - 3	関学	5・15
第17回 東大定期戦		京大	2 - 0	立命大	5・28		
東大	1 - 1	東大	7・3	京大	0 - 3	紫光ク	6・11
国立7大学体育大会 (7帝戦) 優勝		京大	2 - 3	京都選抜	6・18		
京大	2 - 0	北大	8・10	京大	1 - 6	京都チーム	6・19
京大	2 - 1	東北大	8・11	京大	0 - 3	東教大	8・8
京大	1 - 0	東大	8・13	京大	0 - 5	朝鮮大	8・27
近畿国立大学体育大会 於 和歌山		京大	0 - 7	同大	10・10		
京大	4 - 0	商船大	9・4	京大	3 - 0	住金	10・16
京大	3 - 1	滋賀大	9・5	京大	0 - 1	京教大	10・28
京大	1 - 1	神戸大	9・6	京大	0 - 1	三菱神戸	12・3

延長戦2回の後同率優勝

対 大経大

京	神	浜官	青塚大	金片今	尾
大	谷	井地	木本村	子岡井	崎
	G.K	F.B	H.B	F.W	
大	三	中矢	安山木	西指片朝	高
経	浦	尾内	屋下村	本吸山倉	橋
大					

対 大商大

京	神	浜官	青塚大	金片今	尾
大	谷	井地	木本村	子岡井	崎
	G.K	F.B	H.B	F.W	
大	別	小仁	平高山	大堀大小	飯
商	所	嶺藤	田橋内	隅江塚山	尾
大					

対 関学

京	神	浜官	青塚大	樋片今	尾
大	谷	井地	木本村	口岡井	崎
	G.K	F.B	H.B	F.W	
関	真	曾八	鈴小	谷松出井吉	
学	内	我	萩	本村原原	見

対 京学大

京	神	浜官	大塚中	金片今	尾
大	谷	井地	村本野	子岡井	崎
	G.K	F.B	H.B	F.W	
京	宮	笹土	山大八	橋四平	河
学	階	井井	田西木	本方鶴	原
大					

対 関大

京	神	高宮	浜塚久	片今藤	金
大	谷	橋地	井井下	岡井田	子
	G.K	F.B	H.B	F.W	
関	坂	大福	神上田	吉湯大	山村
大	井	谷村	山田村	川口西内	側

対 神戸大 (一・二部入替戦)

京	神	浜官	青塚大	金片今	尾
大	谷	井地	木本村	子岡井	崎
	G.K	F.B	H.B	F.W	
神	波	佐	松大丸	下岡成	清渡
大	多	辻	野松屋	中本川	田部
	野	野			

	関	学	大商	大経	京教	京
関大	\	2-1	8-2	2-0	4-0	2-0
関学	×	\	8-1	2-0	5-0	7-1
大商大	×	×	\	8-2	4-0	1-1
大経大	×	×	×	\	1-1	4-0
京教大	×	×	×	△	\	2-0
京大	×	×	△	×	×	\

大学サッカー部めぐり

入試地獄で色あせた旧帝大サッカーで、わずかに命脈を保っているのが、西の京都帝大である。その活躍は、昨今の社会事情から考えると、まさに奇跡といえる。わたしは“異色篇”として価値があると思っている。

昭和の初期、関西学生リーグが軌道にのってから、およそ終戦前までの20年間、京大の歩んできた道は、華やかな栄光に彩られていた。まず昭和5年、当時大型プレーヤーをそろえた関学破って初優勝。7、8、9年とつづいた3連覇の黄金時代、関学が息を吹き返し、神商大、関大が乱立してからの戦国時代にも、常に上位に位し、12年と16年には優勝を加算した。

事実戦前の京大は、東の東大とともに、ようやく全国に勢を上げた旧制高校の逸材を集め、チーム力において、個人の技量においてサッカーの主流を直進していた。東の早慶、西の関関がいつも当面の目標としたのも、ほかならぬこの二つの官立大学であった。つまり日本のサッカーの技術は、当時この官立、私立の対抗によって、水準が保たれ、向上したのである。

だが官立の栄光の歴史は、戦後の学制改革それにつぐ入学難、それに追いたてられた教師みずからの学問、運動の分業観、必然的に起る大学運動部の精神的プロ・スポーツ化、こういった急流の前にもろくも押し流されてしまった。

東では長い間抵抗していた東大がついにしめだされ、西では阪大、ついで神大が没落の道を歩んだ。しかし京大だけは26年2部に転落し、一時は同じ運命をたどりながら苦節7年、昭和33年、ふたたび一部へ復活したのである。そして36年4位、37年から連続4シーズンは堂々3位に名をつらねて関関の地位をおびやかすにいたった。

この歴史の大きな方向転換は外資導入という形で行われた京大自身の体質改善によるものと見ている。一部復活の足がかりは、麻野、安居等古い先輩のテコ入れであったが最近の好成績の理由は、東京教育大出の若いコーチ瀬戸進氏の一貫した指導法にある。

瀬戸コーチの指導は、選手自身が自分の力を過大評価しない。毎年守備力の強化から再スタートするという基本方針に貫かれている。守備陣は味方同志の走力、足技など力量の確認から、相互の位置関係、距離方向の結びつきを基本線とし、相手が攻め疲れたときに押し上げるように一つの武器をもって徹底的に攻め抜くことに主眼を置いた。この反復練習は賢明な京大生の頭を通じて入り込み、その上に無器用な足技をカバーするためのパスの省略法をとり、旧制高校を思わせる力の結集力に結びついた。つまり一見してわかる“頭脳と力”のサッカーに徹底したのである。

こうしてある時は関学を破り、関大と引分け、ついに関関のコーチ連をして「どういう教え方をしているのか。どうしても京大だけは苦手だ」といわしめた。

今シーズンも部員は40人近くいるが未経験者が約半数、あと半分が高校時代の選手といって

も必ずしも素質には恵れてはいない。これで一部に留れるだろうか、という浮草のような印象は、ここ数年シーズンの初めの練習を見ていつもそう思っただけで、別段ことしに限ったことではない。その印象があるからこそ、秋にはどんな活躍をするだろうか、の期待につながるともいえよう。

他のスポーツに例をとれば関西六大学野球が伝統のワクを外してから、現在はすっかり官立大学が姿を消し、新興勢力で覆われようとしている。その意味でわたしはサッカーで京大が孤軍奮闘しているのに声援を送りたい。サッカーは小手先の器用さとか、一人や二人の名選手がいてもどうにもならないスポーツと強調する為のよい材料と思って(つまり頭腦的なものが多分に支配する)自慢し誇りにしたい。

このさき、世の流れに押し流されるときがくるが、それは京大自身の努力の報酬であるが、いつまでも、こういうチームがあってもよいのではないか、という希望は変わらないだろう。(岩谷俊夫)

註 共同通信、毎日新聞に居た岩谷俊夫記者がスポーツ雑誌に掲載した記事が当時の京大サッカー部をよく捕え居り、これを舟曳君が保存して居たのでこれを借りうけ、載せることにした。

昭和 42 年度

C 塚本文三 VC 青木功一 M 安田 栄
監督 本田見吉郎 コーチ 瀬戸 進 VM 中畑美男 稲垣 始

関西学生リーグ (二部)

京大	3 ($\frac{1-0}{2-0}$) 0	大工大	10・28	
			西宮市民	
京大	1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0	阪大	11・5	
			うつぼ	
京大	2 ($\frac{2-1}{0-1}$) 2	立命大	11・12	
			〃	
京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$) 2	同大	11・19	
			〃	
京大	2 ($\frac{1-0}{1-0}$) 0	甲南大	11・26	
			服部	
順位	1) 同大 2) 京大 5) 大工大			
	6) 大阪大			

京都学生リーグ (一部)

京大	4 - 1	府大	4・28	
京大	4 - 3	京教大	4・27	
京大	0 - 5	同大	5・7	
京大	2 - 0	立命代	5・14	
順位	1) 同大 2) 京大			
関西学生新人戦				
京大	1 - 0	桃山大	5・20	
京大	2 - 1	神船大	5・21	
京大	1 - 0	関大	5・27	
京大	2 - 5	大経大	5・29	
	準決勝で敗退 3位			

第21回 同大定期戦
京大 1 - 6 同大 6・18

対 立命大

G.K F.B H.B F.W

第18回 東大定期戦
京大 0 - 3 東大 7・2 東大

京 神 竹大 藤宮久 鈴塚黒野丹
大 谷 本村 田地下 木本田田羽

第5回近畿地区体育大会
京大 0 - 3 阪大 9・3

対 同大

京 神 横大 藤宮久 丹塚黒野樋
大 谷 内村 田地下 羽本田田口

練習試合
京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & - & 1 \\ 1 & - & 0 \end{smallmatrix}$) 1 香川大
11・3 農学部G

G.K F.B H.B F.W

同 庄 上稲 井白阿 江吹鈴 飯
大 司 野葉 上田波 森田木 田 藪

対 阪大 交替 尾籠→横内 野田→樋口

対 甲南大 交替 竹本→横内

G.K F.B H.B F.W
京 神 尾大 藤宮久 鈴野黒塚丹
大 谷 籠村 田地下 木田田本羽

G.K F.B H.B F.W

京 神 梅竹 大宮久 丹塚黒上樋
大 谷 田本 村地下 羽本田本口

サッカーと私

塚本大三（昭43卒）

“ピッピー” これは下痢した時の音ではない。これは笛の音である。笛の音といっても交通
巡査の笛ではなくサッカーの試合終了の笛である。

ぼくはこの笛の音を関西リーグで勝った時に聞くのがたまらない。特に関関に勝ったり引分け
たりして、ようやく逃げ切った時などは頭の中から脊髄を通してジーンとしたものが一瞬通り過
ぎる。

今日はこのせちがらい世の中で、ぼくにとって感激を得られるものはほとんどない。だから、
ぼくはこの勝利の感激を大切にしたいし、そのためサッカーをしていると云えるかも知れない。
最近オリンピックを契機にサッカー熱が上って来ているが、よくサッカー愛好者が“オレはサッ
カーが大好きだ”とか“オレはサッカーをしている時が最高だ”などと云っているが、ぼくはそ
んな事は口には一度も出した事はない。と云ってサッカーは嫌いではない。つまりぼくにとって
サッカーはもう恋人ではなく20年も30年も一緒に連れそった女房のようなものである。

だからサッカーをやっている時は面倒臭いと思う時もあるが、いざ1週間もやらないと何となく頼らない切ない気持になる。そして時々夫婦げんかをして離婚しようなどと考えることもあるがいつの間にか仲直りしてしまう。こんなことは多くの夫婦にあるように、多くのサッカーマンの心の中に聞いて見ればあることではないか。

では何故サッカーにはこんな仲直りさせてしまう魅力があるのだろうか。それはほくには全く判らないが個人々々、サッカーの持つ魅力のどれかにいかれていることは確かだろう。

ここで大変興味深い話をしよう。

あるサッカーマンが高校を出て、10年後に結婚したら、その披露宴にその同輩が全員そろって出席したそうだ。ところが同じ高校を出た野球の投手が事故で死に葬式をやったところが彼の女房役のキャッチャーだけが出席したそうである。

この話からも分るようにサッカーをやった奴というのはバカみたいに同朋意識が強いものである。

しかし我々サッカーを現在やっている者にとって一番の悩みは協調性であり、全体と個人の問題である。テニスとか卓球は個人プレーであるから何やかや言いながらも結局自分だけうまく、強くなればよいのであるがサッカーはそうはいかない。又例えばある選手が不運にもけがをして練習に出なければ早く治るという場合、いかにその選手がそのチームのレギュラーでなくても、他の人々の気持は顔を出して欲しいのはどうしてだろうか。

そこでその当人は自分を大切にしたいという気持とチームとの協調性というジレンマに陥って非常に悩む。

これは一例であってこの全体と個人の問題は常にみんなが悩んでいると言って過言ではあるまい。ところが面白い事に大抵この場合全体の方を大切にしてしまう。ということは自分を犠牲にして全体を盛り立てようとするのである。

結局そこに協調性という精神作用が自然と働くようになり、その積み重ねによって卒業後の根強い結びつきへと発展していくのであろう。そしてその結びつきというのは“サッカー”の一語によってすべてを消してしまうような魔力を秘めているのである。

今のほくの気持はこの訳の分らない何か空恐しい魅力を持っているサッカーを通してどれでもよい何か人生に大切なものを身につけたいと思っている。



溝 浜 竹 片 林 塚 今 神 藤 高 青 久 尾 梅 岡
淵 井 本 岡 本 井 谷 田 橋 木 保 崎 田 田

前列は東大選手

対 神戸大 6・11

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	久横	大宮藤	鈴野黒丹樋
大	岡	下内	村地田	木田田羽口
	交代 野田→上本			

対 甲南大 11・3

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	久宮	横大藤	鈴上相丹樋
大	岡	下地	内村田	木本京羽口
甲	木	藤浅	潮北夏	梅円山大松
南	村	井野	田村木	元部崎谷田

対 阪大 11・17

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	官久	藤大横	黒丹相野鈴
大	岡	地下	田村内	田羽京田木
阪	三	田中	植堀恵	藤鳥藤宇越
大	木	村村	村田須	沢居田川智
	ポジション 右・左 反対			

対 神戸大 11・24

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	二前	樋横久	黒丹相野鈴
大	岡	谷田	口内下	田羽京田木
神	波	河加	松丸渡	下向成清丹
大	野	村藤	野屋辺	中林川田田
	右・左 反対			

対 朝鮮大 6・18

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	久横	大宮藤	鈴野黒丹樋
大	岡	下内	村地田	木田田羽口

対 阪大 6・15

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	井	久横	大宮藤	鈴上黒丹樋
大	上	下内	村地田	木本 田羽口

対 英知 5・18

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	井	相丹	前二横	妻黒石竹三
大	上	京羽	田谷内	鹿田瀬村川
	交替 相京→田村 妻鹿→西村 竹村→山本			

大学の思い出



上本憲嗣 (昭44卒)

大学を卒業して早や7年が過ぎた。大学時代の思い出で、何かにつけて思い出されるのは初めてサッカー部の部屋を訪ねた日の事、小田原での夏の合宿であまりの暑さに気が遠くなりかけた事、二部落ちした日のこと、などサッカー部に関する事ばかりである。

4年間のサッカー部生活は本当に苦しかったが、ともかくこれを乗り切れた事は現在までの自身の生活の中で大きな励ましになって来たことは事実である。

今夏(51年)東大との定期戦で久しぶりに東大に勝ち、また同時に我々の時代に比して個人技、あるいはパスワーク等、どれをとっても非常にレベルアップしたように思う。

私学に圧倒されながら関西リーグにあって今後、上位進出を果たし京大サッカー部の新たな伝統を作り上げて欲しいと願わずにはいられない。

昭和43年の人々



梅田幹雄



神谷東輝雄



竹本恒行

昭和44年度

C 鈴木俊郎 VC 久下雅裕

監督 恒藤 武 M 稲垣 始 SM 多田 章
助監督 根本紀夫

関西学生リーグ (二部)

京大 0-0 大府大 10・19 大府大

京大 7 ($\frac{4-0}{3-2}$) 2 大市大 10・30
京大宇治

京大 1 ($\frac{0-0}{1-0}$) 0 天理大 11・3
うつば

京大 3 ($\frac{0-0}{3-0}$) 0 京工大 11・5
浜甲子園厚年G

京大 2 ($\frac{2-0}{0-2}$) 2 甲南大 11・16
宇治

京大 0 ($\frac{0-2}{0-0}$) 2 大工大 11・22
西宮市民

京大 1 ($\frac{0-0}{1-0}$) 0 立命大 11・29
服部

順位 2位

入替戦

京大 1 ($\frac{1-0}{0-2}$) 2 阪大 12・4
服部緑地

京都学生リーグ (一部)

京大 2 ($\frac{1-2}{1-3}$) 5 同大 4・12 府大

京大 5 ($\frac{5-0}{0-0}$) 0 府大 4・27 //

京大 4 ($\frac{2-0}{2-1}$) 1 京工大 5・3 //

京大 0 ($\frac{0-1}{0-3}$) 4 京教大 5・3 //

京大 0 ($\frac{0-0}{0-1}$) 1 立命大 5・11 //

順位 4位

第23回 同大定期戦

京大 0 ($\frac{0-1}{0-3}$) 4 同大 6・15 京大

第20回 東大定期戦

京大 1 ($\frac{1-0}{0-1}$) 1 東大 7・6 検見川

第7回 近畿地区国立大学体育大会

京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 和歌山大 池田
8・30 大教大

京大 0 ($\frac{0-2}{0-1}$) 3 京教大
8・31 //

京大 2 ($\frac{1-0}{1-1}$) 1 京工大
(3位決定戦) 9・1 //

対 大府大 10・19

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	安	久二渡前 (柳瀬)	横丹相 羽	鈴山石
大岡		下谷辺田	内京	木田瀬

対 大市大 10・30

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安	久二渡前	横相丹 羽	鈴山石	山相黒 田京田
大岡		下谷辺田	内京	木田瀬	2 2 2

交代 丹羽→黒田 鈴木→奥田

対 天理大 11・3

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安	久二渡前	横黒丹 羽	鈴山石	山田
大岡		下谷辺田	内田	木田瀬	

対 京工織大 11・5

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安	久二渡前	丹横黒 羽	鈴山石	奥相 田京
大岡		下谷辺田	内田	木田瀬	2

交代 黒田→相京 山田→奥田

対 甲南大 11・16

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安	久二渡前	丹横相 羽	鈴奥石	奥相 田京
大岡		下谷辺田	内京	木田瀬	

対 大工大 11・22

	G.K	F.B	H.B	F.W
京大	安	久二渡前	丹横相 羽	鈴奥石
大岡		下谷辺田	内京	木田瀬

交代 奥田→尾籠 石瀬→三津川

対 立命大 11・29

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安	久二渡前	丹横相 羽	三尾石 津	丹羽
大岡		下谷辺田	内京	川籠瀬	

交代 石瀬→山田

対 阪大 12・4

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京	安	久二渡前	丹横相	三尾石	三 津 川
大	岡	下谷辺田	羽 祐内京	津 川籠瀬	
交代 丹羽(佑)→棚井 石瀬→山田					

対 立命大 5・11

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	井	柳久二福	丹前	鈴尾黒棚
大	上	瀬下谷島	羽 祐田	木籠田井
交替 前田→樋口 鈴木→石瀬				

対 同大 4・12

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	渡二柳丹	丹久野	鈴尾棚
大	岡	部谷瀬 彰	羽 祐下田	木籠井

対 東大 7・6

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	井	渡久二柳	丹相横	鈴尾黒
大	上	辺下谷瀬	羽 祐京内	木籠田

対 府大 4・27

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	樋久二渡	丹横	三尾黒石
大	岡	口下谷辺	羽 祐内	津 川籠田瀬

対 京教大 8・31

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	安	渡久二前	横丹相	鈴尾(石
大	岡	辺下谷田	羽 祐京内)	山田)木籠瀬

ポジション 左・右 反対

あ る 提 言

久 下 雅 裕 (昭44卒)

45年卒業の私達最後の公式戦は、一部リーグへのチャレンジマッチでした。

それは、44年12月初旬 初冬の風吹く服部緑地で、大阪大学との戦いでした。

追う者の強みと言いますか、前半戦はかなり京大ペースで展開され、何度となく敵陣深く攻め入り(1-0)のスコアで、ハーフタイムを迎えました。1点のリードで気を許したのか、ゲームは互角となり、やがて押されきみになるに至り、痛恨のハンドを自陣Pエリア内で犯してしまいました。そのまま続行されれば何事もなかったようなプレーでしたが、少し遅れて主審の笛がなりました。(1-1)の同点です。

以後、追う者、追われる者が入れ替わったように、終盤で相手の右からのセンターリングを見事に合わせ、私達の8年の悲願は消え去りました。

7年前のこの試合は、今でも断片的ではありますが、私の脳裏に焼き付いております。今また

50周年記念誌に投稿させていただく事により、さらに鮮明な画像となって蘇り、今後も忘れる事のない記憶として残ることと思います。

今年（51年）の現役チームは、春から伝統を破るさわやかな成績を挙げ、「今年こそは」と胸をときめかせております。このOBの1人として、卒業以来思案しておりました事を、この記念誌を借りて提言したく思います。

高校時代のトッププレイヤーをはじめ、いわゆるサッカーの経験者の少ない京大が、一部と二部の間を行きつもとどりつてはいるが、関西学生サッカーのAクラスにある姿は立派な事だと思います。これは本来なら伝統のなし得る力と言い流されてしまうことでしょうか、私はあえて、現役諸君の絶えざるたまものであると言わせていただきます。

最近の関西学生リーグを見ますと、過去、すばらしい実績を誇った関学、関大でさえも凋落の一途をたどる感があります。つい4、5年前学生の王座にあった関大は、去年二部に陥落致しております。このような伝統校を尻目に、新興大学が優勝候補とされている昨今、いつ我が京大も奈落の底まで落ちぬとも限りません。ここに、50余年の伝統を誇る京大サッカー部OB会が為すべき事があります。この伝統の力を、より具体的に発揮すること以外にはありません。

私もその中の1人ですが、現役の戦績の良し悪しは敏感にOBに伝わり、OB戦の集まり具合や、OB会費の集まりにも反映されるでしょう。新聞に京大サッカー部が載らないということはやはり寂しいものです。

そこでこれを機に、OBに依るコーチングスタッフの確立を提唱致します。42年までは現大谷大学教授・瀬戸コーチの全くの厚意に頼っていましたが、今後瀬戸コーチのようなすばらしいサッカー狂は見つかる可能性はないと思います。

OBに依るコーチをうまく組織化している例は、京都教育大と紫光クラブの例があります。京大では条件が異り、就職すれば全国に散ること、また就職先でのクラブチームがあることなどの障害があって、今までOBチームが組織されたことは聞いておりません。大学に残り、研究の道に進まれる一部OBに、この役を押しつけるのは（現実には、根本先輩等がよく世話を下さっていますが）負担が大き過ぎるでしょう。

私の思うところでは、やはりOBチームを結成することより他ないようです。これは、厳密にOBだけに限らず、OB主体のクラブチームとして、休の土曜・日曜に合同練習や試合ができればすばらしいことだと思います。このクラブチームの実際の運営は新卒OBで、共同運営することで京都在住、大阪近郊のOBが集まればやれることだと思います。このチームの誕生に依って現役チームの集団指導体制が確保されると共に、これは技術面、金銭面、その他あらゆる面の援護ができると思います。

このOBチームの援護の下で京大サッカー部が、関西学生サッカー界を引っばるチームになる

こと、すなわち、そうしたチームに育てる事がこのOB会に課せられた、今後の50年100年の任務だと思っております、いかがでしょうか。

昭和51年10月

「44年度主将・鈴木俊郎が海外出張を間近に控え、公私共忙しておりますので、副主将の私が書かせていただきました。」

昭和45年度

C 二谷則彦 VC 黒田健一 横内 茂

監督 恒藤 武 M 稲垣 始
 助監督 根本紀夫

入 替 戦

関西学生リーグ（二部）（一部昇格）

京大 1 - 0 天理大 10・18 宇治G
 京大 4 - 1 神商大 10・25 農学部
 京大 2 - 0 大府大 10・31
 京大 2 - 1 京工大 11・ 8 宇治G
 京大 5 - 0 大工大 11・15 //
 京大 4 - 0 甲南大 11・21 //
 京大 0 - 0 立命大 11・29

順位 1位

入 替 戦（一部昇格）

京大 3 - 0 阪大 12・6 京大宇治

京都学生リーグ（一部）

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-3 \\ 0-0 \end{smallmatrix}$) 8 同大 4・18
 京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{smallmatrix}$) 2 産大 4・25
 京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 1-3 \end{smallmatrix}$) 3 京教大 4・29
 京大 2 ($\begin{smallmatrix} 0-3 \\ 2-0 \end{smallmatrix}$) 3 京工大 5・ 8
 京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0-3 \\ 1-1 \end{smallmatrix}$) 4 立命大 5・10

順位 6位

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 1-1 \end{smallmatrix}$) 1 竜谷大

第24回同大定期戦

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 1 同大 6・ 7

四者リーグ戦

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix}$) 1 京教大 6・18

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 2-0 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 0 阪大 6・14

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 1-0 \\ 2-1 \end{smallmatrix}$) 1 神大 6・21

完全優勝

第21回東大定期戦

京大 2 - 3 東大 7・12 京大

第8回近畿地方国立大学体育大会

京大 3 ($\begin{smallmatrix} 2-2 \\ 1-0 \end{smallmatrix}$) 2 滋賀大
 8・25 京教大

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 2-2 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 3 京教大
 8・26 //

練習試合

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-1 \end{smallmatrix}$) 1 名古屋ク
 8・23 瑞穂G

対 天理大 10・18

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安前山	渡二棚	横古石黒相
京		岡田	辺谷井	内松瀬田京
大				

対 大工大 11・15

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安山森	棚二渡	石黒横古
京		岡田	井谷辺	瀬田内松
大				

対 神商大 (大府大) 10・25 - 31

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安前山	渡二棚	古横石黒相
京		岡田	辺谷井	松内瀬田京
大				

対 甲南大 11・21

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安前森	棚二渡	石黒横古
京		岡田	井谷辺	瀬田内松
大				

交替 森 → 相京

対 京工大 11・8

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安森前	渡二棚	山古黒石
京		岡田	辺谷井	田松森田瀬
大				

対 立命大 11・29

	G.K	F.B	H.B	F.W
		安前森	棚二渡	石相横古
京		岡田	井谷辺	瀬京森内松
大				

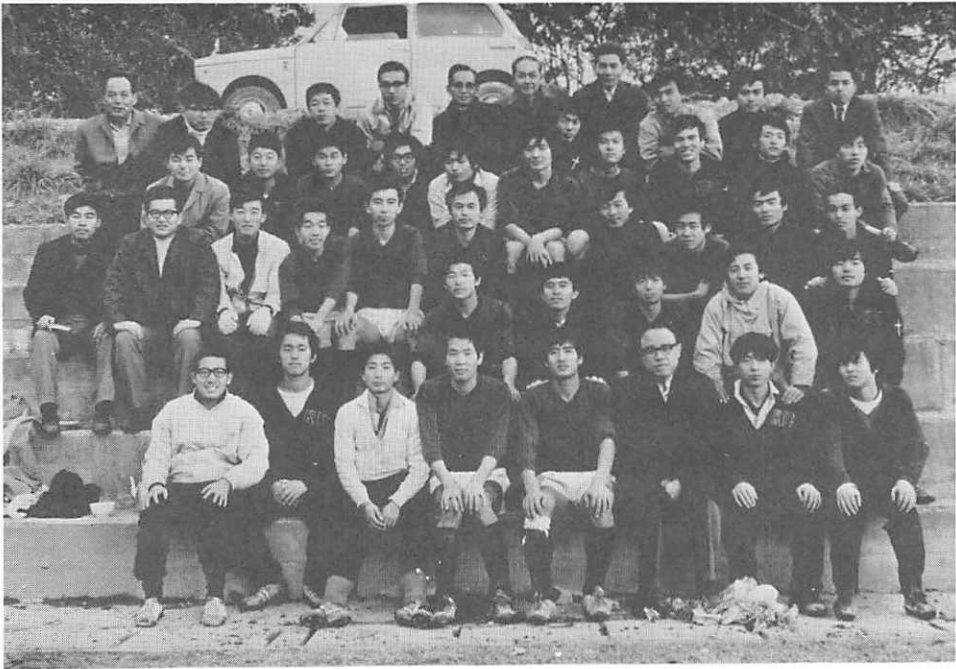
ポジション 右の三ツ 左・右 反対

昭和45年 O B 戦

塩路氏提供



林 久下 影山 浜井 真田 鈴木 根本 丹羽佑 藤田 片山 岡本 大羽 塩路 東川
 倉内 伊藤 塚本
 川野 安居 麻野 恒藤 貫戸 竹山部長 長井 藤井



安居 留岡 三津川 倉内 麻野 小野 恒藤 広部 小林 藤井
 川野 多田 横内 中原 小林 山田 加藤 安岡 緒方 林
 浜井 西 馬場 石瀬 黒田 森岡 船曳 相京 香川 鶴田
 古松 根本 前田 鈴木 木下
 稲垣 小林 棚井 渡辺 二谷 竹山部長 丹羽 森(久松)

昭和46年度

C 安岡 健 VC 相京重信 渡辺庸二
監督 恒藤 武 M 多田 章

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 同 大	5	2	0	京大	1 ($\frac{1-2}{0-1}$)	3	関学	11・8 西宮
2) 大経大	3	1	3	京大	1 ($\frac{1-2}{0-2}$)	4	関大	11・17 神戸中央
3) 関学	3	2	2	京大	1 ($\frac{0-0}{1-0}$)	0	大経大	11・23 //
4) 大商大	2	1	4	京大	0 ($\frac{0-0}{0-3}$)	3	同大	11・30 西京極
5) 京教大	3	2	2	京大	1 ($\frac{0-0}{1-0}$)	0	京教大	11・6 //
6) 京大	3	3	1	京大	1 ($\frac{1-0}{0-1}$)	1	大商大	11・18 //
7) 関大	2	4	1	京大	3 ($\frac{2-1}{1-1}$)	2	立命大	11・20 神戸中央
8) 立命	0	6	1					

京都学生リーグ (一部)

京大	0 - 0	同大	4・11
京大	0 - 0	京教大	4・18
京大	2 ($\frac{0-2}{2-1}$)	立命大	4・25
京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$)	京産大	4・29
京大	3 ($\frac{1-0}{2-0}$)	竜谷大	5・2
京大	2 ($\frac{1-1}{1-1}$)	京工大	5・15

順位 4位

第25回同大定期戦

京大	1 ($\frac{0-0}{1-1}$)	1	同大	6・20
----	-------------------------	---	----	------

第9回近畿地区国立大学体育会 不参加

第22回東大定期戦

京大	1 ($\frac{0-0}{1-1}$)	1	東大	7・11 東大
----	-------------------------	---	----	---------

対 関学・同大

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安岡	舟小渡森	巖 広 森	古山相 山田	
同大	岡	曳林辺岡	本 部	松田京	
交代 古松→香川					

対 関大

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京大	安岡	舟小渡森	棚 巖 森	古山相 古松	
同大	岡	曳林辺岡	井 本	松田京	
交代 小林→馬場 棚井→広部					

対 大経大

しつようにボールを追った京大と、どことなくびったりとしない大経大、その差が勝敗に出た。後半6分、京大は相手バックがGKに軽く渡そうとしたバックパスを山田がカットそのまま蹴り込んだ。わずかのスキに対す

る素早い山田の動きがこの日の京大をよくあらわしていた。京大はよく走ったうえ、森、棚井、古松らのキープを生かして中盤をうまく組立てていた。

G.K F.B H.B F.W 得点
 京 安 舟小渡森 巖 棚 古山相 山
 大 岡 曳林辺岡 本 井 松田京 田
 交代 舟曳→馬場

対 京教大・大商大・立命大

G.K F.B H.B F.W
 京 安 舟小渡森 棚 巖 古山相
 大 岡 曳林辺岡 井 本 松田京

対京教大 交代 渡辺→馬場 巖本→広部

得点 相京 対大商大 得点 相京

対立命 交代 舟曳→馬場 得点 山田2 相京

同	経	学	商	教	京	関	立
同	大	\	×	○	○	×	○
			2-1	2-0	8-0	2-1	2-0
4-1	\	2-2	0-0	1-1		5-2	1-0
大	大	○	△	△	×	○	○
				2-2	8-1	8-0	6-2
関	学	×	△	\	△	×	○
					7-2	1-1	8-0
大	商	大	×	△	\	○	△
						1-1	4-2
2-1	\	2-1	×	\	×	△	○
京	教	大	○	△	○	×	○
					1-0		8-2
京	大	×	○	×	△	\	○
						4-1	8-0
関	大	×	×	×	×	△	\
							○
立	命	大	×	×	×	×	\

注. ポジション 右・左 反対

がんばる京大三クラブ

一部リーグで健斗 (練習不足“頭。でカバー)

スポーツシーズンたけなわの関西大学スポーツで“国立校”京大のがんばりが目立っている。とくに「力のスポーツ」といわれるラグビー、アメリカンフットボール、サッカーの各部はいずれも一部リーグにはいり、私大勢にまじって一步もヒケをとらない活躍ぶり。「京大ががんばるようじゃあ、関西の大学スポーツも終りき」「いや、国立校で一部リーグとは立派なもの」などと意見もいろいろだが、とにかく京大の三つのクラブの健斗は注目してよいだろう。

ラグビーは44校、アメリカンは20校、サッカーは46校が関西リーグに加盟しているが、この三競技とも一部リーグ(8校)というのは京大の外同大、関大の2校しかない。これだけを見てもたいしたものなのに、その上成績もよいときているから“がんばる京大”の印象を与えるのは当然である。

ラグビーは現在4勝1敗。昨年優勝の天理大には22-16で惜敗したが他を連破して早々と3位以上を決めた。一昨年は7位、昨年は5位ただだけに大躍進である。

アメリカンも4勝2敗で3位以上が決っている。41年以来負けし知らずという安定した成績が続いて居り京大を代表するメンスポーツにのしあがってきた。

サッカーは2勝3敗1分け。ラグビー、アメリカンに比べると地味だが5年ぶりに一部に返り咲いた成績にしては悪くない。全員が一部リーグ初経験だが、トップ三強の内の大経大に対してはマイペースにまきこむ巧みな試合運びで1-0で勝ち、大商大に引分けと善戦している。GK安岡を主力にした守りの堅さはなかなかのもので、試合内容は合格点を与えてもよいだろう。

京大体育会(40部、会員1,200人)のモットーは“考えるプレー”。部員36人のラグビー、28人のアメリカン、サッカーとも6割以上の部員が理科系の学部(レギュラーではラグビーが15人中10人、アメリカンとサッカーは11人中8人)のため、実験などに追われて練習量は十分でない。そこで“考えるプレー”が重要視されてくるわけで、三クラグとも「少い練習量で最大の効果を発揮出来るよう工夫している」という。私大では付属高校からエスカレーター式に部員を吸収出来るし、有名選手を無試験扱いでスカウトするところもある。OB会や体育会の組織も強く、学校側の援助も多い。そんな恵まれた私大にまじり、高校時代のスポーツ未経験者や他のスポーツからの転向者が多い京大の三つのクラブの活躍には拍手を送ってよいだろう。

ラグビーの前田、アメリカンの阪口、サッカーの安岡各主将に聞いて見ると、3人とも同じことをいった。「偶然にもフットボールといわれる三つの部が一部リーグなので、互いに負けられないとハッスルしあっている」と。

ラグビーの前田、アメリカンの阪口両主将は天王寺高の同級生。アメリカンとサッカーは練習場が隣同志(宇治G)、ラグビーとサッカーは北野高出が多いことから三つの部は絶えず励ましあっているともいう。

この記事は朝日新聞に出た記事で、筆者の会社の先輩であり、京大陸上のオリンピック選手原田、田島を擁した、黄金時代の中距離ランナーであった白石磷氏がわざわざ切り抜いて贈ってくれたものである。舟曳君もこれを持っていた。(唐原記)

親子二代の名物男



鶴田孝雄
昭47卒

親子二代(親爺は昭18年)京大蹴球部に居たのはこの人だけ外に兄弟いたのは、長井兄弟、市山兄弟、今永兄弟、もう一人昭13卒の市山氏が居るがこれは別の人である。

昭和46年 関学戦後

船曳氏提供



棚井 森 相京 巖本 広部 船曳 小林
 渡辺 森岡 古松 山田 香川

昭和46年 夜桜見物 於円山公園



船引氏提供

馬場 加藤 森 降旗 荒木
 相京 渡辺 船曳 森岡 安岡 広部 小林

何時の頃から始ったか毎年恒例となった夜桜見物

昭和 47 年度

C 山田哲治 VC 船曳正起 古松泰造

監督 恒藤 武 M 磯貝

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 大商大	6	0	1	京大	1 ($\frac{0-0}{1-8}$)	3	関学	9・28 御崎G
2) 関学	5	1	1	京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	大商大	9・30 西宮
3) 同大	4	1	2	京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	同大	10・7 //
4) 京産大	8	8	1	京大	0 ($\frac{-}{-}$)	0	大経大	10・14 尼崎
5) 大経大	2	2	8	京大	3 ($\frac{1-0}{2-0}$)	0	関大	10・22 御崎G
6) 京大	1	5	1	京大	0 ($\frac{0-2}{0-1}$)	3	京産大	10・28 西京極
7) 京教大	1	5	1	京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$)	2	京教大	11・3 彦根陸上
8) 関大	1	6	0					

京都学生リーグ (一部)

京大	4 ($\frac{3-0}{1-0}$)	0	立命大	4・9
京大	4 ($\frac{1-1}{3-0}$)	1	京工大	4・23
京大	0 ($\frac{0-0}{0-2}$)	2	天理大	4・29
京大	0 ($\frac{0-2}{0-1}$)	3	京産大	5・3
京大	2 ($\frac{2-2}{0-1}$)	3	京教大	5・7
京大	1 ($\frac{1-1}{0-1}$)	2	同大	5・14
京大	5 ($\frac{3-0}{2-0}$)	0	竜谷大	5・21

順位 5位

第26回同大定期戦

京大	0 ($\frac{0-4}{0-0}$)	4	同大	6・25
京大OB	1 ($\frac{1-1}{0-0}$)	1	同大OB	//

第23回東大定期戦

京大	0 ($\frac{0-0}{0-1}$)	1	東大	7・2 京大
----	-------------------------	---	----	--------

京大OB 0 - 1 東大OB 7・2 京大

国立七大学体育大会 (七帝戦)

京大	0 ($\frac{0-4}{0-1}$)	5	東大
京大	3 ($\frac{1-1}{2-0}$)	1	阪大
京大	4 ($\frac{2-3}{2-0}$)	3	名大

練習試合

京大	0 - 0	関学	5・13
京大	0 ($\frac{0-1}{0-5}$)	6	大経大 5・20
京大	1 ($\frac{0-1}{1-2}$)	3	京産大 5・28
京大	0 ($\frac{0-1}{0-2}$)	3	関大 6・3
京大	3 ($\frac{3-2}{0-1}$)	3	京教大 6・4
京大	1 ($\frac{0-1}{1-1}$)	2	ベルリン自由大学 9・26 西京極

東京遠征

京大	0 - 8	上智大
京大	0 - 0	一橋大
京大	1 - 0	東大
京大	0 - 5	日立
京大	1 - 8	東教大
京大	2 - 2	朝鮮大

対京教大・京産大・関大

京大	伊藤	舟岡	永山小	阿山古巖	交代
大	藤	曳部	井口林	満田松本	森
	G.K	F.B	H.B	F.W	古松
京教大	藤岡	亀井	吉田	成山瀬	荒木
			田口川	佐来杉	高山
				藤栖本	瀬田

対関学 9・28

京大	伊藤	舟岡	永山小	香山阿巖	交代
大	藤	曳部	井口林	川田満本	森
	G.K	F.B	H.B	F.W	阿満
関学	白石	福大	飯仙宇	南中芝村川	荒木
学	石島	竹田	波田	岡山池上島	

対大経大 F.C香川→古松 以外変更なし。

大	学	同	産	経	京	教	関
大商大	5-2	○	○	△	○	○	○
関学	×	△	○	○	3-1	○	3-1
同大	×	△	1-0	2-2	1-0	○	2-1
京産大	△	×	×	×	3-0	○	○
大大	△	×	△	2-1	0-0	△	○
京大	×	×	×	×	△	×	3-0
京教大	×	×	×	×	△	2-1	○
関大	×	×	×	×	×	×	○

対大商大 9・30

京大	伊藤	舟岡	永山小	阿山香巖	交代
大	藤	曳部	井口林	満田川本	香川
	G.K	F.B	H.B	F.W	荒木
大商大	峠	福催	加板藤	坂古宇加和	宇陀
		田	正東	前藤	山崎
				口田陀	菜村

対同大

京大	伊藤	舟岡	永山小	阿山香巖	森
大	藤	曳部	井口林	満田川本	
	G.K	F.B	H.B	F.W	
同大	垣内	安田	井長	中飯小	今幡
		達井	楠谷	堀	井
			原川	村山	



山田 荒木 古松 磯貝 山口 兼坂
 齋藤
 小林 馬場 巖本 阿満

昭和48年度

C 森 啓次 VC 広部康治 巖本元裕
 監督 恒藤 武 M 田路厚洋

関西学生リーグ (一部)

	勝	敗	分					
1) 大商大	6	0	1	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 0-2 \end{smallmatrix} $)	2	同大	9・15 西宮
2) 関学	4	0	3	京大	1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-4 \end{smallmatrix} $)	4	京産大	9・24 西京極
3) 京産大	4	1	2	京大	1 ($\begin{smallmatrix} 1-2 \\ 0-1 \end{smallmatrix} $)	3	大商大	9・30 西宮
4) 大経大	3	2	2	京大	1 ($\begin{smallmatrix} 0-0 \\ 1-1 \end{smallmatrix} $)	1	関学	10・6 //
5) 同大	2	5	0	京大	5 ($\begin{smallmatrix} 4-0 \\ 1-4 \end{smallmatrix} $)	4	京教大	10・18 神戸中央
6) 京大	1	4	2	京大	3 ($\begin{smallmatrix} 2-1 \\ 1-2 \end{smallmatrix} $)	3	関大	10・22 御崎
7) 関大	1	4	2	京大	0 ($\begin{smallmatrix} 0-2 \\ 0-2 \end{smallmatrix} $)	4	大経大	10・27 西宮
8) 京教大	0	5	2					

対 関学 10・6

	G.K	F.B	H.B	F.W	得点
京	伊	広馬	荒山梅	田永西	永井 森
大	藤	部場	木口田	中井田本	

対 京教大 10・18

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	広馬	荒山小	巖西永田
大	藤	部場	木口林	森 本田井中

交代 荒木→藤原 田中→山本

得点 馬場、巖本2、永井、田中

対 関大 10・22 神戸中央

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	山広	荒馬小	田永西
大	藤	口部	木場林	森 中井田本

得点 山口、森、永井

対 大経大

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	梅広	荒山小	田永藤
大	藤	田部	木口林	森 中井多本

交代 荒木→藤原 藤多→西田

対京産大戦 前半は5分、5分、よく攻めて相手G.Kがセービングする場面もあり、20分にP.Kを得たが得点に至らなかった。後半は7・3で中盤は殆んど相手に取られ押されて攻められなかった。

対関学戦 関学 C.F中山を梅田がよくマー

クしてそのヘディングを封じた。勝負は後半であった。後半開始後、序々に関学がペースを取り出しチャンスが多くなった。22分H.BのチェックミスからR.W河崎にクリーンシュートを決められた。然し取られた後京大の動きが良くなり、30分に馬場、荒木、巖本と渡り永井に継ぐ、永井ワントラップしてG.Kと1対1となりこれを極めて同点。その後一進一退が続き終了直前のチャンスを点にすることが出来ず、勝てそうな試合を引分けた。

対関大戦 先手先手を取られ引分けるのがやっとならぬ試合を引分けてしまった。

対同大戦 リンクマン森が欠場して中盤が作れず速攻に頼るしかなかった。前半はきわどいチャンスが数回あったが、後半はH.B、F.Wともバテて動かず、動き負けてしまった。

	大商	関学	産大	大経	同大	京大	関大	京教
大商大	\	1-1 △	○	○	○	8-1 ○	○	○
関学	△	\	△	○	○	○	△	○
京産大	×	△	\	△	1-0 ○	4-1 ○	○	○
大経大	×	×	△	\	○	4-0 ○	○	△
同大	×	×	×	×	\	2-0 ○	○	○
京大	×	△	×	×	×	\	3-3 △	5-4 ○
関大	×	×	×	×	○	△	\	△
京教大	×	×	×	△	×	×	△	\

昭和 49 年度

C 巖本元裕 VC 山口哲郎 永井利明
監督 恒藤 武 M 田路厚洋

関西学生リーグ (一部) (二部転落)

	勝	敗	分				
1) 大経大	6	0	1	京大	0 (0-2)	4 大経大 9・22 神戸中央	
2) 大商大	6	1	0	京大	0 (0-1)	8 大体大 10・12 伊 丹	
3) 大体大	4	1	2	京大	0 (0-1)	2 同 大 10・26 うつぼ	
4) 同 大	4	3	0	京大	0 (-)	0 京産大 10・ 8 伊 丹	
5) 京産大	1	3	3	京大	2 (0-8)	8 関 大 10・19 西京極	
6) 関 大	2	4	1	京大	0 (0-0)	1 関 学 9・16 "	
7) 関 学	1	6	0	京大	0 (0-1)	1 天理大 11・30 神戸中央	
8) 京 大	0	6	1	京大	0 (0-1)	8 天理大 11・24 "	
京大	0 (0-1)	8	大商大	9・30	京大	0 (0-1)	8 天理大 11・24 "
			うつぼ				(入替戦) 以上2試合

50周年記念大会

現役	1 (0-0)	0	若手OB
OB・B	2 (0-1)	2	OB・C
	1-1		
超OB	3 (1-0)	0	神戸女学院中学部
	2-0		

	G.K	F.B	H.B	F.W
若手		安 舟棚	相丹馬	横二 小鈴鶴
O				森
B		岡 曳井	京羽場	内谷 林木田

	G.K	F.B	H.B	F.W
B		近 今	平浜大	若大 川市
チ		林		東 山
ム		江 井	尾井友	井木 野新

	G.K	F.B	H.B	F.W
C				
チ		小日	井樋倉	留清長 堀影
ム		榊	田比	坪口内 岡水井路山

	G.K	F.B	H.B	F.W
超				
O		安 竹湯	横赤田	伊古藤金竹
B		居 山浅	山川口	藤川本沢内
交代		渋谷 酒井	深山 大羽	唐原 恒藤

第28回同大定期戦

京大	1 (1-1)	8	同大	同大
	0-2			6・9 香里
京大OB	1 (0-0)	0	同大OB	" "
	1-0			" "

第25回東大定期戦

京大	0 (0-1)	1	東大	7・6	京大
	0-0				

京都学生リーグ

京大	1 - 4	京教大	4・6	府大
京大	4 - 2	立命大	4・14	〃
京大	0 - 4	天理大	4・21	〃
京大	2 - 2	滋賀大	4・28	宇治
○京大	0 - 3	京産大	5・5	工大
京大	1 - 4	竜谷大	5・12	府大
○京大	1 - 3	同大	5・19	大谷

○印は関西学生選手権を兼ねる。

関西学生選手権予選リーグ

京大	0 - 8	大経大	4・20
京大	1 - 2	関学	4・27
京大	0 - 4	大商大	5・11
京大	1 - 2	大体大	5・25
京大	3 - 1	関大	5・26

敗者復活戦

京大	0 - 4	天理大	6・1
----	-------	-----	-----

第12回近畿地区国立大学体育大会

京大	4 ($\begin{matrix} 2-0 \\ 2-3 \end{matrix})$	3	阪大	8・25
京大	2 ($\begin{matrix} 0-0 \\ 2-1 \end{matrix})$	1	和歌山大	8・26
京大	3 ($\begin{matrix} 0-0 \\ 1-1 \\ 2-0 \\ 0-0 \end{matrix})$	1		優勝

天皇杯関西予選

京大	0 ($\begin{matrix} 0-2 \\ 0-3 \end{matrix})$	5	タナベF.C
----	--	---	--------

対 大経大

	G.K	F.B	H.B	F.W
		┌───┐	┌───┐	┌───┐
京	伊	梅藤	荒山永	山田藤巖佐
大	藤	田多	木口井	本中原本藤
	交代 巖本→田路 山本→谷野			

対 大商大・大体大

	G.K	F.B	H.B	F.W
		┌───┐	┌───┐	┌───┐
京	伊	梅藤	佐山永	田宮谷荒藤
大	藤	田多	藤口井	中本野木原
	交代 対大商大 藤多→田路 谷野→中村			
	対大体大 谷野→中村			

対 同大

	G.K	F.B	H.B	F.W
		┌───┐	┌───┐	┌───┐
京	伊	梅藤	荒山塩	田宮谷巖永
大	藤	田多	木口見	中本野本井
	交代 塩見→中村 山口→佐藤			

対 京産大

	G.K	F.B	H.B	F.W
		┌───┐	┌───┐	┌───┐
京	伊	梅藤	荒山永	宮田藤巖佐
大	藤	田多	木口井	本中原本藤

対 関大

	G.K	F.B	H.B	F.W
		┌───┐	┌───┐	┌───┐
京	伊	永藤	荒山梅	田宮山巖藤
大	藤	井田	木口田	中本本本原
	交代 藤原→佐藤			

対 関学

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	永藤	荒山梅	中田宮巖藤
大	藤	井多	木口田	村中本本原
交代	宮本→山本			

入替戦 対 天理大

一回戦	伊藤	中藤	荒佐梅	田塩宮巖永
	藤村	多木	藤田	中見本本井
二回戦	伊藤	中藤	荒山梅	田永宮巖藤
	藤村	多木	口田	中井本本原

対 同大定期戦 6・9

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	山田服藤	佐藤永	田宮山
大	藤	口路部多	藤原井	中本本
交代	藤多→和田 服部→西田 佐藤→芝田 山本→中村			

対 関学 4・27

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	梅藤	荒山永	芝田宮藤巖
大	藤	田多	木口井	山本田中本原本

対 天理大 6・1

	G.K	F.B	H.B	F.W
京	伊	山藤	佐服梅	永山藤巖荒
大	藤	口多	藤部田	山本原本木

昭和49年 大経大戦

於 神戸中央

田路氏提供



梅田 田路 恒藤 山本 山口
 藤多 藤原 松岡 和田 永井 谷野
 伊藤 田中 佐藤

4年を終えて

永井利明（昭51卒）

4年間の学生生活を終えて社会人として踏み出して、クラブ中心の生活から仕事中心の生活に変わり、しだいにサッカーから遠ざかりつつある生活に寂しさを感じているこの頃です。

私がサッカーをはじめたのは中学生のころで、それ以来サッカーの魅力にとりつかれ、大学に入学したときは、京大は一部に昇格して2年目でした。1回生のとき、春はFWでときどき試合に出場させてもらっていましたが、さいわいにも夏合宿でHBのポジションを与えられレギュラーの座を獲得し、それ以来、2回生のときはセンターフォワード、3回生のときはスウィーパーと3年間一部でプレーしてきましたが、残念にも3回生の秋のリーグ戦で8位という不本意な成績を残し、入替戦においても天理大に敗れ、二部に転落という事態になりました。そういう中でチームをひきつぎ、秋のリーグ戦では二部で優勝したものの、一部の厚い壁（対関学大）にはばまれ、一部には昇格できませんでした。

京大のサッカー部は他の大学と違い下宿している者が大半で、練習以外の時間もいっしょにすることが多く、その点でまとまりやすい面を持ち、互いに理解しあえるという長所を持っています。1、2回生の頃、よくミーティングと称し、いっしょにプレーしていた森さん（現在久松氏）や巖本さん、それに大学院生だった稲垣さんたちといっしょに遅くまで飲み歩き、試合の反省や練習の内容など教えられたり、意見をたかかわせたりサッカーの話ばかりしていた時期がありました。そういう中で、何がチーム及び自分に必要なのかということを考えさせられ、またプレーのコンビネーションという意味でも役に立ちました。3回生のときは、スウィーパーがおらず、まず守備からということでもいろいろ試みた結果、私にお鉢がまわってきたのですが、私としてはまあまあ合格だと思っていたし、BKの楽しみというのわかり、勉強になりました。その年は、攻撃面においてFWが1、2回生ばかりということもあり、粘りがなく点が取れなくて、結局リーグ戦で最下位となってしまう、入替戦にも敗れる最悪の結果となりましたが、ちょうどこの年は京大蹴球部の50周年にあたり、夏には記念行事をも行ない、多くのOBの人々に声援していただいたにもかかわらず、二部に転落という不名誉な結果しか残せず、誠に申し訳なく思っています。

4回生のときにはキャプテンとなり、前年の屈辱をはらそうと他の4人の4回生と話し合い、一部に勝てるチームづくりということで、相当ハードなスケジュールをこなしていきました。まずシーズンオフ中の週3回のトレーニング、そして春には体力と基礎技術の向上を目的に2回の合宿を組み、春の京都リーグ、関西選手権から同志社戦、東大戦を経て、夏休みを返上して名古屋で7帝戦にも参加し、8月には延17日間の合宿、及び東京遠征と、秋のリーグ戦までに練習

試合を含め70余試合を消化し、リーグ戦では、4勝8分の成績で優勝（この成績は私としては不満であるが）しましたが、関学との入替戦に敗れ、一部昇格という願いは果せませんでした。サブキャプテンの伊藤君の協力もあり、みんなよくついてきてくれ、自分としては不満足ながらも、やれるだけのことはやったつもりであるが、反省として、私自身ケガが多く、リーグ戦中も満足なプレーができず、チームをひっぱっていくことができなかつたということと、4～5人を除いてレギュラーが定まらず、全体のレベルはあがったもののコンビネーションに欠け、中途半端なまま入替戦をむかえてしまったということがあげられます。

京大で4年間サッカーをやってきて、思い出に残る試合は多くありますが、どういう訳か、入替戦も含めて関学に縁があり、1回生の秋のリーグ開幕戦の相手も関学で、場所は一度はやってみたいと思っていた神戸中央球技場で、美しい芝生に感激し、大勢の観客の前で、さすがに緊張しましたが、1点を決め、負けたけれども記憶に残る試合でした。また2回生の秋のリーグの関学戦で会心のシュートを決め同点とし、そのあと絶好のセンターリングをボレーでシュートミスしてしまい、勝ちを逃してしまった試合もあり、勝敗を分けるシュートミスはいつまでたっても悔しいものです。それから、東大との定期戦はOBの人々も多く集まり、一種独特のムードがあるのですが、2回生のとき残り時間が15分ぐらい前まで京大が2-0でリードしていて、10数年ぶりで京大の勝利かと思われたのもつかの間、2点返されて引き分けたり、次の年は5回生コンビにやられたりで、結局4年間1度も勝てずくやしい思いをしていました。しかし、今年14年ぶりに東大に完勝し、現役のプレーヤー以上に喜んでいます。

そしてこれから先、京大が強くなるためには一部に昇格し、一部で対等に渡り合うためには、キャプテンの上にコーチの存在がどうしても必要となるように思われます。これには、いろいろと問題点が出てくるかも知れませんが、避けて通ることはできないと思われます。

同学年で最後まで残ったのはわずか5人ですが、4年間何事もいっしょに経験してきた絆は強く、いつまでも変らないでしょうし、我々5人もいつまでたってもサッカーから離れることはできないでしょう。そして伝統ある京大蹴球部のOBとなり、京大蹴球部を愛し、いつまでも見守り、応援していきたいと思っています。

❀❀❀ 思 い 出 集 ❀❀❀

昭 4 今 川 義 六

大正15年頃関西では関学制覇の時代でしたが、昭3赤川君がチームの要になってから逐年実力と指導戦力を整備して行きました。（神戸一中卒業生の存在が大きかった。）

蹴球部の創設に努力された前田純一氏が山口高だった関係で当初マネージャーも久次米定治（故）今川と山口出が続き、現在の部歌も昭和3年に溝口氏（山口高）の作詞になるものです。

昭5 木村 弘太郎

見る人も応援する人も少なかった時代でしたが試合は一生懸命にやったものです。当時のライバルは関学でしたが、いつも良い試合をしたと思っております。



木村
弘太郎
氏



内藤
清明
氏

昭5 内藤 清明

私の入学した昭和2年のチームは香川幸、加茂下の六高勢とインターハイ優勝の松山の主力選手を中心とした強力チームで関西学生リーグは勿論、極東オリンピック帰りの大阪サッカーや湯浅など社会人チームを総なめにしましたが東大戦中止で関東との交流もなく関西でのナンバーワンではありましたが、北白川のグラウンドを折半使用していたラグビーが全国制覇で鼻息があらく、少々肩身のせまい思いをさせられていました。

昭和3年には松山の西村(赤川)等の加入で戦力増強今年こそはと期する処あったのですが秋の日本選手権の決勝でWMW(オールワセダ)に逆転負け、その後のリーグ戦を尻すぼみの成績で残念でした。

昭6 宇佐見 嘉伸

英国艦隊代表チームと甲子園グラウンドにての対戦。全日本選手権大会、天皇杯争奪戦への京阪代表チームの出場、その他スウェーデン・ノルウェーよりの外来チームとの国際試合に代表的成績を記録しました当時の部員であり得たことを得難い思い出として、そのときどきの感慨に耽っております。

上記を含む各種対抗戦、その他雑多な雑役を一手に引受け世話係の苦心談などは今でも私の青春の一頁です。

昭6 朝比奈 隆

練習後暗くなると外側のトラックを走っていた陸上の連中と部室の風呂へ入るのがたのしみで今でも蒼穹会の客員です。

山側の道路へ出たボールを拾おうと有刺鉄線の垣に左掌をひっかけた時の傷今も忘れられない思い出です。

昭7 永野 武

同じ時代の連中と話し合えば色々と思い出すでしょうが自分一人では今はやりの言葉ではありませんが忘れました、記憶しませんと言うより仕方ありません。

昭9 中野 重美

伊藤新太郎君の思い出を何か書く様にとの申込みがあったので、私の大学時代の好きなパートナーであり、苦楽を共にした親友なのであえて一筆連絡申します。

伊藤君との出会いは私の最後の六高時代、昭和6年正月のインターハイ京都戦でした。私の率いる六高と伊藤君が代表する八高とでした。岡崎のグラウンドで雪の中、対戦しました。試合は六高の勝利で終わりましたが、伊藤君はCHで、私はCFの関係上、試合中常に顔が会い伊藤君の腕前には非常な感銘を受けました。その年の春、共に京都大学に入学し、伊藤君は不動のLIであり私はCF、RIとFWの中央にあって常に行動を共にし、楽しい大学時代を過ごし、その間彼の影響を受け、私のレベルアップに大いに役に立ったと思います。グラウンドに於てもそうであったが、又グラウンドを離れても彼と行動を共にし、彼の家が神戸だった関係上、彼の家庭にもお邪魔をして、彼の姉上のサービスで酒をご馳走になった事は、良き思い出として残っています。又甲子園からの帰り道、大阪駅前にパシフィック・サロンという、当時は有名な洋酒喫茶に案内され、チェリー・ブランデーや、サマータイムス(炭酸水にブドウ酒を混合したもの)を呑んで、試合の反省をした事等懐しく思い出されます。しかし伊藤君は若くして戦争の犠牲者として今はありません。

それから30数年、この手紙を書きながら青春とはよいものだをつくづく昔を偲んで居ります。

昭10 金沢 宏

- ① 毎日の練習に出て来る人数が満身に1チーム出来ることの少いギリギリで良くぞ3年連続関西の王座を獲得したものだ。
- ② 一人一人の技倆はそれほど傑出していたと思えないがチームとしての働きは素晴しかったのはシーズン・オフのチームワーク(酒盛)が根源か?
- ③ 故持地、栗原の両FBと小生のコンビは100万ドルバックだったと今でも思う。

昭13 市山 武夫

金沢、持地、栗原の名バックを擁し関西リーグ優勝の翌年その名声をしたって一緒にプレー出来ることを楽しみに入部。(S10年)

その年入部したものの12～8人何れもドングリの背くらべ、だがその中5～6人は全く練習の虫で学校にはロクスッポ出ないでグラウンド又は日参という毎日、前日呑み過ぎたりした時もユニホームをつけると身体がシャキッとした事、激しい練習後の一時、目にうつる大比叡の姿、なつかしい思い出である。

その年優勝盃を返上して雌伏2年、練習の甲斐あって劣勢の評を覆し、美事なチームワークで優勝盃を取戻した時の感激、特に最終関学戦で攻撃力を誇る相手を無失点におさえた伝統のバック力、私が決定的な2点目をあげ勝利を不動のものにし、小野チョンと抱き合って喜んだことも忘れられない。

昭7 野口公義

(夏の合宿) 名古屋の八高の寮へ合宿。

このグラウンドはかつて小生の神一中時代、八高主催の第1回サッカー大会で優勝した思い出の場所でもあったので楽しいでした。

(舞鶴遠征) 海軍機関学校サッカー部のまねきで遠征し試合後天の橋立で記念撮影をしました。後日同サッカー部を京都へ迎え、北白川のグラウンドで試合をしましたが真摯敢闘の海軍魂に心うたれさわやかな印象がいつまでも残っております。

昭13 古川勝之

春の京都に初めて接し、のびのびした解放感を味い、農大グラウンドで山本主将以下上級生の柔かな応待にすぐ部に溶け込みました。同期の持地、瀬野、長岡等も打解け易く、酒道を教えられました。夏期合宿の岡山六高で柔道部のストームを受けたのも忘れられません。東西対抗での敗けは残念でした。2年目の福安主将の時はBackが余ったのでサボりましたが翌年引張り出されてフォワードの弱体に驚かされました。つまり点の取れるチームワークが無いのでした。バックはかなりでしたが右側はウイングが居ないと同じなのです。此の事は最初に(4月初め)メンバーを組立てたことに原因があったと思います。夫と試合経験の少い者に対する思いやりがなかったこともあります。リーグ戦の最後の決戦対関学では一人よがりで力んで敗けました。つまり、その時のゲームメーカーが居なかったからです。

昭15 唐原友三郎



昭和14年1月朝日招待サッカーで慶応と試合した時のことだった。慶応の播磨は小野と共に小学校の時にボールを競い合った幼馴染みである。播磨はR I 小生はL H でした。小野はL I で、播磨を挟んで3人が縦に並んで

しまった。後半リードされた後だったが中盤近くで播磨ボールで向合い停止状態の時小野が返って来て播磨の後から身体を強引に割り込ませ、早く返さなくちゃとばかりボールを取って行ってしまった。キープ力に自信のある播磨の事だからこの野郎と思ったに違いない。アッケに取りられてよく見れば小野と判って小野チョンかと舌打していた。彼ならしようがないと納得した風情、というもこの2人は一中でも一緒だったのだから。と同時によくとり合、なぶり合をした昔に返った様な気持になった。

この時は後半に2点を入れられて敗れた。前半は押しきりで再三チャンスがあるのに点にならなかった。こんどこそは入ったと思われたのに突込んだ小野も、防いだキーパー、フルバックともひっくり返り一瞬無人状態となりこぼれ球のみが点々としてゴールライン上をころがった時である。突込んだ方向にボールは前どころがるのが普通なのにこの時に限り真横にころんで前へは少しも行ってくれなかった。ついてない時はこんなもので誰かがチョットさわれば入るのだが誰もいない。スタンドで歓声が沸き、続いて溜息となったのが判るのみでどうしようもなく全くやるせなかった。

入れられた1点目だったか2点目だか覚えないが播磨に入れられた時の事である。後方から斜めにボールが送られて来た。ハリマと小生が追いかけたのだがハリマの方が近い。右インナのハリマが左インナ近くまで追いかけてゴールエリヤの線を過ぎた位の距離だったと思う。殆んどシュートの姿勢をとらずに、頂点にある浮玉を左足でポント山なりに蹴り上げてしまった。えらくあわてたものだからこれなら戴きと思い、さてキーパーはと見ると名手岡本がバンザイしている。球はバーを越えることなく入ってしまった。左半分はおさえる様にして居たからキーパーは右半分に位置して真正面だったのだが強シュートを予期して前に出たキーパーの裏をかいてテニスのロビングよろしく、うまくしてやられたのでした。

昭16 小倉仁海

東西対抗

慶応に2:0で敗れたこと今以って痛恨也。

昭16 久保迂夫

1. 毎年当然の如く朝日招待サッカー東西対抗に出場出来たこと。
2. 即ち関西学生リーグ一部グループの1位か2位に必らずいたこと。
3. 戦前というか戦中というか一方で軍事教練をやりながらも他方で外国の球技を楽しむ練習の途中休憩時には農学部グラウンドのクローバーの上に円陣をかいてのんびり出来たこと。
4. 時として現われる諸先輩の厳しい激励と猛練習 — すでにご自身は動けないのに —

昭16 村上 真

残念ながら一度も優勝出来ず最高の思い出はありません。工学部で午後は実験なので練習に出るのに大変苦労しました。

練習の後風呂に入り何となく京極に繰出した事が思い出されます。

グラウンドから見る比叡のシルエットが目に見えます。

昭16 河内 廉

私の青春時代の思い出とはサッカー以外にはない様です。だがどう思い出しても上手であったとは思われません。だが力を合わせる事が大切です。

昭17・9 八丁 敏 臣

昭和16年頃、毎日農大グラウンドで猛練習したのを思い出します。あの頃は常に一部優勝を争ったものです。夏頃、陸上選手のハンマーが練習中のFCに当りびっくりしましたが針金の部分で命拾いしたことがあります。

現在三菱銀行の大阪支店長の金井直一郎さん（松本高出身）です。又ラグビー部の石黒白井君達も同じグラウンドで懐しい思い出です。（海外出張中でしたのでおそくなりました）

昭22 宗 田 邦 男

約30年前で記憶もうすれましたが終戦後の混乱期で食糧事情の悪い時でもあり、軍隊帰りの小生にはサッカーどころではなかったのですがインターハイ（幸い優勝）で顔を合わせた方々も多数居られ、1年間丈主将をやらせて貰いましたが（最年長のため）関学、関大に敗れてリーグ戦は3位に終り、先輩諸兄から叱られた思い出があります。

（現在も旧制高校OPインターハイが年一度東京で行われ、毎回顔丈けは出しています。先般、恒藤兄にお会いして懐しかったです。）

昭23 湯 浅 隆 義

昭和19年の10月から22年の9月迄在籍したが学徒動員で文科系の学生は殆んどなく、19年の末、唯一人残って居た文科系のサッカー部員である金田先輩（四高19年4月卒）の出征を送りその時サッカー部を宜しくと云われたのを思い出します。西部講内食堂で豆かすの食券付食事をしながら送ったものでした。

昭28 酒井重通

昭和21～28年食糧事情の最悪の京都下宿生活の飢餓の中でやったサッカーまさにハングリ
ースポーツ?

それでも関西大学リーグ一部で頑張っていた。

ユニホームなし、靴はボロボロ、ツギだらけ。

本当にサッカーが好きな連中だった。

昭25 深浦秀夫

息子が鯨のベーコンをうまそうにパクパク食べているのを見るたびに、昭和28年夏の西宮野
球場での合宿をなつかしく思い出します。当時ろくに食糧のない中で鯨のベーコンは我々にとっ
て貴重なエネルギー源でした。モリモリ食べて元気一杯のO君がおかげで鯨というニックネーム
を貰ったことを記憶しています。

昭28 大橋啓吾

中学は旧制府立五中です。入部して、かつての京都二中との試合(全国大会)で顔を合わせた
藤田さん、大石君などと再会した時には驚きました。伊賀上野の合宿で足を負傷した時、今迄フ
ォワードしかやったことがないのにキーパーをやらされそのまま関西一部の試合にキーパーで常
時出場したのもびっくりしました。子供達2人もサッカーをやっています。

昭28 浜本孝夫

終戦の混乱から日本はまだ立ちあがっていなかった。部員はいつも腹をへらしていた。同学会
を共産系の学生に占拠されてしまって部費はすべてOBにすがるたり現役が出したりして居た。
そんな中で私はマネージャーを勤めたがまことに苦しいヤリクリであった。悪戦苦斗の思い出が
今思うとなつかしい。そのときの金の苦労が今だにつづいているが、まことに妙なめぐりあわせ
である。

昭28 滝波 徹

部生活の思い出としてすぐに目に浮ぶのは合宿の事。その中で皆木先輩に徹底的に絞られ顔
が鬼の様に見えて来た。或いは岡川君の往復の餅に悩まされて寝られず寝不息の体に鞭打ってカ
ンカン照りのもと合宿練習に動んだ等々、苦しい事が今となっては懐しい。

昭 30 大 友 満

昭和29年春の京都学生リーグで同志社と薬大のグラウンドで対戦した時、当時私はCHであったが、敵のRWにバックラインを抜かれそうになったので潰しに走った。ステップを合わす余裕がなく、やむを得ず右足のアウトサイドでボールを止めたがその瞬間相手の膝がイヤという程私の右膝に当たり以後私は走ることが出来ず敵のオフサイドギリギリの位置へ坐り込んでいた。ところがどうした弾みか絶好のパスが私の目の前に転がり出て来たので、私はおもむろに立上り痛い右足で慎重にコーナーを狙ってクリーンシュートをした。結局その時の試合で京大の得点はこの私の1点のみに終わった。試合のあと薬大のキレイなお嬢さんに手当をして貰ったが半年間ビッコを引く破目になった。

昭 31 松 尾 徹 郎

卒業して丁度20年です。テレビでサッカーの試合を観ていると未だに知らず知らずに力が入って来て、ひとりでに脚が動いてびっくりしたりしています。

対外試合のプレーや練習方法などこれを現役の時代に見ることが出来たならと思うことしきりです。僕だって真似してもう少しうまくなっていただろうに。しかし相手チームの選手も同じですがね。

昭 33 足 立 裕 司

私がマネージャーを引受けていた昭和30～31年は公式戦にも仲々メンバーが揃わず三部への転落必至という最悪状態で(二部のチーム数が増加され入替戦をせずに二部に残されたと記憶しています)、部員集め、先輩からの金集めのつらかった思い出の中で近畿体育大会の第1回当番校になり、大会に使用されたボールの私下げに喜んだものです。(練習用ボールにも事かいていた為)

昭 34 川 越 信 哉

昨今不況風が吹きまくり、不愉快なことが多い中でふと思い出すのがサッカー部で名(迷)マネージャーとして活躍したあの時代の一コマである。

その1. 東大戦の案内状をつくり日時を6月31日(日)と印刷し先輩に送付し、大目玉を食ったこと。

その2. 西宮サッカー場で試合をし各選手が死にもぐるいで奮闘している際に競輪場に行き車券を買い750円を4枚あて大喜びで帰って来た所ハーフタイムに間に合わず先輩からコッ

びどく叱られたこと。

その3. 名古屋で合宿した帰り、名古屋のテレビ塔に登り上からションベンすれば霧になるかどうか賭けて小便したところ下の屋根にパタパタと音を立てて落ち、守衛に大目玉をくったこと。

その4. たしか二部で優勝決定戦に負け、やけくそで童貞(選手)2人を七条新地につれていったところ、そこがフェラチオ専門店で帰って来てから果して童貞を破ったかどうか大議論をしたこと。

昭88 根本紀夫

○84年の一・二部入替戦の同志社戦は非常に苦しかった。

○厳しかった瀬戸コーチの話

合宿で農学部グランド横の教会が12時のチャイムを鳴らすとFORMATIONが始り何時に終るか見当がつかなかった。

例 9~13 14~18:30間の練習

○富士自衛隊でバス停まで、昼食抜きで走らされて教育大の試合に行ったこと。

昭42 真田早敏

個性にあふれた人間味豊かな数多くの先輩に教わる毎日は、私にとって数少ない大切な人間形成の場であった。大学に出かけるかわりに通うグランドであったが、その中には多くの感激があった。何十年振りかで当時の関西の雄関学に勝ったことなどその筆頭である。

然し悔まれてならないことも数多い。最大の痛恨事、これは全くの私事であるが8年から4年に行くときに落第し、ボウゼン自失の態でグランドから遠ざかってしまったことだ。思い起すたびに胸がつまって仕方がない。恥じると共にチームにかけた迷惑を詫げるものである。

昭42 林和俊

試合に勝つことがクラブ活動の目的であるということを教えられた4年間でした。2年生のリーグ戦で関学に2連勝した時の決勝シュートは忘れられない思い出です。

今も殆んど毎日曜日には試合に出ています。

— ○ — ○ — ○ —

京大蹴球部の創立50周年は昭和49年であるが50周年史の発行が遅れたので50年度、51年度の成績を入れることが出来た。50年度は二部リーグに優勝したが入替戦で一部最下位の関学に2戦とも0-3、0-2で敗れ一部復帰は出来なかった。入替戦の時の関学の意気込は大変

なもので、京大も頑張っていたがそれを上廻る必死の努力が点差となって現われた。これに反し二部2位の京教大が必勝の信念を燃やして攻めまくる関大をねじ伏せたのは立派であった。体力、技術が迫伸して居れば、必勝の信念、必死の体当り、これが勝利への道であることを教えてくれた試合であった。51年度は優勝即昇格と制度が変わったのだが、優勝への道は平旦ではなかった。追手門大、関大戦では2点を先行され後半の中頃過ぎ又は終り近くに前者では追越し、後者では追いつくという必死の戦を行いやっと優勝したのであった。

昭和50年度

C 永井利明 VC 伊藤 顕 梅田邦夫
監督 恒藤 武 M 田路厚洋 SM 吉村玄浩

関西学生リーグ (二部)

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$) 1 近畿大 9・14 阪大

京大 5 ($\begin{smallmatrix} 1 & -0 \\ 4 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 神商大 9・21 //

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 2 & -1 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 2 甲南大 9・28 //

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -0 \\ 0 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 神大 10・5 京教

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$) 1 京教大 10・12 //

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 1 & -1 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$) 1 阪大 10・19 //

京大 2 ($\begin{smallmatrix} 2 & -0 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 1 立命大 10・26 //

一・二部 入替戦

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -2 \end{smallmatrix}$) 3 関学 11・22 鞆

京大 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 0 & -1 \end{smallmatrix}$) 2 関学 11・24 //

京大 ○ 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -3 \\ 0 & -0 \end{smallmatrix}$) 3 学園大 4・5 宇治

京大 ○ 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -2 \end{smallmatrix}$) 2 天理大 4・12 //

京大 ○ 0 ($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 0 & -3 \end{smallmatrix}$) 3 京産大 4・13 //

京大 ○△ 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 1 & -2 \end{smallmatrix}$) 3 京教大 4・20

京大 ○△ 5 ($\begin{smallmatrix} 3 & -0 \\ 2 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 立命大 4・27

京大 △ 1 ($\begin{smallmatrix} 0 & -0 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 近大 4・19

京大 △ 2 ($\begin{smallmatrix} 0 & -1 \\ 2 & -2 \end{smallmatrix}$) 3 甲南大 4・26

京大 △ 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -0 \\ 0 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 神大 4・29

京大 △ 4 ($\begin{smallmatrix} 3 & -0 \\ 1 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 神商大 5・3

京大 △ 3 ($\begin{smallmatrix} 1 & -0 \\ 2 & -0 \end{smallmatrix}$) 0 阪大 5・11

京都学生リーグ 6位 2勝5敗
関西選手権二部予選リーグ 1位

京都学生リーグ (○印) 兼関西選手権 (△印)

京大 ○ 2 ($\begin{smallmatrix} 1 & -0 \\ 1 & -1 \end{smallmatrix}$) 1 竜谷大 3・22 府大

京大 ○ 2 ($\begin{smallmatrix} 0 & -2 \\ 2 & -2 \end{smallmatrix}$) 4 同志社 3・30 宇治

// 決勝トーナメント

京大 1 ($\begin{smallmatrix} 1 & -1 \\ 0 & -2 \end{smallmatrix}$) 3 天理大 5・17

第29回同大定期戦

農大グラウンド

京大 2 ($\frac{0-1}{2-1}$) 2 同大 6・8

京大 0 ($\frac{0-3}{0-3}$) 6 法政大 8・20

京大 0 ($\frac{0-2}{0-2}$) 4 日体大 8・21

第26回東大定期戦

御殿下

京大 1 ($\frac{1-2}{0-0}$) 2 東大

京大 1 ($\frac{0-2}{1-0}$) 2 国士館大 8・22

京大 2 ($\frac{0-1}{2-1}$) 2 東教大 8・22

国立大学定期戦 (七帝戦)

京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 阪大 7・16 トヨタ
スポーツセンター

京大 5 ($\frac{8-0}{2-0}$) 0 東北大 7・17 //

京大 1 ($\frac{0-0}{1-0}$) 0 名古屋大 7・18 //

京大 4 ($\frac{8-0}{1-0}$) 0 九州大 7・19 //

近畿国立大学体育大会

京大 1 ($\frac{0-2}{1-0}$) 2 京教大 8・29

天皇杯京都府予選 (3チームが関西大会へ)

京大 8 ($\frac{0-0}{8-0}$) 0 桃山クラブ

京大 2 ($\frac{1-0}{1-1}$) 1 京都機動隊 7・6

京大 0 ($\frac{0-0}{0-2}$) 2 京教大 7・18

優勝 二軍戦も行われ8勝1分で優勝

東京遠征

京大 8 ($\frac{0-1}{8-0}$) 1 東大 8・17

京大 1 ($\frac{1-1}{0-5}$) 6 日体大 8・19

8位決定戦

京大 1 ($\frac{1-1}{0-2}$) 8 立命館大 7・20

昭和51年度

監督 恒藤 武 C 梅田邦夫

VC 藤原裕也 M 吉村玄浩

// 田中徹也 副 寺井哲次

関西学生リーグ (二部) 一部に復帰

	勝	敗	分	勝点
1) 京大	6	0	1	13
2) 関大	5	0	2	12
3) 阪大	4	3	0	8
4) 甲南大	3	3	1	7
5) 追手門	3	4	0	6
6) 近大	1	3	3	5
7) 神商大	2	4	1	5
8) 立命大	0	7	0	0

京大 5 ($\frac{8-0}{2-0}$) 0	阪大	9・12	石橋
京大 8 ($\frac{0-1}{8-1}$) 2	追手門	9・19	宇治
京大 5 ($\frac{1-0}{4-1}$) 1	神商大	9・26	石橋
京大 5 ($\frac{5-1}{0-0}$) 1	立命大	10・3	宇治
京大 3 ($\frac{1-0}{2-0}$) 0	甲南大	10・10	関大
京大 4 ($\frac{2-0}{2-0}$) 0	近大	10・17	宇治
京大 2 ($\frac{0-1}{2-1}$) 2	関大	10・24	関大

京都学生リーグ

京大 6 ($\frac{2-0}{4-0}$) 0 竜大 3・27 京教大
藤の森
京大 2 ($\frac{0-0}{2-1}$) 1 同大 3・28 宇治
京大 2 ($\frac{2-1}{0-2}$) 3 京教大 4・3 工織
京大 1 ($\frac{0-0}{1-2}$) 2 京産大 4・11 宇治
京大 6 ($\frac{1-2}{5-0}$) 2 学園大 4・17 //
京大 2 ($\frac{2-0}{0-0}$) 0 立命大 4・24 府大
京大 0 ($\frac{0-1}{0-2}$) 3 天理大 4・10 宇治

関西選手権予選リーグ (二部)

京大 1 ($\frac{1-0}{0-0}$) 0 追手門
京大 3 ($\frac{0-0}{3-0}$) 0 阪大
京大 3 ($\frac{0-0}{3-2}$) 0 甲南大
京大 1 ($\frac{1-0}{0-1}$) 1 近大 5・9 宇治
京大 0 ($\frac{0-0}{0-2}$) 2 関大 5・16 関大

5勝1敗1分 2位に付決勝トーナメント

1回戦 京大 4 ($\frac{3-1}{1-0}$) 1 京産大
2回戦 京大 2 ($\frac{0-1}{2-0}$) 1 大経大
準決勝 京大 1 ($\frac{0-1}{1-1}$) 2 大体大

3位決定戦 京大 2 ($\frac{1-0}{1-1}$) 1 関学
(5・30) 万博会場

関西選手権準決勝 対大体大戦 スポーツ評 51.5.31 朝日新聞

二部の京大が優勝候補の大体大を苦しめた。前半35分石原のヘディングシュートがきわどいオフサイドでノーゴールになったのを初め、後半も杉田のシュートがポストに当るなど、あわ

第30回同大定期戦

京大 1 ($\frac{0-0}{1-1}$) 1 同大 6・18
農学部
超OB 2 ($\frac{1-0}{1-2}$) 2 超OB //
OB 0 - 0 OB //

第27回東大定期戦

京大 3 ($\frac{1-0}{2-1}$) 1 東大 7・4 //

OB戦

現役 2 ($\frac{1-1}{1-0}$) 1 OB 8・1 //

京大 5 ($\frac{2-0}{3-0}$) 0 京教大 8・4

京大 0 ($\frac{0-3}{0-6}$) 9 田辺製菓 8・7

京大 1 ($\frac{0-2}{1-2}$) 4 筑波大 8・8

京大 0 - 0 紫光クラブ 8・12

東京遠征

京大 0 ($\frac{0-1}{0-1}$) 2 青学大 8・16

京大 2 ($\frac{2-1}{0-1}$) 2 東大 8・17

京大 3 ($\frac{1-0}{2-1}$) 1 一橋大 8・18

京大 2 ($\frac{1-3}{1-0}$) 3 国士館 8・19

京大 0 ($\frac{0-4}{0-7}$) 11 三菱 8・20

近畿国体 2回戦

京大 0 ($\frac{0-1}{0-1}$) 2 大教大

やと思う場面がしばしば。「もう少しで勝てたのに……」とくやしがる京大イレブンだったがその表情は明るかった。というのも一昨年二部に落ちている京大にとって決勝トーナメントの一回戦で京産大、準々決勝で大経大と一部の強豪チームを連破した上、この日の善戦が大きな自信になったからだ。「いつも後半バトルが京産大、大経大戦とも逆転勝、精神的な強さが出て来た」と恒藤監督も満足そうであった。

両軍のメンバー

京大	松岡	塩見	北原	梅田	藤多	田尻	藤原	谷野	石原	杉田	田中
	G.K	F. B				H. B			F. W		
大体大	小崎	梅田	壁瀬	池口	柿花	山本欣	神谷	高山	長原	大角	高間
京大	12 GK	8	7 CK	6	27 FK	6	11 SH	13	大体大		

対関大戦 (10月24日)

近大と引分け、この試合に勝たなければ優勝出来ない関大は松本、佐野らを中心に激しい動きで京大ゴールを襲い、前半開始直後ヘディングで先制しその後も再三チャンスを作って居た。一方京大は若い石原などF.Wに堅さが見られ押されぎみだった。後半又も開始早々1点を入れられ0-2と苦しくなったが、さすがに15分を過ぎる頃から関大バック陣に疲れが目立ち始め、京大の得点チャンスが多くなって来た。25分過ぎ田中がゴールライン添いにバック2人を抜いてゴール前にトス、フリーで待って居た宮本、素早くキック、クリーンシュートなる。瞬間の出来事、敵バックは予期してなかっただけに棒立のまま。ガックリした関大からペースを完全に奪い、盛んにゴールに殺到したがバーに当たること2回、不運を繰り返す内82分ゴール前の混戦より藤原のシュートなる。ゆるい球だがコースが良く敵味方折重なる様に駆け寄ったがころころと入り試合は振出しに戻った。奮起した関大は笛の鳴るまで京大陣を圧倒し続けたがこれを必死に防いで引分け優勝することとなった。

	京	関	阪	甲	追	近	神	立
京大	\	2-2 △	5-0 ○	3-0 ○	3-2 ○	4-1 ○	5-1 ○	5-1 ○
関大	△	\	3-1 ○	3-1 ○	7-1 ○	1-1 △	5-1 ○	4-1 ○
阪大	×	×	\	3-2 ○	5-0 ○	1-0 ○	×	3-1 ○
甲南大	×	×	×	\	3-0 ○	2-2 △	1-0 ○	6-1 ○
追手門	×	×	×	×	\	5-3 ○	4-1 ○	4-2 ○
近大	×	△	×	△	×	\	1-1 △	3-0 ○
神商大	×	×	2-1 ○	×	×	△	\	4-3 ○
立命大	×	×	×	×	×	×	×	\

対 関 大 戦

主将 梅田邦夫

思えば幸運な年であった。チームの雰囲気が悪しき方向へ流れるたびに、試合で痛烈なパンチを浴びせられ、チームをもう一度、いちから考え直す機会が与えられた。

春、天皇杯の予選で同好会チームに完敗を喫した時は「何とかなるであろう。」というぬるま湯的ムードが、「何とかしなくてはならない。」という積極的ムードになった。我々4回生も、メンバーが昨年とほとんど変わっていないということで楽観的予想をたてていただけに、冷水をぶっかけられたような気持であった。この敗北で、3回生以下サッカーに対する自覚が深まり、「必ず一部に復帰するんだ。」という気持の統一がなされ、皆でもう一度やり直そうという強い結束が生れた。

これがそれ以降の試合に生かされ、関西学生選手権3位、同大定期戦引分け、東大定期戦完勝とつながった。

夏合宿以後、チーム強化の焦点を絞れぬまま遠征を終え、近国体になった。1回戦で三部チームに完敗し、リーグ開幕を20日後に控え、惨憺たる状態だった。ここでディフェンスを中心にして大巾にチームを考え直しリーグ開幕までに、出来るだけのことをして見ようということになった。春の好成績が皆を天狗にしていただけに、効き過ぎる程の良い薬であった。

これがリーグ戦を戦う時に、どんな相手に対しても全力をぶつけるという「一戦完勝主義」を

徹底させ、最後まで力を抜かない粘り強さにつながった。

関大戦は10月24日に行われた。この試合に引き分、又は勝てば一部復帰が出来る。とうとうここまで来てしまった。

精神的プレッシャーは関大の方が大きいから、先取点さえ取れば完勝出来ると読んでいた。試合前、関大の選手の顔は幾分紅潮し、緊張しているのが十分に判った。「これは、いける！」と思ったが、然し試合が始ると関大の動きがずっと良く、一つ一つのプレーで京大が負けていた。10分頃、予想とは逆に先取点を奪われた。1点先取されたことで堅さがほぐれ、京大も動きが良くなり、前半は五分五分の展開で終わった。ハーフタイム、監督さん初め、OBの方々が色々アドバイスして下さった。技術云々ではない。あと45分とにかく悔の残らぬ試合をしたかった。

後半、一進一退を続けたが20分頃、絶望的とも思える2点目を入れられた。関大応援団の狂喜の声が耳を刺した。「まだ時間はある。今からじゃ！」と声を掛けるも皆放心状態に近い。このまま終わってたまるか！」勝負はもう頭にはなく、ただ最後まで全力を尽くそう、それだけだった。この時田中が重戦車の如く左タッチラインに沿って突走り、ニャポストに絶好のセンターリング。宮本が狙いすましてゲットイン。「やったあ」あと10分ちょっと、もしかしたら……という考えが頭を過ぎった。その直後、藤原がゴール前の混戦からボレーシュート。緩い当たりであった。「はいれ！」思わず叫んだ。ボールが人間の間をスルスル抜けてネットへ。「はいったあー」涙が出ていく。「シア原やった」と叫びながら駆け寄った。終了まであと5分チョット。今度は関大の猛攻が続いた。「頑張れよ、頑張ろうぜ」、20分前には空しく響いた声に皆、ウンウンと肯いてくれた。「ピーピーピーー」終わった。「ワァッ」ととにかく叫びそして泣いた。田中もシア原も松岡も芝田も山本も西田もゴン太もみんな泣いていた。

今考えるに、あの瞬間がチームプレーの結晶であり、そしそれを求めて阿呆になって連日ボールを追いかけていたのだった。京大サッカー部で大学生活を過ごせば本当に良かったと思う。我々を支えて下さった監督、部長初めOBの方々に感謝したい。そして後輩諸君の一部リーグでの活躍を祈る。

最後になったが、我々4回生8人のクラブでの役割を記して見ようと思う。

田中(キチガイ)はチームで一番頼りになる男であり、チャンスメーカーとしてチームを引張った。藤原(ジャ原)はゲームメーカーとして沈着冷静、黙々とプレーを続けた。藤多(ゴン太)はFBとして、うまさ、ずるさを存分に見せてくれた。松岡(キューピー)はチーム随一の理論派としてチームに柱をとおし、ゴールを死守した。芝田(ケロタン)は良き助言者としてチームを支え、ラッキーボーイになった。西田(ウマ)はどんな場面でも真剣な態度を示し部全体の模範者であった。山本(プー)は自分と戦いながらも、他の部員を暖く見守っていた。

この4年間、我々8人はサッカー部にしがみついて来たのであるが、各々自分の特徴を生かし、

うまくバランスのとれた8人であった。就職2、大学院1、留年4、未定1とそれぞれ道は異なるがお互いサッカー部のことを胸に托しこれからの人生を生きていこう。

昭和50年10月 阪大戦後

於京教大(藤ノ森)G

田路氏提供



紅一点山本さんはマネージャー

芝田	山本さん	田尻	田中	杉田	伊藤	中村	北原	吉村	佐藤寛	高岡	勝山	松枝
	鈴木	和田	藤原			永井		田路	川本			
		西田										
		山本	佐藤博	宮本	松崎	池添		稲村		梅田		
	石原											

50周年若手チーム



久松(森)	小林	鶴田	相京	横内	安岡	船曳	二谷
	棚井	丹羽佑	鈴木		古松	馬場	

50周年中年チーム



上本	影山	梅田	小田	倉内	野田	井坪	塚本	長井博	留岡	樋口	平尾	清水	日比	榊
			今井	真田	浜井	東		若井		大友		塩路	近江	
	大木	林	川野	市山新										

「駿馬」も老いれば



京大ウル
トラOB 3-0 神戸女学
院中等部

やっと勝ち

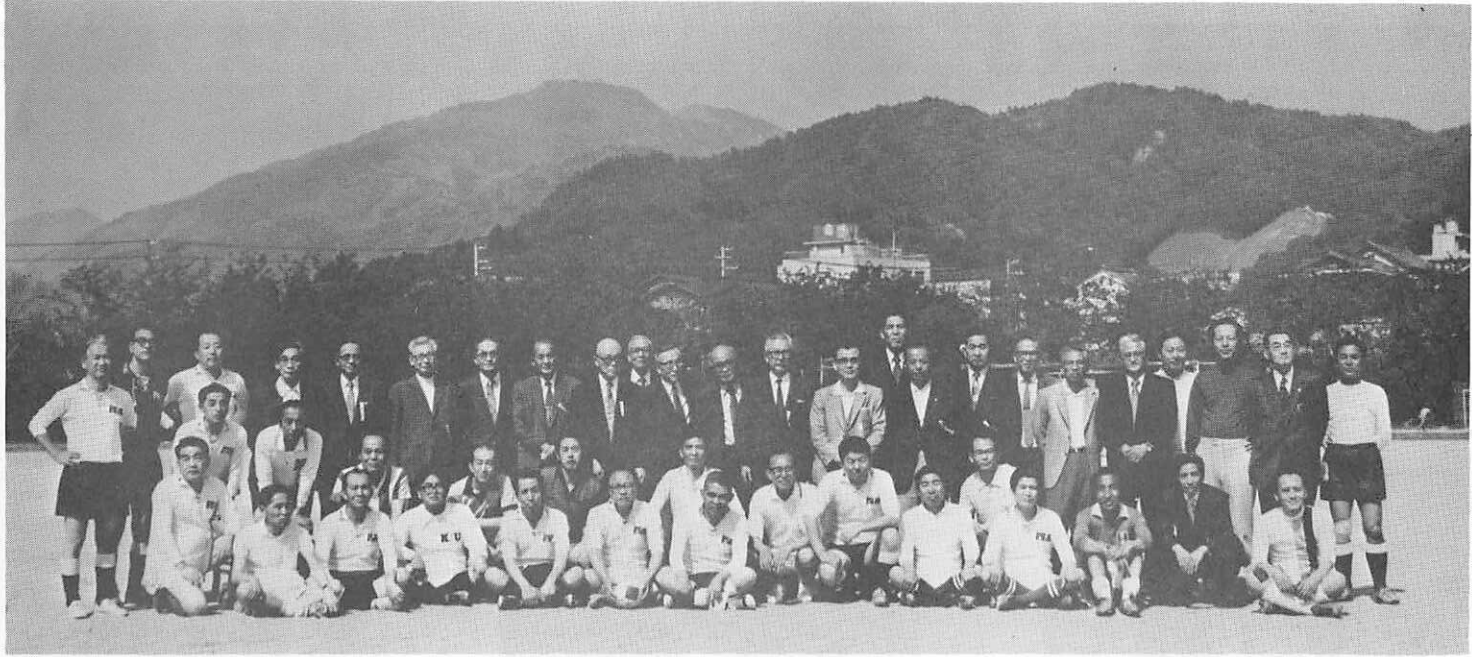
渋谷 古川 貫戸 横山 安居 深山 田口 酒井 竹内 竹山 伊藤 唐原 恒藤 大羽

超OB 対 神戸女学院中学部戦



竹内 藤本 金沢 横山

京都新聞提供



藤本	深山	小山	日置	麻野	若林	小野	市山	佐藤	吉井	今川	入江	永野	皆木	松本	今井	向井	向井	梶川	西田	滝波	浜本	宇佐見	長井	
	貫戸	賀川	渋谷	安居		金沢	武	酒井			恒藤					清	悠							博
			田口	横山	古川	伊藤			竹山		竹内		唐原	湯浅	明橋		片山	近江		若山			藤田	勇

会場 農学部グランド



式 入 鋤 樹 植





原部長 内海 入江 今川 赤川 永野 宇佐見



竹山部長 佐藤 久下氏 氏家さん 藤田氏 原旧部長



祝賀会 - 2

藤田日本蹴球協会副会長挨拶



祝賀会 - 3







京都大学蹴球部

50周年記念に寄せて

サンケイスポーツ新聞社

編集本部長 賀川 浩

(関西サッカー協会常務理事)

50年記念の集まりに、久しぶりにお会いできた懐かしい顔。大先輩の今川さん、赤川さん、かつての日本代表の名ゴールキーパー金沢さん……のお元気なこと、わたしたちといっしょにボールをけた恒藤、深山、小山、近江くんたちが昔のままのフォームでボールをさわるところ、そして、髪はいささか長く、腰はやや細身ながら、昔の連中と同じように、涼しげな面(おも)もちの現役、若手OB、そこに、ここの大学の長い伝統、ここの部の歴史の厚味をしみじみと感じたものです。

神戸(一中)に育ち神戸の大学(神戸経大=現神戸大)に籍をおいていた戦中派のわたしが、復員して来たら家が戦災にあい、京都に住むことになったのが縁で、京都大学蹴球部とは、ある時期、兄弟のようなつきあいでした。

若い頃特有の思い切りのよさでしょう、と号部隊(陸軍では飛行機の特攻隊を末期にはこう呼んでいた)から復員したわたしは、学校をスパッと退めてしまったのですが、学校を退める大きな理由のひとつであったサッカーは結局退めることはできず、いつの間にか、京大の農学部グラウンドで、部員といっしょにボールをけるようになっていました。旧制中学校から高校時代、とくにインターハイをめざしてみっちりやってきた当時の京大の人たちといっしょにプレーして、全関西や学生選抜といった花やかなところだけでなく、ここにも、きちんとボールを扱えるプレーヤーがたくさんいるんだナ、といまさらのように、サッカーの世界の広さを感じたのもこの頃です。

当時、サッカー部ができたばかりの三高へインターハイの直前に教えにいったこともあり、復活第1回インターハイの西地区決勝の六高一広高、あの歴史に残る大延長戦や、その翌年の広高の優勝などを見せてもらいあらためて京大や東大のサッカーの基盤の厚さを知ることができました。

田島直人さんの月桂樹のある農学部グラウンドは、こうして、ある時期のわたしには、半分くらい自分の庭のようで、京大蹴球部の練習のない日にも1人でドリブルし、西側ゴールにボールをつってヘディングをしたものです。ヒゲのグラウンドキーパーも、わたしを見て、よそものとは思わなかったのでしょうか……

この1人ぼっちの練習で、自分のプレーが伸びてゆくのがわかったときのうれしさ、いまの、わたしのサッカーに対する理くつ、よりどころのひとつになっています。

昭和20年冬から昭和28年ごろまで、戦争で疲れ、その直後の大変動のなかでもがいた1人の若者にとって、農学部のグラウンドは、直接的にも間接的にも大きな支えとなったわけです。

学校系列というものの、わりあいはっきりしていた当時あって、“よそ者”を黙って受け入れてくれた当時の先輩、仲間にあらためてお礼を申し上げ、皆様のご活躍をお祈りします。

編者註 深山は神戸一中で賀川氏の1年後になるが、昭和16年、神宮大会で神中が優勝した時のC.F、F.Bとして共に活躍した間柄である。尚深山は重厚な人格がプレーにも現われ皆に信頼され、昭22年と24年、2回キャプテンをやるという珍しい存在である。「クロちゃん」の愛称で皆に親まれた。

京都大学運動学部蹴球学科卒業生の弁

昭25卒 恒藤 武

はじめに

私が昭和18年10月入学した時は京都帝国大学であったが、昭和25年3月卒業時の卒業証書には帝国の2文字がなかった。日本の歴史の転換期の真最中に6年半の京大在学期間を送ったのであった。前半は入学、学徒動員、軍隊生活、復員、復学、転科と変化の多い2年半であったが、後半4年間は暇さえあればグラウンドでボールを蹴る文字通りサッカー一筋の毎日であった。だから私は自己紹介の時、京都大学運動学部蹴球学科卒と名乗ることにしている。青春時代の人生の重要な時期を京大蹴球部で過ごし、サッカーで自らの心身を鍛えることが出来たと共に、多くの先輩、同輩、後輩や知人とお付合を通じて生甲斐のある人生経験を味わうことの出来ることを有難いことだと思っている。そして昭和49年5月に京大蹴球部の50年の伝統をまざまざと目のあたりに見る盛大な行事を行えたことは実行委員の一人として喜びに耐えないことであった。

部創立50周年

創立50周年になるのではないかと思いついたのは自分の年令からであった。私は大正12年生れ、所謂震災っ子であるから昭和48年の誕生日で満50才になる。部創立に関与された故前田純一初代OB会長の卒業が大正15年であるから在学年数を勘案してその3年前の大正12年に部が結成されている可能性はあり、そうだとすれば昭和48年に満50周年を迎えることになる。そう気付いた私は昭和47年秋の三春会で出席された方々に50周年の記念行事を行う必要があるのではないかと提案し、ご賛同を得て翌48年の総会で実行委員会が編成され安居実行委員長(昭14年)、唐原事務局長(昭15年)を中心に準備を進めることになった。

まず創部当時の状況を前田先輩に聞く必要があるとの事で48年夏、安居先輩と私が西宮の前田先輩宅にお伺いした。前田さんは高血圧患者特有の赤ら顔で歩行困難、言語もままならぬ状態で、お会いして痛々しい想いにかられたが、創部当時のこと、東大と決裂の話をお話し下さった。創部の経緯については京大運動会が発行している機関誌「濃青」に「頭で蹴る話」という題で掲載されたことを、そしてその内容を話して下さったのを前田さんの言葉として本誌に載せている。この日が生前の前田先輩にお目にかかった最後となった。そして後日「錦の帯」と題する小編をお送り下さったが、これが恐らく絶筆になったのではないかと思う。

前田先輩を初め、創部当時の先輩方のお話を承り大正14年に部が誕生したことが判り実行委員会では昭和49年の5月の連休時に記念行事を開くことになったのである。

入部の動機

終戦を高知の屯営地で迎えた私は昭和20年9月中旬復員、京都に帰って来た。一時親戚に身

を寄せた後、銀閣寺の近くに下宿を探し移った。私が京大へ来た動機は、新しい学問として注目されつつあった地政学を専攻するつもりでいたが地政学は国家御用学問ということで教授は追放、講座がなくなったので21年4月史学科から哲学科への転入を申請、収会学を専攻することにした。従って2年半の在籍年数を放棄し21年4月改めて新入生として学生生活を送ることになった。

当時大学の雰囲気は敗戦後の虚脱状態が続いて居り何となく空虚感が漂っていた。このままブラブラしていたのでは自分も空虚な大海に押し流されてしまう様に思え、丁度暁星中学時代の同期の男が居たので一緒にサッカーをやるうじやないかと相談し、21年の春にグラウンドに行き練習中の蹴球部の人に申し出た。その時に会ったのが友貞、向井先輩であった。出身校、経験を聞かれたが2人共部生活の経験がなかったし、インターハイにも出てないので名前は知られていないし困惑の表情であったが、兎も角入部を認めて下さりマネージャーをやってくれますかとのことであった。

私がサッカーを選んだ理由の主なもの2つある。1つは中学、高校を通じてクラス対抗などに引張り出された経験から何とかやれるだろうと考えたこと、もう1つは道具が要らず経済的であると考えたことである。靴は軍隊から持って帰った地下足袋をはき、パンツも手持のものがあつたから何とか道具は間に合った。蹴球靴を作ったのは暫くしてからのことであった。一緒に入部を申し出た友人はその後グラウンドに姿を見せず私1人がサッカーを始めることになった。

その6月、戦後初めての関西学生蹴球連盟公式戦が行われ、京都、大阪、兵庫の代表 京大、関大、関学による優勝決定戦が西宮球技場で行われた。京大は関大に勝ち、関学に敗れ1勝1敗であった。そして9月には友貞、向井の両氏があわただしく卒業してしまった。戦後の事なので止むを得なかったがもう半年残って欲しかったと今でも思っている。

インターハイ復活

21年の夏頃からインターハイ復活の動きがあり、学徒体育振興会の主催で準備が進められた。向井、本田（昭22年一故人）両氏に私がマネジメントに加って開催の準備を進めた。全国を4ブロックに分け（北海道、東北）（関東、東海、北陸）（近畿、中国、四国）（九州）、それぞれの代表校による決勝戦を行う方式であった。関西地区の世話を京大が担当、当時の開催趣意書によると私の下宿が連絡先になっている。

この時の優勝戦は六高と広島が再度の延長を行う伯仲の熱戦となり、暮れゆくグラウンドに六高の「北進歌」、広島「征旅遠く」が相交錯してこたまし文字通りインターハイらしい壮絶な場面を展開した。終盤、互いに譲らずと見えた時、六高のLW井上（通）君（後に京大で活躍）が決勝点を決め優勝、東上して全国大会でも優勝を飾った。試合終了後、広島「CH三野君がグラウンド中央で仁王立ちとなり六高陣に向かって「覚えておれ、来年は必らずやっつけてやるぞ」と叫

んだ。まこと印象的であったがその言の通り広島は22年、28年と連続全国制覇を成し遂げインターハイ終幕に輝しい金字塔を打ち建てた。三野君は京大に入学したが胸を思いサッカーを断念したため京大での活躍の姿を見ることが出来なかったのは残念である。

インターハイの世話をした関係で私の事を京大に入る前から知っていてくれる人が多くその中の1人に岡本(昭25年)が居り、インターハイで世話した私と一緒にボールを蹴り、一緒に卒業するとは夢にも思わなかった。今だに冗談話が出る。

第2回国体に全京大で出場

第1回国体が近畿一円で開かれたのに次いで昭和22年第2回が石川県で出られることになり、京都蹴球協会の事務局を担当して居られた清水定一氏から京都代表を全京大で編成してはどうかとの相談があった。今でこそ京都には紫光クラブの様な立派なクラブチームが結成されているし大学チームも京大の外に同大、京教大、立命大、京産大等が学生リーグ一部に名を運べるようになったが、当時は単独チームとして国体に出るだけの力を備えたところがなく、早稲田のWMW、東大LB、全関学などにならないチームとして有力で期待出来るということであった。幸い先輩の方々の理解を得てチームを編成し、京都府予選、近畿予選に勝ち10月末金沢に遠征した。物資不足の時代のこととて準備が大変であったが清水氏に大変お世話になったことを特に記して置きたい。

第1回戦は茨城日立に勝ったが、第2回戦で全北海道に予想外の苦戦の結果敗れた。この試合で麻野先輩が試合中接触プレーで脳震盪を起し一時意識不明となる出来事があったがその晩金沢の街で奥野(幸)先輩などに慰労されると共に、麻野氏に引退の引導を渡されたエピソードがある。

部費調達のアルバイト

戦後の混乱時代先輩各位も自分の生活を護ることが精一杯であったから、ボール代は大学同学会からの補助で賄えるとしても部としてはユニホームを作るにも、合宿をやるにもその資金をつくる手を打たねばならなかった。朝比奈先輩その他の先輩のお力添えで朝日文化事業団主催の催しが朝日会館で開催された時切符の前売りを引受けて手数料を貰ったり、前田(阪神)山口(阪急)先輩のお世話で甲子園、西宮球場でアイスクンデー売りをやって歩合を貰ったりして部費調達を計ったものである。藤原歌劇団の「ロミオとジュリエット」や民芸の「破戒」などの切符を先輩知人を頼って売り歩いたが思うようにさばけず、戒橋のたもとに立って通りがかりのメッチェンをつかまえて押し売りしたものであったが学生ならこそ出来たことで今想い出して懐しい気持である。関学ではダンスパーティを開いてパーティ券を売って結構豊かな収入を挙げていたようだが、当時の京大はその様な器用な真似が出来た柄ではなかった。

戦後初の合宿

切符売りや、アイスキャンデー売りのアルバイトで部費の調達が出来、28年秋の私のキャプテン時代に夏の合宿の企画が持上った。成るべく経済的にということで山口先輩のお世話で西宮球場内の一室を借りることになった。コンクリートの部屋に畳を敷きつめた監獄を思わせるような合宿生活であったが時節柄貧乏は云えなかった。食事は自炊で当番を決めて用意させた。西宮北口の市場に買物に行くのだが栄養を摂らねばということで岡本が鯨のベーコンを買って来ては他の連中がしかめ面をしている中で1人うまそうに食べていたのは今でも語り草になっている。又米が配給で手に入らないことから、小山と宇和川がリュックを背負って松山へ米の買い出しに行った。人数は少なかったが思い出の深い合宿であった。

全日本合宿に参加

昭和28年7月9日から10日間静岡県三島の日大校舎(元重砲連隊跡)で戦後第1回全日本合宿練習が行われた。この時の記録は日本蹴球協会の機関誌「SOCCER」復刊第1号(昭和28年8月発行)に詳細に記録が載っているが、OB、現役合わせて80余名が集り前半は基礎を中心にし、後半はゲームを中心に技を磨いた。赤川、奥野先輩などのご推挙を得てこの合宿に参加することが出来たが私の蹴球生活でこの合宿が大きな刺激となり意義の深いものであったことは云うまでもない。この合宿の経験が後の私のサッカー生活の支えとなったが、昭和25年2月5日の東西学生選抜対抗戦の試合に出場出来たのもそのお蔭であったと思っている。

スロー、スロー、クイック、クイック

昭和28年私がキャプテンの時、監督に小野先輩が就任された。小野先輩は足首の柔らかい絶妙のボールコントロールされる巧技を持っておられるが、戦術面では中盤ではスローにゴール前では脱兎の如く素早くプレーすることが得点を挙げる方法、即ちワルツのテンポ、スロー、スロー、クイック、クイックのリズムで攻めるのだと教えて下さった。又ポジションの取り方、フォーメーションの組み立てについて碁石を使って研究する為練習後碁盤、碁石の置いてある店を探し、百万辺を北へ上った処にあった「飛鳥」という店へ行って黒石と白石を碁盤に置いて遅くまで研究会をやったが得る処が多かった。 飛鳥→明日香

部歌伝承

昭和28年の秋、今川先輩がグラウンドに来られ部歌を教えて下さることになった。譜がないので出来ればメロディーを弾けるようピアノのある店が良からうということで、グラウンドの北側の喫茶店(今もあるホワイトハウスの様に思う)に行って部歌の伝承が行われた。それからミーティングの度に部歌を歌う様になったが「覇業の鯨波^{トキ}のどよめけば」を目指しつつも遂に果せなかった。部歌は今日も引続き伝承され“GO KIU”を声高らかに斉唱しているが古い先輩のメロディーと現在の歌われているメロディーに部分的に違いがあり、50周年の会合の時に安居先輩により正調が披露されたにも拘らず現役が歌う時は相変わらず変調の方になっている。譜がな

いため時の流れと共に歌い易いメロディーに変えられて来たもので自然の成り行と云うべきかも知れない。

橋本記念館と「カストリの恒」

物資不足時代であったからコンパは実質的にやった。農学部施設であった吉田山の橋本記念館を日置先輩のお世話でよく使わせて貰った。酒が配給時代で自由に手に入らなかったので闇市でドロクを買って来たものである。又練習が終ってから飲みに行くと言っても、行く処が限られており、農学部前を少し北白川の方へ上った処に支那ソバ屋がありそこで「カストリ」を飲ませていた。本物の「粕取焼酎」は風味豊かなものであるが、当時の「カストリ」は芋焼酎で悪質のものにはメチルアルコールが含まれていて失明する人が出たりして社会問題になったものである。その頃新国劇の辰巳柳太郎演ずるところの「どぶろくの辰」が話題になったがそれと語呂合わせで何時の間にか「カストリの恒」という仇名が私につけられた。名付親は多分小山である。

朝日招待

昭和23年の正月に朝日招待が復活し東西の大学リーグ上位4校の対抗戦が組まれることになった。現役のレベルがまだ低かったのでOBを加えてチームレベルを高めることになり全京大は全東大と対戦した。京大は現役が食料事情その他で殆んど年末から正月にかけて帰郷して練習に参加出来なかったこともあり、この時はOB主体にメンバーが編成され現役からは私だけが参加した。翌24年は全文理大(後の東京教育大、現在の筑波大)と対戦、現役、OB半々の編成で試合に臨んだ。この試合も負けたが私としては30mのロングシュートを放ち名手中垣内氏のゴールを破ったことが快心のプレーとして今だに忘れられない。そしてこの時スタンドから関学OBの後藤氏(愛称 ゴットン)が「恒藤いいぞ」と大きな声で激励して下さったのが耳にやきついている。翌25年は出場資格がなく、昭和26年からは朝日招待の形式が変わったので参加の機会がなくなった。

東大、同志社大定期戦

学制改革と共に昭和23年10月の農学部グラウンドに於ける第23回インターハイが最後の大会となった。インターハイの世話を京大、東大が協力してやって来たが、これでその縁もなくなる。戦前から途絶えている東大との定期戦の復活を提起する好機であると考えた。幸い東大のキャプテン馬渡君は水戸の後輩であり連絡をとって23年夏休みに上京し話し合うことにした。東大マネージャー馬越君(六高)も加わり相談の結果、昭和24年の7月に対抗戦を復活しようということになり、京大が東京に遠征し御殿下グラウンドで対戦することになった。部費が窮屈な時代であったから東京の宿泊は親戚など身寄りのある者はそこえ、ない者は先輩の家や会社の寮などにお世話になり分宿をした。当時、前田先輩は阪神東京事務所長として在京されており、又村井先輩(昭8)青木先輩(昭12)山中先輩(昭13)を初め在京先輩の方々の物心両面のご援助を

賜った。試合は劣勢と思われた京大が先取点を挙げ応援に来て下さった先輩団の歓声を誘った。得点は私のシュートしたボールを東大キーパーがはたく処へLW近江が突込んで決めたものであった。終盤同点に持ち込まれ結局1-1の引分けに終わったが、関東リーグで優勝を争う力を持って居た東大を相手に京大らしい粘り強さを発揮した好試合であった。その後東大側の事情で昭25年は行われず、昭26年より東京、京都交互に行われ今日に至っている。昭和51年農学部グラウンド第27回定期戦で昭和37年以来、14年振りに快勝した喜びは今だに記憶に新しい。

昭和24年にはもう一つの定期戦同志社大との対戦が開始された。それまで同志社には高商部にしか蹴球部がなかったが学制改革に伴って大学の蹴球部に昇格したのを機会に都新聞社(今はない)の後援で京大との定期戦が組まれることになった。同志社チームは京都二中(今の山城高)出身者を中心に編成され、足技の巧みなチームであったが京大は面目にかけても勝たねばならない試合であった。しかし小山の負傷欠場が響いて攻撃が意の如くならず1-0で無念の涙を飲んだ。この試合で終盤私は相手バックを振り切り単身ドリブルでゴールに迫りシュートしたがクロスバーをかすめて出てしまった。この定期戦の発足に一方ならぬお世話下さった京都協会の清水氏が「入らなかったがあれがあったから五分五分と云っていいな」となぐさめて下さったこと、日置先輩が「シュートの瞬間腰が落ちたので上るぞと思った」と云われたことと共に、私の後を同志社のバックが追いかけてくるカタカタという靴の音が脳裡をはなれない。あの頃の農学部のグラウンドは下が固かったのだなという思いと共に無念さがこみ上げてくるのである。同志社との定期戦は24年と25年は春秋2回の開催であった。24年の秋は10-0で大勝し雪辱を果した。この時は同志社G K安達君が京大RW西田と衝突し安達君が負傷退場するという気の毒なアクシデントがあった。昭和51年6月、第30回の対戦を記念して合同コンパを開いたがその席上で安達君よりこの話が出て、当時を思い起して感慨深いものがあった。それにしても同志社が昭和46年に優勝、今や関西学生リーグの一方の雄として活躍していることに敬意を表すると共に京大も奮記せねばならぬと思っている。

疎水端のドリブル

はじめに記述した様に前田先輩の文章が「濃青」に掲載されていることを知り、当時の田路マネ(昭51)に大学保存誌からコピーを採ってくる様頼んだ。後日頼んだコピーの外に二つのコピーが届けられた。一つは大正14年4月15日付の「京都帝国大学新聞」第1号で4月12日に農学部Gで行われた対東大戦に2-1で快勝した記事が載っている。もう一つは「濃青」昭39年新入生勧誘記事掲載号で唐津主将、足立主務(原田)の両君の写真入りでサッカー部の記事が2頁に亘って載っている。その中に次の一節があった。「練習は苦しい。京大は勉強もせねばならない。しかし、それに打ち克つてこそ、スポーツ本来の人格形成をなしうるのである。勉強が忙しかろうと、その中で時間をさき、勝とうと刻苦勉勵するのである。例えば、大学に入って

はじめてボールを蹴り、しかも独眼でありながら、毎朝疎水べりをドリブルする等努力の結果、全関西に選ばれた先輩を我々は持っている」これを読んで私はビックリした。これは私の事ではないか。それにしても卒業して15年経った時代の人達に疎水端のドリブルの話がどうして伝わっていたのであろう。私としてはまことに面映ゆい心地である。銀閣寺道から若王寺へ通ずる疎水端の小道は「哲学の道」として名高い。今では綺麗に植込みが出来て如何にも観光名物らしくなっているが私の現役時代はまことに素朴な桜並木の美しい自然の風情に満ちた小道であった。下宿が橋本関雪邸の裏側で疎水に近かったこともあり、人通りも少なくてドリブルの練習に格恰の場所であった。道が平坦でないからイレギュラーバンドをする。ボールに対するタッチが良くないとボールが逃げていって下手をすると疎水に落ちる。落すまいとすればスピードが鈍る。繰り返しやっている内に悪条件下で思う様にボールコントロールが出来るようになる。私にとって疎水端は自分が選んだ道場であった。竹山部長から「疎水端のドリブルは本当にやったんですか」と聞かれたことがある。伝説的にしておいた方が綺麗で良いのかも知れないが、現役諸君が各人の身近かなところで練習に励んでくれる参考になれば幸いと思って自画自賛の弁を記させて戴いた。

おしまいに — 監督生活10年目を迎えて

昭43年3月に12年間の東京生活から再び田辺製薬本社勤務となり大阪に戻った。8月末のOB総会に出席、後日、当時の監督の本田先輩(昭18)が転勤の為私に後を継ぐようにとの唐原先輩のご托宜があった。会社業務の関係で充分な面倒をみる事が出来ないからとお断りしたが、7月の東大戦に監督不在では困るので、兎も角それ迄やってくれ、後のことは又考えるからとの事だったのでお引受することにした。それから何時とはなしに今年(昭52年)で10年目を迎え、まことに「光陰矢の如し」を実感として味わっている。幸い10年目を一部リーグで戦うことが出来るのは大変についている思いであるが、監督を引受けた年は、二部リーグに居り、成績は4位で終わった。44年から一部リーグが8チームに増えることに伴う自動昇格のチャンスを見逃した。この年の試合の山は阪大戦であった。2-0でリードして勝てる試合であったが選手交代をためらった為追いつかれて引分けた。私は平素練習を見ていないことを悔んだ。そして根本君(昭38)を説得して助監督として現役の面倒を見て貰うことにした。そして44年、45年の2年間、研究生活、家庭を犠牲にしてコーチに専念してくれた。その成果が実り、44年はもう一息、力が及ばず二部に残留したが45年に優勝、阪大との入替戦に完勝して念願の一部復帰を果たした。根本君からこれを機に助監督を降して欲しいとの申し出があった。延ばしていた海外留学の話があるとの事で、これ以上無理は云えないと感じ申し出を受ける事にした。46年、47年、48年の3年間は上位チームに対する健斗が目立ち6位を確保し一部を維持したが、この頃から新興勢力の抬頭が目立って来た。既に大商大が45年に常勝関学、関大を抑えて初優

勝しているし、46年には同大が初優勝を飾った。そして二部から京産大が47年に一部に入り、49年に大体大が一部に入って来た。そしてそれに続くのが天理大と見られていた。49年にはその様な激動の中で精進空しく最下位となり、天理大との入替戦に破れて二部落ちとなった。この時に天理大選手達が神戸中央球技場のグラウンドを飛び上ったり、跳ね廻って喜ぶ姿と対照的に、京大の選手達が控室で泣きじゃくる姿を見て監督としてこれ程つらい思いはなかった。勝負の冷酷さを楽しみじみと感じた。そして「今から一部復帰を目指して奮い立とう」と励ました。昭50年は二部優勝をしたが復帰は果せなかった。関学との入替戦に敗れたのだった。関学の気迫が上廻った試合であった。関学OBの瀬川氏が「君とことやるのはつらいよ。勝っても負けても気分が悪い、矢張り一部同志で試合をやらないかな」と云ってくれたのが印象深い。昭51年、春の関西学生選手権で一部の京産大、大経大に何れも逆転勝、準決勝に進出、大体大に破れたものの関学に勝って3位となった。同選手権優勝の同大とは定期戦で引分け、東大定期戦にも勝ち、秋のシーズン入りは気合が入っていた。然し優勝への道は平担ではなく、追手門戦は苦戦してやっと逆転、関大戦も0-2から後半の半過ぎから追撃に移り引分優勝、一部昇格となったのであった。同点となってからの攻防はまさに息づまる白熱戦、最後の5分間は両軍ベンチ、応援団の吾を忘れた声援で関大グラウンドは興奮のルツボと化した。前年夢を果せなかった永井、伊藤、田路の目が真赤になっていた。私はそこに京大の伝統を感じた。胴上げに皆が走り寄ってくる。身体が宙に浮く。まことに監督冥利につきの喜びであった。

—京大蹴球部満52年、昭和の暦どおりの年をとってゆく。グラウンドに植えた記念樹のホワイトホークが少し大きくなった。代々の現役諸君はそこに京大蹴球部の伝統を見るだろう。先輩諸氏が営々と築いてきた部の歴史の尊さをそこに感じるだろう。京大蹴球部よ永遠なれ！

(追記)

校正中に気がついた事を記しておきます。

◇東大定期戦復活第一戦の得点経過

前述のように、私は自分のシュートしたボールをキーパーがはたき、そこへLWの近江が突込んで決めたと記憶している。ところがRWをやっていた西田の記述によると、彼のセンターリングを近江が決めたとなっているし、決めた近江も右からのセンターリングを入れたと書いているので、私の記述と喰い違っていることになる。

私の記憶では、ゴール正面に居た私の前へは球が出てきて、咄囃に身体が立ったまま左足アウトサイドで蹴った。球に威力はなかったが左に切れたのでキーパーは泳ぐようにして左へはたいた。そこへ近江が突込んだのである。

私の前に出てきたボールが、西田のセンターリングのはね返ったものとも考えられるが、その辺のことは定かでない。既に1/4世紀を超える昔のことであるから、歴然たる記憶を蘇らせること

は難しいことなので、今回はそのままに止めておき、何れ第三者の証言を得て正確なものにしたいと思う。

◇員外協力者

京大蹴球部 50 余年の歴史の中で、京大出身でない方のご協力、お力添えが多々あることに気がつく。昭 36 年から昭 42 年までコーチをやって下さった瀬戸進氏（東教大出身、当時京大教官、現在大谷大勤務）の“頭脳と力”のサッカーに徹底した指導法によって、当時の京大チームが話題を呼ぶ活躍をした事が P.202 に掲載されている。

昭 51 年の東大戦前日 7 月 3 日、瀬戸コーチの薫陶を受けた連中が各地から馳せ参じ、加茂川のほとりで感謝会を催し旧交を暖めた。私も招かれて出席したが、まことにうるわしい光景であり、京大蹴球部の歴史の一コマをそこに見た。

P.244 の写真に「紅一点山本さんはマネージャー」と註釈がついている。最近サッカーのみならず、どのスポーツでも女子のマネージャーが多くなったのが目立つ。男女共学、男女同権の世の中であるから、何も驚く必要はないのであるが、「男女七歳にして席を同じうせず」という道徳の教えが、頭の片隅に残っている昔風の人にとっては奇異なことに映るかもしれない。その山本睦子さんは京大生ではない。京都女子大の学生さんで、昭 49 年からマネージャーの手伝いを、自発的にやって下さっている。初め部員の誰かのガールフレンドかと思っていたがそうでもないらしい。試合時のレモンの手配や、合宿時の食事、洗濯の世話まで、女性ならではの仕事を熱心にやってくれている。納会や追出しコンパなど野郎達に交って談笑している熱烈な京大蹴球部ファンである。昭 52 年から熱烈なファンがもう一人増えた。同じくマネージャーの手伝いをしてくれることになった中西育子さん（京教大）である。京教大との試合があった時どちらを応援しますかと聞いたら、「京大に勝って欲しいです」との答が返ってきた。有難いことである。

熱烈なファンがもう一人居る。「出世男」のマスター奥田氏である。「出世男」は農学部前を少し百万遍に寄った北側にある一杯飲み屋であるが、昭 44～5 年頃から部員のたまり場になったらしい。試合にも会合にも殆んど顔を出して部員連中を励ましてくれる。「出世男」の名前にあやかって、出世払いをきめ込んでツケをため込んでいる者もいる様だが、奥田氏は大らかに暖かい目で部員達の成長を見守ってくれている。

以上のような員外協力者は過去にも存在したであろうし、又今後も現われてくるであろう。そして京大蹴球部の歴史が形成されていく中でその方々のご協力が、果している役割の大きいことを見逃してはならない。

◇足をたたいて慨嘆すべし

P. 127 に岡本の深山評の中に「……反面足は遅かった」というくだりがある。岡本はグラウンドにトレーニングに来ていた陸上競技の女子短距離選手と速さを競うなど走力に自信をもっていたし、「スレ違いの遠藤」と異名をとった遠藤（故人）もスピードがあった。その他は概ね鈍足の名に恥じない（？）連中ばかりであって、ポジション、間合のとり方、出足、コンビネーションなどで弱点をカバーしていた。

昭和28年11月20日付「アサヒスポーツ」の関西学生サッカーリーグの記事は見出しに「京大バックスの鈍足、二度も時機を逸す」の文字を大きく掲げた。対戦相手は神商大であった。この試合後半30分迄1点リードされていたが30分、32分と続けてLW井上が得点し、逆にリードを奪った。ところが38分再び同点となり、42分井上がハットトリック（当時この言葉はなかった）をやって勝ったと思ったのも束の間、タイムアップ寸前同点に追い付かれて引分けた。朝日の天藤記者はこの記事の中で「それにしても京大バックスの鈍足は二度までも勝ち得べき機を逸してしまった。よろしく足をたたいて慨嘆すべきであろう」と評した。私の経験した試合の戦評の中で、当時の京大の弱点を、痛烈にそしてユーモラスに表現しており、最も印象深い文章である。

あ と が き

発行がおくれて申訳ありません。50周年記念行事の一つとして年史の原稿募集の通知を出した処、早速に原稿が届き初めた。良い出足と喜んで居たがパタリと止ってしまった。届いたのは9通。これで49年は終わってしまった。明けて50年5月が近づいても1通も来ないので1周年を迎えて本格的に運動した処、各年代から協力者が出て良し書こう、今書いている、奴にも俺から云って書かせる、書きたいけれど資料がないので困っているという風に反応が出て来た。かくして50年末にはかなり揃って来たが原稿も写真も戦績も年代別に見ると穴の空いた処が目立ちどうも不揃いである。この穴埋めに色々調査、或いはその依頼、問い合わせ、写真の収集に努めたが少しづつしか進展しなかった。現役が手紙をOBに連絡する都度、編集部からの連絡を入れて貰ったがどうしても埋らないもの、資料が欠けていないものがあり、結果としては昭和10年と40年以降が不十分のままだった。部分的にも不揃いがあちこちに眼につくのであるが昭51年も半過ぎては、これ以上待っても効果もなく、又これ以上は待てないので見切り発車することにして編集に取り掛った。当初、関学、神一中型のB5版でスタートしたのであるが、念の為皆に集って貰ってこれでよいかと確めた処、字が小さいので読み難いのではないかという意見が出た。そこで少しでも大きい様にと五高のA5、週刊紙大に切り替えて編集することにした。

昭51年末に編集は終わった。年明けてすぐに発注出来なかったのは、資金の集りが悪くどうにもならなかった為だった。本を送れば金は送って貰えるだろうがそれでは間に合わない。それで又皆に集って貰って、印刷方法も換え、今ある金でスタート出来る方法はないのかと相談した。その日が52年1月18日、場所は日比忠の事務所であった。横山君の尽力により原稿を印刷屋に渡したのが2月16日であった。編集に入ってから間にも間に合うならと書いてくれたり、原稿用紙何枚分を空けて置いて編集の進捗と駆け比べも出た。青木圭太郎さんはそれはいかんと写真とでも原稿を書いて埋めて下さったのは有難かった。編集後書を渡したら完了すると聞いて、それを渡すのを1週間延ばしてくれ、そして後書に入れてくれと駆け込みまで現われた。その様にして何とか漕ぎつけたわけであるが、それでも大変にうれしい処と簡単に寂しい所、そして歯抜けがあちこちに目立ち、バランスの悪いものとなって居り、皆さんの意に添えなかったことをお詫びします。全員が何処かの写真に映っている様にしたかったが、95%位しか達成出来なかった。

最初に原稿を送って下さった、高松、入江(口述)、溝口(大塚)、宇佐見、株本、金沢、麻野、本田(見)の人達には随分待たせた結果になった。そしてもう一人、前田さんには待って貰えなかった。一番に見て欲しい人だけに悔んでも悔み切れないものがある。 唐原記

京大蹴球部50年史

非売品

昭和52年 4月20日 印刷

昭和52年 4月30日 発行

編集兼発行者

京大蹴球部50周年記念行事実行委員会

編集責任者

編集事務局長 唐原友三郎

大阪市城東区関目4-14-9-754

電話 大阪(06)981-5591